

昭和四十六年九月十三日

四日市市議会定例会議録（第一号）

四日市市議会

○議 事 日 程 第一号

昭和四十六年九月十三日(月)

午後二時開会

第一 会議録署名議員の指名について

第二 会期の決定について

第三 報告第六号 昭和四十五年度四日市港開発事業団特定事業会計

決算の報告について……………報告

第四 議案第八八号 昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認

定について……………議案説明

第五 議案第八九号 昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定につ

て……………

第六 議案第九〇号 昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算

(第二号)……………

第七 議案第九一号 昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算

(第一号)……………

第八 議案第九二号 昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予

算(第一号)……………

第九	議案第 九三三	昭和四十六年度四日市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)……………	議案説明
第二〇	議案第 九四四	昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(第一号)……………	"
第一	議案第 九五五	昭和四十六年度四日市市公共用地取得事業特別会計補正予算(第一号)……………	"
第二	議案第 九六六	昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算……………	"
第三	議案第 九七七	四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について……………	"
第一四	議案第 九八八	四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定について……………	"
第一五	議案第 九九九	四日市市国民健康保険条例の一部改正について……………	"
第一六	議案第一〇〇号	四日市市消防賞しゅつ金条例の一部改正について……………	"
第一七	議案第一〇一号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について……………	"
第一八	議案第一〇二号	四日市市消防手数料条例の廃止について……………	"
第一九	議案第一〇三号	四日市市防災会議条例の一部改正について……………	"
第二〇	議案第一〇四号	町及び字の区域並びに名称の変更について……………	"

第二一	議案第一〇五号	町の区域の設定について……………	議案説明
第二二	議案第一〇六号	町の区域の変更について……………	"
第二三	議案第一〇七号	字の区域の変更について……………	"
第二四	議案第一〇八号	字の区域の変更について……………	"
第二五	議案第一〇九号	工事請負契約の締結について……………	"
第二六	議案第一一〇号	工事請負契約の締結について……………	"
第二七	議案第一一一号	工事請負契約の締結について……………	"
第二八	議案第一一二号	工事請負契約の締結について……………	"
第二九	議案第一一三号	工事請負契約の締結について……………	"
第三〇	議案第一一四号	工事請負契約の締結について……………	"
第三一	議案第一一五号	工事請負契約の締結について……………	"
第三二	委員会報告第一一号	委員会中間報告……………	報告

○本日の会議に付した事件

日程第 一	会議録署名議員の指名について
日程第 二	会期の決定について
日程第 三	報告第 六号 昭和四十五年度四日市港開発事業団特定事業会計決算の報告について

日程第四 議案第 八八号

昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定に
ついて

日程第五 議案第 八九号

昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について

日程第六 議案第 九〇号

昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算
(第二号)

日程第七 議案第 九一号

昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算
(第一号)

日程第八 議案第 九二号

昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予
算(第一号)

日程第九 議案第 九三号

昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補
正予算(第一号)

日程第一〇 議案第 九四号

昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正
予算(第一号)

日程第十一 議案第 九五号

昭和四十六年度四日市市公共用地取得事業特別会
計補正予算(第一号)

日程第十二 議案第 九六号

昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正
予算

日程第十三 議案第 九七号

四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関
する条例の一部改正について

日程第十四 議案第 九八号

四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定
について

日程第十五 議案第 九九号

四日市市国民健康保険条例の一部改正について

日程第十六 議案第一〇〇号

四日市市消防賞しゅつ金条例の一部改正について

日程第十七 議案第一〇一号

四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正
について

日程第十八 議案第一〇二号

四日市市消防手数料条例の廃止について

日程第十九 議案第一〇三号

四日市市防災会議条例の一部改正について

日程第二十 議案第一〇四号

町及び字の区域並びに名称の変更について

日程第二十一 議案第一〇五号

町の区域の設定について

日程第二十二 議案第一〇六号

町の区域の変更について

日程第二十三 議案第一〇七号

字の区域の変更について

日程第二十四 議案第一〇八号

字の区域の変更について

日程第二十五 議案第一〇九号

工事請負契約の締結について

日程第二十六 議案第一一〇号

工事請負契約の締結について

日程第二十七 議案第一一一号

工事請負契約の締結について

日程第二十八 議案第一一二号

工事請負契約の締結について

日程第二十九 議案第一一三号

工事請負契約の締結について

日程第三〇 議案第一一四号

工事請負契約の締結について

日程第三一 議案第一一五号 工事請負契約の締結について
日程第三二 委員会報告第一一号 委員会中間報告

○出席議員（四十四名）

小 粉 訓 喜 川 小 大 岩 伊 伊 伊 小 荒 天 青
多
林 川 霸 野 村 川 島 田 藤 藤 藤 井 木 春 山
哲 也 四 武 久 信 太 金 道 武 文 峯
夫 茂 男 等 潔 郎 雄 雄 一 郎 一 夫 治 雄 男
君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

日 早 服 長 橋 橋 野 生 中 出 坪 田 高 高 志 後 後 小 小
谷
比 川 部 川 本 本 崎 川 島 井 井 中 橋 井 積 藤 藤 林 林
義 正 昌 鐸 增 建 貞 平 隆 妙 政 力 三 政 藤 寛 喜 博
平 夫 弘 元 蔵 治 芳 蔵 平 博 子 一 三 夫 一 郎 治 夫 次
君 君

○議事説明のため出席した者

消 防 長	技 術 部 長	次 長	水 道 事 業 管 理 者	市 立 四 日 市 病 院 事 務 長	次 長	教 育 委 員 長	教 育 委 員 長	副 収 入 役	建 設 部 長	下 水 道 部 長	土 木 部 長	衛 生 部 長	厚 生 部 長
富 山 光 三 君	杉 本 義 広 君	菊 地 英 也 君	中 山 英 郎 君	村 山 了 君	佐 々 木 晃 精 君	市 森 川 一 郎 君	森 幸 雄 君	伊 藤 涼 一 君	滝 田 伝 之 助 君	天 野 助 春 君	谷 沢 文 男 君	園 浦 和 己 君	小 西 忠 臣 君

産 業 部 長	税 務 部 長	総 務 部 長	市 長 公 室 長	助 役	助 役	市 長
阿 南 輝 彦 君	荒 木 三 郎 君	平 井 清 三 君	三 輪 喜 代 司 君	加 藤 寛 嗣 君	岩 野 見 齊 君	九 鬼 喜 久 男 君

吉 垣 照 男 君	山 本 忠 勝 君	山 中 一 生 君	山 口 信 生 君	安 垣 豊 司 君	六 平 良 一 君	松 島 英 一 君	増 山 泰 一 郎 君	藤 井 治 郎 君	福 田 香 史 君
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	-----------------------

次 長 山 北 彰 君

代表監査委員 森 新 八 君

○出席事務局職員

事務局 長	鷺 野 正 和 君
次 長	森 正 太 郎 君
議 事 係 長	小 林 桂 輔 君
書 記	佐 藤 正 俊 君
書 記	板 崎 大 之 丞 君

午後二時三分開会

○議長（日比義平君） ただいまから、昭和四十六年九月四日市市議会定例会を開会いたします。

本日の出席議員数は、四十三名であります。

本日の議事につきましては、議事日程第一号により取り進めたいと思っておりますから、よろしくお願いをいたします。要求いたしておきました議事説明者の氏名は、お手元に配布いたしました要求書写のとおりであります。

なお、収入役は欠席いたしますので、ご了承を願います。

教育長就任あいさつ

○議長（日比義平君） 会議に先立ちまして、教育長市川一郎氏から就任のあいさつがあります。

教育長。

〔教育長（市川一郎君） 議場中央に進む〕

○教育長（市川一郎君） ただいまご紹介いただきました新たに教育長に任命されました市川でございます。

まことに微力ではございますけれども、当市の教育行政発展のために一生懸命努力しようと思っておりますので、何ぶんど鞭撻、ご支援をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○議長（日比義平君） 続いて、市長から発言を求められておりますので、これを許します。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君） 登壇〕

○市長（九鬼喜久男君）

本日の会議に先立ちまして、去る八月三十日夜半より来襲いたしました台風二十三号による被害状況と応急措置について、ご報告申し上げたいと存じます。

当日の状況は、午後二時三十分には大雨警報が発令されており、さきに七月六日の集中豪雨により被害を受けた個所その他の危険区域の見回り警戒を行なうとともに、職員の返庁時においては、各部、出張所に非常連絡要員を待機させて台風の来襲に備えたのでありますが、午後七時三十分暴風雨、強風波浪、洪水警報が発令されるとともに他の職員の動員を行ない、午後八時には災害対策本部を設置して第一警戒配備の体制をとったのであります。

今回の台風は、九州接近以後急速に衰えはしたものの長時間にわたって停滞し、四日市測候所の観測によれば、午後七時より八時までの時間当たり降雨量三十四・五ミリを頂点に、正午以後の連続雨量が百六十一ミリに達し、

午後十一時過ぎの満潮時に向かって市内の各河川が急激に増水し、三滝川水系においては午後九時五十分水防警報が発令されるなど各河川流域の危険個所の警戒及び応急防衛資材の運搬、仮どめ作業の応援並びに被害調査等防災活動を行なうとともに、浸水罹災世帯に対する応急食糧の配付と万一に備えての避難所の開設を行なったのであります。翌日以後、各地区別に調査班を派遣して調査いたしました結果、今日までに判明いたしました被害状況は、おおよむね次のとおりでございます。

一、被害戸数

床上浸水 三百三十一戸 (富洲原、富田、塩浜、曙町)
 床下浸水 三千四百戸 (別に非住家百三十一棟)

二、土木施設関係

(一) 市管理関係

道路 百十七件 被害金額 二千八百三十七万三千円
 河川 百十件 被害金額 一億四千四百二十一万二千円
 橋梁 六件 被害金額 二千八百二十五万円
 その他(路面復旧、水防資材等) 二千六十万二千円

(二) 県管理関係

道路 九十七件 被害金額 一億八百六十四万五千円
 河川 二百七十七件 被害金額 五億四千八万五千円
 橋梁 十四件 被害金額 一億百三十五万円
 砂防 五十六件 被害金額 一億三千六百八十六万四千円

三、農林施設関係

農地 三十七件 被害金額 一千三万円
 水路井せき等 百二件 被害金額 一億八千二百二十一万円
 応急資材等 被害金額 百二十九万二千円

四、農作物関係

水稻冠水倒伏穂ずれ等 千八百三十四ヘクタール 被害金額 一億一千五百二十万八千円
 野菜、くだもの(梨)等 八十二ヘクタール 被害金額 一千八十九万円

五、公営住宅関係

曙町住宅 八戸 被害金額 三十万円
 床上浸水 被害金額 三十万円

六、教育施設関係

校舎破損、雨漏り等 被害金額 六十二万円

とその範囲も多方面に及んだのであります。

今回の災害は、朝明、海蔵、三滝、天白、鹿化、内部川の各河川並びにこれら支流の増水による決壊、溢水によるものであります。朝明川水系におきましては、八郷地区において本流右岸が決壊したのをはじめ、海蔵川水系竹谷川、三滝川水系矢合川、鈴鹿川水系内部川、鎌谷川及び足見川及び天白川、鹿化川の溢水等によりそれぞれ流域地区の堤防、道路の破損、住家の浸水及び田畑の冠水等の被害をもたらしたもので、対策本部といたしましては、低地帯

の排水につとめるとともに、衛生部により罹災家庭のくみ取り並びに消毒作業を行なう一方、救助部により床上浸水の罹災の方々にカーペットと五千円をおのおのお届けしてお見舞い申し上げたのであります。また、県においては、本市の災害状況が災害救助法の適用基準に達した時期において、災害発生の際にさかのぼって救助法を発動されましたので、即刻毛布及びはだ着等日用必需品をお届けした次第であります。

以上災害の概要と応急対策についてご報告申し上げましたが、被災後日も浅く、的確な被害額も追って判明いたすことと存じますが、被災現場を担当する各部課といたしましては、連日災害の復旧に全力をあげますとともに、被災されました方々に対する市税の減免措置につきましても検討を進め、また県の所管施設の復旧につきまして早急に措置されるよう要請いたしたいと存じます。

このたびの災害に際し、水防作業あるいは応急作業に献身的なご尽力を賜りました議員各位をはじめ自治会、水防団、市民の方々のご労苦に対しまして深く感謝いたします。

なお、今回の災害関係費につきましては、後日補正予算を計上して、ご審議をわずらわす予定でありますが、応急措置費等特に緊急を要するものにつきましては、既決予算からの立てかえ支出をお認めいただきたいと存ずる次第であります。

○議長（日比義平君） 以上で市長の報告を終了いたします。

○議長（日比義平君） ただいまより、会議を開きます。

日程第一 会議録署名議員の指名について

○議長（日比義平君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行ないます。

会議録署名議員は、会議規則第七十六条の規定により、議長において早川君及び大島君を指名いたします。

日程第二、会期の決定について

○議長（日比義平君） 次に、日程第二、会期の決定についてを議題といたします。

おはかりいたします。今期定例会の会期は、本日から九月二十三日までの十一日間といたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。よって、今期は十一日間と決定いたしました。

日程第三 報告第六号昭和四十五年度四日市港開発事業団特定事業会計決算の報告について

○議長（日比義平君） 次に、日程第三、報告第六号昭和四十五年度四日市港開発事業団特定事業会計決算の報告についてを議題といたします。

提出理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいま上程の報告第六号は、昭和四十五年度四日市港開発事業団特定事業会計決算について、地方自治法の規定に基づき、その関係書類を報告するものであります。

○議長（日比義平君） ご質疑がありましたら、ご発言願います。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 別段ご質疑ありませんので、報告第六号は了承することに決定いたします。

日程第四 議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、ないし

日程第三十一 議案第百十五号工事請負契約の締結について

○議長（日比義平君） 次に、日程第四、議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、ないし日程第三十一、議案第百十五号工事請負契約の締結についてを一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

市長。

（市長（九鬼喜久男君）登壇）

○市長（九鬼喜久男君）

ただいまご上程の各議案について、ご説明申し上げます。

議案第八十八号は、昭和四十五年既の市立四日市病院事業決算でありまして、まず、決算報告書の収益的収入及び支出につきましては、総収益七億三千二百八十九万二千八百八十三円で、前年度に比べて二一％の増収となり、これに対する費用は七億九千三百四十六万三千三百三十三円で、前年度に比べて一七％増となりました。本年度における総収益に対する総費用の比率は一〇八％となり、前年度より三％低下したのでありますが、これは毎年度実施されます人件費増、諸物価高騰による諸経費の著しい増高にもかかわらず、一方においては利用患者延べ数が増加した等の結果でありまして、純損失は六千十五万三千四百五十円となり、前年度七千三百三十七万五千三百六十一円に比べ僅少なから純損失幅を縮小させることができました。しかしながら累積欠損金は本年度分を加え、一億六千九百九十六万九百六十九円となりました。

期間外収入及び支出につきましては、収益は、過年度損益修正及び固定資産売却益でありまして、十一万四千八百三十一円が生じており、費用は過年度損益修正及び固定資産売却損で三百十三万八千四百三十二円が生じたので、おのおの繰越欠損金においてこの額が増減されております。

また、資本的収入及び支出につきましては、支出額七千七百一十五万二千二百七十七円で、前年度に比べ一三％減となっております。その内容は、建設改良費が四千七百一十三万九千九百九十円で、前年度に比べ一六％減、企業債等償還金が二千九百八十八万七千七百六十七円で、前年度比七％減、その他投資が十一万七千二百二十円となっております。これらの資本的支出をまかなうための財源は出資金三千七百七十八万三千七百七十七円、長期借入金三千八百万円、その他二十六万七千五百十三円となっております。この資本的収支の不足額九十六万七千六百二十七円につきましては、期末留保資産で補てんいたしました。

次に、資本剰余金につきましては、本年度に器械備品一点四百三十三万円相当額の寄贈を受けましたので、前年度残高と合わせて六百四十一万円となり、以前から繰り越しの寄付金、補助金合わせまして七百三万七千五百円が翌年度へ繰り越されております。

本年度末処理欠損金一億六千九百九十六万九百六十九円は、翌年度へ繰り越しました。

なお、本年度末における資産の合計は六億二千九百八十九万六千六百五十六円となり、前年度に比べ三千八百四十九万九百三十円の増額で六％増、負債の合計は、一億八千二百九十二万二千三百二十三円で前年度に比し二一％増となっております。また資本の合計は四億四千六百九十七万三千八百三十三円で、前年度比一％増となっております。

病院事業決算の概要は以上のとおりであります。が、病院運営につきましては、医師看護婦等優秀な医療技術員の確保と施設整備の充実をはかり、名実ともに本市域内における基幹病院としての体裁を確立させながらより

効率的な企業経営を推進し、経営収支の好転に一そうの努力をいたしたいと存じます。

議案第八十九号は、昭和四十五年度水道事業決算でありますが、まず、決算報告書の収益的収入の決算額は八億二千六百八十四万四千七百七十九円で、予算額に比べ二千八百八十二万二千七百七十九円の増収となりましたが、これは主として給水世帯の増加、使用水量の上昇に伴う水道料金の収入増によるものであります。

収益的支出におきましては、決算額八億七百八十二万一千七百七十九円で、不用額二千二百五十二万九千九百九十三円を生じましたが、そのおもな理由といたしまして、受託給水工事費、簡易水道費用、減価償却費等が予定より少なかった結果であります。

期間外の収入は、有形固定資産の譲渡に伴う売却収入がおもなものであり、同支出は、過年度損益修正及び固定資産売却損を経理したものであります。

次に、資本的収入及び支出におきまして、収入の決算額は三億二千八百三十六万四千七百四十三円で、予算額に比べ四千五百五十四万二千二百五十七円の減収となり、これは第三期拡張事業の企業債が年度内に一部未借り入れとなったためであります。

資本的支出の決算額は五億六千八百二十九万一千七百三十一円で、予算額に比べ八百十四万五千二百六十九円の不用額を生じました。このおもな理由は、配水及び給水施設費、繰延勘定等の支出が予定より少なかったことによるものであります。

前年度企業債二千百万円を除いた資本的収入額が資本的支出額に不足する額二億六千九百九十二万六千九百八十八円は、当年度及び過年度分損益勘定留保資金一億六千六十六万六千七百七十円、資本勘定留保資金等六百二十六万二千七百七十八円、及び当年度利益剰余金処分額二千九百万円で補てんし、なお、不足する額六千五百万円については、翌年度において借り入れ予定の企業債で措置するものであります。

損益計算書につきましては、収入額八億二千六百八十四万四千七百七十九円、支出額八億七百八十二万一千七百七十九円、差し引き一千九百二万三千七百七十二円の純利益が生じました。

剰余金計算書は、各剰余金の年度内における増減を科目別にあらわしたもので、当年度未処分利益剰余金三千四百四十万六千九百十四円、次年度繰越資本剰余金六億六千四百一十一万七千六百八十七円となりました。

剰余金処分計算書は、当年度未処分利益剰余金の処分を定めるものでありまして、地方公営企業法の規定により二千九百万円を企業債償還のための減債積立金に処分し、残額二百四十万六千九百十四円は翌年度へ繰り越したいと存じます。

貸借対照表は、資産総額四十一億八千五百十九万五千五百五十五円、負債総額四億二千七百七十七万四千四百二十三円、資本総額三十七億六千三百四十一万五千七百三十二円であります。

以上が、昭和四十五年度の水道事業決算の概要であります。どうかよろしくご審議のうえ、ご認定賜りますようお願いを申し上げます。

次に、本年度の補正予算関係議案についてご説明申し上げます。

議案第九十五号は、本市一般会計予算第二号案でありまして、今回の補正のおもな内容は、国、県費補助割り当ての決定または見直しによるもの、来年一月実施を予定しております老人医療費の助成にかかる必要見込額、四日市港管理組合負担金の不足見込額、職員の希望退職者等に対する手当金、庁舎建設に伴う初度調弁費並びに去る七月発生の災害復旧費等のほか、緊急に実施を要する単独事業、その他やむを得ないもの等についての追加補正と、これに関連いたします債務負担行為及び地方債の補正をお願いしたものであります。

歳入および歳出の追加補正額は九億五千六百六十万三千円でありまして、補正後の予算総額は百十七億五千八十万三千円と相なるのであります。

以下、歳出から各科目ごとに概要のご説明を申し上げます。

第二款総務費は、新庁舎竣工後における総合管理業務委託費、浜田第二土地区画整理事業にかかる失業対策事務所移転経費のほか、県下市長会負担金、職員希望退職者手当金等を追加計上し、交通安全対策費においては、今回国庫補助割り当てが決定いたしました塩浜、大治田源の歩道整備事業費、子酉八王子線の横断歩道橋事業費のほか、単独事業として、通学路等の交通安全施設工事費を追加いたしました。庁舎建設費は、新庁舎に要する初度調弁費と一部内装計画変更によります建設工事費等の追加であります。諸費の追加は、堀木町のほか各町の公会所建設に対する補助金であります。また徴税費は、前納報償金の不足見込額及び固定資産税関係の電算機事務委託料の追加補正をお願いしたものであります。

第三款民生費は、来年一月から実施を予定しております老人医療費の助成に要する扶助費等必要見込額を追加するとともに、社会福祉費は、十月から補助割り当ての決定した身体障害者及び心身障害者家庭奉仕員、寝たきり老人介護人の所要経費並びに県補助割り当ての老人社会奉仕団体事業に対する補助金、その他老人憩いの家の開設に伴います備品購入費等の追加であります。児童福祉費は、家庭児童相談員を来たる十月から一名増員したいと存し、その所要経費と民間共同乳児保育所に対する運営委託料の増額、旧養護施設希望の家の除却費を追加し、青少年指導費は、県補助の決定のありましたスポーツ少年団結成指導及び活動費補助金等のほか、スポーツ大会等派遣費補助金を追加計上したものであります。保育所費は、嘱託医師の報酬改定に伴う所要経費のほか、坂部保育園の基礎くい打ち工事費を追加し、同保育園敷地購入費の不用額を減額補正したものであります。児童館費は、橋北児童館の臨時備入料、精薄児通園施設費は、みはと学園敷地ののりどめ補修工事費を追加し、また児童福祉施設費は、保々地区において季節保育所を増設する所要経費と、子供広場整備費補助金の不足見込額を追加いたしました。なお、災害救助費は、去る七月集中豪雨による被災者に対する見舞金等をお願いしたものであります。

第四款衛生費のうち清掃費は、臨時人夫賃及び北部清掃団地じんがい埋立地処理場の覆土整地に要するブルドーザーの借上料の不足見込額、水沢空地埋立地排水路工事費、並びに去る七月発生の水害に際し汚物処理を委託いたしました経費のほか、し尿海洋投棄所詰所改築費等の追加をお願いしております。

第五款労働費は、失業対策事業の就労者に対する賃金改定によります追加補正のほか、労働会館の備品購入費を追加計上いたしました。

第六款農林水産業費のうち農業費は、今回県補助事業費の内定を受けました農業委員会の特別事業として、農地等利用関係紛争処理事業費、標準小作料設定事業及び都市近郊地域農地対策事業費の追加と、前年度に引き続き国の施策に基づく米生産調整推進事業費の追加補正、並びに保々、神前地区における農山漁村同和対策事業費を追加計上いたしました。農地費は、受託土地改良事業において県補助事業として和無田圃場整備事業の一部設計変更が認められたこと、及び保々、水沢東圃場整備事業が増額されたことにより追加補正を行なうとともに、新しく非補助事業の垂坂圃場整備事業費を追加計上したものであります。なお、保々、水沢東圃場整備事業につきましては、工事期間の関係からあわせて債務負担行為をお願いしております。そのほか、北伊勢広域営農団地農道整備事業の正式採択決定に伴う推進協議会負担金等を追加補正し、農地防災費は、樋門排水機場の維持管理費を追加いたしました。また水産業費は、富双地区遠洋漁業基地に建設予定の漁船員会館の建設事業調査設計費の負担金を計上いたしました。

第七款商工費は、富洲原地区東洋町街路灯設置費補助金を追加計上したものであります。

第八款土木費は、市内一円の道路維持補修費と、水道局その他からの委託による路面復旧工事費の追加補正のほか、市内主要路線に設置します道路案内標識の設置工事費を追加計上いたしました。

道路新設改良費は、国庫補助事業費として決定いたしました日水、八郷線萱生地区立体交差取付道路事業費及び

広域農道関連事業として波木町西日野線の用地買収費を追加計上し、山分松寺線舗装事業は、国庫補助割り当ての減少により減額補正を行なっております。このほか単独事業として道路舗装、改良費等を追加し、河川費においては、維持補修費の増額補正を行ないました。港湾費は、四日市港管理組合に対する負担金、及び四日市港整備事業資金として県を通じ借入れの首都圏等(中部圏)整備事業債還金に対する本市負担分の追加をお願いしたものであります。都市計画費は、本年六月発足いたしました旅館建築審査会の所要経費の追加のほか、人件費の一部組みかえを行ない、四日市都市計画基礎調査事業負担金については、市街化区域の用途地域指定に伴う基礎調査を当初単独事業として予算措置を講じておりましたが、今回県の委託事業として採択されることになりましたため所要の補正を行なうものであります。土地区画整理費は西富田地区土地区画整理事業について、県からの委託を受けて本年度基本計画の作成及び測量調査を実施するための所要経費を追加するほか、県に対する事業調査費負担金を追加しております。街路事業費は、今回国庫補助事業費の決定に伴い子西八王子線舗装事業費の増額と、赤堀小杉線舗装事業費を新しく追加したものでありまして、稲葉町内部線改良事業費及び子西八王子線の跨線橋架設事業費は、事業内容の一部変更により予算科目の組みかえをお願いしております。このほか、県からの委託によります街路交通情勢調査事業費の所要経費を追加いたしました。なお、子西八王子線の跨線橋架設事業につきまして、工事の一部を日本国有鉄道並びに近畿日本鉄道株式会社に委託するため、債務負担行為をお願いしております。公園費は、国庫補助事業費の決定により城西、堀の田、礎津各公園の新設計上のほか、三滝公園(東紡公園)事業費について追加補正を行なうとともに、単独事業として三滝公園の煙突等解体費及び緑ヶ浦緑地内のヨットハーバー艇路築造費のほか、指定寄付金によります中央緑地内の公園植樹工事費を追加計上しております。都市下水路費は、排水施設維持管理費等を増額したほか、新設改良費においては、国庫補助事業費の決定した雨池都市下水路新設改良事業費を追加計上いたしますとともに、朝明都市下水路新設改良事業費の減額補正を行ない、また単独事業として施工の市内

一円にわたる排水施設改良費についてもその増額をはかりました。

第九款消防費は、職員希望退職者の退職手当、来たる十月本市において開会の全国消防長会議の地元負担金、消防団員の公務災害補償関係の政令改正による負担金の増額と、過般火災出動中に傷害を受けた団員の公務災害補償費の追加のほか、去る七月の水害の際購入いたしました水防用資材費の追加をお願いしております。

第十款教育費のうち教育総務費におきましては、職員希望退職者の退職手当、交通安全教育センター整備工事費等の追加のほか、私立の羽津文化、あおい幼稚園新・増築費に対する補助金及びこれに関連する運営費補助金等を追加計上いたしました。小・中学校費及び幼稚園費は、嘱託医師等の報酬改定による増加分、児童・生徒等に対する専門医師による特別検診等の追加と、国庫補助金の決定してまいりました教材備品等の追加補正及び特殊学級児童・生徒に対する特殊教育就学奨励扶助費の新規追加のほか、用務員の病欠等による賃金、小中学校舎等補修工事費の不足見込額、山手、港、笹川各中学校のクラブ室新築工事費、桜、泊山各小学校及び三滝中学校の給水工事に伴う負担金その他を追加計上いたしました。社会教育総務費は、国、県補助金の決定いたしました伊坂町西ヶ広遺跡発掘調査の所要経費のほか、図書「四日市の文化財」の増刊経費の追加であります。

公民館費は、同和地区子供会育成事業に要する所要経費の追加補正であります。体育施設費は、鵜の森テニスコート周囲さく改修工事費の追加をお願いしたものであります。

第十一款災害復旧費のうち、農地農業用施設災害復旧費は、去る七月発生の災害による補助及び単独復旧事業費等でありまして、補助事業のうち本年度認定分については県補助金と地元負担金を、施越分については地元立てかえ金と同負担金を歳入に見込み計上いたしました。公共土木災害復旧費は、過年度及び本年度発生の国庫負担事業のうち本年度負担割当見込額及び一部施越工事費並びに去る七月発生の単独災害復旧費でありまして、補助事業については、国庫負担金を歳入に見込み計上しました。

以上、歳出についての概要をご説明申し上げましたが、歳入につきましては、各歳出科目で申し上げました特定財源のほか、基金会計からの繰入金と、一般財源は、市税のほか競輪事業会計からの繰入金及び前年度繰越金を計上し、収支の均衡をはかったのであります。

なお、前年度繰越金につきましては、本年度も市財政の現状から、財政調整基金への積み立てを停止して使用いたしたいと存じますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

議案第九十一号基金特別会計の補正は、庁舎建設関係経費に充当するため一般会計への繰り出しをお願いしたものであります。

議案第九十二号競輪事業特別会計の補正は、車券売り上げ高が当初の予想をはるかに上回るに至りましたので、従前の実績に加え今後の売り上げ額を普通競輪五億一千万円、記念競輪八億円と見込み、これらの所要経費を追加するとともに、この増収分を一般会計へ繰り出ししようとするものであります。なおこのほか、場内整備のため駐車場造成工事費、審判用テレビ装置改良工事費及び雨入場門前バス待合所さく設置工事費をお願いいたしました。

議案第九十三号国民健康保険特別会計の補正は、明年一月から老人医療費の助成措置を実施するため不用となる高齢者保健衛生対策費を減額補正するとともに、過年度国庫支出金の精算に基づく返還金を追加するものであります。この財源につきましては、前年度繰越金を追加したほか、療養給付費国庫負担金の年度更正等をお願いいたしました。

議案第九十四号公共下水道特別会計の補正は、まず業務費については、去る七月発生の災害の高花平終末処理場の污水管路復旧工事費等を追加計上し、建設改良費は、今回国庫補助事業の増額決定に伴い、日永処理区については曙町及び新浜町地内の下水管布設工事費、川島処理区は桜岡地にかかる污水管布設工事費の本年度分、中

部処理区につきましては、まず終末処理場用地を先行取得するため本年度国庫補助金対象事業費並びに市開発公社立てかえによる施設事業として一括購入しようとするものであります。なお、この財源につきましては、前年度繰越金、国庫補助金、市債のほか開発者分担金で充たいたしました。

議案第九十五号公共用地取得事業特別会計の減額補正は、公債費のうち元金につきましては、前年度予定の借入ワクが下回りましたのと、本年度の国庫補助事業の稲葉町内部線道路改良事業の事業内容の変更に伴い本年度償還元金が減少したものであります。また利子につきましては、当初年利七分五厘で予定しておりましたが、七分三厘で借り入れられたことにより不用となったものであります。なお歳入につきましても前述の事業内容の変更等により土地売却収入を減額補正しております。

議案第九十六号水道事業会計第一回補正予算案は、収益的収入及び支出につきましては、広永住宅団地水道施設の譲り受けにより同団地がポンプ所の維持管理費及び去る七月の豪雨により被害を受けた管路の復旧工事費並びに局職員四名の退職給与金と、前事業管理者の追加でありまして、この財源として給水収益をもって充たいたしました。

また、資本的収入及び支出につきましては、垂坂町の地域における土地改良事業、及び民間の宅地造成が進み上水道が必要となりましたので、単独運営されている垂坂町簡易水道区域をも含めて、総合的に給水するための新設工事に伴う諸経費の追加計上と、市内各所の給水を円滑にするため配水管の改良工事費、並びに三滝川西水源開発に伴う補償等を行なうものでありまして、受益者からの負担金をこの財源に充て、なお不足する額につきましては、過年度分損益勘定留保資金をもって補てんしました。

続いて、条例等その他の議案についてご説明申し上げます。

議案第九十七号四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正案は、本年十月一日より新

たに設置する心身障害者家庭奉仕員の項を追加するとともに、学校医、学校歯科医、学校薬剤師並びに保育所嘱託医師及び嘱託歯科医師の報酬を四月にさかのぼって増額するよう所要の改正をしようとするものであります。

議案第九十八号四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定については、老人福祉の向上をはかる目的をもって、市内の老人に対し医療費の一部を助成するために必要な条例を制定しようとするもので、七十歳以上の老人及び国民年金法別表に定める程度の障害を有する六十五歳以上の老人等老齢福祉年金の受給権者を対象に、国民健康保険の療養の給付にかかる一部負担金については、医療担当者等に市が直接助成金を支払うことを原則とし、療養費の支給を受けた者並びにその他社会保険による療養を受けた者については、受給資格者の申請によって助成金を本人に支払うよう措置しようとするものであります。

議案第九十九号国民健康保険条例の一部改正案は、地方税法施行令の一部改正に伴い国民健康保険料の減額対象世帯の範囲を拡大するほか、準則に基づいて条文を整備しようとするものであります。

議案第百号消防償じゆつ金条例の一部改正案は、消防償じゆつ金を援与する場合における要件の範囲を拡大するとともに、殉職者賞じゆつ金及び障害者賞じゆつ金の支給額の決定について、実情により弾力的に運用し得るよう改正しようとするものであります。

議案第百一号消防団員等公務災害補償条例の一部改正案は、非常勤消防団員等にかかる損害補償の基準を定める政令が公布施行されたことに伴い所要の改正をしようとするもので、補償基準額の算定に関するほか、障害補償にかかる補償率並びに遺族補償のうち五十歳以上の妻に対する補償率の引き上げ等を行なうものであります。

議案第百二号消防手数料条例の廃止については、従来市町村の条例の定めるところにより行なうこととされていた移動タンク貯蔵所または簡易タンク貯蔵所のタンク部分等の水圧検査の取り扱いが、去る六月公布された危険物の規制に関する政令の一部改正により、条例で定めるところなく市町村長が当該検査を行ない手数料を徴収することができるとされましたので、これを廃止しようとするものであります。

議案第百三号四日市市防災会議条例の一部改正は、本年四月下水道部を新設したことに伴い、防災会議委員のうち市長の部局の職員から任命する委員の定数に不足を生じましたので、所要の改正をしようとするものであります。

議案第百四号町及び字の区域並びに名称の変更については、本年度の住居表示整備事業実施に伴い、住居表示審議会の答申と法定の公示手続を経て、お手元の別図一に示す字の区域を隣接する寿町に編入し、別図二、四、六、に示す日永、内部及び河原田地区における約三・一二平方キロメートルの町及び字の区域並びに名称を別図三、五、七に示す区域及び名称にそれぞれ変更しようとするものであります。

議案第百五号町の区域の設定については、四日市機械金属工業団地協同組合が八郷地区広永町及び山分町の一部に造成いたしました工場団地の区域を、黄金町として新たに設定しようとするもので、区域はお手元の図に示すものであります。

議案第百六号町の区域の変更については、四郷地区西日野町及び室山町において、従来よりその一部が住民生活の地域的連係等の美態と行政区域とが異なり、行政運営上の種々の混乱を生じておりますので、これらの支障を除くし、住民の地域的生活の安定をはかるため、西日野町字八幡の一部及び同町字枝谷の土地を室山町に編入しようとするもので、区域はお手元の図に示すとおりであります。

議案第百七号字の区域の変更については、尾平土地改良区が実施する土地改良事業により、尾平町字水附、字新高平字石上字辻垣内、字沢及び字西川原の各一部について字の区域を変更しようとするもので、区域はお手元の図に示すとおりであります。

議案第百八号字の区域の変更については、三重地区山之一色町地内において宝永興業株式会社が施行する富士電気製造株式会社三重工場の従業員分譲住宅団地の造成により、山之一色町字中大沢の一部を同町字大沢に編入しようとするもので、区域はお手元の図に示すとおりであります。

議案第九号は、北部清掃工場建設工事請負契約締結案でありまして、指名競争入札の結果、金額四億二千四百十万円で名古屋市中村区広小路西通三丁目二番地田熊汽罐製造株式会社名古屋支店に落札決定いたしましたので、工事請負契約を締結いたしました、ご提案申し上げます。

議案第十号は、公共下水道落合バイパス築造工事請負契約締結案でありまして、指名競争入札の結果、金額五千三百二十万円で名古屋市中区丸の内一丁目十四番十三号株式会社銭高組名古屋支店に落札決定いたしましたので、工事請負契約を締結いたしました、ご提案申し上げます。

議案第十一号及び議案第十二号は、いずれも中学校改築工事請負契約締結案でありまして、指名競争入札の結果、市立南中学校改築につきましては、金額四千四百六十万円、四日市市浜旭町四九番地伊藤建設株式会社に、市立朝明中学校改築工事につきましては、金額七千二十万円、四日市市元町一番六号株式会社伊藤彦組に落札決定いたしましたので、それぞれ工事請負契約を締結いたしました、ご提案申し上げます。

議案第十三号は、市立中部西小学校増築工事請負契約締結案でありまして、指名競争入札の結果、金額三千九百六十万円、四日市市西浦二丁目四番二十号既建設株式会社に落札決定いたしましたので、工事請負契約を締結いたしました、ご提案申し上げます。

議案第十四号は、市立富洲原小学校改築工事請負契約締結案でありまして、指名競争入札の結果、金額六百十五万円、四日市市午起一丁目二番九号尾崎建設工業に落札決定いたしましたので、工事請負契約を締結いたしました、ご提案申し上げます。

議案第十五号は、市立泊山小学校新築工事請負契約締結案でありまして、指名競争入札の結果、金額九千五百五十万円をもって四日市市稲葉町十一番二十七号中日本建設株式会社に落札決定いたしましたので、工事請負契約を締結いたしました、ご提案申し上げます。

どうかよろしくご審議いただき、ご決議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） 提案理由の説明、お聞き及びのとおりであります。

該事日程に従いまして、本件に関する審議を留保いたします。

日程第三十二 委員会報告第十一号 委員会中間報告

○議長（日比義平君） 次に、日程第三十二、委員会報告第十一号委員会中間報告を議題といたします。

本件は、老人対策特別委員会からの中間報告でありまして、お手元に配布いたしておりますので、これによってご了承願います。

委員会報告第一号

委員会中間報告

本委員会に付託の事件について、委員会の中間報告を左記のとおり会談規則第四十二条第二項の規定により報告します。

記

一、調査事件 老人医療費の無料化について

二、調査の経過及び結果

別紙委員長報告（その一）のとおり

昭和四十六年九月十三日

四日市市議会
議長 日 比 義 平 殿

老人対策特別委員長報告(その一)

老人医療費の無料化について、当委員会の調査の経過と結果を報告いたします。

老人の最大の悩みの一つが病気になることは、老人の有病率が青・壮年層のそれに比して四、五倍という高率であるにもかかわらず、その反面医師にかかっている老人の率とえば、逆に青・壮年層のわずか半分にすぎないという厚生省の国民健康調査の結果からしても明らかといえるのであります。

そのうえ、注目すべきことは、このように老人の有病率がその受診率をはかるに上回っていることは医療費の負担が重過ぎるという経済的理由によるところが大きいということです。このことは、老人の福祉を考えるにあたって、看過できない重大な問題点であり、したがって老人医療費の無料化をはかることは、老人保健の向上はもとより、老人福祉の増進に寄与するところが大であることは論をまたないところであろうと思量するのであります。

当委員会は、以上のような見地にたつて、老人医療費の無料化の実施について、対象年令、所得制限の問題を中心に、具体的に種々検討を重ねた結果、現在の社会情勢からしてまた市の行財政からして、七十才以上の老人および六十五才以上の重度の寝たきり老人を対象とし、所得制限については、原則として行なわないものとし、本人の所得であってもでき得る限り緩和することが適当であるとの結論に達したのであります。

また、せっかく老人医療費の無料化を実施するからには、老人から真に喜ばれるものでなければならぬのであり、それには老人が医師にかかる際、現金を支払わなくてもよい形、すなわち現物給付方式を採用することがぜひ必要と考えられるのであり、無料化の実施については可及的速やかな時期が望まれるのであります。

なお、老人医療費の無料化の将来を展望するとき、特に七十才という対象年令の制限については、今後社会情勢の変転に應じ六十五才以上について前向きに検討する必要があるものであります。

以上をもちまして、老人医療費の無料化に関する当委員会の調査の経過と結果の報告といたします。

○議長(日比義平君) 以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次回は、来たる十六日午前十時から会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後二時四十八分散会

昭和四十六年九月十六日

四日市市議会议定例会议議録（第二号）

四日市市議会议

○議 事 日 程 第 二 号

昭和四十六年九月十六日(木) 午前十時開議
第一 一般質問

○本日の会議に付した事件

日程第一 一般質問

日程追加 八王子線の廃線問題についての緊急質問

○出席議員(四十四名)

青	天	荒	小	伊	伊	伊	岩	大	小
山	春	木	井	藤	藤	藤	田	島	川
峯	文	武	道	金	太	信	久	武	四
男	雄	治	夫	一	郎	一	雄	雄	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○議事説明のため出席した者

助 市

役 長

岩 九	吉 山 山 山 安 六 松 増 藤 福 日 早 服 長 橋
	谷
野 鬼	垣 本 中 口 垣 平 島 山 井 田 比 川・部 川 本
見 喜	照 忠 信 豊 良 英 泰 香 義 正 昌 鐸 増
久	治
斉 男	男 勝 一 生 勇 司 一 一 郎 史 平 夫 弘 元 威
君 君	君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

橋 野 生 中 出 坪 田 高 高 志 後 後 小 小 小 粉 訓 喜 川
多
本 崎 川 島 井 井 中 橋 井 積 藤 藤 林 林 林 川 霸 野 村
建 貞 平 隆 妙 政 力 三 政 藤 寛 喜 博 哲 也
太
治 芳 蔵 平 博 子 一 三 夫 一 郎 治 夫 次 夫 茂 男 等 潔
君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

○出席事務局職員

水道事業管理者	技 術 部 長	次 防 長	代表監査委員	事務局 長	次 務 長	議 事 係 長	書 記
中 山 英 郎	杉 本 義 広	富 山 光 三	森 新 八	森 野 正 和	小 森 正 太	佐 藤 桂 輔	板 崎 大 之 丞
君 君 君	君 君 君	君 君 君	君	君 君 君	君 君 君	君 君 君	君 君 君

○議長（日比義平君） ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の出席議員は、三十八名であります。

本日の議事は、一般質問であります。発言の順序は、お手元に配布の一般質問通告一覧表のとおりであります。

午前十時四分開議

日程第一 一般質問

助 役	収 入 役	市長公室長	總 務 部 長	稅 務 部 長	產 業 部 長	厚 生 部 長	衛 生 部 長	土 木 部 長	下 水 道 部 長	建 設 部 長	副 収 入 役	教 育 委 員 長	教 育 長	次 長	市 立 事 務 所 長	病 院 長
加 藤 寛 嗣	三 司 良 一	喜 代 司	清 三 郎	三 輝 彦	忠 己 臣	和 男	文 助	天 野 一 助	伊 藤 凉 一	森 市 川 幸 雄	佐 々 木 晃 精	村 山 了 君				
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○議長（日比義平君） それでは、日程第一、一般質問を行ないます。

高橋力三君。

〔高橋力三君登壇〕

○高橋力三君 通告いたしました順に従いまして、まず最近新聞紙上に出ておりますわが四日市市にとって重要な問題であります一、二の件から質問を始めます。

質問時間が制限されているようで、私のほうは少々早口になりますが、よろしくお願いいたします。

昔からなさざると遅延逡巡することは、なして事を誤るよりもその罪大なりといって、実行力のない消極的な政治家を強く戒めています。いまや激動の七〇年時代に入りましたが、この時代に市長として生き残るためには、まず柔軟にして弾力的な考え方と積極的な行動力を身につけていることが何ものにもまして必要だと思っております。どうかこの意味でわれわれの期待に沿うような意欲的な答弁をお願いいたします。

一、霞ヶ浦コンビナート地先の埋め立てについて。

八月十七日の新聞紙によりますと、市長は、霞ヶ浦第二期埋め立ての二十六万坪については、大日本インキ、東洋曹達など七社が進出を希望しているが、この埋立工事が完成するまでには二、三年かかるので、七社の公害対策の実績を見て、市の命令、希望どおりの公害対策ができておればよいが、そういう対策ができていない企業には進出を断わると強い調子で言っておられるが、実際問題として、七社に金を出させて、すなわち七社をスポンサーとして埋立工事を実施してから、公害対策が少々まずいといって買い戻して他社に売るといような強行手段がとれるとはといてい考えられないのであります。実際問題としては、埋立事業が完成してからでは、市の立場が弱くなって、そういう断固たる態度はなかなかむずかしいのではないかと考える次第でございます。そして、公害企業が進出しまして操業を始めるということになりますと、迷惑をし被害を受けるのはわれわれ北部住民のみであって、

まことにわれわれにとって耐えがたいところであります。このような不安がわれわれ北部住民の間に暗雲のようにかぶさっています。がゆえに、この際二十六万坪の埋立工事は、はっきりとスポンサーなしで、われわれが安心できるように、はっきりと先行投資という形で埋立工事をして、その後公害的に見て優秀な企業の希望者に分譲するという方法をとりますと、市の自主性は保たれ、われわれも安心して市長についていけるわけでございますが、このような方法がとれないものでしょうか、お伺いいたします。

また、十四万坪については、新聞には県、市で先行投資をして進出企業については各方面の意向を聞いて後決定すると出ています。そして新聞には、この進出企業は製粉、食肉等で石油関連企業ではないように出ていますが、それはほんとうでありますか、お伺いします。また、現在すでに進出を希望し、当局でもそれなら許可してもよいと思われるような企業がありましたらお知らせ願いたいと思います。

第二番、オーストラリア記念館の建設問題についてであります。

この記念館の霞ヶ浦緑地内への建設については、県、市で財団法人「日本万国博オーストラリア記念館」を設立し、四億円の予算ですでに清水建設と八月十日に契約し、工事に着手していると聞いているが、それはほんとうでありますか。そして、その四億円の内訳は、一、オーストラリア政府一億円、二、四日市港開発事業団が持っている資金一億六千九百万円、三番、特殊大企業グループ三菱、大協、昭石、四日市倉庫グループ七千万円、四、銀行その他の企業グループ七千万円、五、その他県、市で六百万円ずつ負担すると聞いています。

次に、この資金についてお尋ねしたいと思います。第一のオーストラリア政府の一億円は、最近の国際金融情勢激変の危機の環境においても、なお確実に期待できるものであるか、お伺いしたいのであります。第二番目、第二の資金についてお伺いしたい。この一億六千九百万円は、四日市港開発事業団の持っている金で、その使途について県、市で相談するということになっていますが、この金は、元来四日市市が霞ヶ浦埋立地に漁業補償費を払

ったからこそ獲得することができた金であって、この金を使うということは、県は全く腹を痛めないということでもあります。今回この金を使った場合、県はどのような見返りを四日市に対してするのか、お伺いしたい。次に、第三、第四の資金についてお伺いします。三菱、大協、昭石、四日市倉庫グループの七千万円については、内定しているように伺っていました、たいへんけつこうに思いますが、次の銀行その他企業に期待している七千万円については、近く円の切り上げが予想され、日本の企業は軒並みにたいへん不況に襲われ、年末ボーナスも払えない企業が続出すると心配されている現在、はたしてこの七千万円の寄付がこれら不況の企業に期待できるか、お伺いしたいものであります。

要するに、このように国際的金融状況の異常のときに、このような不安な無理のある資金で、社会資本、公共投資とも言われないようなこのような記念館の建設が、はたして時勢にマッチした意義のある企画であるかどうか疑うものであります。すなわち、四億円の予算の内容についてのその確実性と、清水建設にかくも急いで発注しなければならなかった事情を承りたいのであります。

また、この記念館完成後の維持管理をどういうふうな方法でやっていくつもりであるか、お伺いしたいのであります。

第三、再びすぐやる課精神の制度化について。

私は、昭和四十五年の十二月の議会におきまして、千葉県松戸市で評判になっているすぐやる課の例をあげて、すぐやる課精神とは、すぐやらなければならないものですすぐやり得るものはすぐやりますという方針で業務を処理することで、土木課、下水課、耕地課、清掃課等ではこの精神で業務を敏速に処理することが地方自治政治の要諦であることを力説いたしました。そして、役所の刊と行政で仕事がおくれることのないようなシステムの確立が必要であると要望したわけでございます。これに対して市長から、行政に携わる者として、熱情と責任感、そし

て将来に対する洞察力と敏速的な実行力を持って当たりたいと、非常に格調の高いご答弁をいただいて一応満足して引き下がったわけであります。ところが、その後の様子をうかがってみますと、必ずしも市長が申され私が期待したように、この精神が行政一般に生きていくには思われないのであります。私は聡明で合理的センスを身につけた市長でありますすがゆえに、業務のスピード化については特に熱心で、最小限度課長の専決金額を上げるくらいのこととはすぐ実施して、この要望にこたえられるだろうと期待したのでありますすが、実際にはなしのつぶてで何のたよりもない、旧態依然であります。さらに悪いことに、最近特に、制度が悪いのか人の配置が適当でないのか存じませんが、管理者にお会いしてお話ししようとしてもお会いできない、管理者がその席にほとんどずわっておられないというのが実情であります。人間しゃべる機会を持つだけでも不平不満の半分は消えると心理学者は言っています。何度行っても会えないということ、いかにも情けないことで、ただ不平不満がより高まって、ほこりのように胸にたまるだけであります。

ここで私は、わが四日市市ですぐやる課精神を具体化するための一つの案を示したいと思えます。すなわち、道路維持改良課を新設して、この課をすぐやる課精神で運用するわけです。すなわち、既存の道路を最高度の状態に維持するために、絶えず道路の修理と改良をすることがこの課の仕事であります。このためには、仕事に関する一切は課長決裁で、予算はなく、課長は必要なだけ金が自由に使えるというシステムが必要であると思えます。松戸のすぐやる課は、課長判断だけで実行に移すことができるようになっていきます。すなわち、この課は市長直屬で、課長の上司は市長だけで、課長の任務は、前日の仕事の内容とその金額を市長に報告すればいいので、ほかに何も相談することはないのであります。すなわち、この課では決算制度がないので、すぐ飛び出して行って思うことがやれるわけです。この課のやらねばならない義務は、市長への事後報告だけであるから、スピーディーに仕事ができるわけです。しこうして私の主張する道路維持改良課長は、出張とか会議とかの時間を極力節約して、絶えず自

分の席で臨機応変、敏速果断な処置がとれるよう待機の姿勢にあることが必要であります。故人も「敏の一字は、政をなすの要訣なり」と言っています。松戸のすぐやる課の昨年一年間の仕事は、二千九百十四件で、その内容は土木関係が八一・八％、清掃関係が九・七％、その他苦情処理八・五％であります。しこうして私も議員四十四名は、この松戸のすぐやる課で取り扱われた二千九百十四件のような仕事の内容で、人により多少の違いはありますが、年中きりきり舞いにさせられて悩み苦しんでいるのが実情であると思うと、われながら哀れて情けなくなっています。次第でございます。すなわち、道路維持改良課を以上のような精神で設立し、運営し、市民のこの方面の要望を吸収し、片づけていただくと、われわれの悩みの大部分が解消するわけで、私も議員もたいへんに助かり、時間の余裕が生じ、皆さんにさらによりよく喜んでいただけるような別の質の高い仕事に精神できるわけでございます。制度の改革、人事の配置は住民への敏速なサービス精神の生きる方向ですべきであると思うのであります。四日市市役所とは、四日市市民の幸福に役立つように職員が適材適所に配置されるところと言われるようにありたいものであります。市長は、このすぐやる課精神が生きるように、どういう制度、方法を考えておられるか、市長のお考えをお伺いしたいのであります。

第四番目、区画整理事業と道路舗装について。

この区画整理と道路舗装の二つの事業は、市長の姿勢、すなわちその市長職に対する市長の熱意をはかるバロメーターになるといわれています。遺憾ながらこの両事業ともにわが四日市市の状況はあまりにも低調であります。区画整理の施行については、知事認可を受けた組合と地方公共団体等がありますが、全国的には知事の認可を受けた組合施行が四八％、地方公共団体施行が二八％ぐらいと承っております。わが四日市市においても、公共団体施行の西浦及び浜田の区画整理事業は何っていますが、最も力を入れるべき知事認可の組合施行の区画整理事業については、四日市市においてまだ聞いていません。ただ話だけでは、桜ですでに認可になり、小杉、垂坂で計画中

とか聞いている程度であります。また市のほうでは、約二千万円の調査費を出して来年の三月までに西富田地区土地区画整理事業の調査をするということでございますが、まさにどうほうを見てなわをなっているようで、何ともあまりにものんき過ぎるような気がするわけでございます。組合施行の区画整理事業こそ今後都市開発の本命であると思うが、四日市市としていつごろからどういう方法でこの事業を推進していくのか、お伺いしたいのであります。

次に、市道の舗装についてお伺いします。

参考のためにまず松戸市の話から始めます。松戸の松本市長が四十四年一月に市長に就任したときに、松戸市においては市道の舗装率は四〇％であったということです。現在の四日市市の市道の舗装率は、市道全体に対して三九・八％であるとして四十五年十二月の広報に出ています。ところが松本市長は、就任以来この市の舗装予算を一気にいままでの予算の十倍にして、二年間で市道の舗装率を四十四年一月の四〇％から四十六年四月の九四％まで持っていたと言っています。どうしてこのような手品のようなことができるのかふしぎでならないわけでございます。ちなみに松戸と四日市市は、ほとんど同格都市で、財政内容ははるかに四日市市のほうがよろしい。人口、四日市二十二万九千、松戸二十五万八千。四十五年度税収入、松戸三十一億、四日市五十一億。四十六年度、松戸三十八億、四日市六十億であります。すなわち、市長は借金しても、体を張ってでも、住民のために住民に喜んでいただける仕事であれば断固としてやるという奉仕の決心がついたときに、松戸市長の頭には、このインフレの時代だから、すなわち資材は上がる、人件費は上がる時代だから、いまここで一気に仕事をやって、あとでゆっくり借金を返していけば、そのほうが有利だという考えが天啓のように市長の頭に浮んできたということであります。それに、道路の舗装ということは、幸いに少数の技術者でたくさんのお仕事ができるといふ特質があるということに気がついて、それやれとこの英断になったと伺っております。

これから思いまするに、私も四日市北部の開発途上区域の住民は、このような市長の大英断でもない限り、いまの四日市市の状況では半永久的に舗装、舗装と夜も寝られないわけでございます。そして愚路と泥濘に悩まなければならぬということでもあります。これは住民にとって、また議員にとって、はたまた市の理事者にとってもたいへんつらいことであり、損なことであります。これを要するに優柔不断な消極的な市長のもとではだれ一人幸福になり得ないということでもあります。現代は、先日来のアメリカの大胆な経済政策に見られるように、まさに激動の時代であり、従来の発想を根本的に転換せざるを得ない時代であります。日本経済も従来の民間の設備投資型から社会資本投資主導型に変わりつつあり、政府は来年度の予算には一兆円の国債を発行して公共投資に力を入れるように伺っております。市長は、ここに民生安定のため勇断を持って百八十度の発想の転換をして、公共投資に積極政策をとるべき時代がまさに来たと思うのであります。すなわち、このような積極的な社会資本投資がなぜ松戸では可能で四日市では不可能であるか、この点をお伺いしたいのであります。

最後に五番目、垂坂、小杉を中心とする学区制の再編成について。

最近四日市市の学区制に非常なアンバランスが生じていることはご承知のとおりであります。大体小学校の適正生徒数は五百人から八百人ぐらいであると伺っています。しこうして、最近垂坂町周辺は団地の造成が非常に盛んで、このため水道局では垂坂町下水道施設新設工事として来年三月完成の予定で本議会にその予算案が提出されています。しこうして、この計画によると、ここ一、二年間に垂坂周辺に新設される住宅の戸数は、三井小杉団地、石原垂坂住宅、土地改良住宅等合わせて約千戸であります。これに垂坂町二百戸を加えてこの垂坂周辺で千二百戸となっています。そしてこの近くの小杉、周辺を見ますと、小杉、みゆきヶ丘、東ヶ谷、緑丘等合わせて約千戸であります。合計二千二百戸。これで見ますと、垂坂、小杉を中心とする小学校をつくりますと、生徒数六百人前後の適正な小学校になります。そして、こうなりますと、さらにいいことには三重小学校、海蔵小学校、羽津小学校

等の巨大な学校の生徒数が平均して減るといって一石二鳥の利益があります。またさらにそのうえ何ものにもましてけっこうなことは、垂坂分教場のような不自然な教育環境が解消され、子供が全部堂々たる小学校に六年間一貫して通えることであります。この教育効果は大きいものがあります。さらにこの分教場は、保育園また幼稚園として幼児教育のためたいへん有益に使用されるわけで、この小学校の建設はまことに意義があると思っております。私どもは、一年も早くこの案の実現を祈念いたしますがゆえに、私どもなりに学校適地を物色して教育委員会に示しているわけであります。私どもは、少なくとも四十六年、四十七年度中に先行投資して学校用地を入手し、いかにおそくとも四十八・九年度にはここに小学校の開設をお願いしたいわけでございます。本件について市長並びに教育委員会のお考えをお伺いしたいわけでございます。

以上であります。

○議長（日比義平君） 市長。

（「市長（九鬼喜久男君）登壇」）

○市長（九鬼喜久男君） ただいまのご質問にお答えを申し上げます。

まず第一点の霞ヶ浦コンビナート地先の埋め立ての問題でございますが、ご承知のように、すでに完了いたしておりますところの三十八万坪の埋め立てにつきましては、すでに九社の誘導品メーカーが新大協和石油化学を核といたしましてコンビナートを形成しつつあります。現在の三十万トンというようなエチレンの能力から見れば、三十八万坪というものがいかに小さいかということは、ほかのコンビナートの用地を拝見をいたしましたも明らかなことでございます。しかしながら、当時の埋め立ての時点におきましては、まだそれだけの誘導品メーカーを集合するだけの機運が熟しておらなかったということでございます。その後いろいろの事態の推移によりまして急激に誘導品メーカーが結集されることになりました。三十八万坪ではいかなること理想的なコンビナートを形成する

にしては土地が狭いということははっきりしてきたわけですが、したがって、この三十八万坪に現在立地いたしております企業、ことにこの東側のほうの企業は、当然次に予定されるころの埋立地にもレイアウトができるような配置で設計をされ、かつ現在建設をされているのが実情であります。したがって、この二十六万坪の埋め立てにつきましては、三十八万坪と合わせて去る議会において埋め立てのご承認を賜わっておるわけですが、まだこの会社が来るということがはっきりしておらなかったのが実情でございました。しかしながら、その後の推移をあわせ考え、また三十八万坪の埋め立てを実行いたしましたところの時点における企業の動き等を考えまして、二十六万坪は当然このすでに立地をいたしておりますところの三十八万坪の工場に対してスポンサーとしてこれを埋め立てするのが適当であるという判断をいたしておるわけでございます。三十八万坪に続くところのこの二十六万坪は、先行投資でやったらどうかということでございますけれども、ご承知のように、四日市市地先につきましては、すでに海面地先につきましては、この富田、富洲原地先の海面しか残っておらないというのが実情でございます。ぜひともここにはりっぱな工業用地と港湾用地を建設して、四日市市の工業都市としての整備、あるいは環境の整備というものを合わせてはかりたいというのが根本的に考えておるわけでございます。先行投資ということになりますと、すでにそれだけの資金を投じていかなきゃなりませんし、大蔵省あるいは通産省あるいは自治省等におきまして、先行投資というものにつきましては、確実な進出の予定があるもの、あるいは間違いないものという以外にはもう認めないという方針を一応決定をいたしております。それは、名古屋港の西埋立地等に先行投資で立地をいたしましたところにある製紙会社が進出することになりましたが、その後公害等のいろいろな問題で粉砕をきわめて進出を取りやめたと、そのためにいまだにこの進出企業がきまらないという状況のところがございますが、そういう先行投資を認めていくと、今後地方自治体に対して財政的な負担をかけるのではないかとということから、できるだけ先行投資はもう認めないという方針が決定をされております。また、この二

十六万坪プラス十四万坪、合計四十万坪というものを先行投資でやった場合には、一応これが百二十億円ぐらゐの予算が出て行くことになると思います。一応八分の金利計算をいたしましたとしても、年間九億六千万円ばかりの金利が要るわけでございますが、こういう観点から、二十六万坪につきましては、先行投資をするのは適当ではないと。やはり三十八万坪に進出してきた企業の中の適当な企業にこの用地をスポンサーとして造成するべきであるというように判断をいたしております。

したがって、この二十六万坪の造成につきましては、今後二、三年の月日を要するわけですが、その間にすでに三十八万坪に進出してきておるところの企業が、なお公害を出すような不始末が改まらないとか、あるいは先般ございましたようなオクタノールを海面に流すというような不手ぎわなことがございますようなことがあれば、二十六万坪に対しては別にその企業に来てもらわなくともいいわけでございますので、進出を断わると、そういう話を先般関係者に申し上げてきておるわけでございます。すでにスポンサーになっておるところに、完成後公害事象があったから買い戻し条件を実施するのはむずかしいのではないかとという趣旨の説がございしますが、ともかく用地が完成しても、すぐそこに工場を建設するわけではございませんので、その時点において私は断わることができると、さように思います。したがって、この二十六万坪については、ただいま申し上げましたような土地の買い戻し条件をつけて、二十六万坪の埋め立てをスポンサーつきという形形で実施をいたしたいと、さように考えております。

また、十四万坪につきましては、ちょうどこの十四万坪が完成をされますと、朝明埠頭と申しますか、この新しい富田浜埠頭の東側の法線とちょうど一線となって非常にぐあいがいよいこととすし、できるだけやはり四日市といいたしましても、東のほうに埋め立てをして用地を造成するべきであるというように考えております。したがって、ここには現在のところすでに進出希望会社というものが、はっきり申し上げられるものは二社ございます。

それは、小野田セメントの輸出基地としての貯蔵施設、並びに四日市市にあるところの製粉会社の製粉工場用地というものが、はっきりと二社書類をもって申請をされておりますが、その他は全く進出企業はいまのところございません。将来の産業廃棄物あるいは四日市市の公共下水道の処理用地等もなかなか適当な土地がございませんので、そういうようなものも将来必要であろうかというようにも考えられますが、そういうような広い意味において十四万坪だけは先行投資という形でこの造成をさせてもらいたい、と、さように考えておるわけでございまして、この点につきましては、三重県当局とも十分打ち合わせを終わっておるわけでございます。

霞ヶ浦コンビナートの地先につきましては、二十六万坪は一応企業名ははっきりはいたしておりませんが、ともかくコンビナート用地としてスポンサーつきで一応造成をしたい。しかも、それにつきましては、買い戻し条件というものを実施をしたい。十四万坪の土地につきましては、先行投資でこれを実施をしたい。すでに小さいものでありますが、二社これに対して希望があると、なお、その他この土地に進出する企業があるとするならば、その企業名の公表をいたしまして、富洲原、富田、あるいは羽津等の議員の皆さん並びに地区の皆さんの意向を聞いたりえでこの進出企業を決定をいたしたい、と、さように申し上げておるわけでございます。

次に、オーストラリア記念館でございますけれども、ご指摘のようにすでに財団法人が設立をされて、この記念館を建設するということを決定をしたわけでございますが、すでにこの建設は、三月ごろからもう始まるというところでございまして、現在まで遅延をいたしてきておるわけでございまして、それにつきましては、地盤が非常に軟弱であったと、非常に軟弱な地盤であるというようにもございまして、またその後のいろいろの手続きがございまして、たいへんおくれました。すでに清水建設との間に、財団法人と清水建設との間に契約が結ばれて、すでに工事を始めようとする段階でございますことにつきましてはかねがね申し上げてきた点でございます。

この四億円の予算の内訳でございますが、ご指摘のように、一億円につきましてはオーストラリア政府にお願いをするということでございますが、当時のゴードン首相は、その後国防大臣でしたかになられ、またその後また国防大臣もやめられたということでございますけれども、これは知事の話の総合いたしますと、何としてもオーストラリア政府は十分かけ合って話をつけたい、それについてはある程度の確信を持つておきたい、と、ございまして、知事とよく話を煮詰めまして、また知事のほろを督励をいたしまして、一億円の寄付金についてはぜひお願いをしたいというように考えております。

次の一億六千九百万円の四日市港開発事業団の所有の金のことでございますが、すでにこの金の使途等につきましては、いろいろお考え方もあらうかと思えますけれども、開発事業団が設立されたところの段階におけるところの設立に関する申し合わせ書等の十四項によりまして、漁業補償の権利はすべて事業団に帰属すると、そういうことになっておりまして、これが使途については県、市で合わせて考え、しかも霞ヶ浦地先海面の整備に使うという約束いたしてきておるわけでございまして、ぜひともこの一億六千九百万円の使途についてはご承認を承りたい、と、さように考えております。また、ご指摘のようなご意見もございまして、県につきましては、私は四日市のために一つ温水プールをつくるべきではないかということをおかね三重県当局に申し入れておりますので、県に対して市へのそういう見返りの配慮を何らかの形で獲得できるような努力をいたしたい、と、さように考えております。

七千万円の寄付金、その他の寄付金でございますが、ご指摘のように、景気の不況というものがこの一年ぐらい前からたいへん急激に進行してまいりました。すでにご承知のように、七月におけるところの県税の調定額を見ましても、前年度に比べましても非常な停滞を示しております。そうして、さらにこのドル防衛等に関連するところの景気の不況を考えた場合には、四十六年度の財政の伸びは四割ぐらいになるのではないかと、県税の法人二税で

あるところの法人事業税並びに法人住民税というものは、四角ぐらゐまで落ちるんではないかということが愛知県では指摘されておりますが、こういうような情勢は、つまるところ企業の内容不如意というものを示めすことであるかと思ひます。それだけにわれわれは、さらに決心を新たに、この寄付金の獲得に努力をいたしたいと、さうに考えておるわけでございます。

清水建設への契約を急いだ理由というのは、別に急いだわけではございませんで、契約が非常におくれてきておったということでございまして、そのために業者からも非常な催促があるし、また公害防止事業団等の事業もどんどん進められておりまして、オーストラリア記念館の材料が置かれておる用地並びに建物等を撤去しなくてもすむような準備をしなければ、事業団の事業が進められないというような経緯もございまして、記念館の建設を急いだ一つの理由にもなっておるわけでございます。

記念館の維持管理につきましては、できるだけ人件費のからないようなやり方でいたしたい。私は、どうせあれだけの緑地公園ができ、かつプールもできることでございまして、いろいろな球技場もできることでございまして、そういうような管理と合わせて、人件費のからないように四日市港管理組合等と話し合いを進めていきたいと、さうに考えておるわけでございます。

すぐやる課の精神の制度化の問題でございしますが、先般来私がお約束をしたとおり、実施ができておらぬじゃないかということで、まことに申しわけなく思っておりますが、われわれといたしましてでもできる限りの努力をいたしておるわけでございまして、まあその当時もすぐやる課はつくる気持ちはないけれども、そのすぐやる課の精神だけはぜひともやりたいと、実施をいたしたいということをお約束申し上げたわけでございまして、ご指摘のような専決規程等の権限譲渡等につきましても、ただいま十月一日実施の目標のもとに専決規程の改正を行なっております。したがって、課長権限をさらに強くするというようなことで、できる限りそういう道路の維持補修、あるいは

改良等が課長権限でできるようにやりたいと、さうに考えておりますし、また民意の反映をさせますために、先般来通報制度というものを実施をいたしまして、市の職員が全市域から通っておりますので、そこで毎日通勤時において見るところのいろいろの不手ぎわ、あるいは道路、下水、その他学校の管理等について、気のついたところはすべて通報してもらいようにやかましく言っておるわけでございすけれども、この制度につきましても、まだ私は十分なものではないと思っておりますし、せっかくこしらえておりますので、この通報制度ができる限りの効果を出せるようにいたしたいと考えております。また近く新庁舎も完成をいたします。新しい庁舎ができたら、それだけやはり行政能力と申しますか、行政効率をあげるような努力をするのが当然でございすので、この改築と合わせて、すぐやる課の精神が十分できるように心を新たに努力をいたしたいと、さうに思っております。したがって、市民相談室等につきましても、十分な元美をできるように配慮をいたしたいと、さうに考えております。

まあ、この道路維持改良課というものを新設したらどうかということでございますが、ご承知のように国家公務員等につきましては、八月に今後三カ年の間に五名の公務員を減少させるという案が決定をされておりますが、ただいま申し上げましたように、最近の経済の動向、景気の変動というものは私は容易なものではないというように考えております。したがって、ただいま申し上げましたような、県税収入というような直接事業活動が反映するところの税源というものが非常に減少してきておると。一例を申し上げますと、東京都のこの九月期の臨時議会においては、大体法人二税が四百億円予算書より欠落をしておると、東京都の九月議会においては財政収入はゼロであるというように報告されておりますが、それほど深刻な財政情勢になっておりますので、私は今後の新しい課を新設するというにつきましては、現在あるところの課の機構というものを、さらにすぐやる的精神のほうに活用していくべきではないかというように、さうに考えております。まあできるだけ新しい課を新設して職員をふ

やすというようなことは、四十九年度までは景気は回復しないという専門家の見通しがたいへん強うございますので、われわれはそれだけやはり財政的にも考えていくべき時期に現在際会しておるのではないかとように思います。したがって、維持改良課というような新設と同じ効果があるように、現在の土木課あるいは都市計画課、区画整理課等において、それだけの行政効果をあげるようなやはり努力を重ねるべきであると、さように考えております。

区画整理事業と道路の舗装でございますけれども、区画整理というものが非常におくれておるといって指図でございしますが、しかしながら、われわれといたしましては、現在のこの行政能力一ぱいのところで進めていくためには、西浦、浜田第二区の事業がただいま実施中でございますけれども、これ以上さらに新規のものを手がけるというのは非常に危険であるというように考えております。大体一万坪の区画整理事業をするのに職員が一人要るというようにいわれておりますが、たとえば三十万坪の区画整理事業をやるうと思つくと、少なくとも二十人ぐらいの職員が要るわけでございまして、西浦もただいま鋭意推進中でございますけれども、なかなか用地の買収あるいは住宅の移転等で悩んでおるところもございすし、ただいままた浜田第二区を実施中でございますが、ともかく今後はご指図のような民営によるところの区画整理事業をぜひ推進をいたしたいというように考えておりますけれども、名古屋市のような用地が高くてしかも相当広い郊外に住宅として開拓すれば丘陵地が非常に値上がりするといふような効果のあるところは非常にやりやすいんでございますけれども、すでに用地もある程度虫食い状態になり、しかもそんなに土地の値上がりも期待できないところについては、民営事業もなかなかむずかしいというところはご理解を賜わりたいというように思います。まあしかしながら、区画整理事業以外に公営用地あるいは道路、水路等を能率的に拡充する方法はないように考えられますので、われわれといたしましては、今後とも区画整理事業によるところの街区の整理というものを進めたいと、さように考えております。

道路の舗装でございますが、先般来五年計画でやりたいということを申し上げてきておったわけでございますけれども、私は、大体全市道というわけではございませんけれども、おもった市道は四十七年、四十八年の二年度で道路舗装を一応完成をさせたいと、さように考えております。松戸市の例を引かれましたが、よく三鷹の例も引かれますけれども三鷹のたとえば職員数が少ないとか、あるいは非常に効率的に行なわれておるといふようなことは言われますけれども、ご承知のように、四日市市は大体百九十二平方キロの面積がございすますが、三鷹市はわずかに十六平方キロでございます。したがって市道の延長にいたしても、あるいは消防等の活動にいたしても、あるいは水道の導管にいたしても非常に短くて済むと、非常に立体的な都市があるということでございます。一がいには比較できないと、松戸市も六十一平方キロメートルでございますので、やはりこの四日市に比べたら三分の一ぐらいの狭さだと。したがってそこに非常に高層住宅をつくるとか、そういうことで近代的な一応の立体的都市景観というものが備えられやすいし、それだけ整理がしやすいという事情もございす。一がいには比較するということはずかしいと思ひますけれども、しかしながら、それだけ市長を先頭といたしまして、すぐやる精神で燃えておる市長があるわけでございますので、これがやれないわけはないと私も思ひます。したがって、今後ともご指図のような精神は十分に理解して実施をいたしたいと考えておりますけれども、やはり最近の景気的情勢というものについては、基本的な考え方をこの段階では一応考え、ある程度財政情勢というものを引きわめる必要があると、さように考えておるわけでございます。

○議長（日比義平君） 教育委員長。

〔教育委員長（森 幸雄君）登壇〕

○教育委員長（森 幸雄君） 垂坂、小杉を中心とする学区制を再編成して垂坂分校を廃止し、ここに適正規模の新しい新設校を早期に実現せよとのご要望のようでございますが、ただいまのご説明の中にご指図のありましたと

おり、垂坂地区は山林地帯の宅地開発によりまして、年々住宅も建設され、早晚みゆきヶ丘あるいは小杉町と接続して住宅地域を形成するものとまあ予想されるのであります。ご承知のように、学校は、現在児童数が三十九名でありまして、二学級の大矢知興讓小学校の分校でございます。地元の土地改良区、石原産業社宅並びに三井建設の三百四十戸の宅地開発による住宅事情等を勘案いたしますと、ご指摘のように約千二百戸とまあ推定されます。今後の居住状況と相まって独立校としての設置を検討すべき時点と考えております。みゆきヶ丘一丁目、二丁目とその周辺の中学校の問題、あるいは小杉町による開発構想等を仄聞いたしますときに、三重小学校、現在九百八十七名、二十四学級であります、並びに海蔵小学校、海蔵は千百十四名の二十八学級であります、これら両校における今後の児童数の推移等の関連も十分に考慮いたしまして、ご質問にありました小杉町、みゆきヶ丘周辺を含む学区の設定は考慮すべきものと存じております。何ぶんにも行政区域が大矢知、三重及び海蔵の三地区にまたがりまして、行政事務その他の点で関係部局とも早急に十分検討いたしまして、早期実現に努力をいたしたいと存じております。

○議長（日比義平君） 高橋君。

〔高橋力三君登壇〕

○高橋力三君 時間がございませんので、簡単に要望にとどめまして終わりたいと思います。

一番、霞ヶ浦コンビナート地元の埋め立てについては、市長の言われることはよくわかりましたが、いずれにしてもわれわれ四日市市民の切なる願いは、公害のない工場、きれいな空気ということでございますので、市長はことを肝に銘じていただきたいと思う次第でございます。

第二番目、オーストラリア記念館の建設問題については、資金の調達については心配するなということでございますので、安心いたしております。今後の運営につきましては、何とぞ一部の人のためではなく、たくさんの人々

の幸福とレクリエーションに役立つようにご運営をお願いしたいと思います。

三番目のすぐやる課精神の制度化については、市長の高邁な意欲が全職員に徹底いたしますように、よろしくご指導のほどをお願いします。「敬の一字は政をなすの要訣なり」ということをくれぐれもひとつ心に銘じていただきたいと思います。

四 区画整理事業と道路舗装については、組合施行の区画整理事業にこれから力を入れるということで安心をいたしました次第でございます。道路舗装こそは、われわれ開発途上住民の寝てもさめても忘れ得ない宿願でございますので、市長も勇断を持って対処していただきたいと存じます。

五番目、小杉、垂坂、小杉を中心とする学区制の再編成についてはよくわかりました。どうもありがとうございました。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩いたします。

午前十時五十六分休憩

午前十一時七分再開

○議長（日比義平君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

伊藤太郎君。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 通告をいたしました三問につきまして、お尋ねを申し上げます。

第一問は、治水行政についてでございます。今回の集中豪雨は、十三日の市長報告にありましたとおり、はなはだその被害大きなものでございました。応急的、恒久的な対策によりまして一日も早く復旧をし、これを繰り返す

ことのないような対策を切望するものであります。こうした今日の情勢の中において、私は特に南部の工業地帯への治水に対する抜本的な対策について承りたいのでございます。

すなわち、塩浜駅の西、小浜町の一帯、大里地区へのあの今回の惨状でございます。もちろん、あの大きな台風は災害に逢いなくても、じっとあの状況を考え、過去の状態をじっとながめるときに、私は天災だとは断定できないのでございます。あの六百戸内外、あるいは床上に、床下に、毎年毎年浸水を繰り返しておるのではございませんか。十四年の間回数が多いときには五回も、少ないときでも二回ぐらい、すでに本年に入っても二回、七月とこの間の八月三十日の晩ものすごい勢いでこの三カ所で濁流が押し寄せてきたのでございます。このように繰り返し繰り返し毎年災害に見舞われなければならないというこの水びたしの地区民の心情を察するとき、ほんとうに私は市政どこにあるのかと考えなければならぬのでございます。市民の、関係市民の皆さんも、力のなさそうなほんとうに何か市政に不信を訴えるようなつもりで私どもに身ぶるいをするような調子で迫ってまいります。私もこの十数年来この繰り返しに何とも答弁のしようがなかったのが実情でございます。昭和三十二年であったかと記憶いたしておりますが、あの合成ゴムの敷地造成がせられた年からこの浸水が始まりました。そうして三十五年の三菱油化川尻工場の敷地造成がせられるに及んで、ますます遊水地帯がなくなりましたので、海水も多く、水量も多く、そうして水は雨池川の川岸を越して駅西一帯に押し寄せてくるように相なったのでございます。泊山の丘陵地が開発せられてからさらに鉄砲水が押し寄せてまいるように相なり、そのうえ大工場の操業とともに工業用水が一日に何十万吨と放出されるに及んで、もうこの年中行事のごとく浸水が繰り返されるに至ったのでございます。なお、大里町の浸水は、ほんとうにこれは驚くべきものでございます。塩浜地区工業地帯では一番に標高の高いところでございまして、古老の話では鈴鹿川がずっと以前に切れたときでも大里町だけは水がかぶらなかつた、こう言われておる土地に、昨年もしも大水が押し寄せて、長期にわたって冠水いたしましたことは、ほんとうに私は

申しわけのないことと存じております。ようやく今回もポンプアップによってどうやらこうやら三日目に減水する始末になった次第でございます。

こういうような状態にありますので、どんなふうにいままで施策がそうしたら講じられてきたのか、こういう点でございます。この災害に無関心では市当局はなかつた。これは三十七年ごろかと思いますが、大井ノ川に千八百ミリという大きなポンプを二台つけて、これによってもう小浜町も駅西も絶対に水がかぶらないと、こう大みえを切られて私たちも安堵しておりましたが、一回もこれの効能を見せてもらうことはできなかった。大井ノ川辺の水がなくなってもあの工場地帯一帯の水は一向にこの方面に流れていかない、これがその実情でございます。さらに一号排水路と申します小浜町から東のほうに流れる水路の改修も一向にいままで進んでおりません。その成果見るべきものがほとんどないのでございます。昨年の市長のご英断によって小浜町西あたりの河岸を上げてもらいました。東側の河岸を約四十センチ上げてもらいましたが、いかにせんそのところは水が漏らないけれども、ずっと両側があいておりますので濁流が遠慮なしに入ってきます。ここに私は大きな問題があるのではないかと思います。どうか今度計画されております雨池改修によりまして、何とかこれがならぬのかと非常な期待を持っておりますが、完成までには五カ年間という期間がございまして、その間を一体どういうぐあいにしていくのか、このような問題が横たわっておりますので、これについての対策を承りたいのでございます。

なお、大里町の浸水について特に申し上げねばならないことは、なぜ大里町にそんなに高いところに浸水したか。その一つは、工業用水が雨水のために行くところがないのですからしゅせんそこへ回ってきたことが一つ。もう一つは、鈴鹿川に樋門がございまして。昔から農業樋門でございまして、破損をして地区民の心配により耕地課がほんこの間修繕をしてくれたにかかわらず、私とその現場を見に行きましたら、何のその濁流がその下からわき上がりまして、おのずとこんなことが続いたならば、あの大きな六十メートルの幅のある堤防も決壊をするのではない

かという心配がありました。その濁流が大里町に押し寄せてきた、これが二つ目。三つ目には、非常な巨費を投じてつくってもらったりっぱな市道ができました。幅員十六メートルというりっぱな道はできましたが、舗装がりっぱにでき、歩道がりっぱにできましたが、いかんせんその下を流れております下水の管が割れておろうが割れておるまいが、そのままにしてりっぱな舗装をされた。だからもう水の行き場がなくなった。こういうような三点の災いであると私は断定しております。これに対しての対策を承りたいのでございます。

さらに、この点につきましては、特に私がお伺いしたいのは、都市排水と工場の排水とをどのようにお考えになつていらっしゃるかとということであります。工場排水を昔からそのままの都市排水路に堂々と流していらっしゃる。そこに流してもちよっとも差しつかえございません。ございませんが、それがために住居に浸水して多大の被害を住民に与えるようなことがあったら私はたいへんだと思います。それが現実の姿となつてあらわれておるのがあの地区の浸水騒ぎでございます。すなわち、塩浜地区には雨池排水路のほかにもう一つしじみ川排水路というのがございます。これは昔からしじみがわきましたきれいな川でございますが、その川が第二の排水路であるにもかかわらず、いつの間にか閉鎖されて、工場の排水専用に使われておるのでございます。これが地区住民の大きな痛手となつてあらわれておることはご案内のとおりであります。それらのために海の水をクリークに流すためのポンプの設置に絶対の反対を唱えていらっしゃるの、しじみ川をもとのように返せ、しじみ川を住民の排水に返せというのが合意のことばになっておりますので、私、最近もたびたびそれをだめを押しましたが、それが無い限り私はこの運河を守らなければならぬ。これがためにポンプについて協力はできない、こういうような強い意見を私は聞き取つてまいつたのでございます。こういうことを考えてきますという、どうしても昭石がやつていらっしゃるように、工場が単独で排水をしてもらうということも十分ご検討をさつていただきたいと思いますが、これについてのご所見はどんなものかということについてお尋ねをしたいと思います。

次に、第二は、市民サービスの向上についてでございます。

市政の最も好ましいあり方というのは、市民からの強い信頼がなければならぬと私は思います。親と子のような信頼によつて結ばなければならぬと思いますので、そういう点から市民は市に対して非常な信頼を持つているわけでございます。卑近な体験談でございますが、ことしの六月であつたと思います。日赤の募金がございました。婦人会の方は、きわめて熱心なものでございまして、ほんとうに赤十字精神に徹するといえますか、真剣に日夜をわかつて一軒一軒を回り、大工場を回つて相当額の募金を集められたのでございます。おそろく目標の七百七十八万円をはるかに突破したことは関係の方々のよくご承知のとおりでございます。その心持ちの中に、正会員の人たちは十年募金をしてきますと感謝状が参ります。その一枚の感謝状をたいへんに喜んでいらっしゃる姿を私はたびたび見ておるんでありますが、いかんせん、ことし来たなんかは、去年感謝状が来た人にまたことし感謝状が来てる。ことし来なければならぬ人に感謝状が来ていない、こういう事実がたくさんございました。役員は、何と弁明をしてよいのやらほんとうに困つてゐるのを私は目撃したのでございます。

もう一つ、これは自分のことを申してはなはだ申しわけないんでございますが、私が、もう一月ぐらひになりますか、国民健康保険の給付手帳を再度交付してもらいに市民課に参りました。カウンターにおりなされる女の事務員が、おたくはもう市外に転出をされておりますので発行はできませんと、こう言われて、私はそれを聞きましてびっくりしました。いろいろと聞きただしました、その方ではわからぬ。だれか責任のある人とこう言いました、根っからわかりませんので、まあともかく国民健康課のほうとよく相談をしてくださいということで、しばらくたつて行きましたら、どうやらこうやらそれだけはもらえました。しかし私が釈然としないのは、四日市に生まれ、四日市に育ち、そして現在ここにおるこの伊藤太郎が、他に転出しておるのは何事かと、詳しく一べんそれを知らせてもらいたいと言つたところが、さっぱり要領が得ません。みんな何して帳簿を見せてくださいと私がや

りましたが、ところがこの前行って見たところが、ずっと今度は小羽で消して、抹消してあるんです。「消してあるやないか。」と私は言いました。「どういうわけや。」、「さあ」と言うのでさっぱりわかりません。いまだにこれがわからない。こういうようなことがたびたびあるということになると、これはたいへんでございますので、一応この辺につきましのどいう平素からご指導をなさっていらっしゃるのか、その点をひとつ承りたいのでございます。他のいろいろな実例は省かせていただきます。

次に、老人福祉対策についてでございます。老人福祉につきましては、わが会派は五つの大きな目標の中に取り上げまして、ここ数年これが実行に努力を続けてきました。機会あるごとにこの壇上からもたびたびお願いを申し上げてきたことは、ご案内のとおりであります。特に私どもの会派で重視いたしておりますのは、何といっても特別養護老人ホームでなければならぬ。このごろの老人の目を前にしましていろいろと新聞紙上をにぎわしてある、テレビをにぎわしてあるのをじっと見ましても、どうしても、この特別養護老人ホームが必要である。だが三重県には長谷山のふもとに、それから一身田と二カ所あるのみで、これも超満員で定員七十名のところに八十何名を入れていらっしゃる。こういうような状況でございます。わが四日市にもたびたびご調査を願っておりますが、寝たきり老人は四日市に近い、しかもその中で介添え人のない介護人のない一人つくねんと大きな暗い片すみに寝ていらっしゃる方が三十人ないし四十人いらっしゃる。この方のお世話を一体どうするのかということについて、私は承りたいのでございます。

前回でしたか承ったときには、もう私立でもいまにもできそうなお返答がありまして、心待ちにしておりましたが、それも一向に立ち消えのようでございます。私は、公立を希望しておるんですが、何とかその辺のことについてのお考えがありましたら承りたいのでございます。

この寝たきり老人の世話は、家庭奉仕員といいますが、ホームヘルパーというんですか、そういうような出前式

方式では絶対にでき得ない。一日に一時間のぞき、二時間のぞき、三日目に一べんのぞきというようなことでは、絶対にこれはものにならないということは、特にやかましくい言われておる点でございます。この点についてのお考えを承りたいのでございます。

さらにこの老人対策について私がお願いをしてお聞きを申し上げたいというのは、物的方面はだんだんと充足されてまいります。精神方面は一向にそれが進められていないのみか、ますます老人の住み家は狭くなり、そして敬老の叫ばれる反対の方向に行きつつあるのが現状ではないでございます。うか。その点について、私はどんな策が講じられておりますか、敬老精神の涵養についてどのようにお考えになっていらっしゃるか、この点について特に承りたいのでございます。この物心両面がそろわなければ、私はほんとうの老人対策はできない、寝たきり老人のしあわせはない、こんなに感じておるのでございます。

以上、三点につきましてお伺い申し上げますので、よろしくご回答を賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） ただいま伊藤議員からお尋ねのありました第一点について、お答えを申し上げます。

去る八月の水害で確かに四日市の南部、塩浜の小浜町、大里町等に浸水は起こったことは事実でございますし、また、小浜町については毎年同じことの繰り返しになっておることも事実でございます。これはたいへん土木行政をあずかる私といたしましては、市民の皆さまに申しわけないと、何とかこれをなくすようにしなければならぬということ、いろいろ対策を練ってまいったわけでございますが、四十四年度から都市下水路整備の五カ年計画を立てて、それに従ってやろうということで順次取り上げてまいっておりますが、なかなか対策が思うように進まないのご迷惑をかけておるような次第でございます。こういった地区に対する浸水が起きます原因は、こ

れはまさに伊藤議員がご指摘になられたとおりでございます。したがって、この問題を抜本的になくそうということであれば、何といっても雨池水路の都市下水路の全面的な改修以外にはないというふうに私自身も考えておりまして、これが去る昨年公害防止計画が立てられたというときにあたりまして、こういったものを公害防止計画の中にぜひ取り入れてもらうようにしたらどうかという提案をいたしました。そうして公害防止計画の中で雨池改修ということは取り上げられておるわけでございますし、またご指摘のありました第一、第二の塩浜の工場地帯にできておりますクリークの改修というものも、これ取り上げられておるわけでございます。さらにしじみ川のご指摘がございましたが、このしじみ川は、これを工場敷地にいたします際に、現在塩浜街道の東側に沿いまして大井ノ川まで行っている水路がございいますが、当時ここにありました水路としじみ川の水路との断面を合わせたものでここに水路をつくったわけでございますが、これでもなお不安定であるということで、大井ノ川の水路の改修ということも公害防止計画の中で取り上げるようにいたしておるわけでございます。すなわち、これらの都市下水路の改修に十五億九千五百万円というような膨大な金額が公害防止計画の中に計上をされて、本年度からスタートをしていくわけでございます。今度の議案に提案を申し上げてご賛成をいただきたいと思いますが、まず雨池川の改修四千五百万円を本年度の公害防止計画の第一事実として取り上げまして、当面大井ノ川のポンプ場のところから南へ下がりまして水路の改修をいたそうと、こういうわけでございます。さらに、抜本的には、この水路を海岸道路までぶつかり、海岸道路に沿って西へ上りまして関西線のところへぶつかると、そして左へさらに南へ折れて国道一号線のほうから下がっております小屋下水とぶつけると、こういうような改修を抜本的な対策として考えておるわけでございます。そのためにはただ水路の改修だけではいけませんので、千五百ミリ二台のポンプを大井ノ川の樋門のところに増強するという計画になっておるわけでございます。一方塩浜のクリークにつきましては、ポンプ千四百ミリ一台、それから水路の改修八百六十メートル、なお新設五千四百メートルを全面的に新設をいたすということに相なっておりますわけでございます。この予

算については、国のほうで本年度はまだ認めておらないわけでございますが、四十六年から五十年の間に完成をするということになっておりますので、来年度はぜひ国のほうで予算をつけてもらうように運動を展開をいたしたいと、かように考えておる次第でございます。

それから、しじみ川の問題でございますが、これは大井ノ川まで千八百二十九メートルの水路を改修をするという事になっておりますので、こういった対策ができればはるかによくなるであろうということとはわかっておるわけでございます。しかしながら、現状、その対策が完成をいたしますまでは五十年間を要するということでございますので、それまでの間を一体どうするかということでございます。昨年度お認めをいたしまして小浜町のすぐ西側の水路の拡張と護岸のかさ上げをやったわけでございますが、本年度は、それに引き続きまして松泉町のほうに向かって護岸のかさ上げを実施をいたしたいと、かように考えておりますし、なお、雨池川から小浜町の南端に沿って下がっております水路が、近鉄の踏切あるいは国鉄の踏切を渡って塩浜街道のほうに続いておるわけでございまして、ここから入ってくる水が相当大量でございますので、この水を何とか引かせなきゃいかぬということでありまして、したがって、当初はポンプをクリーク側につけようという考えてございましたが、これは先ほどご指摘のありましたしじみ川等の問題もありますので、地元のご同意が得られないということでございます。したがってこれは逆に現状小浜町の西側においてポンプを一カ所設置をいたしまして、雨池川に水路を通じてほろうろろという考え方を取って、その実施に急いで現在設計にかかっておるという段階でございます。

それから、さらにクリークのしゅんせつでございますが、これは公害防止計画とは別途早急にやる必要がありますので、今年度中にこのしゅんせつを実施をいたしたい、かように考えて、現在土砂を掘る場所について財務局のほうと折衝をいたしておりますが、ほほそのめども立ちましたので、雨季を過ぎましたならば早急に着工をするというふうにいたそうかと思っておりますような次第でございます。

それから、大里町の問題でございますが、これもご指摘のありましたような原因でございますが、そのうち市道の下で下水管が工事の手違いからたいへんまずい結果になっておりますので、これは下水道に私から指示をいたしまして早急に改修をせよということで設計にかかり、近く改修工事にかかる予定をいたしておるようなわけでございます。

なお、鈴鹿川の農業樋門の破損については、これは耕地のほうと連絡をとって、これも早急に改修をするようにいたしたい、かように考えておるような次第でございます。

それから、都市下水と工場排水が次第にふえてまいりまして、第一クリークへの工場の排水量が非常に多くなっておるといことは事実でございますので、これはやはりポンプを早急につけて増強をする必要があらうというふうに考えておりまして、これは来年度の予算で国にお認めをいただきまして、できるだけ早急にポンプ千四百ミリ一台を増強するようにいたしたい、かように考えておるような次第でございます。

なお、かなり最近以降降雨量が以前に比べて非常に多くなっておるといような、四日市の測候所の年度別の最大雨量を調べてみますと、そういうような実態が出現をいたしておるわけでございますので、当初の予想とたいぶ違うような実情が出ておるといわけでございますので、こういった調整を踏まえて排水対策には力を入れていきたい、かように考えておるような次第でございます。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 岩野助役。

答弁は、簡潔に願います。

〔助役（岩野見斉君）登壇〕

○助役（岩野見斉君） 第二点についてお答えいたします。

ご指摘になりました二つの事例は、まことに常識で考えられないような申しわけないことでございまして、深くおわびを申し上げます。私たちといたしましては、ここ一、二年職員の資質の向上、サービスの充実と、こういった面につきまして研修の充実や強化をはかってきたつもりでございますが、このようなことが起こりましたことはほんとうに申しわけなく思っております。今後私自身そういった問題につきまして、厳重な注意を加えますとともに、一そう研修を励み、こうした事例の絶滅を期したいと思っておりますので、ご了承を願いたいと思っております。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 老人福祉につきまして、お答えをさせていただきますと思います。

ご指摘の特養老人ホームにつきましては、ご指摘のように慈宗院あるいは光寿園が超満員でございます。前回私からも申し上げましたように、民間のほうで計画をいたしておりますが、その後とだえておりましたが、最近に至りまして写真真を持ってまいっておりますので、その方向で話を進めさせてもらっております。

二つ目は、物的な充足はされておるが、精神的な点について非常に不足しておるんじゃないか、言いかえれば敬老精神が欠除しておるんじゃないかというところは、親がどんな育て方をしたかどうかということでございますが、親のめんどろを見るかどうかということは、親がどんな育て方をしたかどうかということに帰するんだということを私も承知しております。最近扶養思想の低下とかいうことが非常に叫ばれておりますけれども、ごく最近の厚生省の発表によりますと、大体子供さんと同居しておる老人が約八〇％もあるという数字が出ております。このことも私のほうの面としては非常にありがたい面として取り上げておるわけでございます。

それから、なお厚生省の調査で二十歳以上年寄りも含めましていろいろアンケート式の調査をした中で、今後の老人に関連をする教育を学校で敬老の精神をよく教えるという、そういう形で教育の場で取り上げてもらえぬだろ

うかという気持ちが非常に強いように、七番目に上げられておるということも踏まえておきたいと、こういうふうに存じております。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 伊藤君。

〔伊藤太郎君登壇〕

○伊藤太郎君 たいはいはたいへん適切なご答弁を賜ったのでございますが、第一問の工業地帯の浸水につきましては、いろいろと遠大な計画は立てられておるんですが、私が質問にも申し上げましたように、このりっぱにできるとかりに想定しても、五カ年間また毎年水に見舞われなければならないじゃないかと、こういう問題がございますわけで、私は駅西、小浜町につきましては、あそこの住民は十年近くもこんなことで置いておいてはしかたがない。何とか市長さんが中心になって地上げのあっせんをしたらえぬかと、そうしたら高見の見物でできるような一べんそういう目が見たい。家の前の道には水が来てもええが、家の中へは入ってこないように何とかならぬものかと、こういうような声もしきりに耳に入るのでございます。私は、十軒、二十軒とまればそりゃ地上げの工事もあるでしゅうし、この市のあっせんも何とかお願いをすることができるやもわからないというよりなこともでも申しておるような実情でございますので、この点、ほんとうに十年浸水を繰り返しておる市民の心持ちを、ほんとうに何とかしていただきたいと思うのが、私が特に要望を申し上げたいんでございます。

なお、塩浜地区の排水の一つは雨池川であることはもちろんであります、そのもう一つはしじみ川でございますが、しじみ川こそは、ぜひとも市民の排水、都市排水にりっぱに使用できるようにしていただかなければ、あそこにつと以前から住んでおる人たちの深いしじみ川に対するところの執念が、私は満足しないものがあると思います。その点よろしくお願いを申し上げます。

次に、第二問の市民サービスの向上につきましては、岩野助役から適切な答弁がありました、私自身はそれでよろしいが、私自身はそれでよろしいが、それ以上の困ったいわゆる不信を胸に抱いておる市民が相当あることを思うときに、さらにこれについてのひとつご精進をお願いをしたいのでございます。

第三問の老人福祉につきましては、これは老人の問題ではなく、これはみんなお互いわれわれ全部の者の問題でありますので、こういう点よく踏まえていただきまして、物的にだんだんと充足されると同時に、この精神面の涵養に、いま部長が申しておりますように、学校教育との連携を密にして、老人を敬う心持ちをぐっと私は高揚していただきたいものであると思います。この間の新聞にも、テレビを見てみましても、知事や市長が年に一回高齢者を訪れて、ニコッと笑うてボンと肩をたたいて「ご長寿おめでとー。」、それを何やらニコボン政策というのやそうですが、それで敬老行事終われりというよりなことになったたいへんであります。どうかひとつ敬老の精神は老人のためだけじゃないので、一般市民にもそういう精神を十分に反映をしていただきたい。そして、それに熱意のある人には私は表彰をして、これが私たち敬老の権化であるような人を表彰するような制度もどんどんお考え願ったならば、私はほんとうに住みよい、いわゆるしあわせな敬老の精神が具体化されるのではないかと思います。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午前十一時四十八分休憩

午後一時十二分再開

○議長（日比義平君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

青山峯男君。

〔青山峯男君登壇〕

○青山峯男君 簡単に要点だけ質問させていただきます。

第一点、災害について。

災害は忘れるところによってくるということばは昔であって、いまは次から次へとやってきます。内部川上流も近年にない十三、二十三号の集中豪雨による災害に対して、土木課、耕地課の調査、処置に迅速なのは感謝いたします。豪雨とともに急激なる増水の原因は、鎌谷川、足見川の場合は東名阪国道ができた水系の変化のように思います。また、たんぼ、畑、人家の浸水及び必要所所の決壊の原因は、県道、市道の流末処理の不備の点が大いにあるように考えられます。市土木課は極力この点においてお願いしたいと思っております。

しかし、お尋ねしたい点はその点と各課の担当分野です。たとえば足見川の場合は、県の二級河川であって、その河川の決壊は、ちょうど堤防は二十カ所ほど切れしました。それでちょうど一カ所に対して二十メートルから六十メートルの決壊でありまして、そのときに県の河川課のほうは来ていただきまして、見ていただきますのに、農家であってたんぼの関係上、井ぜきが多いわけでありまして。そうしますと、県の河川課のほうは、この二十メートル、井ぜきの二十メートル上下は、これは耕地課でやっていたいてくださいということと言いまして、結局その点で全部いいますと、全部耕地課のほうにお世話にならないければならぬことになります。そうしますと、耕地課のほうでは結局二〇分の負担になりました、ものすごく大なる金がかかることになります。それについて、まあいろいろとお願ひしまして、河川課のほうも何とかしましうということによって折り合いもつきましたですが、とにかく一番この災害が起こることに心配なのは自治会長は県土木で見られるか、市土木で見られるか、耕地課でせんならぬかということで、絶えず災害が起こると心配してあるわけでありまして。何というてもいまの工事費は額が大きく、二〇分の負担ということになりますと、安いたんぼを持ちながらたんぼの価格以上の負担金を出さんならぬ

ことになりました、これはよく考えていただいて土木課、耕地課いろいろと話し合いをしていただいて、極力土木課において事業、仕事をやっていただきたいと思うわけでありまして。その処置、責任について、むずかしい各課の分野の点を思慮することではありますが、その点災害ごとに一番困る問題にてご説明をお願いします。

第二点、簡易水道について。

当地方は地区地区に簡易水道組合がありまして、どの組合も水資源に困り、水不足の状態であります。何といっても飲料水が一番大切に、特に小山田簡易水道組合の場合には、鎌谷川の水源地にいたしております、あまりにも取り口がお粗末にて河川の水が濁ればすぐに水道の水も濁り、飲み水にもできず、ふるにも水を入れるわけにもいきませんというように困った状態でありまして、また河川付近にはたんぼが続いてありまして、農産物の流入のおそれも十分ありまして、危険千万な飲料水です。またお隣の小林簡易水道組合は、水源地は深井戸にて、現在住宅二百戸余りで一番使用に水量少なく、水道組合は市水道合併が再三お願いしておりますが、何ら受け入れられず、その点お尋ねします。

第三点、高花平消防署出張所設置につき四十二年六月高花平の自治会から請願書が提出され、採択されたと思います。しかし四カ年余りたっても何の設置の様子もありません。何といっても火災が一番おそろしく、万一宮家に火災が起こった場合、南消防署より消防車にて三十五分ないし四十分はかかります。消火に対してたいへんおくれをとります。この設置の遅延の理由を特にお尋ね申し上げます。

これをもって終わります。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） お尋ねの第一点について、お答えを申し上げます。

お話がありましたように、今度の災害では内部川水系、あるいは天白、鹿化、さらに北のほうでは朝明川等が非常に決壊箇所が多くて、その堤防の決壊によりまして、道路あるいは農地に浸水、冠水をいたしまして、さらに土砂をかぶるといような事故がたくさん起きたわけでございます。したがって、この河川の管理は、それぞれの河川によりまして一級河川は国、それからさらに中級の河川は県、あるいは市がその上流のほうを管理するというように、それぞれの区分は明確にできておるわけでございます。したがって、県土木と市の土木との間では双方の連絡が十分とれておりますので、どちらがやるかということについて住民の方にご迷惑をおかけするようなことは万々ないものというふうに確信をいたしておりますけれども、なお、具体的な問題では、それぞれ出張所長にご相談をいただければ、直接には出張所長にご相談をいただければ、それぞれの出張所長がその辺の点はわかっておるとだと思っておりますので、そういう点でご迷惑をおかけしないようにしたいというふうに考えておるわけでございます。

なお、井ぜきの上下については耕地でやるということは、農業災害として処置をしなければならぬというところはきめられておることでございますので、これは地元負担という問題もありまして、なかなか災害のたんに地元の方、あるいは農地の管理をされておる農業者の方が負担をするということが非常におっくうになってこれ、まあそういうような面から、できるだけ土木で拾えということでございますが、筋の通る点については可能な限り土木で拾うように努力はいたすつもりでございますので、この点についてはやはり具体的な事項でご相談をいただきたいというふうに考えておるようなわけでございます。

なお、ただそう申ししましても、どうしてもやはり直接耕地関係で拾わなければならない農業施設というものは、どうしても耕地で拾っていかねばならないということでございますので、その点はお了解をいただきたいというふうに考えておるようなわけでございます。いずれにいたしましても、具体的にどちらの災害で拾うかということについては、具体的な問題として取り上げて検討をしていきたい。

なお、河川につきましては、特に今回天白川の水系につきまして、失礼、鹿化の水系につきましては、災害関連で拾ってもらいように、災害関連で拾ってもらい、国費を導入するように現在県を通じて働きかけておりまして、ある程度見通しがあるようでございますので、やがて鹿化のほうももう少しよくなるのではないかと、かように考えているような次第でございます。

以上で、第一点のお答えにかえさせていただきます。

○議長（日比義平君） 水道事業管理者。

〔水道事業管理者（中山英郎君）登壇〕

○水道事業管理者（中山英郎君） 簡易水道についてのご質問にお答えします。

例として小山田、それから小林町の簡易水道をあげられたわけでございますが、その前に一応水道局といたしまして、簡易水道の基本的な取り扱いというものをこの際申し上げたいと思います。

現在簡易水道は十カ所でございます。それで簡易水道の扱いといたしましては、歴史を見ますと、昭和三十一年以降できてきて、水道の高いところ、あるいは経費の関係でじんまりしたところから始めておるようでございますが、現在時点では、市の上水道が九二％という普及率を持っています。それで、現在の段階では、この現在ある簡易水道の扱い方の基本方針としては、なるべく早く水量とそれから経費の見直しを持って、簡易水道を逐次本水道に投入していくべきであるというふうな方針を持っております。で、去年三滝西水源の桜簡易水道を吸収し、さらに本議会においてご上程申し上げておる、いままで町運営でされておりました垂坂の簡易水道を公益の立場から付近の団地とともに本水道の区域に入れて計画的に運営していこうという、こういう方針をとっております。それで、次の段階におきましては、現在昭和四十四年度を初年度といたしまして第三次拡張計画を実施中でございますが、それによりまして、北のほうの低い部分のほうは、それを昭和五十年年度までにはそれを一括包括したいとい

りふりに考えております。それから、小山田、それから水沢の、いわゆる高地の、高いところの地域につきまして、三重用水の工事の状況によってこれをその水を受けて高地給水への水道、本格的な水道局の所管の本水道にしたいと、こういうことでございます。

ただいまお尋ねの小山田、それから小林町につきましては、確かに私が参りましたからでも、両地区おそろいで高花平まで来ておる水を早くそれまで延ばせというご要請がありまして、そのときにお答えいたしましたわけでございますが、局といたしましては、ただいま第三次拡張計画中でございますので、まだ三万トン水がまいつておりません。さらに来しても、ここは高いところでございますので、実情特別な工法にくふうがなければ困難であるということで、私のお答えといたしましては、三重用水の確実な時点まで待っていただきたいと、こういうふうにお答えいたしましたわけでございますが、現在もそういう考えであります。それで、年度といたしましては、三重用水の導入が昭和五十年以降になりますので、その間をどうするかということを技術面いろいろ相談をしておりますが、特に小山田地区のお尋ねにありましたのは確かにおっしゃいましたように浅井戸でございますして、実質は伏流水という計画になっていますが、実は表流水も同じような取っている形になっております。これを雨が降りますと濁る。またおっしゃいましたような畜産公害のおそれがありまして、非常に心配だということもわれわれも率直に認めております。いろいろ相談を受けておりますが、現在時点ではろ過装置をつけるか、またはポーリングをテストして水が出れば水を掘って、現在地点に井戸を掘ってそれを補給するか、緊急対策としてこれを考えよう、したがって、同易水道の特殊性から見しても、一応組合が実質的に行なっていたくわけでございますが、技術の援助、あるいはここ一、二年やかましくなってきたりしております国の政策によるところの同易水道の拡充に対する起債、県補助というものについての努力を重ねるといふようにしてある次第でございます。

以上、簡単にございますが、この同易水道の基本方針と特に小山田地区のお尋ねの件につきまして、お答え申し

上げました。

○議長（日比義平君） 消防長。

〔消防長（富山元三君）登壇〕

○消防長（富山元三君） 高花平方面に消防署を設置したらどうかというご指摘でございますけれども、陳情は採択になっておるがどうなっておるかということでございますが、理由といたしましては、特に取り立てた理由もございませんが、消防、四日市消防全般の考えから、観点から、消防に対する財政投資というものとにらみ合わせまして、まだ実現をよりしていないというのが事実のようでございます。しかしながら、お説のように西部、西南部の内陸部につきましては、初期消火という観点から考えますときに、お説のとおりでございますして、ややさびしい感じがいたすわけでございます。私どもといたしましては、十分その点を踏みまして、これから誠意を持って前向きにひとつこの問題は考えさせていただきたいと思っておりますので、いましばらくの間お時間を拝借したいと、かように考えております。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 青山君。

〔青山峯男君登壇〕

○青山峯男君 第一点の問題ですけれども、これは県土木、市土木、耕地課にて話し合っていただき、地区民の納得のいく方法にてお願いします。

第二点の同易水道につきましては、同易水道を市水道に合併していただく水を送れということでなく、事務手続からあらゆることを同易水道は市水道に合併していただきたい。なぜならば、高花団地の同易水道は近ごろ合併されていられるようにお聞きますが、同じ同易水道でありながら小山田地区と小林地区がなぜそういう方法によ

て合併はできぬものか、その点お聞きしたい。またこの計画の小山田、水沢地区、三重用水によって五十年のときはそれを利用するといっておられますが、いろいろ話を聞かせていただくのに、三重用水はまだ十年たっても入ってこぬというような説があちらこちらに飛んでおりますが、そうなりますと十年後でなければこれができぬというようなことになって、ほんとうに迷惑をうけるのはこの地区民であります。その点よろしく願います。

第三点の高花のこの消防問題ですけれども、これは一日も早く設置をお願いします。

○議長（日比義平君） 水道事業管理者。

〔水道事業管理者（中山英郎君）登壇〕

○水道事業管理者（中山英郎君） 重ねてのご質問で、小山田それから小林地区の両簡易水道は高花平式にならぬのかという具体的なお話でございます。高花平の水道の場合は、当初高花平の総人口を開発公社で想定いたしました、六呂見のところまで上水道と同じ規模の水、しかもあその土地は高いので、高架水槽を設けて、団地内の想定人口に基づいて最初から技術的にも経費的にも本水道と変わらないような水準で水量と、現在も団地のぎりぎりの線まで来ておるようですが、そういう計画的な、技術的に、また工法的に、経費的に同じような水準であれ水道局が開発公社から委託を受けてこれをしたわけでございますけれども、この小林町、あるいは小林町もそれから小山田の簡易水道も、ほかの水道も同じでございますが、比較的本水道でやるについては水量が少ないことと、また水源がまとまって求め得られなかったということと、それから住民の方々の衛生思想の普及と、いろんな社会情勢からこじんまりまとめて、技術的にもそれから水量的にも、むしろ強制加入ではなしに、簡易水道でやりたいという組合をつくって、その規模に應ずるところの施行されたというところが非常に異なっております。もう一つくだいて言えば、高花平の場合には、簡易水道施設は土地の値段、高花平の分譲値段にこれが分割されております。

ほかの地区については、十ある簡易水道のうちほとんどが、これから少し変わってくると思いますが、全部新しい出資金、負担金という形で運営されて、大体まあ、建設当時から見ても地区まちまちの料金算出、あるいは内部保留財産もまちまちの形において行なわれておるわけでございます。で、これをわれわれとしてはなるべく一本化した水量が多ければ一本化したい。またそれから技術水準、それから料金水準についても一本化したいということから、一本化の方針をとっております。それで重ねてのご質問で小山田、小林はなぜいまず事務手続上できないかといわれますけれども、これは単なる事務手続上でなしに、さらに高いところ、高地への給水、高地への給水につきましては技術的の配慮が要り、加圧ポンプ場なり、それから、貯水地というものが要るということになります。したがって、建設投資も相当な金額になると。単なる小山田、あの地区一帯としては、私どもとしては小山田、小林町に限らずあの高地、高いところの地域一帯を考えたいと。わずかに特質性を認められるのは水沢だけだと、こういうふうな考えであります。したがって、検討事項としては、ずいぶん技術上の問題と財政負担、それからそのほかにも水の量、大抵年間七十五万トン程度のもが簡易水道を使っておるわけでございますけれども、本水道年間二千四百万トンというようなウェイトから考えましても、水の量と、それから遠いところを配管するといったことで、簡単にこれがいけないという事情がございますので、まあ総体計画としては山地を流れております三重用水を利用するのが一番安全であり、安いと。ただこれが時期的に五十年以降となるんで、もう少し短くなるような方法はないかと考えておる最中でございます。その辺が発表をいまずぐできないという理由になっております。ご了承願いたいと思います。

○議長（日比義平君） 青山君。

〔青山峯男君登壇〕

○青山峯男君 先ほどのこの簡易水道の問題ですけれども、一日も早く実行に移していただくようお願い申し上

げます。

○議長（日比義平君） 中島隆平君。

〔中島隆平君登壇〕

○中島隆平君 通告による円切り上げ問題に伴う地場産業の影響と、その対策について質問したいと思います。

八月十五日、終戦記念日と時を同じくして、八月十六日ニクソンドル防衛声明「ニクソンの新経済政策」が発表されましたことは、皆さんも新聞紙上で明らかでございます。一〇名の輸入課徴金の新設、並びにドルと金の一時的な交換停止は世界をびっくりさせたのでございます。政府関係記事は、連日いろいろな見出しで放送されました。それを一部拾い出してみますと、ドルショックに足並み乱れる政府、おそい政府対策に企業側は自主防衛、IMFは円切り上げ一七多から二五多を、米収支の改善、防衛負担費を含んで大幅の切り上げを迫ると。八月二十七日に至っては、政府は日本円を二十八日から暫定的に変動為替相場に移行させることにしたと声明、円変動相場きびしく管理すると大蔵省、外国為替銀行のドル凍結、切り上げ幅抑制地ならし、所得税の臨時減税、円切り上げについて福祉優先をほかすな、新経済社会発展計画全面手直しを急ぐ、貰けるか福祉向上。輸出業者の記事といたしましては、発注手控えが心配、激しい企業競争へ、大手を含め再編の波深刻に、企業格差一そう深刻に、新規商談全くとまる、特にひどい繊維業界、陶磁器業界、ニクソンショックで倒産零細企業に広がる、だんだんと企業倒産や解雇が始める。雇用労働関係については、企業に採用減少、採用控える大手、求人大幅に減少、雇用全役に深刻な影響、労働省は初めてドル問題対策会議を開いて職業安定課長会議を開きました、企業倒産や解雇者が始める、各企業が一斉に採用を手控え。連日の新聞紙上には大きな見出しで報道され続けたのでございます。

国際通貨危機はいまに始まったものではないと私は思います。なぜなら、一九四九年ポンドが四ドル三セントから二ドル八セントに切り下げられた時点から、戦後の通貨危機が始まったと考えられるのではなからうかと思いま

す。一九五八年ドル政権フラン一七・五多切り下げとデノミネーション、このとき年間、金の流出量が一挙に二十二億四千七百万ドルになり、ドル危機が始まっております。一九六七年二度目のポンド切り下げられ、このときゴールドラッシュの波状攻撃を受けているのはご存じのとおりだと思います。一九六八年の三月金ブール停止、ジョンソンの大統領選挙不出馬声明、さらにドルの退陣に続くフランの二度目の切り下げ、金の二重価格制に追い込んでいったのでございます。一九七〇年五月五日、ことしでございます。マルクラッシュをきっかけに、ついに八月十五日のアメリカのニクソン声明となったのでございます。IMF体制の崩壊にまで及んできたのでございます。

日本といましては、一ドル三百六十円が日本経済の実力から見ても過小評価であることから、あえて目をそらしていたことに国際感覚のずれがあったように思うのでございます。ポンド貨幣、フラン、マルク貨幣の変動を歴史的に判断すれば、日本円も来るべきものが来たと言わざるを得ないではないでしょうか。政府の情勢判断の甘さから、国内の産業、国民に与える影響が極端に出て、不安を与えていることは政府の落ち度ではなからうかと私は考えます。

一連のドルショックの影響について、地方自治の立場からどうこの問題を受け取られているか。一、税收の問題。景気の悪化で税収は当初予算で見込んでいた伸び率を大幅に割るだろうと思いますが、来年度の予算の影響と不況期間をどう受けとめられておるか。二番、中小企業、零細企業についての対策は。三番、国、県への働きかけをどのように考えてみえるか。市長のご所見を伺いたいと思います。

また、地場産業万古陶磁器業界の内情をご報告申し上げます。その対策を早急に立てられんことを要望しておきます。

四日市には三百年の歴史を持つ万古産業が栄えております。四日市の物産として、広く日本では北は北海道から

南は九州まで万古焼に親しんでもらっております。この万古焼がこのたびのドルショックによってたいへんな衝撃と不安が業界にかかってきたのでございます。いち早く四日市陶磁器工業組合並びに万古陶磁器工業協同組合は、通貨変動に伴う輸出陶磁器業界の救済処置について懇請を九鬼市長へ書面にして提出してございます。また円の為替相場制の実施に踏み切った八月二十八日には、午前、午後と緊急対策委員会を開き、不況対策委員会を組合としてつくり、今後の業界の対策に必死の努力をされようとしております。参考までに万古の輸出総額を申し上げますと、総額四十四億七千三百五十七万一千円でございました。内訳としましては、A地区、北米、カナダ向けの輸出額が三十七億七千九百万でございました。総額から占める比率は八二・八%でございます。B地区、中南米、欧州、豪州、ニュージーランドにつきましては、六億三千八十万で一三・四%の比率でございます。C地区、アジア、アフリカにおきましては、一億六千三百三十万、三・七%の輸出額でございます。輸出業者の輸出比率を申し上げますと、輸出比率の一〇〇%の業者が十一社、九〇%から九九%の業者が九社、八〇%から八九%の業者が六社、五〇%から七九%の業者が十二社、五〇%以下が十七社でございます。輸出業者は合わせて五十五社になっておりますが、五〇%の輸出比率の会社は、今後の対策に懸命に取り組まなければなりません。国内向け生産額と輸出向け生産額の実績は年々向上し、四十五年度内地約三十六億円、輸出約四十四億円、四十六年度上半期の実績は、内地約二十億円、輸出二十四億円になっておりますが、ドルショック以来下半期の実績は極度に悪化するものと思えます。商談ストップ、バイヤーからの値引き要求等、輸出向け生産の見通しも十月、十一月ごろまでに受注残を食いつぶしていけば何とかなりますが、それ以上は見込み生産となり、仕事がなくなりそうに影響をおそれております。そのため運転資金の道を考えていただくことが最良ではなからうかと思えます。

また、万古生産に従事しておられる労働者の方々の不安はまたたいへんなものでございます。ある会社は、六十歳以上の従業員を整理したと聞いております。万古につとめる従業員の生活安定のためにも、企業倒産や解雇が出

ないよう、出さない対策をすみやかにご検討願いたいと思えます。くれぐれもお願ひしたいと思います。

十月は定期昇給の時期でもございます。年末のボーナスがプラスアルファされて労働者のふところに入るように切望するものでございます。また業界からは固定資産税の減免、一カ年間固定資産税の減免処置の実施。金融処置としましては、地方自治体またはそのあっせんによる特別金融措置を講ぜられ、その利子及び借入れ機関について最大限の便宜を考慮されたいと強く要望が出ておりますので、市当局にお願ひしたいと思います。特に税制上の免除、信用保証協会の出資金の増額、中小企業振興資金、商工業振興資金、特別金融措置、利子補給、借入金金の延期等を講じていただいて、四日市の地場産業の伝統と働く者の幸せのために、りっぱな市のあたにかいご援助とご支援を賜わりたいと思うわけでございます。

最後にお願ひしておくことは、万古業界及びすべての中小企業、零細企業対策として一、企業体質の強化、二番、企業合理化に伴う近代経営講座の指導、三番、企業診断による適正な指導、四番、大量生産方式から売れる製品の開発指導、五番、各業界の育成についての助成金の増額、特に産業部として、備えあれば憂いなし、災い転じて福となる条件整備の基礎をつくられんことを要望してやみません。

次に入ります。社会福祉協議会の運営と育成についてご質問したいと思います。

まず、冒頭に、ちょうど一年前でございますが、四十五年の九月の定例議会におきまして、私はそのとき議員ではなく、一社協の理事でございました。ある議員から、私が四日市市社会福祉協議会の事務局長に選ばれた九月八日の時点におきまして、質問されている内容に私の名誉を著しく傷つけられておりますので、一言訂正させていただきます。その発言の内容は、今度の人事についてたいへん残念です。福祉六法も知らない者が社会福祉協議会をやって、それでうまいきますかとおっしゃってございました。私は、明治大学在学中社会福祉研究部に入部し、三年有余活躍した実績があり、私の幹事長当時には関東福祉連盟を結成し、いまなお後輩の連中が母校の記念館講堂

の五階の部屋に看板をにかけてがんばって活躍しておりますので、私が福祉六法を知らないということは断じてあり得ません。しかし、幸か不幸か、局長を退いて議員になったことは摩訶不思議な因縁だと思っています。

以上訂正させていただいて、本論に入りたいと思います。

社会福祉協議会の定款と理事会のあり方をお尋ねしたいと思います。市当局は、定款をお読みになったことがございますか。市社協局長問題について、市は外郭団体の人事にタッチすべきではなかったかと思っています。定款の作成者が、定款の指導者が、定款を無視することはおかしいじゃないかと。厚生部長や議員の方が社協の理事になることについては異論はございません。社協の理事と現職の肩書きを混同することは真んでもらいたいのと思います。民間団体の一理事の資格において、行政を、議員を代表して、民主的な話し合いに参加すること以外には権限がないことをはっきりと理解しなければならんと思います。官僚式は断わりであり、権威意識もまっぴらごめんでございます。あなたは、厚生部長は、社協の健全育成を指導する立場としてどう考えられておられるか。社協を市が市有物化することはよくないと思うが、どう思われますか。理事会は、社協の執行機関であるはずであります。理事会の決定によって事業がなされていないように思うがどうか。行政の一方交通に終わっているように思うけれどもどうでしょうか。決議機関を無視し、非民主的な決裁のあり方を強く批判したいと思います。市はルールを守る側にあり、公僕であることを忘れては困ります。評議員や理事会が住民参加の協議機関であるのに、住民参加の決議ができなくなっているのを反省していただきたい。住民主体の事業ではなく市の厚生部の下請になっていることを市当局はご存じでしょうか。

次に、助成金の問題をお尋ねいたします。公費の助成金でございますが、四十五年度は市のほうから五百四十一万八千円、四十六年度には五百四十七万五千円が出ております。前年度に比べて五万七千円の増になっておりますが、公費助成金のあり方に私は疑問を持つ一人であり、助成金の、失礼ではございますが、助成金のからくりを少

少非難をしたいと思っています。なぜならば、市のトンネル予算であり、市の干渉予算であり、不健全予算であり、集合予算で市の事業を社協が肩がわりしている仕組みになっていることを残念に思うからでございます。その内容は、公費助成金のうち委託事業費百四十万、借入金、小口貸付金制度、これは公益質屋を廃止したのを社協に持ってきたのでございます。母子福祉貸付金合わせて百万、療育センター四十万、ひよこ飼育託児所、いろいろと下野や川尻にもございますが、補助金が四十万、職員の実質給料二百七十二万がおもなもので、市の事業を社協が肩がわりしているようなことなら、市独力でやるべきではなかりうかと思うのでございますが、公費助成金を出している名目はわかりますが、市が干渉し過ぎて社協の自主運営が妨げられているとしたらたいへんな間違いでございます。本来の社協活動が不良、不健全財政のためににっちもさっちもいなくなっていることをどう思われますか。行政と民間と表裏一体となって前向きに指導育成をはかると言っているのはうそなのでしょうか。社協のルールに沿った運営を直接指導に当たる厚生部がルール違反を犯しておるとしたら、非常識ではなかりうかと思うのでございます。市の助成金がかかる市の委託事業予算であり、それ以上に自主財源である民間資本に食い込み、食い荒らしていることに市の指導と育成が間違った方向に進んでいるように受け取るがどうでしょうか。私は、謙虚な気持ちで伺いたいと思います。

四番目といたしまして、自主財源の確立を特に強調したいと思っています。社協に自主財源がないから助成金で圧迫を受けるのではないかと、思いますが、自主運営、自主的企画の促進をはかりたいと思うわけでございます。自主財源をふやして自主性のある運営に持っていくように指導してはどうかと思います。社会福祉思想を理解していただくために、広報活動、啓蒙運動を展開し、民間資本を充実していかなければならないことは、私が申すまでもないと思います。社会福祉協議会会員、社協会員の増強運動を進めると同時に、社会福祉協力員制度を発足させ、人的資源を充実させる方向が望ましいと思いますが、どうでしょうか。社協会員年間一口三百円の会費として増強運動を

促進いたしましたとしても、四日市の世帯数約六万世帯をして、千八百万円が集まることは、さほどむずかしい問題ではないと思います。このような自主的活動をさせるのはどうか、伺いたいと思います。

また、共同募金、助け合い募金につきましては、自治会並びに民生委員さんの努力で年々増加していることは喜ばしい現象でございます。また、欠くことのできない自主財源の道としてボランティアビロー、善意銀行の事業がございます。ただいまは市の子供会育成連絡協議会が一つの組織の単独事業として行なっておりますが、市民全体のご理解が少ないうえに残念に思います。発展過程において社協がボランティアビローとして十分機能を果たす役割があるのではなからうかと思っております。その育成をどう考えられるか、市民の心を一つにまとめ上げねばなりません。市が何でも福祉施設を市の行政のワクの中でやっていこうとするところに無理があり、民間資本の開発によって恵まれない施設の整備をしていく時代にはなからうかと思っております。

次に、事務局の充実にについてお尋ねしたいと思います。市社協の職員の待遇は非常に悪いのでございます。局長が四万五千元、一人お年寄りの方がおみえになりますが、主任主事が三万五千元、若い二人の男と女が三万四千元、三万五千元でございます。社協は社会保険がございません。市職員と比べますと、市職員の給料が大体社協のいまの若い二人が二十四歳でございますので、それに合わせて計算、人事課で調べた二十四歳の給料をあわせて考えますと、市職員の給料が四万四千四百円でございます。一万円市の職員のほうが多いのでございます。期末手当が三・五でございますが、勤務手当も一・二市職員はつきますが、社協は期末手当三・五はついて、勤務手当一・二はついておりません。社協職員は期末手当は同じですが、勤務手当がないことを強調しておきますが、社協職員は労働条件が非常に悪いと私は思います。その点をどうお考えでしょうか。市職員と一万円の差があることと、勤務手当がないということを厚生部として、また市当局として、社協を育成する側にある市当局としてほんとうに育成するお気持ちがあるかどうか、お願いしたいと思います。市が給料を出してやっておるんだとみえを切るならば、

りっぱに社協職員の給料を市職員並みの待遇に引き上げたいと思います。人材を広く求めていくことは、今後の社協運動に欠くことのできない問題ではなからうかと思っております。これから社協は、ボランティアセンターの事務局並びに高齢者無料職業あっせん所の職員が必要になってまいります。事務局の体制を早く確立しなければならぬんじゃないかと思っております。十分理事会にご検討していただくようお骨折りを願いたいと思います。

最後に、社会福祉協議会を育成発展させることは、高度経済成長に伴う社会のひずみを是正できる唯一の機関であり正しい道だと私は信じてやみません。小さいことにこだわらず、将来の幸せを高める運動にお互いに努力することが肝心だと思います。私もがんばりますが、市当局の熱意とご理解を要望して最後といたします。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 暫時休憩をいたします。

午後二時三分休憩

午後二時十八分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

市長。

（市長（九鬼喜久男君）登壇）

○市長（九鬼喜久男君） 円切り上げに伴う地場産業の影響と対策の問題でございますが、このあたにも幾人かの皆さんの中から質問もございますし、一応私の基本的に考えておりますことをここで申し上げておきたいと、さように思います。さらに詳細な対策等につきましては、担当者からご説明をさせていただきます。

円切り上げに伴う地場産業の影響と対策に関連をいたしまして、税収の問題、あるいは中小企業対策、国、県へ

の働きかけ等のご質問がございましたが、円切り上げに伴う問題と同時に、円切り上げ以前からのこの不況の問題というものを、私はこの段階ではあわせて考えておかなければならない問題ではないかというように考えております。

それは、午前中にも若干申し上げましたが、景気停滞の近況と申しますものはたいへん深刻でございますして、七月末現在の府県税の四十六年度の調定総額というものの対前年度比率を見てみますと、府県税をなぜ申し上げたかと申し上げますと、府県税の中の法人事業税というものは、端的に事業活動を物語っておるものでございまして、これが停滞をしておるといことは、非常に深刻化しておるといことでございまして、いわゆるこの法人二税でございますところの法人事業税、法人住民税というものは、四十五年度の七月におきましては、前年度比二〇・二％全国の府県税伸びておりますが、四十六年度の七月の調定額におきましては、一四・二％しか伸びておらないといふことでございまして、いかにことしの七月までの景気停滞というものが激しくて、不況の色が濃くなってきたかといふことであらうかと思えます。さらにこのドル・ショックを加えて、この四十六年度の一四・二％がドル・ショックを加えたもので計算をいたしますと、大体一〇％を割り込むだろうといふことがいわれております。どの県におきましても、大体本年度の調定見込額は一七％から二〇％伸びるだろうといふ予想されておったのでございすけれども、一〇％を割り込むといふぐらい深刻な情勢であり、愛知県等の県の見通しでは、四五の伸びにしかならないだろうといわれております。したがって、私は、この法人事業税の伸びというものから見ましても、この景気停滞というものが、ドル・ショック以前において相当深刻に出てきておったのではないかといふことがうかがうことができると思います。

そしてまた、九月十四日に第二回の貿易問題懇談会が津で開催されておりすけれども、そのときの意見が、どういふ意見が出ておったのかといふことを聞いてみますと、やはり輸出も非常に減ってきておったと、取引も非常に減ってきておったといふようなことが結論的に出まして、いろいろそれに基づいて、今後の輸出企業への貸付金の問題だとか、あるいはいろいろな融資制度であるとか、信用保証協会のワクの拡大というような問題が審議をされたというように聞いております。

したがって、このような不況が、四十六年度末を境として上向くのではないかといわれておったところに、現在のようなドル防衛に基づくところの強硬なアメリカの貿易政策がとられたといふことでございますので、これは相当不況が長引くのではないかと、税収の面においても苦しい時期がくるのではないかというように考えられます。ことに不交付団体は問題でございせんが、交付団体においては、国税、三税というものが、当然相当減少を見てまいりますので、交付金というものも相当減額されてくるのではないかというようにも考えられます。ことに、それに人助のアップというよりなものが重なりますので、今後の税収の問題につきましては、市町村が固定資産税、あるいはそういうような税金が主になっておりますから、直接の関係はないといひましても、やはりこの法人の住民税というものがございすので、かなり今後長期間にわたって税収の問題というものが深刻化してくるのではないかというように考えられます。

また、この名古屋通産局の東海二十七菜種の輸出品目の円切り上げに伴うところの減少率というものを発表いたしておりますが、陶磁器におきましては、五％切上げされたときには、最近輸出実績の三〇％減となるだろうと、一〇％切上げのときには、大体四〇％減になるのではないかというような発表がされております。それだけに私は、この円切り上げ、さらにそれ以前の不況の問題とあわせ考えて、今後の地場産業、あるいは中小企業を問わず、日本の産業全体にとって相当深刻な影響があるのではないかと、したがって、それに伴って事業税あるいは法人住民税等に相当大きな影響がくるものではないかと、さように考えられますので、われわれといひましても、この不況克服と同時に、地場産業等につきましては十分な対策を考えていきたいと、さように考えておる次第でございます。

ます。

○議長（日比義平君） 産業部長。

〔産業部長（阿南輝彦君）登壇〕

○産業部長（阿南輝彦君） 市長の答弁に補足をさせていただきます。

たいへんむずかしい問題でございますして、私どもも、産業部、商工課。農林課等をあげまして、特に先月の十六日以来、ちょうどまる一カ月になるわけでございますし、また奨励相場制が実施されて、ちょうど半月になるわけでございますが、その間総力をあげまして調査を続け、その概要をつかみながら三役、関係部長会議等を開きまして対策を協議をしましていったわけでございます。まだまだ事態は流動的でありますし、また問題になっております平価の調整ということも、かなり持久戦化する様相を示しております時期でございますので、議員各位におかれまして、それぞれのお立場からいろいろ今後ともご教示を賜りたいと思っております次第でございます。

先ほど市長も申しておりますが、たいへん長期にわたりました好況、まあその間設備投資が行われる、あるいは生産機能が非常に大きく伸びるというふうなことがようになっておりましたところに昨年末の不況というようになるとなっております。企業経営が非常に悪化しておることは皆さんご承知のとおりでございますが、そういった国の四十六年度の予算も、特に不況対策予算という形で組まれておったわけでございますし、また先般の内閣の改選に当たりまして、特にこの景気浮揚策として公共投資の繰り上げ契約実施ということを強く打ち出しておりますけれども、まだまだその実効が十分にあらがない、しかしやや明るいきざしが見え始めたというときにこのたびのニクソン声明という形で、景気浮揚の回復の期待が非常に遠のいたという感じになっておるわけでございます。

市としては、自ずからいった国際情勢、いろんなまあデータなども集めまして、また関係の市内の団体と、金融機関と、県あるいは通産省、その他とも密接に連絡を続けてまいっております。まあ個々の企業については、この不況にしても、あるいは繰越金の問題にしても、奨励相場制にしても、いろいろ影響の具合が違っているわけでございますが、まあ全般的に見た場合、八月十六日以後といえども、今日までの状態では急激な特に変化はなく、一応景気は続けられておるという状態だと思っております。ただやはり繰越金あるいは奨励相場制、その他によりまして、それ以来の受注がほとんど止まってしまったということによって、現在手持ちの作業があと一月、二月後に切れてくると、その十月、十一月から年末にかけてが、たいへんな状態になるのじゃないかというふうに憂慮をいたしております。

先ほど市長も申しておられましたように、一昨日県のはりで知事が招集をいたしました懇談会に、通産当局の担当官も出席をいたしまして、国が、特に中小企業庁が検討をしております事項、財政投融資の問題、金融、税制、その他にわたります総合的な考え方の説明があったわけでして、その際知事もかなりはっきりした所信の表明をいたしております。ただ、それらの内容が、まだまだ具体化をしておらない段階でございます。県としては、十二月の県会にこれらの措置を上程するというふうな説明をいたしておりますので、市としては、今後とも県の行なり施策に対して十分連絡をとりながら、市の考え方も盛り込むようにいたしていきたいというふうに考えております。

当面実施をいたす応急対策として市が考えておりますことを少し説明をいたしたいと思います。

まず、ことしの六月一日から、従来市の商工関係、まあいろんな制度がございましたけれども、一昨年あたり、いわゆる七〇年代、敬動する七〇年代ということがいわれるに伴いまして、それに対応する市の中小企業振興施策というものはっきりさせようじゃないかということで、既存の制度を総点検いたしまして、態勢を整えまして、中小企業振興規則として六月一日から実施をいたしております。金融の面、助成の面、指導の面、そういったこと

を内容を盛り込んで、商工会議所等を通じて内容のPRをいたしておりますが、これもドル・ショックという、ニクソン声明という形を明確に想定したわけじゃございませんが、もうすでに円の切り上げということは二、三年来いわれておったことでございますし、一昨年来実施しております市の中小企業経営合理化講座においても、各講師ともこの点をやはり指摘をしております、いつの日にかそういう事態が起きるであろうということを業界ともども検討して、市のできるだけの態勢を整えようということで、この振興規則をつくったわけでございますが、これの積極的な運用をはかっていきたいと。その中に幾つかの金融制度がございますが、この制度の弾力的な運用をはかりたいと。高度化資金あるいは近代化資金というのをその中に設けておりますが、文句としては入っておりますが、今日業界が大きく問題にいたしております滞貨あるいは減産、こういった面についての資金の融資をこの制度の中で行ないたいと。

なお、かねがねこの議会でも要望がございました小規模事業資金につきましては、五十万円から昨年七十万円にアップをいたしておりますが、この八月一日からさらに百万円に引き上げることを実施いたしております。

それから、これらの制度の貸し付け期間の問題でございますが、それぞれ期間をきめておりますが、すでに貸し付けをいたしておりますもの、今後貸し付けをするものにつきましても、特に必要と認めるものについては返済期間の繰り延べを行なうことを考えていきたいと。

それから、次に、最近金融事情はたいへん緩和をしているわけでございますが、しかし、銀行筋の貸し付けはかなりきびしい状態になっておりまして、企業におきまして、すでに先ほど申し上げましたとおり、設備投資が相対行なわれておるといふことから、新規の借入れについての担保にたいへん問題があるわけでございます。したがって、この市の制度につきましても、無担保で融資できる限度を引き上げるように考えていきたいと。ただし、これは国の中小企業信用保険公庫の問題、あるいは県の信用保証協会の問題もございますので、これを詰

めていきたいと。大体見通しは得ているわけでございます。それから、この融資を行なうにつきまして、この査定を毎月金融委員会をわずらわしてごやかになっておりますが、月一回開いております。年末には、例年特別な処置を講じておりますが、状況を見まして、この年末対策に準ずる措置を繰り上げて実施をしていきたいというふうに考えております。それから、これらの融資制度の元金になります預託がございしますが、いずれも予算においてお認めいただいて実施をいたしておりますが、これらの弾力的な運用等によりまして、融資の総ワクの拡大が必要になってまいりました場合には、予備費等の元用をお願いいたしまして、十二月の議会におはかりする段取りにしたいと思っております。

それから、申し上げましたように、国の中小企業庁関係の政策検討もだいぶ進んできておりますし、それから、いわゆる中小企業三公庫という商工中金とか中小企業公庫、それから国民金融公庫、これらについての政府の措置もだいぶ具体化をいたしてきておりますので、これらの制度と市の制度とを、県も含めまして、業界に十分活用、あっせんに応ずるために、産業商工課の中に相談室を開設をして、商工課の中の係も、この際臨時体制に切りかえまして、全員がそういう相談あるいは調査に臨めるような態勢にもってきたいというふうに考えております。

それから、今日まで特に下請企業の保護ということについて心配をしておりますが、大手の企業、あるいは下請をつくる業界に対してそれぞれお尋ねをしたりして、下請企業についての保護についてお願いをしております。昨年でしたか、国のほうでも、下請中小企業振興法あるいは下請代金支払い遅延法防止法といったものを制定いたしておりますが、これらの法の内容を遵守するように要望をいたしておりますし、今後ともそれを続けていきたい。

なお、この二十二日の日に、市長の諮問機関であります中小企業振興対策協議会を開きまして、同じく二十二日

に金融委員会を開きまして、いま申し上げました考え方につきまして、さらに協議をいたす予定をしております。

それから、ご質問の国、県への働きかけはどうしてきたかというご質問でございますが、八月の二十七日ごろに、私、愛知県庁あるいは名古屋通産局を訪問いたしました、非常に愛知県あるいは岐阜県との関係が、地元産業非常に深いわけでございますので、それらの動静を聞いてまいりました。この三十一日には、八月三十一日には、商工会議所も正副部会長会議を開きまして、金融機関の専門家を呼んで話を聞き懇談をすると、私もそれに出席をさしております。それから、九月一日には、第一回の県の懇談会がございまして、ここで県下の各業界という懇談をいたしております。九月七日には、津の商工中金の支店のほうへ参りまして、四日市の中小企業団体に相当多くの融資が行なわれておりますが、それらの返済についての猶予、繰り延べを申し入れをいたしてまいっております。九月九日には、知事が市長室に來られましたので、その機会にもこれらの事情を説明もし、県の施策を要望いたしております。

今後とも県、通産局、あるいは全区的な市の問題については、市長会等を通じて国に対しても強く要望をいたす予定をいたしておりますが、各地方公共団体、あるいはこの東海三県下の業界のいろいろな要望事項等も大体問題点がまとまってまいっております。ご説明をいたしますとたいへん長くなりますので省略いたしますが、四日市の万古工業協同組合からは、九月八日の日に税制その他につきまして市長あてに要望書が出されておりました、それらも検討をいたしておる状況でございます。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 社会福祉協議会のことにつきまして答弁をさせていただきます。

長い間評議員さんとして、あるいはまた、昨年一年理事さんとして非常にご理解あるご活動の中でご支援を賜わって、しかも、その道の造詣の深い中島さんから、細部にわたってのご指摘の面があったわけでございますが、こゝでるご説明を申し上げますと非常に長くなりますので、謙虚にただいまご指摘のあった面を、反省をし、理事会にこの声のあったことを、一理事として報告をさせていただきたいと思っております。

ただ、この中で、今後厚生部の下請ではなくして、厚生部としてほんとに市民の側に立った指導をどうしていくのかというご指摘があったかと思っております。非常に重要なことでございますので、この点に若干触れてみたいと思っております。

私も社会福祉協議会を考えますときには、一昨年来市会の皆さんからも非常にご理解あるご示唆を賜わっております。それから市会選出の役員さんも毎年かわって二名ずつご選出されておりますので、その運営の内容につきましては、角度が違っております。その人なりの認識を持っておられると思います。したがって、そういうだいたいな協議会でございますので、ただいま申し上げたように、指導のあり方について若干触れさせていただきたいと思っておりますが、社会福祉協議会というのは、ほかの団体とどう違うのかということが大きな問題になるかと思っております。この理解がないと、ややもすると、やはり各種団体の寄り集まりであるだけに、非常にむずかしくなっていくんではなからうかと、こういうことでございまして、ただいま中島さんからご指摘のあった面、また社会福祉協議会として四十六年度の当初に理事会の中で、ほんとに地域住民の生活に根をおろす社会活動として今後どうあるべきかという反省をしようじゃないかと、こういうことで、事務局の案をひとつ考えて草案を出してくれと、こういう指命を理事会の中からいただいております。このことは、とりもなおさず厚生部の下請ではないので、理事会の意思決定によってその事業が進められておるといふことにも相なるわけでございます。

その中で一番重要なのは、社会福祉協議会とは、その地域地域における福祉の問題点を掘り起こして、それを解

決しよう、という団体でございます。決して行政万能ではございません。また七〇年代は激動する年代というふうにたわれております。激動すればするほど、コミュニティづくりということが非常に大事になってくるわけでございます。したがって、行政万能でない、補完的な役割りをしていたところが社会福祉協議会の場である、こう考えております。この考え方に間違いあれば、またご指摘を願いたいんですが、こういう基本的な観点に立って各理事会に事務局案をお示しするように、あるいはまた、評議委員会にお示しできるように事務局案をつくりまして、第一回の理事会を持ちました。このことにつきましては、市会からのご選出の議員さんも理事さんも理解をされております。ただし、中島さんがご指摘になったように、非常にむずかしい転換の時期であるので、これをさらに何度も自分たちのものにし、そのことがわかっていくことがいわゆる会員の増強につながることであるんだから、大いに勉強をしようではないかと、こういうことで、現在理事会で勉強の場を数回持とうという事で私どもは、そういう皆さんが年々そういう理解を深めていく中で、この補完的役割りはどうしていったらいいんだろうか、あるいはまた、行政サービスの誘導をどう引っぱり出していったらいいんだろうか、あるいはまた、行政サービスの活用をどうしていったらいいんだろうかと、こういうことについて真剣にいま理事会で審議中でございます。したがって、行政は決して民間の団体を圧迫することなく、真の民主的な団体になるように指導をしていきたいと、こう考えております。

そのあらわれとして、四十二年度からたまたま共同募金の事務費の問題が行監から指摘されたのを契機に、本市の社会福祉協議会の使途については指摘をされておりましたが、この際大いに謙虚な態度で臨もうじゃないかと、こういうことから、できるだけ人件費ぐらひは公費で負担をしてみたらどうかというのが市の姿勢として出まして、その額が、先ほど中島さんからご指摘のあったような額の中に大部分占められておるわけでございます。人件費を見ておるから君らは言うこと聞けという態度は、毛頭持っておりません。これは社会福祉協議会のみ

でなく、厚生部門に携わる私以下全従業員の心がまえとしては、常に福祉の問題に関心をもち、また接する皆さんには謙虚に接していくと、こういう姿勢を持っております。

ですから、そういう基本的な姿勢と考え方に立って社会福祉協議会の、しかも表裏一体といわれている大きな社会福祉協議会の育成をはかっていきたいと、こういうふうに考えておりますので、非常に簡単な答弁で相済みせんけれども、ただいまのご指摘の点も謙虚に反省いたして、理事会の中でこういう声がありましたということをつぶさに私から報告をさせていただくことをお誓い申し上げまして答弁いたします。

○議長（日比義平君） 中島君。

〔中島隆平君登壇〕

○中島隆平君 時間もたちましたので、要望をさせていただいて終わりにしたいと思います。

産業部長並びに市長からのドル・ショックについての対策をるる説明していただきまして、特に死んだ者に幾ら高い墓を投入いたしましても、もう時すでにおそしというような対策では困りますので、死にかけない前に、ひとつ手を差し伸べてるうちにですね、適切な対策を役じていただくようにお願いしたいと思います。

きょうの新聞にも、朝日新聞でございすが、「通貨不安―ゆるる万古菜界」というふうを見出しで書いてございしましたが、今後輸出の注文がずいぶん減るだろうと思います。また貿易から、貿易業者が内地へ向けて製品を転換するのではなからうかと思いますが、そのように国内市場もたいへんなきびしい状態に入ってくるように思いますので、どうかよろしく対策をお願いしたいと思います。

それと、厚生部長にご答弁願いましたが、非常に厚生部長もりっぱなお答えをしておりますので、そのお考えであり、ひとつ社会福祉協議会を適切な指導と育成に心がけていただくようにお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 橋本増蔵君。

〔橋本増蔵君登壇〕

○橋本増蔵君 質問に入ります前に、理事者に一言お願いを申し上げます。

私は、本日の自由クラブの質問のしんがりでございます。自由クラブの持ち時間が相当出ていると思います。したがって、再質問をするということはとてい不可能かと考えますので、私の質問が終わりましあと、時間の許す限り詳しくご説明をお願いいたします。

先ほど伊藤議員及び青山議員の質問に重複する箇所も多少ございますが、重ねて質問をいたします。

私は、台風二十三号の災害対策と都市下水路事業の促進について質問いたします。

去る八月三十日の夜半より県下を襲った台風二十三号は、雨台風といわれたように、その豪雨によって県内各地に大きな被害をもたらしましたが、本市におきましても災害救助法の発動を見るほどの被害をこうむり、市内を流れる各河川の堤防の決壊、道路の損傷、低地帯の浸水、農耕地の冠水等、大きな損害を発生いたしましたことは市長報告のとおりであります。さらに県南部の集中豪雨による被害は、尾鷲、熊野両市において四十数名のとうとい人命を奪う大災害となり、いまさらながら水のおそろしさを思い知らされたことでありますが、降り続く災禍によって罹災せられた方々には心からご同情を申し上げますとともに、災害復旧の一日も早くらんことを切望する次第であります。

本市における台風二十三号の被害は、床上浸水三百三十一戸、床上浸水三千四百戸といわれますが、その被害戸数のほとんどは、富田、富洲原地区に集中しております。去る昭和三十四年の伊勢湾台風以来、浸水の常襲地帯とまでいわれるこの地区は、いつになつたならば水の脅威から解放されるのか、その原因を正確に把握して、住民が安住できるよりすみやかに抜本的な対策を充実していただきたい。富田、富洲原両地区の地形から見て、両方の丘

陵地帯の宅地開発、土地造成等によって遊水池の減少、降雨時の鉄砲水等、数々の原因が予測されますので、丘陵地帯の開発については、特に排水施設等を完備するよう強く要望いたします。さらに、十四川、米洗川等の改修を促進することも肝要であり、それらの改修の計画についてお伺いしたい。

また、市内全域にわたる台風の被害は、市長報告によりますと、土木施設関係のうち市管理関係が二億二千四百十三万円、県管理関係が一億八千六百九十四万円、農林施設関係が一億九千三百五十三万円、農作物関係が一億二千六百九万円と、被害総額がこれだけでも十四億二千八百万円にのぼっておりますが、これらの被害につきましても、その実態を正確に把握して、特に土木関係の被害については、原形復帰にとどまらず、進んで改良復旧するよう要望するものであります。しばしば決壊する矢合川のごときはその一例であります。県当局とも十分連絡をとって、改良復旧を進めていただきたい。

八郷地区の朝明川については、平津地内で危うく流失を免れた民家があり、堤防の補強は甲すに及ばず、危険個所の再点検を行ない、早急に復旧するよう県当局へ申し入れをお願いいたします。

総じて今回の災害は、中小河川流域に多く発生しているので、今後これら軽視的な中、小河川も大きく目を向けて改修に力を入れ、こうした災害を繰り返さぬよう心がけることが肝要であると考えます。市内のこうした決壊のおそれのある危険箇所は、市が管理する河川について何カ所ぐらいあるのでしょうか。また決壊した場合の人家に大きな被害を与えるおそれの多い河川の改修については、具体的な計画があるのかどうかお伺いしたい。従来被害個所の復旧については、二年、三年の歳月を費やしてきましたが、道路や橋けた等の復旧については、年内着工が得るよう国、県当局へも強く要請し、住民の不便を一日も早く解くよう要望いたします。

次に、最近各地に発生するがけくずれによる災害に関連してお尋ねいたしますが、予期せぬがけくずれの災禍は、民家を埋没し、人命を失う場合が多く見受けられます。急傾斜地の崩壊による被害の防止に關する法律がすでに施

行せられておりますが、今日においてもがけ下に住宅が建っているのを各所で見受けるのであります。山間部はもちろん、西部の丘陵地帯におけるこうした危険箇所も総点検を行ない、適当な処置をとるようこの機会に要望いたしておきます。

次に、災害救助法の発令についてお尋ねいたします。

今回の台風害について救助法が発令されたのは、八月三十一日午前一時の松阪市を皮切りに、亀山市、津市と続き、津市においても三十一日の午前九時に発動されております。本市の災害状況が、災害救助法の適用基準に達した時期が九月二日であったとするのはどうしたわけか。すでに三十一日の時点において、床上浸水家屋の基準に達していたと考えられますが、実情はどうであったかお伺いいたしたい。もっとも災害対策本部の設置、罹災者の救助活動等については、手落ちなく進められたことは了解いたしております。

浸水家屋等の把握については、迅速に行なりよう要望いたします。

今時災害について思いをいたしますとき、万一四日市市に、尾鷲地方に惨禍をもたらした千ミリをこえる豪雨とまでもいなくとも、その半分か三分の一ぐらいの果中豪雨が襲ったとしたならば、その惨状は想像を絶するものでありましよう。ころばぬ先のつえと申しますが、防災については地方自治体も最大限の努力をして、いま一度危険箇所の総点検をし、天災を人災にしてはならないと強く要望いたします。災害復旧の財源確保についても努力を願ひ、復旧工事の早期着工を切望してやみません。

次に、都市下水路新設改良事業についてお尋ねいたします。

さきに申し述べましたように、富田、富洲原地区をはじめ市内の低地帯、海拔ゼロメートル地帯といわれる地区におきましては、雨が降るたびに大雨にならねばよいかと住民は空を仰いで浸水を気にするのであります。排水施設の不十分は、こうした地域の住民は、水の出るたびに家屋の浸水被害を受け、避難騒ぎを繰り返しております。

丘陵地帯の住宅地造成、団地の造成が進められて、豪雨のときには一気に低地帯へ水が押し寄せる。こうした開発行為が先行して、公共下水や都市下水路などの整備が追いつかないのが原因であります。単に富田、富洲原だけの問題ではありません。桜団地の開発は、しばしば田畑を埋没し、山、川の決壊をもたらす原因となっておりますが、困るのはこうした地域の住民であります。この際市長は、大四日市の面目にかけて、思い切った公共下水道、都市下水道事業の促進整備をはかり、水害の常襲地帯の住民から、いな全市民から、さすがは名市長だと言われるほどの対策を講じていただきたい。完成年度の繰り上げ等、配慮をお願いいたします。

特に、朝明都市下水路新設改良工事について、完成年度の繰り上げと促進をお願いいたしますのであります。

朝明都市下水路事業については、事業費七億四千二百万円で、四十五年度から五十年年度の継続事業として着工を見ているのでありますが、現在のようなテンポでは、今後富田、富洲原地区の浸水は、幾たびか繰り返されるのかはかり知れないのであります。住民の迷惑もたいへんであります。きたないたえであります。みそもくそも一緒くたになって流れ出す汚物の中で水と戦いを続ける市民のあることを、市長はどう考えておられるでしょうか。声をきき耳を傾けて、大いに善政を施していただきたいのであります。

このためには、今回のように減額補償することなく、国の補助を獲得するためには最大限の努力を払っていただきたいのであります。四十六年度の減額補償は、国補の減額によるものと思われしますが、何ゆえ全額確保ができなかったのでしょうか、お伺いいたしたい。また聞くところによりますと、国の補正予算において近く二千二百万円ぐらいの補助が決定するとかありますが、事実かどうかお伺いいたしたい。明年度におきましても、財源確保に格段の努力をお願いし、完成事業年度の短縮をはかるよう要望いたします。

続いて、雨池都市下水路事業につきましても同様、促進をお願いいたしたいのであります。特に四十七年度より新設事業として計画の羽津都市下水路事業につきましては、同地区の開発の事情に即応するよう、初年度から財源

措置を講じるより希望いたします。

以上、都市下水路の促進について市長の率直な見解をお伺いいたします。

最後に、特に市長にお願いしたいのは、先ほど伊藤議員からも触れておりましたが、おおよそ家屋に浸水するというのは、それがたとえ人間の生命に危険を及ぼすほどではないにしても、事前、事後の家財道具の処理、事後の清掃、消毒、家屋の損傷、不衛生な状態等、形容すべからざる悲惨な災害でありますことは、経験者でなければとてい理解し得ない痛恨事であると申し上げても、決して過言ではありません。水害常襲地帯の住民は、水より自己を防衛するため、家屋の地上げを真剣に考えております。そして、現にそれをすでに施工した家、または現在施工しつつある家もかなりの数にのぼっていることはご承知のとおりであります。しかしながら、その半面、地上げを施工したくともそれができ得ない家が大半を占めていることは、理事者もわれわれ議員も絶対に見落してはならない事実があると私は声を大にして申し上げたいのであります。地上げを希望していながらそれができないわけは、ばく大な工事費を必要とするも、その調達が不能なためであるという経済的な理由であることはきわめて明白な事実であります。その資金さえあればという、切実であり、悲惨である多くの市民の切望を、市当局は放置せざる義務と責任があると私は思量するものであります。

この点にかんがみ、私が市長に質問いたしたいのは、これら地上げを望んでいる市民のうち資金のない人々に、市当局は無利子、またはきわめて低利息で、しかも相当期間にわたる返済という条件でその資金を貸し付ける意思がどうかいなかというところであります。もし貸し付ける意思はあっても財源がないというお考えならば、住宅金融公庫あるいはその他の金融機関から、さきの条件にて融資をあっせんせられるお考えがないかとお尋ねする次第であります。市長の市民を思ふ明快にて忍情あふれるご答弁をお願いいたしたいと存じます。

以上で終わります。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午後三時五分休憩

午後三時二十一分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

土木部長。

〔土木部長（谷沢文男君）登壇〕

○土木部長（谷沢文男君） ただいまのご質問のうち、災害の特に河川関係についての説明をいたします。

ご指摘のありましたように、またすでに市長からも今期災害についてのご報告がなされておりますように、土木災害につきましては、七月八日の十三号及び八月の二十三号を含めまして五百八十九件、三億二、三千万円の大きな被害をこうむっております。なおこの中には、国災として百九十二件、二億四千万程度の被害を受けておりますし、市単災害といたしまして約四百件、八千万以上の被害をこうむっておりますが、これが応急対策につきましまして、特に七月七日の災害につきましては、すでに既決予算をもって応急の処置を完了いたしておりますが、今回の災害につきましても鋭意努力をいたしております。現段階での応急復旧は、国災で約七〇％、市単災害で約五〇％の復旧を満たしております。なお、県管理関係の分につきましても、鋭意県当局にお願いをいたしまして、すでに七、八〇％の復旧を見ているやに報告を受けております。私どもも、今後のこの災害につきましましてさらに努力をしてまいりますとともに、国災関係につきましまして二十五日までには一切の書類をつくり上げて、国に対する査定の申請をいたしまして、十月初旬には国の査定を受けて、抜本的復旧を進めてまいりたいと考えております。

なお、各河川についての問題のご指摘でございますが、河川の維持管理等につきましては、すでに当初に二千万、なお今期予算としてさらに補正をお願いいたしておりますが、私どもは河川の重要性を考えまして、計画的にこの実施を進めてまいりたいと思っております。

なお、ご指摘のありました十四川改修につきましては、すでに四十五年に延長二百七十九メートルの改修をいたしておりますし、四十六年にも引き続き改修をいたしております。なお、今後とも計画的に四十七年、八年と改修を進めてまいりたいと考えております。

米洗川につきましては、下流については耕地の改修が行なわれておりますが、上流部分につきましては、なお千数百メートルの要改修箇所はあると考えてまして、これに対しても計画的な改修を進めていく所存でございます。

そのほか、春雨、小池あるいは先般の問題にありました河原田の谷川等、諸々河川の改修を進めるとともに、またすでに行なっております竹谷改修、これは景管理河川でございますが、こういう河川につきましても、県とよく協議をし、災害並びに関連による復旧を考えておりますし、今朝来の質問に助役からも答えておりますが、鹿化川上流等につきましても、今期災害を含めて災害因遅等による抜本改修を考えてまいりたいと思っております。

なお、国の一級河川、あるいは県の管理する中小河川につきましても、ご指摘のように上流地域の開発その他の問題がございますので、市といたしましては開発指導の要綱をもちまして、特に市街化区域の開発については適切なる指導を考えてまいりたいと思っておりますし、また山くずれその他の問題につきましても、今後鋭意検討を加えて、事前の防止策を考えてまいりたいと思っております。また急傾斜地につきましては、ご存じのような法律に基づきまして、国四〇、県四〇、地元二〇の負担をもって改修が進められることと相なっておりますが、昨年に引き続き本年も急傾斜地の改修を進めてまいりたいと考えております。

以上で、簡単ですが説明にかえさせていただきます。

○議長（日比義平君） 下水道部長。

〔下水道部長（天野助春君）登壇〕

○下水道部長（天野助春君） 都市下水路の促進でございますが、特に北部につきましては、朝明都市下水路が昨年度から実施いたしましたして、本年も引き続き工事を進めておるわけでございますが、この全部の工事が八億一千万円、水路の延長が四千三百メートルに及ぶわけでございまして、受益面積は三百三十一ヘクタールでございます。それに、最終的にポンプを増設いたしまして、千二百ミリのポンプが二台、千四百ミリのポンプを二台設置いたしましてこれを排水するわけでございます。昨年度三千一百万の補助金がつきまして九千三百万円の事業費、それから本年度は三千三百万円の補助金で九千九百万円の事業を進めておるわけでございますが、この調子でいきますと六年ぐらいかかるわけでございますので、これを早期に完成するように一段の努力をいたしていきたいと存じております。

先ほどご指摘ありました七百万円減額しておるではないかということでございますが、当初四千万円の補助を見込みまして一億二千万の事業を見ておったわけでございますが、三千三百万の国庫補助が決定いたしましたので減額したわけでございますが、なお国のほうで補正を組まれるというのを聞いておりますので、本市といたしましても、朝明都市下水路になお二千万程度の国庫補助を要望しておるわけでございます。これはまだ確定しておりませんが、確定いたしましたら、また次の議会に追加要望させていただきまして、その朝明都市下水路の促進に一段と努力していきたい、このように思います。

それから、北部の浸水の原因でございますが、特に天カ須賀の地区については、一番長い間湛水しとったという状況でございますが、これは朝明川の上流で降雨量が多かったということで、朝明川の増水による浸透並びに朝明

川の破損による浸水、それから宅地並びに工場の埋め立てによりまして、いままで水遊びであったところが開発された、それから工業用水のいまでもよりもふえておるといふ原因、それから先日第十三号の台風では、潮が小潮であったというのが大きな原因であります。その他にも原因ありますが、いろいろ究明いたしまして、その対策を、抜本的な対策を講じていきたいと、そのように考えておるわけでございます。

それから、羽津都市下水路、雨池都市下水路につきましても、一日も早く完成するように一段の努力をしていきたいと、このように考えておるわけでございます。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 災害救助法の適用につきまして、よそが一日に適用されたのに本市がおくれた理由というところでございますが、災害救助法によりまして、人口十万人から三十万のところは住家の被災世帯が百世帯以上ということになっておるわけであります。ご承知のように、災害救助法は人が対象になるわけでございまして、いわゆる住家を含めて人が対象になるわけでございますが、被災世帯と申しますのは、全焼、全壊、流失等をいうわけでございますが、その他の場合は換算率があるわけでございます。たとえば、床上の場合は被災の三分の一といふことと換算すると、あるいはまた半壊、半焼のような場合は二分の一で換算してやろうと、こういうことでございまして、三百に到達すると三分の一をかけて百世帯ということになるわけでございますが、私のほうが三百以上つかんだ時点が一日でございましたので、その時点で申請を申し上げたと、こういうことでございますのでご了承を願いたいと思います。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） ただいまご質問の中にございました低地帯に居住しておる住民の方々が地上げをすると、そういうご希望があった場合に、それに対して市が融資その他援助をしろというお話でございましたが、単独で市費をもって融資をするということは、現在の時点では不可能であろうというふうに考えております。ただ現在市にあります制度融資の範囲で、いわゆる方々については拾っていくと、なおそのほか金融機関でやっておりますいろいろな融資制度については、できるだけ相談に応じましてご援助を申し上げます、かように考えておるわけでございます。それで、現在はそういった低地帯の方々の地上げを考えると、むしろ排水ということに力を入れて考えていきたいと、かように考えておる次第でございます。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） ただいまご質問の中で、水害の危険箇所とがけくずれ関係につきまして私から申し上げたいと思います。

水防法並びに災害対策基本法の規定によりまして、市では毎年水防計画等地域防災計画を定めることになっております。その中で水防の危険箇所としましては、市内にはご承知のように一級河川鈴鹿川、その水系が四河川、二級河川は朝明川、海蔵川、三滝川等の水系が八河川でございますが、その中で重要水防区域並びに危険箇所の指定は、四十三カ所いたしております。

次に、がけくずれの関係でございますが、四十六年度の地域防災計画を定める中におきまして、特にこの急傾斜地の指定等の事項を追加いたしまして、警戒並びに避難体制の確立を特に定めたのでございます。現在市内におきます急傾斜地の崩壊危険区域として指定されておるものが、大矢知の垂坂町ほかに二カ所ございます。並びに同申

請中のものが、西日野町ほか九カ所ございます。

○議長（日比義平君） 出井博君。

〔出井 博君登壇〕

○出井 博君 それでは、三点についてご質問申し上げます。

先ほど中島議員のほうからご質問がありましたドル・ショックによる産業政策と市の対策でございますが、この問題については重複いたすと思いますが、われわれ労働者にとっては非常に大切な問題でございますので、重複する点がございましたら、その点は避けてご答弁をお願いをしたいというふうに考えております。

わが国に黒船の渡来以来の大きなショックだといわれたニクソン米大統領のドル防衛策に関する声明は、輸出に重点を置くわが国の産業、特に中小企業、またそこに働く労働者に大きな障害を与えたのであります。輸入課徴金や、避けることのできないといわれます円切り上げなどで、大企業におきましても、来春卒業予定の中、高卒者の採用予定人員の削減、生産量の減産等を打ち出しまして、本格的な不況防衛策を検討し始めているのが現況でございます。

特に四日市におきましては、先ほども中島議員がおっしゃいましたように、生産量の六〇％を輸出に依存しております。陶器業界及び繊維産業におきましても、中小企業が大部分を占めており、不況の長期化必至という見方を強めておりますが、市としては、こういう産業への政策及び対策、その他調査されました内容、金融方面の融資援助、またそこに働きます従業員の生活の問題などを具体的にご説明をお願いをしたいというのを申し上げます。

それと同時に、一例を申し上げますと、四日市に主力を置きます大繊維産業の実例を申し上げます。年間二百億の売り上げがございますが、そのうちの約三〇％を輸出に依存しております。これは金額にいたしますと、約六十億円でございますが、一二・五％の円の切り上げということで考えまして、これを単純に考えますと、約六十

五億円の影響を受けるわけでございまして、その企業におきましては、その六十五億円という金額は、約四カ月分の従業員の支払い賃金に匹敵するというのが現状でございます。こういう中で、先ほどの一議員のほうから質問がございまして、市長のほうからお答えになりましたオーストラリアパビリオンの建設の問題でございますが、各企業から二億円の寄付を仰ぐということでございますが、おそらくこの大きなショックによりまして、各大企業におきましてもあらゆる経費の節減等を実施する中で、はたしてこの寄付金が予想どおり集まるかどうか、その見通しについてもお聞きしたいと思っております。

第二番目は、市庁舎建設の際に市長さんは、行政水準を下げないというふうにおっしゃっておりますが、今後四日市港を見ましても、原毛、原綿の輸入の減少、また輸出の減少もあります。自然的に税収入の不足が見込まれると思いますが、今後四日市の学校の建設、道路、下水等、市民の要求いたします多くの対策についてどうするつもりなのか、この点について明快なご答弁をお願いしたいと思います。

三番目につきましては、パビリオンをつくることによって市費、これは管理組合の所管でございますが、この費用が使われますが、もっとこういうものに便わずに、市民が要求しております緑地化とか非常に高い、高度な面に使おうべきではないかというふうに考えますが、この点についてもお答えを願いたいと思います。

四番目は、特に中小企業に働いております労働者の生活資金の面でございますが、万戸陶材といえますと、一番大きな企業でも五百人足らずでございます。小さな企業になりますと、家内作業で親子でやっておるというところもございますが、そういう方々とか、中小企業に働いております労働者の方々のために、労働者信用保証協会というのが、県とか上野市、津市等では、これに市が資金を出しておりますが、四日市も出資いたしまして、これらの人たちの生活維持のための助けにすべきだというふうに考えますが、この点については、革新クラブのほうから岩野助役、厚生部長に申し入れがしてございますが、具体化してございせんが、その点についてどのように

お考えになったかと、またこれには融資を若干していただきますが、すぐ引き出すということで、当面何か便宜上やっておるような点がございしますので、この点についても明快など回答をお願いしたいと思います。

第二点目は、近鉄内部線の高架乗り入れについてでございます。

近鉄内部線沿線におきましては、近年南部地区の住宅が急激に増加いたしましたして、内部線利用者の一日平均乗者が七千九百五人、降者が七千八百五十五人で、計一万五千七百六十人です。これは内部線沿線の赤堀、日永、南日永、泊、追分、小古曾、内部の七駅ということになりましたが、これにつきまして、近鉄高架事業の内容におきましては、内部線が高架線乗り入れ計画より除外をされておりますが、将来は八王子線同様廃線を前提とした計画ではないかということで、この問題については、昨年度来増山、岩田議員を中心にして期成同盟が結成され、いろいろと陳情されておりますが、こういう問題につきましては、内部線利用者におきましては不安を持っておりますが、市としてはこの件について近鉄当局と話し合いをなされたことがあるかどうか、また市としてはどのような考え方を持っておられるか、また前向きにこの線を廃線しないような運動をしておられるかどうか、非常にわれわれも、私も内部線を二十数年利用しておりますが、いまの車両を見ましても、冬は冷蔵庫に入っておるような車両であり、夏は虫に食われておると、それでも料金は一緒だということでございますが、この点について市としてはどういふふうに考えておられるか、また八王子線についても、三十九年に廃線の方針を決定しながら、以来七カ年の経過をしてもまだ解決をしないという事態が起きておるわけですが、この点について市の近鉄と話し合われました内容についてご説明をお願いしたいと思います。

第三点目は、学校給食費と給食設備についてでございます。

学校給食費につきましては、昨年度低学年九百五十円、高学年千円に値上げされました、また今年も、月額千百円の値上がりとなるように新聞紙上には書いてございますが、毎年値上げされてきて、各父兄の負担が重くなり、で

きれば市費で負担してもらいたいという意見がかなりありますが、今後値上げ分について市費負担はできないかどうか、これも三月議会におきまして小井議員のほうから質問があったときに、市では負担ができないということでありましたが、市としても、非常に各市に比べて税収入の多い四日市としてできないものかどうか、前向きの姿勢で検討されたかどうか答弁を願いたいと思います。

また旧年学校校舎におきましては、市長をはじめあらゆる理事者議員の方々のご努力によりまして、逐次整備拡充、充実されつつありますが、学校給食室の整備についてはかなり老朽化しておりますので、給食設備の近代化を要望してございますが、具体的な方針と対策についてご説明を願いたい。

また給食センターの構想は、その後どうなっておるかということでございます。それと同時に、給食設備の問題についても、学校の先生とか教育者とその設備を見ただけではいかなので、やはりそういう専門的な技術屋を雇いまして、最近技術革新は日進月歩で進んでおりますので、そういう技術者の採用をし、いろいろ老朽化しておるのはしたなりに、発明改善をしながらそれを改善し、なるべく有効適切に使うような方法をとるかどうか考えていただきたい、ご答弁を願いたい。

それと、今後こういう問題について市としては、発明改善提案制度というようなものを設置して、いろいろなものを検討しないかと、これは給食設備だけじゃなしに、水道、下水道問題、土木問題、また清掃作業問題、そういうものについてもひとつ関連的にご説明をお願いしたいと思います。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） お答えを申し上げます。

ドル・ショックによる産業政策という問題でございますが、先ほど若干の問題につきまして私並びに阿南産業部長からお答えを申し上げておりますが、この変動相場の現状は、まことに浮動的と申しますか、不安定な状態でございまして、事実この変動相場になってからは、通常ベースにおける輸出実績の一〇％ぐらいしか商談が成立しておられないというような情勢であるというように聞いておりますが、ともかくこの変動相場ができる限り早く固定化する必要があると、またこれは、単なる市あるいは県の問題ではなくて、国全体の経済政策の問題との関連においてやはり解決されなければならない問題である、さように考えております。したがって、われわれにとって最も大きな問題は、変動相場以後の景気の動向がどういうぐあいになるかということと、消費材等の価格動向を通じて消費生活への影響がどういうぐあいになってくるかという、この二点が私は一番大きな問題ではないかというように考えております。先ほどから金融あるいは雇用等につきましては、阿南部長からお答えを申し上げたとおりでございますので、今後のこの変動相場の固定化の動向、あるいは国の経済政策等の観点からからみ合わせて、われわれとしてもできる限りの努力をいたしたいと、さように考えておるわけでございます。

バビリオンの問題でございますが、バビリオンの寄付金は、お説のように非常にこの経済状況の中にあつてはむしろかしい情勢でございますけれども、一部の会社におかれましては、あれどうだと、早くやらぬかというような催促も承つておるわけでございまして、われわれといたしましては、このバビオンが単なる記念館というだけのものではなくて、やはり市民全体が公園の中における一つの立体的な景観として市民が愛用されると、そういうようなものにぜひともしたいというように考えておるわけでございまして、市民全体のものでこれが公園の中の一つの休憩所、あるいはまた食事のできるようなところというようなものとしてわれわれは活用させていただきたいと、さように考えております。

行政水準の問題でございますが、学校、道路、下水等につきましては、われわれは決して行政水準を下げるよう

なことはしないということは前々から申し上げてきておりますけれども、道路につきましては、申し上げましたようにおもなる市道を四十七年、八年、二年で舗装を完了したいと、また下水道につきましては、朝明下水道等につきましては六年間かかるやつを一応二年間で、国の承認を得られたならば二年ぐらいでこれを完了したいと、さように考えております。

ほかの問題につきましては、担当者からお答えします。

○議長（日比義平君） 岩野助役。

〔助役（岩野見齊君）登壇〕

○助役（岩野見齊君） 勤労者信用基金協会への出資につきましてお答えいたします。
市役所もまた、ドル・ショックの圏外にはあり得ないと思っておりますので、非常に苦しい時期に入るとは思いますが、それでも、できたら十二月の議会に提案させていただきたいと思つて努力します。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） 近鉄内部線の問題についてお答えを申し上げます。

元来鉄道高架事業というのは、昭和四十四年の九月に運輸省と建設省との間で鉄道高架事業に関する協定というものがございます。それに基づいて国の補助事業ということで事業化が決定されたわけでございます。そして、当市におきましては、当初この鉄道高架事業によつて稲葉町一内部線の混雑を防ぎたいというふうに考えておりました。たまたま道路局長が四日市へ視察に来られたというような時点を契機といたしまして、この高架事業の推進に努力をするということになったわけでございます。したがって、初めは三滝川以南国道一号線まで約一・五キロだけを考えたおったわけでございますが、その後住民の方々の意向もございまして、確かに三滝川以南という

ことでなくて、海蔵川から以南国道一号線までを高架しようということで、県、市の間で、この海蔵川から国道一号線までを取り上げて、国に対して働きかけるといふ運動を展開してきたわけでございます。現在の段階では、一応国が認めておりますのは、三滝川から国道一号線までの間と、なお湯の山線の一・一キロという、中川原の駅の手前までの間が国のほうで認められておるわけでございます。

そこで、内部線の高架については、関係の住民の方々から非常にご熱意ある陳情が出されております。このため私たちも、県とともに国へ働きかけを行なったわけでございますが、あまりこの問題を強く主張しておりません。本線の高架がおくれるというよりな心配もございましたので、一応この問題については、国のほうへの働きかけを一時中止しておるといふのが現状でございます。国に対する全国からの要望が非常にたくさん出ておるようでございますので、現在の内部線の容量といえますか、単線であり、さらに狭軌道であるというようなことから、それをそのまま高架してくれという要望を国に出すことは、必ずしも現在の時点ではプラスではないんじゃないかと、こういうふうに考えておるわけでございます。

なお、八王子線の廃線の問題とこの内部線の問題とをからみ合わせて考えるというようなことは、私たちとしては持っておらないわけでございます。したがって、現在そういうことについて近鉄当局と話し合いをしたことはございません。

八王子線の廃線については、きょうも新聞に出ておりますけれども、現在廃線にかわるバス運賃の問題について、地元の代表の方々と近鉄あるいは三重交通当局等と折衝中でございます。これは、早急に結めて結論が出されなければならぬというふうに私たちとしても考えておるようなわけでございまして、内部線の問題を、この八王子線の問題と同様には考えていないということだけは申し上げておきたいと存じます。

お答えにならなかったかもしれませんが、内部線の乗り入れについては以上のとおりでございます。

○議長（日比義平君） 教育委員長。

〔教育委員長（森 幸雄君）登壇〕

○教育委員長（森 幸雄君） 学校給食費の値上げに伴います値上げ分を、市費負担で持ったらどうかというお説と、給食設備につきまして、老朽化、狭隘なもの等につきましては近代化の改修をはかっていく、さらに従来唱えられております給食センターがどうなっておるか、その考え方等に対するご質問だったと思います。

まず、学校給食費の値上げにつきましては、六月の審議会におきまして前の教育長より、給食費の値上げにつきましては、基準栄養価六百五十キロカロリーを確保するために、どうしても近き将来に踏み切りたい考えを持っておるといふことをお話し申し上げたわけであります。市内の二十小学校一分校におきまして、十月一日から給食費を児童一人当たり月額百十円値上げしまして、ご指摘のように低学年は従来九百五十円のところを千六十円、高学年におきましては千円を千百十円に改定しようとするものであります。

ちょっとこれにつきましてご説明申し上げますと、この値上げの理由としては、パンの加工費一食当たり一円五十一銭の値上がり、さらに従来コッペパンを主食としておりましたのを、児童の食欲の増進、嗜好の問題等とさいまして、食パン、黒パン、ブドウパン等に切かえていくと、こういった内容の改善とその充実のために一円六十銭、合計パンにつきまして三円十一銭の値上がり。牛乳は、四十六年六月一日より一円九十九銭の値上がり。さらに副食材料につきましては、諸物価の高騰五割をみまして一円八十一銭。合計一日当たりが六円九十一銭の値上がりとなりまして、月間十七回の給食ということで百十円の値上げに踏み切ったようなわけであります。

まあ参考までに本県におきます他都市との給食費の比較を申し上げますと、津市におきましては、低学年が千二十円、本年度百九十円の値上げであります。高学年が千百円、二百円の値上げをはかっております。松阪市におきましては、低学年が千十円、六十円の値上げであります。高学年が千五十円、百円の値上げとなっております。伊

勢市におきましては、現在この秋ごろより百円から百五十円の線において値上げをはかつていきたいと聞いております。隣の桑名市におきましては、低学年が千五十円、百八十円の値上げをはかっております。高学年におきましては千三百三十円、百九十円の値上げとなっております。こういった事情をもちまして、今回すでに学校長並びにPTAを通じて、この値上げの措置につきましてはすでに了解を得ておるような次第であります。

これらの施設を、四日市は財源に恵まれておるので、前向きの姿勢で公費負担にしようかというご意見のようでございますが、委員会としましては学校給食法第六条及び施行令によりまして、学校給食に要する経費は、学校給食を受ける児童または生徒の保護者の負担とするというはっきりした負担区分の基準によりまして、すでにPTA等の了解も得て、公費負担をせずに父兄負担ということで現在通達を出し、この方針に沿っておりますので、現在のところで公費負担の意思を持っておりません。

ただし、ここで申し上げたいのは、本市におきましては、給食の燃料費につきましては本年度から一日当たり六十銭、これは燃料費の約二分の一に当たりますが、この六十銭を公費にて支出してある点を一言申し上げたいと思います。

次に、給食設備の近代化、改修の点であります。給食設備につきましては、ご指摘のありましたように年々必要を補修を行ないまして、施設の維持につとめてまいりましたが、その用途上、他の物置き等の木造建築に比べまして、非常に損耗がはなだしいようでございまして、現在建築経過年数の最も長いものが二十四年、短いものが二十四年、短いもので五年、平均が大体十四年となっております。児童数等の増加によりまして狭隘な地区も出てきております。数校でございまして、老朽、狭隘化等の点から新しい整備計画を検討を進めておりまして、給食センターの問題もございしますが、当面は改善を要するような施設につきましては、その配置とか構造の面で弾力的な活用を考慮に入れまして、優先的に整備をしていきたいという考えを持っておりますのでご了承を得たい

と思います。

なお、給食センターについてどうなっておるかというご意見のようであったようでございますが、まあずいぶん長くからこの問題は叫ばれておったわけなのであります。委員会としましては種々検討を重ねつつあるわけでありますが、現在のところの概略の構想としましては、時間の関係、あるいは地理的環境を見まして、センターを四日市市に、南部、中部、北部と、まあ三カ所が必要でないかというような考えを持っております。まあこれらを総合して、同時に建設いたしますと、約十億の経費が要するのではないかというような試算に立っております。これらを勘案しますと、現段階におきまして教育投資効果としてはたして教育効果の優先面からいづれをとるかという大きな問題がございまして、この問題につきましては、近い将来さらに委員会内におきましての考えをまとめまして、中学校の完全給食の問題と同時にこれは解決すべき問題じゃないかと思っております。で、私個人の意見としては、やや将来の問題になるのではないかというような考えを持っております。近い将来におきまして、この問題につきましては早急な結論を出したい考えであります。現段階におきましては、以上のご答弁にかえさしていただきます。

○議長（日比義平君） 出井君。

〔出井 博君登壇〕

○出井 博君 私を持ち時間、だいぶんございますが、議会運営委員会の決定によりまして、時間を厳守するのが議会政治の民主主義だというふうに考えますので、簡単に要望事項を述べまして終わらしていただきたいと思います。ですが、先ほど加藤助役さんのほうから近鉄高架の問題についてるご説明がございましたが、この内部線の問題につきましては、名古屋本線の高架化がございまして、この起工式を行なった後に内部線の高架問題については前向きの姿勢で取り組むということを前の議会で言明をしておられるように聞いておりますので、今後ともよろしく前進、

前進で、前向きの姿勢で、廃線にならない方針でひとつと努力を願うことを要望をいたしておきます。

第二番目は、市長さんのほうから説明がございましたが、非常に税収入などで市の財政も苦しくなると思いますが、でき得る限り行政水準を下げないように、万全の対策をとっていただきまして、ご努力を要望する次第でございます。

また教育長のほうから説明がございました給食設備の改善につきましては、これも前向きの姿勢で改善と取り組んでいただいて、改善をするなり、または新しい近代化をするなり、いろいろな面についてご研究、ご検討を願ひまして、逐次議会におきましてそういうご説明をしていただきますように、いままでの議会の様子を見ておりますと、検討、研究をするということ二年も三年もたっております。こういうようなことが企業でやっておりますたら、その企業が全部倒産をしていくというのが企業のきびしい実態でございますので、市の行政としても、そういう面についてはでき得る限り早く、一日でも早く、新幹線よりも早く前進するような方法を講じていただきますことを要望いたしまして終わらせていただきます。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩いたします。

午後四時六分休憩

午後四時十六分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

喜多野君。

〔喜多野 等君登壇〕

○喜多野 等君 一般質問の発言要旨に従いまして、質問をさせていただきます。

第一に、基本計画案に対して今後どのように進めていかれるかということをお伺いしたいと思います。

われわれの革新クラブといたしましては、三十八年来より四日市市としての基本構想樹立をいたしまして、そしてその基本構想に基づいた具体的プログラムを設定することによって、それに対して計画的な予算を配置をして、実施をしていくというようなことを、実施はできないかということ、再三にわたって各議員のほうから申し述べてきたわけでございます。しかし、まあ市の幹部の皆さんにおいては、なかなかこういうような計画を立てるというのをきらないようですので、なかなかこのようなことは進みませんでした。しかしこういうような計画をやっているかないと、今後においての県においても、市においても、地方財政においても、行政というのは非常にむずかしくなってくるのではないかと、このように私たちは考えるわけでございます。なお、非常に最近においても請願とか陳情とか、あらゆることを行なわれておりますが、そういうことも計画的に基本構想に基づいた実施計画のプログラムが出れば、市民のほうもどういうように市の行政が行なわれるかということが一目より然でわかるわけでございます。また何年度にはどの地区のどういうような仕事が行なわれるかということもわかるわけでございます。当然市長の政策として、やはり市長にそういうような一つのプログラムを示すということは、非常に大切なことではないかと、このように考えるわけでございます。たまたま、新都市計画法が実施されるに至り、市街化区域、調整区域を決定し、また線引きが実施されてまいってきております。これはどういうことかといいますと、この線引きされた市街化区域の中に入っている人たちの中においては、私権の制限というものをされております。ですから少なくとも私権を制限し、またそれに大きな線引きという役割を掛けて、そしてその中に住まわしてあるわけでございます。今後各個人において調整区域のところに家を建てて出るということも、今後ではできにくい、またできないと思います。そういうような条件下にある市街化区域の中においての問題点として、私は市長にほんと

うに今後市街化地域の中における実施の具体的な計画案というのはどうかと。少なくとも最低五カ年程度の年間の実施計画を提示して、これに向かつてやはり市の理事者は全力投球をしていくというような、少なくとも考え方や抱負を示すことが必要ではないかと、このように思うわけでございますが、市長としての考えを承りたいと思います。

第二点といたしまして、下水の計画でございますが、この点につきましては、いろいろ伊藤さんや橋本議員のほうから質問がされておりますが、簡略化したしまして簡単にお答え願いたいと、このように思います。南部、中央、北部というふうに三つくらいに分けてまして、この排水計画というのは基本幹線の排水をどこに求めて今後いくのかというような問題について、お答え願いたいと思います。

少なくとも基本の幹線をもって排水を設けていかないと、非常に今後の排水計画というのはむずかしいんではないかと思えます。現在においても、もう常に水がつくところは、毎年毎年水がついて、その処理ができ得ないというのが現状でございます。先ほど各議員が申し上げておりましたように、現在の人口が東のほうの海岸線から西のほうに移行いたしますので、当然住宅の開発も行なわれます。山間部も開発されます。そういうことによって道路等の設置というのは、当然通行しなければならぬから考えられるわけでございますが、雨水の処理というような問題については、具体的に直接その影響はないわけでございます。またすぐ即時というようなことも少ないわけでございますので、どうしても置き去りにされて、その計画が旧来のままの計画で実施をされていくと、そういうことになりまして、排水筒自体が旧来のままの水の収収の排水溝でございますので、当然山を切り開いて、また家庭用水等を流し、また雨水の集積場がなければふん詰まりになって水はたまります。水は高いところから低いところに流れますので、高いところに住居をかまえておる方は大きな顔してきょうも雨が降ったかと、こういうようなことで事は済みますが、低いところに住んでおる者は、あまたあしたも雨が降るんではないか、雨が降

ったらどうしょう、雨が降りだすと市会議員はどうしておるのや、市会議員はおこられる。市会議員はおこられるとしゃくにさわるから市へ来て、市の理事者に、おまえ何だと、こういうようにどなる。どなると市の理事者はつらい顔をする。こういうことが何回も何回も何年も繰り返して、もうこんなことを言ってもしょうがないわというような、不信心といってもしょうがないと、まだしかし、住民はそういうことでは問題の処理はできないわけなんです。ですから、そういう点について市民はどう言いますか。市会議員さんはいいわな、四日市の今の市の庁舎は十一階かなんかで、十六億ぐらい金をかけてやるそりやの、おれらのところはいつも水びたし、まあ四日市もいろいろあるもんやな。これでは住民のほんとうに信頼ある行政というふうには私はとれないと思います。ですから、少なくとも市の行政をやる限りにおいては、やはり市民に信頼されるほんとうに喜ばれる行政をしていただくということが大切なことではないかと思えます。

くどく申しませんが、少なくともこの基本幹線の排水溝をどのように実施をし、そして今後、水がつくようなこととはなないようにするという原案を提示願いたい。以上が下水の問題でございます。

次は、開発計画についてでございますが、開発計画は、一応最近要望等というものを、土木のほうですか、そういうような計画的な要綱を出していただきましたので、その要綱に従ってやっていけばいいのではないかと思うんでございますが、少なくとも非常に海岸線から西部の丘陵地帯へ人口が非常に移動いたしております。その移動の状況はどうか、そこらの点についてもいろいろお伺いしたいわけでございますが、なお、近年生糸のほうに二十万坪程度の住宅がつくれる話もお伺いしておりますが、このような住宅を多く設計する場合に対しての排水とか道路の行政とかというのは、常に並行的に問題として考えられない。そういうものは並行的に問題として処理されない。そういうことがいろいろな問題点を新しい地域社会につくり上げておる。このようにも考察できるわけでございます。ですから、そういう問題については、あくまで基本的に総合的に問題をまた解決をしていくということ

がないと、それは西部のほうはほとんど高地でございますので、東部の海岸線に住んでいる者は、いつまでたってもその水を受けて、その水に泣いておらなきやならないと、こういうことになります。こういう点について十分なる案を示していただき、そしてこういう開発行為というものをやっていかなければならない、このように考えておるわけでございます。公園等においてもそうでございます。少なくとも市街化地域の中においての今後の公園、そういうものをどのようにつくっていくのか、というような点等については当然出されていかなければなりませんし、また出して当然だと思えます。そういうものも全然、新都市計画が出されても、従来のままの状態で推移しておるということについて、非常に疑義を感じるような次第でございますので、そういう点については、一応担当のほうからのご答弁でもお伺いしたらけっこうだと思えます。

なお、一つつけ加えますが、近鉄高架が四十八年度ぐらいにでき上がるようなお話でございますが、これにつきまして、やはり七十メートル道路が近鉄を通過することになりますと、当然近鉄駅の西のほうの西駅の開発が相当大きな問題になってくると思えます。西のほう全体の開発を行なっていくという面と、その交通的な関係、また住民が集まるというような点でどのような形態に展開されていくのかどうか。また、四十八年に時間はありますが、そういう面の展望、計画等についても少しお伺いしておきたいと、このように思います。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 第一点の基本計画についての進め方をどう考えておるのかということについて、お答えを申し上げます。

私は、四十四年度の議会におきまして、秋の議会だったと思いますが、基本計画案を、総合基本計画案を四十五

年度中にかかって作成をして、四十六年度を初年度として実施する目標のもとに総合計画案をいたしたいということとを申し上げ、岩野助役をキャップといたしまして委員会を構成して、約二年間ぐらいにわたっていろいろ審議をしてきたわけでございます。従来基本計画と申しますものは、新々の官僚であるとか、あるいは大学の先生等に委託をいたしまして、基本構想あるいは基本計画というものを練られてきたわけでございまして、四日市の過去の計画におきまして、そういう傾向でございました。しかしながら、われわれ当初からそういうその土地感のないよその人に頼むよりも、現実について各議会において皆さんのお声を聞き、かつ商工会議所、あるいはその他のいろいろの婦人会、各団体からいろいろの声を聞いて、実際に実務を携わってあるところの部課長を中心として基本計画を進めようではないかという構想のもとに進めてまいりました。この三月の初に完成をいたしまして、三月議会に計画案を提示したわけでございますけれども、四月には議会の選挙もあることだし、五月には市議会議員の選挙もあることだし、議会が済んでからにしてみたいというような強いご要望がございまして、われわれはその基本構想を引っ込めたわけでございます。この考え方につきましては、約十カ年間計画の基本構想、五カ年計画の基本計画、三カ年計画の実施計画の三部門に分かれておりまして、まずわれわれはこの十カ年の構想の基本構想というものを提示させていただいて、皆さん方のお手元に配らせていただいたわけでございますけれども、最近これを振り返ってみますときに、この四十二年度から昭和四十四年度ぐらでは、異常な世界の人が驚くほどの経済成長を達成いたしました。したがってこの間におけるいろいろの民間の設備投資、あるいは公共投資とのいろいろのずれだとか、そういうことは非常にやかましくいわれましたし、この経済成長、そして四十五年度からの経済不況、さらに四十六年のこの九月以降に予想されるところのさらにこの大きな経済的な不況並びに変動というものを考えますときに、現実とのずれはまことに大きなものがあると、さように考えられます。このような大きな現実とのずれとの中にあって基本構想をどういうぐあいに考えていくのかということにつきましては、人口学等につきましては、

そう変わらなくても、財政のワクというものについては、非常に大きな考え方が違ってくるのではないかとというようにも考えられます。したがって今後この四十七年度以降においては、ほとんど設備投資というものはなされないだろうということが予想されておりまして、この経済不況を切り抜けるためには、公共投資をうんとやって、この経済の建て直しをしなければならぬんじゃないか、しかも民生の安定をし、福祉行政を充実するためには、やはり公共投資を民間の設備投資にかわって、公共投資でこれをまかなっていくべきであるというようにことがいわれております。したがって、この現実との大きなずれというものを考える場合に、基本構想等につきましても、非常にむずかしいものがあるというように考える次第でございますが、現実は何年にどういう学校が建ちどくなるんだということは、さらに末の実施計画の段階においてこれは審議されるものでございまして、いろいろ皆さん方におかれまして、どの学校が一番先になるんだとか、あるいは下水道、道路舗装等についてもどの順位でするのかということにつきましては、非常に問題があらうかと思えます。したがって、われわれが皆さんに提示いたしましたのは、最も基本になるところの十カ年後にはどのような人口形態になって、どのような財政構造になるのかというあらましの基本構想的な、あくまでも基本的な四日市の十年後の姿というものを描き出した構想を提示したわけでございまして、実施計画とまではいかなかったわけでございます。今後この現実との大きなずれが考えられる中であって、いかにこの基本構想の中に基本計画を練り込み、かつ実施計画を作成していくかについては、今後とも皆さん方のご意見を十分拝聴したうえで処理をいたしたいと、さように考える次第でございます。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） ご質問の第二点の下水道の計画についてお答えを申し上げます。

確かに現状はご指摘のありましたとおりでございまして、しかし担当といたしましても、できるだけ早くこうい

う事態をなくすように努力をいたしたいというふうに考えておるわけでございます。

そこで、中央地区については、いわゆる公共下水道を昭和五十二年までに日永処理区、約八百二十八ヘクタールを完成をするということになっております。それから中央地区を除いた、富田、富洲、羽津地区、それからさらに南部の地区については、それぞれ幹線都市下水路を、五カ年で整備をするべく努力をいたしておるわけでございますが、北のほうから順序を申し上げますと、まず一番北にけさほど来から問題になっております朝明都市下水路の完成を早くいたしたい。これは四十五年から五十年までの六カ年計画でございます。したがって予算が、国のほうで認められる予算がちびちびと認められてまいりますので、なかなか進捗をしないということでございますので、この際、来年度はできれば近鉄線までの水路とポンプ一台を認めてもらうように国に対して働きかけようということとでございます。すでにこの件については、県のほうにも陳情してありまして、十分県知事以下関係土木部長にも徹底しておりますし、先日建設省の上田政務管が参られました際にも、市長から詳しくご説明をしております。おっかけ陳情を国に対して働きかけまして、できれば近鉄線までの間を完成を早期にしたいというふうに考えておるわけでございます。

それから富田地区につきましては、それぞれ幹線都市下水路を指定をいたしまして、そののしゅんせつ掃除を早急に完了をいたしたいと思っておりますが、そのほか東洋紡績の富田工場の東のポンプ場の能力が不足をいたしておりますので、ここに水中ポンプ一台、さらに茂福のポンプ場についても六百ミリが二台、千ミリ一台、六百ミリ二台という構成になっておりますが、そのうち六百ミリのポンプを一台、できれば八百ミリにかえたいというふうに考えております。

さらに羽津の地区におきましては、三重橋、垂坂線沿いに羽津の幹線下水路を早期に完成していきたいというふうに考えておりますし、現在のポンプ能力千三百、二台では、これが完成した暁においては、不足をいたしますの

で、さらに七百あるいは千二百のポンプ二台を四十七年度に国のほりに要望いたしたいというふうに考えております。

それから南へ下りまして、南ではまず第一番に、一番必要な幹線水路は、けさほど来ご説明申し上げました雨池の都市下水路でございますが、これの改修並びにポンプの増強、それからさらに塩浜の中央クリーク及び第二クリークでございますが、このうち中央クリークについては、けさほどご説明申し上げましたように、千四百のポンプを一台増強をいたしたい、かように考えておるようなわけでございます。

いずれも各低地帯におきます都市下水路の幹線水路というものを指定をいたしまして、現在四十四年からこの都市下水路の整備にかかっておるわけでございます。しかしながら、国のほりの予算が、都市下水路について認められるようになりしたのは、四十五年度でございましたので、当初考えていたスピードにこれがのっていかない、ということから、皆さまで方に迷惑をおかけをしておるといふ結果になっておるといふふうに考えますが、今後は、公害防止計画の中にも都市下水路整備費として十五億九千五百万というような数字がのせられておりますし、それは建設省のほうでは、この予算を受けて四日市の地域に対しまして予算配分を行なっておりますので、四十六年度については、当初雨池の都市下水路と朝明の都市下水路だけでございますが、今後こういった認められた予算を、できるだけ四十七年度以降において多額の予算を具体化してもらいように国に働きかけて、都市下水路を整備をしていきたいというふうに考えておるような次第でございます。もちろん、それまでの間、この公害防止計画の完了が五十年でございまして、それまでの間、現在のような状態がまんをしておれというようなことは、たいへん申しわけないというふうに考えておりますので、けさほど来ご説明申し上げましたように、応急の処置は来年度中に早急に済まして、皆さんのご迷惑のかからないように努力いたしたいと、かように考えておるような次第でございますので、何ぶんのご支援をお願い申し上げます。第二点に対する回答にかえさせていただきます。

○議長（日比義平君） 土木部長。

〔土木部長（谷沢文男君）登壇〕

○土木部長（谷沢文男君）

第三点の開発計画との関連についてお答えをいたします。

なるほど新都市計画法によります市街化区域の線引きは、四十五年の八月三十一日告示をもって決定されております。したがって、われわれは、先ほど市長のご説明ありました基本構想の中においても、やはり新都市計画法の線引き時点、あるいは公害防止計画のものを一つのバックボーンにおいていろいろの諸政策を考えつつ、またご提示申し上げたわけでございます。現実の土木といたしましては、この線引きに伴うところのこれからの実際の作業といたしまして、いかにアプローチするかということで、一つは線引きに引き続く用途指定の問題が残っておりますが、これはすでにご予算をお認めいただきまして、現在基礎調査を進めさせていただいており、いずれこの九月、十月に一応の調査がまとまる中から一つの素案を検討して、今後議会におはかりをし、都市審議会の了をして、四日市の新しい用途地域及び街路計画を立ててまいりたいと思っております。

もちろんこれと相對応して、都市施設の整備という問題が出てまいります。すなわち道路につきましては、舗装を含める、道路整備、あるいは河川、橋梁、あるいは交通安全の場における駐車場問題、あるいは都市計画街路、公園計画というような問題も出てまいりますし、けさほど来お話のありましたこれを、具体的に実施する一つの方法としての区画整理手法あるいは都市再開発手法という問題が出てまいります。したがって、現段階では、九月一日に都市開発の一つの基準的要綱をつくりまして、今後計画的な民間計画の指導を進めてまいりたいと思っております。今後よくPRをして実施に移してまいりたいと考えるわけでございまして、ご指摘のような幾つかの諸政

政策は、今後用途指定作業と並行しながら、諸施設整備について検討を進めてまいりたいと考えております。

なお、質問の中にありました近鉄西駅方面の開発の問題でございますが、近鉄高架事業がよりやく諸につき、これから実際の工事の始まる段階において、やはり現在の市街地における商店の一つの考え方、それからこれが近鉄高架とのどのような関連を持つかというよりことから、市街地の街路あるいは駐車、その地の問題を考えなければならぬと思いますし、また近鉄高架下の利用が、今後表西に対していかなる問題を投げかけてくるかという問題もあるかと思ひます。したがしまして、われわれとしては、この近鉄高架事業と表裏のはやり広場事業というものを考えざるを得ないと思ひますし、また地区の高度的な利用を考えた事務所地区その他の用途指定もこの中に考えていきたいと思ひます。したがって、現段階におきましては、駅西問題については、西浦区画整理事業と、駅広場事業と、あるいは戦災復興事業とのからみ合いがありますので、この問題については十分地元住民の方々と話し合いをいたしながら、四日市の都市計画にそごのないような努力をしてまいりたいと思ひます。

○議長（日比義平君） 喜多野君。

〔喜多野等君登壇〕

○喜多野等君 市長はじめ各担当のご高説を承りましたと市長の発言に対して気にかかることがあるわけなんです。実施の計画案等はですね、いろいろなところに影響するから、もうそういうことはですね、示さないほうがいいんだとか、また学校をどこにつくるといふようなことが早くわかつてはいけなから、そういうことはもう地区です、ほかの地区がこうだからあだからというような、地区で問題が起きたらいけないからと、こういう時代はもう過ぎたと思ひます。そういう時代ではないわけです。だからはっきりと当然ここに学校を設置することが必要である。また当然ここに基幹排水をつくる、道路をつくるのが必要であるといふことをはっきり理論的に裏づけをして明示すべきだと思ひますし、またそういうことによつてちゅうちょ逡巡することはないと思ひま

す。市の行政として自信を持ってやはり発表すべきであるし、教育委員会にしても、いつもこういうことを発表すると、市民の間で問題が起きて、富洲でできた、南のほうはどうだというような、常に人心のバランスばかりを考へて行政を考へていく。それも当然必要でございますが少なくとも基本的にものを行なっていく、先ほど市長が申し上げたような、少なくともそういうものの意見じゃなくて、具体的に自分たちが直接担当しているもの、また市民の中の各種団体の意見、そういうものを十分踏んまえたうえでの行政の基本計画を立てていくんだ、私はそれだけこうだと思ひます。しかし、その場合に、とかくともするとそういう問題について、教育の行政にしてもそうでございます、区画の整理の問題にしてもそうでございます、学校をきめるにも、これをきめたらここに影響するからどうかと、そういうようなことばかりを常にそんなことはかりを気にして何も具体的な方向が出ないというところは、一番初めに高橋議員さんも言われたように、ちゅうちょ逡巡をして、その事をなすに当たつてですね、やはり何々というようなことでですね、やはり問題になつてくるんじゃないかと思ひます。また、すぐやろうというような課というようなことも言われなければならないというのは、そういう点に問題点もあるし、当然基本的な基本の構想なりまた具体案を提示して、具体的に小さな問題でどんどん処理していかなければならないものは、課長でも部長でも権限を委譲して、やはり問題を処理し、市の上級幹部は将来の展望について、やはりその非常にドルシヨックというような大きな問題が対処できるような、そういう構想を十分練つていくというようなところに要諦を置くべきであつて、日常は判こばかり押しているような助役や市長では私はつまらないと思ひます。ですから、少なくとも四日市の市を見習つてこいと、四日市の市の行政はなかなかうまくやっていると、四日市市においては、いうようなことがですね、よその議会では出るだけの能吏としてのお力を今後とも拝見したいと思つております。なお、次に下水の問題でございますが、いろいろ助役等に説明を賜つたわけですが、ひとつちゅうちょ聞きしておきたいのは、新都市計画法ができ上がった場合において、市街地を相当多くの都市下水または農業用水等が全

部流れておりますが、そういう問題は少なくとも農業用水と都市下水との関連、またはその判断というような問題と相当関連性が深くあると思いますが、そういう面についての関連、またその処置については、少なくとも新都市計画法が実施された市街地の場合におけるそこに通っている排水においては、どう処理するのかというような問題について、一点お聞きしておきたいと、このように思います。開発計画等については別にございません。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） 市街地が開発されるに従いまして、その排水が農業用の用水路あるいは排水路をそのまま都市排水路に利用してあるというような事実は確かにございますし、そのためにこの水路の改修等について種々問題があることも承知をいたしております。しかしながら、市街地に線引きをされました中における排水路については、農業用水を利用をしてある場合もあろうかと思いますが、その場合には次等に突進をながめながら都市水路のほうに管理を移していきたいと、かように考えております。

日程追加 八王子線の廃線問題についての緊急質問

○議長（日比義平君） この際おはかりいたします。

八王子線の廃線問題の件につきまして、小林哲夫君から緊急質問の通告があります。小林哲夫君の緊急質問に同意のうえ、日程に追加し、発言を許すことにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。よって、小林哲夫君の緊急質問に同意のうえ、この際日程に追加

し、発言を許すことに決しました。小林哲夫君の発言を許します。

小林君。

〔小林哲夫君登壇〕

○小林哲夫君 一般質問の日程の中に割り込みまして、またたいへんお疲れのところを特に私の緊急質問をお許しいただきました皆さま方のご好意に対して、前もって厚く御礼申し上げます。

私がいまより緊急にお尋ねいたしたいことは、先ほど議長から紹介のありましたように、近鉄八王子線の廃線問題でございます。この件につきましては、すでに数年来該員各位にいろいろと心配をかけ、そのつど私自身といたしましてもたいへん恐縮に思っておるものでございますが、同時に市長をはじめ関係の理事者の方々にも何かとお世話になりました、そのご尽力に対してあらためて感謝を申し上げる次第でございます。

しかるに、昨晚の東海テレビ放送のテレビニュース並びにけさの読売新聞の記事において、この近鉄八王子線が来月早々の運輸審議会にかけられて、十月中に廃線の見通しであるという報道がなされました。実は、皆さんもすでにご承知のとおり、地元では一部住民からこの問題に関連いたしました裁判が起っております。したがって、地元住民の中には、この裁判が決着をつくまであるいは廃線が延ばされるのではないかとという期待感を持ってある者もあるわけです。

またもう一方、去る九日の日に、近鉄の水原常務を呼びまして、廃線問題について話し合いました結果、もう一度大阪本社へ持ち帰ってこの問題を検討するという水原常務の言質を根拠にいたしまして、現在地元にあります四郷地区交通対策委員会としては、近鉄本社の出方待ちでございます。そういう実情の中にあつて、昨日からきょうにかけて突然十月廃線の話が出てまいったということは、その私どもにとって、その真意を了解するにはなはだ苦しむところであると同時に、なぜ今日急にこの問題が起こってまいったか、なにはだ遺憾に思う次第であります。

したがしまして、質問の第一点といたしまして、このような報道がなされる前に、市当局として名古屋の陸運局なりあるいは近鉄なりから何らかの連絡があったかどうか、あるいは事前に何らかの情報をキャッチしておられたかどうか、その点をひとつ明らかにしていただきたいと思います。

質問の第二点といたしまして、先ほど申し上げたようにこの報道をいたしたところは、東海テレビ放送といまのところ読売新聞だけでございますけれども、この報道の出所がどこにあるのか。いわゆるニュースソースがどこにあるのか。その出所次第によりましては、この報道の信憑性のいかに問われるわけでございますので、ご調査の結果、もしわかっておりましたらお知らせを願いたいと思うわけです。実は私ゆへさっそく東海テレビ放送へ電話いたしました。報道部を呼び出して尋ねましたところ、このニュースの提供者は名古屋の鉄道記者クラブ、名鉄研究会と申ししておりますけれども、そこに所属いたしております東海テレビ放送の放送記者からの取材であったというところであります。また読売新聞の記事の出所につきましてははっきりいたしませんけれども、どうもこれも名古屋いま申し上げました名鉄研究会の所属する記者からの報道であるように思われます。したがしまして、おそらくこのニュースの出所は、名古屋にあるというふうに私は判断いたします。そうすれば、おそらく名古屋の陸運局あるいは名古屋の近鉄から出たものではないかというふうに考えるのでございますが、その点いかがであったか、お知らせを願いたいと思います。

次に、現在この八王子線の廃線問題で最大のガンとなっておりますが、いわゆる代行バスの運賃と電車現行運賃との格差の問題でございます。これはすでに皆さん方の中にもご承知おきいただいておりますけれども、代行バスに予定されております運賃は、現行電車運賃の普通運賃で二倍、定期運賃に至っては二・一倍から実に三・四倍というような高額になるわけでございますので、われわれとしては、とうていこのような負担に耐えることはできません。そういう点から市長にもお願いし、また市長のご配慮もいただきまして、たしか五月十九日でした

か、市長から正式に公文書をもって名古屋の陸運局長、あるいは三重交通、あるいは近鉄方面へ現行電車運賃並みになるように、すなわち三十円の市内均一運賃区間に編入してもらうようにという要請を出していただきました。この要望は、さらにその後運輸大臣をはじめといたしまして陸運当局へも出していただいております。ところが、この問題が残念ながらいまのところ未解決でございます。しからば未解決のままではたして廃線がなされるのかどうか。せっかく市長が公文書で出されておきながら、その公文書をほどこにしてまで廃線がなされるものかどうか。そういう点につきまして市長のご見解もあわせて承りたいと、かように思うわけでございます。

私の第一回の質問はこれで終わります。

○議長（日比義平君） 助役。

〔助役（加藤寛嗣君） 登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） 市長にかわりまして、ただいまのご質問にお答えいたします。

実は私、昨夜の東海テレビを見ておらず、けさ出勤してからそういう話を聞き、さらに読売新聞の記事を読んだ、さっそく名古屋の陸運局長に電話をいたしました。陸運局長は、これは全然局長自身も知らなかったこととございまして何新聞に出ておったのかというような質問が、その後九鬼市長あてに来て、こちらから知らせてやったというようなことでございます。したがって、この報道がされる前には、私のほうには何ら連絡がございませんでした。

この八王子線の問題にについては、小林議員さんも十分ご承知のように、何べんも私自身も名古屋に参りまして、陸運局長と折衝いたしております。したがって陸運局長が決断をする前には当然私のほうに連絡があるかというふうに考えておるわけでございますが、きょう私が電話で尋ねますと、すでに廃線の申請書は四十四年に提出を、本省のほうへ提出をされております。さらに最近に至りまして、裁判の問題も含めて、今日に至りますまでに、陸

運局と地元の交通対策委員会の方々との話し合い、あるいは近鉄当局との話し合いの経過をも含めまして、別途陸運局長から、本省の私有鉄道監督局長だったと思うんですが、あてに公文書が交換が出されているということも皆さんご承知のとおりだろうというふうに思います。したがってこの問題は、本省のほうに舞台が移されたような感じがいたすのですが、本省のほうではこの取り扱いについてどういうふうになるのか尋ねましたところ、こういう廃線の申請書はすべて運輸審議会にかけられるということのようでございます。運輸審議会にかけられて、その後それがどういうふうになるのかといいますと、聴聞会を開く場合と、あるいは軽微事項としてそのまま聴聞会を開かずに処理をされる場合と、二つの場合があるようでございますが、本件につきましては、いつ運輸審議会にはかつていつ廃線をするかというようなことについては、まだ何ら取りきめになっていないというふうに考えておるわけでございます。

なお、この廃線に伴う代行バス運賃と現在の電車運賃との格差の問題については、地元の交通対策委員会の方々と陸運局との話し合い、さらには陸運局の段階を過ぎまして直接近鉄本社との話し合いに入ったところでございます。したがって、この問題については先ほども出井議員のご質問の中でお答えを申し上げたように、早急に近鉄本社のお答えを待って、地元の態度が決定されるものだというふうに考えておりますし、その面について私たちも及ばずながら努力をいたしたい、かように考えておるわけでございます。

以上で、現在まで判明いたしておりますことについて、お答えを申し上げたいと存じます。

○議長（日比義平君） 小林君。

〔小林哲夫君登壇〕

○小林哲夫君 いまご答弁を拝聴いたしておりますと、市ご当局としては、事前に何らこの問題については、報道

についてはキャッチしていなかったということでございます。しかしながら、これはすでに申すまでもなく数年来の四日市の疑問となっておりまして、議会の皆さん方にもご心配をわずらわしておることでございます。まあつんばさじきに置かれた以上しょうがありませんけれども、失礼ながらはなはだかつであつたというふうに思うわけです。特に私ども地元としても、廃線が近いであろうという予感はずうすうすういたしております今日、どうか運輸省なり近鉄なりの動静というものを今後十分キャッチしていただきますように、そうして事前に手抜かりのないように、私どもとしてもできる限りの手をまた打ってまいりたいと思っておりますから、そういう落ち度のないようにひとつお願いをしたいと思えます。

特に、先ほどご答弁はありませんでしたけれども、一体運賃がどうなるのか、これが目下の焦眉の急でございます。このままほっておかれますと、何もかも未解決のままで、国の運輸行政のためにわれわれだけが犠牲にならないければならぬ。そういうことはわれわれとしてもどうしても黙っておるわけにはいかないわけです。今日あえていまここに緊急質問をお願いしたのも、意見はそこにあるわけです。どうかそういう意味におきまして、特に今日の運輸行政というものはとかく企業優先、国民不在になりがちであります。まず第一に、先ほど申し上げました運賃問題の矛盾、たとえば線路の、路線の維持補修や、あるいは路線用地の固定資産税を払っておる鉄道運賃に比べて、そういうものが一切あなたまかせである。バス運賃が高いという、こんなべらぼうな話は私はないと思う。いやこういうことを申し上げるのは私だけではございません。三岐鉄道株式会社社長であるわれらが議長の日比義平氏のことばでもございます。（笑声）そういう矛盾が平然として行なわれておる。しかも、さらにまた、さきの参議院選挙でも明らかにしましたように、かつての運輸省の自動車局長が業界から多額の選挙資金を集めて、バス業界の専務理事を使って大々的な選挙違反をやっておる。こういうような現状から判断いたしましたしても、今日の私の国の運輸行政というのは、明らかにこれは国民不在であると、かように思います。そういう国民不在の運輸行政に

今後立ち向かわなければならぬ市長の立場のつらいことも、むしろいいことも私はよくわかります。しかしながら、よくわかりますけれども、私はあえて申し上げたい。四日市市民の犠牲のうえにおいて、今日の運輸行政が進められるということは、私としては何としても許すことができないわけであります。どうかそういう意味で、九鬼市長も、市長個人ではなしに、四日市二十三万の市民代表として、今後この壁の厚い運輸行政に向かって力の限り戦っていただくことを強く要望いたします。私の質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（日比義平君）　なお、一般質問であります。あとの方は明日にお願いいたします。

明日は午前十時から会議を開きます。

本日はこれをもって散会いたします。

午後五時十一分散会

昭和四十六年九月十七日

四日市市議会定例会会議録（第三号）

四日市市議会

○議 事 日 程 第 三 号

昭和四十六年九月十七日(金) 午前十時開議
第一 一般質問

○本日の会議に付した事件

日程第一 一般質問

○出席議員(四十三名)

青	天	荒	小	伊	伊	伊	岩	大	小
山	春	木	井	藤	藤	藤	田	島	川
峯	文	武	道	金	太	信	久	武	四
男	雄	治	夫	一	郎	一	雄	雄	郎
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○欠席議員（一名）

藤	吉	山	山	山	安	六	松	増	福	日	早	殷	長	橋
													谷	
井	垣	本	中	口	垣	平	島	山	田	比	川	部	川	本
泰	照		忠	信		豊	良	英	香	義	正	昌	鐸	増
治														
郎	男	勝	一	生	勇	司	一	一	史	平	夫	弘	元	蔵
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

橋	野	生	中	出	坪	田	高	高	志	後	後	小	小	小	粉	訓	喜	川
																	多	
本	崎	川	島	井	井	中	橋	井	積	藤	藤	林	林	林	川	霸	野	村
建	貞	平	隆		妙	政	力	三	政	藤	寛	喜	博	哲				
										太								
治	芳	蔵	平	博	子	一	三	夫	一	郎	治	夫	次	夫	茂	男	等	潔
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○出席事務局職員

事務局次長	事務局長	次長	代表監査委員	消防局長	水道事業管理者	技術部長	市立四日市病院
篠野正和	森長	富山光三	森新八	山北彰	中地英郎	杉本義広	村山了
君	君	君	君	君	君	君	君

市助役	市助役	市助役	市長公室長	総務部長	税務部長	産業部長	厚生部長	衛生部長	土木部長	下水道部長	建設部長	副収入役
九鬼野	岩加藤	庄司	三輪	平井	荒木	阿南	小西	園浦	谷沢	天野	滝野	伊藤
喜久	見齊	寛嗣	良一	喜代司	清三	三郎	輝彦	忠臣	和己	文男	助春	凉之助
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○議長（日比義平君）　ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の出席議員は、三十八名であります。

本日の議事は、一般質問であります。

それでは、日程第一、一般質問を昨日に引き続き、行ないます。

吉垣照男君。

〔吉垣照男君登壇〕

○吉垣照男君　通告いたしました順に従って、質問いたします。多少、重複する点があるかと思いますが、よろしく願います。

第一問、災害対策について、お尋ねいたします。

近年に、大きな地震が来るといわれており、市民は災害に対して、非常に神経をとがらしているものであります。先日、尾鷲の千九十里という最高の雨量を示す大雨が降って、多くの犠牲者を出し最も悲しむべき多くの人命が、失われているのであります。

四日市市にあっては、二十三号台風、その前の二回にわたる集中豪雨、雨による被害が多く出ているのであります。尾鷲の状況では、上のはうはだいじょうぶであろうという安心感で、むしろ大雨による下からの水が心配されていたわけがあります。ところが、予想は全く逆になり、想像もしていなかった裏山が、ゴーっという音とともにくずれ出し、あっという間に大惨事になったのでありますが、この状況を見ましても、だいじょうぶと思って安心していたところが、今回くずれてきているのであります。

さて、四日市にもしかりに尾鷲の半分の雨量が降ったらどのようなになるのか、おそろく四日市の半分以上は水に

つかり、山くずれが起き、尾鷲の二の舞いを踏むことになるでありません。

質問の第一点は、このような雨量が伴ったときの対策は、どのように考えておられるのか、お尋ねいたします。

第二点は、山くずれの問題であります。昨日、答弁で土木部長は、事前の防止施策をもっていきたいと答弁されておられますが、どのような事前の防止策なのか、お答え願いたい。

山の地質調査はしてあると思いますが、どの山は、どのところは、どれだけの雨量までだいじょうぶなのか、お答え願いたい。もし、していなければ早急に調査する必要があると思いますので、よろしく願います。

第三点は、排水設備は、だいじょうぶなのでしょうかという質問ですが、昨日、加藤助役は、喜多野議員の答弁の中に、橋北方面をとばして富田から塩浜へ行ってしまいました。私は心待ちに待っていたのでありますが、行ってしまいましたので、再度質問いたします。

橋北の下のところにありますポンプ場ですが、現在二台あります。一台は、平時に使用されており、しかし、もう一台のはうは、排水能力の全くないポンプであります。このポンプは外にあるポンプですが、このポンプを千五百ミリのポンプにしてもらいたいのです。特に、関西線より東は、西部から流れてくる雨水により増水が激しく、雨が降るたびに浸水を余儀なくされて市民は非常に困難をしており、雨が降るたびに一晩じゅう眠らずに心配をしているのが現状であります。

この点、よろしくお答えのうえお願いいたします。

第四点は、市民は、災害のときさの場合の判断になれておりません。そこで明確なる地域ごとの避難場所を、一人一人に教えておく必要があると思います。地震のときはどこへ、火災のときはどこへ、水害のときはどこへ行けば安全なのか、はっきりと明示する必要があると思います。図に示して、どういう経路を行くのか町内ごとに示す必要があります。

この点について、どうお考えになっておられますか、お尋ねいたします。

第五点は、災害はいつ起こるかわかりません。だいじょうぶと思っても、そこが危険な場所であったりします。

私は、ここで災害共済制度を、市で実施してはどうかと思うのであります。市民が安心して暮らせるあたたかい対策を、市長はとっていただきたいのであります。

よろしく、お願いいたします。

第二問、公害問題について、お尋ねいたします。

公害が社会問題として、大きくクローズアップされてから、早や十年になります。この間に、公害を解消しようという声こそ聞かれましたが、まだまだ公害絶滅までいっておりません。しかし、いまほど公害絶滅が望まれているときはありません。

第一点は、市長は煙突が高くなれば公害がなくなるように考えておられますが、私はそうと思っておりません。煙突が高くなっても出る量は同じであります。そうであれば、地域こそ変われどこの地域に公害の発生のおそれがあるわけであります。

川崎市においても、橋一つ隔てた鶴見区のほうへ煙りが行くようになり、公害の指定地域になっていなかった鶴見が問題となったわけであります。この間、指定地域になったのでありますが、四日市も、このような現象が起こりつつあります。

最近のデータでも出ているように、南中学校の付近がPHが高くなってきております。いまのうちに手を打って、四日市の指定地域の拡大をはかる必要があるのではないかと、私は、むしろ四日市全域と隣接の町も含めて、指定地域にするときが来たのではないかと思います。

第二点は、現在ある煙突に、一つ一つに測定器をつけて電光掲示板のような形で、市民に一般公開すべきときではないか。企業も公害は出しておらないというのであれば、喜んでこの公害防除の姿勢を示すべきであり、また、この提案に参加すべきだと思います。

よろしく、お尋ねします。

第三点は、三重県立医大の有識者の調査によりますと、四日市の大気汚染が、母子に及ぼす影響に関する調査として昭和四十三年、四十四年に、四日市全域の出産母子を対象に行なった。その結果、低位な高率発生を認められるのは、妊婦呼吸器感染症、新生児重症黄だん、未熟児出産、死産であり、奇形児の増加傾向は注目すべきである。特に、妊婦中の呼吸器疾患について、各種薬物の胎児について及ぼす影響についても考慮すべきであるが、今後、さらに追及の必要があるといっております。

私たちの、一番心配しておりました、最もおそろしい状態が起ころうとしておるのであります。魚と同じように、長い間に母体に蓄積される亜硫酸ガス、硫酸ミストにしろ、胎児に及ぼす影響が奇形児という公害の落し児が生まれるような、おそろしい時代に來ております。

市長は、この点についてどう考えておられるのか、対策はどうしていくのか、お尋ねいたします。

また、市長はすみやかに公害絶滅の大宣言をすべきであり、先頭に立って人類を滅ぼそうとする公害に、まっくらから戦うべきであると思います。

この点について、どのようにされるのか、お尋ねいたします。

あるいは、公害認定患者の子供さんが大きくなって、未熟児、あるいは奇形児を生むようになったら、市長はどう責任をおとりになるつもりですか、お尋ねします。

第四点は、市長は企業に発生源対策として、脱硫酸装置の設備の完全化をはかるように要請すべきだと考えます。

そのためにも、公害ではんとうに苦しんでいる住民を代表とする民間の、仮称「公害防止市民協議会」を設立して、月最低一回の企業との話し合いの場をつくる必要があるのではないか、その協議会もいかにしたら公害が防止できるか、この一点にしばった企業側も、住宅側もお互いが人間として、人類繁栄のための公害対策を検討し、実践していく、このような協議会が望まれるわけであります。

この点についても、よろしく願います。

第五点は、市長は公害認定患者の方が、いま何を市長に願っておられるのかご存じでしょうか。ご存じであれば、お答えしていただきたい。答えがないときは、市長は公害患者の方々のことを考えておらなかったということになりますので、よろしく願います。

第三問、福祉問題について、お尋ねいたします。

第一点は、母子家庭では、母は子の養育と家計の維持という二重の責任を負っております。働く母と子のために、保育所的大幅な増設をはかってはどうか、さらに働く母のための授産所、児童のための保育、教育、文化、娯楽、児童相談所などを兼ねた総合母子センターをつくり、これに必要な指導者を配置してはどうか、提案いたします。

第二点、心身障害者、児にわたる手差し伸べていただきたいのであります。

第一に、障害者別に治療、救助、機能訓練、更生、授産、教育など、社会復帰まで一貫した体系をもつ施設をつくり、障害者の授産施設及び福祉向上の設置をはかってはどうか、お尋ねします。

第二に、在宅障害者・児の訪問指導の充実をはかる必要があるのではないかと、お尋ねします。

第三に、在宅精薄者手当制度を創設してはどうか、また精薄者が通園できる施設を建設し、その施設の中に福祉作業所を併設していく、このようなお考えはないのかどうか、お尋ねいたします。

第四問、住宅問題について、お尋ねいたします。

第一点、市営住宅の古くなった建物の補修はどのようにされているのか、曙町の市営住宅であります、建築以来塗装されていないように思われます。内部はもちろん、外面の様相が非常に悪くなってきております。入居するにしても、現在入っている人も喜びがわかないと思います。清潔な感じのするように、五年に一度は建物の化粧をしてはどうかと思います。

市当局のお考えはどのようなのか、お尋ねします。

第二に、古くなった木造の市営住宅ですが、西伊倉等の住宅であります、といが腐って土台や柱に水がかかり、やがては腐ってくるのでありますが、この場合といは個人持ち、建物については市が面倒を見るといっておりますが、そのまま放置しておきますとたいへんお金がかかります。むしろ、いのかけ直しに市が力を入れて直せば修理も安くあがり、入居者も喜ばれるのであります。原則は原則として、早期に修理すれば市民も喜びますし、安くあがるのではないかと考えますので、その点よろしく願います。

第三点は、古い市営住宅の払い下げは、どう考えておられるのか、お尋ねします。

第五問、教育問題についてお尋ねします。

第一点、よき環境、よき設備は、教育になくてはならないものであります。

しかるに、桜小学校にあってはブレハブの教室で何年も過ごし、夏は三十四度という猛暑の中で勉強し、冬はすき間風の中でちかまりながら勉強する、このような環境の中で勉強に打ち込むことは、非常にむずかしいと考えられます。校方面においては、ドーナツ現象により住宅がふえ、急速に発展しつつあるこの地域に、地元父兄は、小学校の増設と幼稚園の新設を一日も早く建設していただきたい、と願っているものでございます。

その点について、市当局のお考えを、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（日比義平君） 土木部長。

〔土木部長（谷沢文男君）登壇〕

○土木部長（谷沢文男君） ただいまのご質問のうち、第一点、第二点すなわち雨量とその対策及び山くずれの問題について、お答えをいたします。

雨量の問題につきましては、われわれ、きのうも、昨日も答弁しましたように、まず河川の改修につきましては、国河川、国の管理河川、県の管理河川あるいは市の管理河川について、それぞれの立場で計画的、抜本的な対策を進めてまいりたいと思ひますし、また、今後やはり災害関連による一つの抜本対策を考えてまいりたいと思ひます。

また、団地等における問題として、昨年あるいは本年の局地的な集中豪雨に対する問題といたしましては、やはり路面の急傾斜等に対するストッパーを設けての一つの遮断による方法、あるいは団地開発による方法、あるいは団地開発に伴います一とき水の系集の遮断水路の問題を検討しながら、進めていくべきだと考えます。

なお、開発行為等の問題については、すでに指導要綱等によりまして、市の審査会において各校の見地から対策を指導、検討をいたしますが、その中においても、すでに明示されておりますように、流域河川に治水のおそれがある場合においては、事業主負担でやるべきであるという方針を確立しております。

また、汚水、雨水等については、やはり下水道計画と十分マッチをさせるということを考えるべきだと思います。次に、山くずれの問題でございますが、これについても昨日ご答弁申し上げましたように、四十四年の七月に急傾斜地に関する法律が出ておりまして、急傾斜の高さが五メートル以上、しかも急傾斜に崩壊の危険がある位置において、人家が五戸以上ある場合、この場合においてこの法律による指定をいたすことにいたしております。

すでに、四日市においては二カ所の指定を行ない、昨年もこれによる処置をいたしておりますし、昨日ご答弁いたしましたように、本年も引き続き処置をまいりますが、現在四日市においてはそのほかに十一カ所ばかりの

急傾斜地適用の範囲を考えなければならぬと思ひまして、これについての調査あるいは、この指定について県、国に働きかけをいたしております。

なお、山くずれの問題は、単にいま申し上げた問題だけではなくして、自然の私有の土地を無断で切り取る。そのために起る災害が非常に大きいわけでございますが、これに対する法律的、あるいは条例的規制という問題が問題になってきております。

国も、自然保護の見地から、基本法の策定を期されておるようでございますし、県においても、やはりこれに基づく条例化を考えておりますが、現在いろいろの各種法律があります。たとえば河川法、あるいは土砂採取に関する法律、あるいは宅地造成に関する規制法というように各種法律がありますが、いずれも適確に適用することが至難な状況でありますので、今後われわれもやはり、四日市の現状にあり方法として、いかなる規制なり指導をすべきかということ、現在鋭意研究をいたしておりますので、いずれそのあたりについては、皆さん方のご意見を聞いて、指導方法を定めていきたいと思ひます。

以上です。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕

○助役（加藤寛嗣君） 橋北地区の排水の問題について、お答えをいたします。

昨日、いろいろ四日市市内の排水の問題について、ご質問がありました。主として、周辺といえますが都市下水路の区域の問題について、ご質問が果まったようでございましたので、あえて公共下水道地区については、詳細に触れなかつたわけでございますが、この際公共下水道の計画をお話申し上げたいと存じます。

すでに、昭和五十年の二月に公共下水道の事業計画を変更いたしました。これは本市の公共下水道の計画事業は、

昭和二十九年に興こしたわけでございますが、その市政の推移と共に、だんだん計画を変更してまいりました。四十五年の二月に計画をいたしましたのは、日永処理区八百二十八ヘクタール、これは橋北、納屋、阿瀬知、常磐、千歳といったような、いわゆる日永処理区八百二十ヘクタールを中心にして、そのほか高花平、泊山、朝明、坂部といった各団地を含めて、千九十一ヘクタールの公共下水道計画を国に認定してもらったわけでございます。これが昨年の四十五年の二月当時では、これだけの公共下水道をすべて完成をいたしますために、残っておる事業に要する費用というのが、約五十七、八億と昭和四十五年当時の金額で、約五十七、八億の残事業費が残っておったわけでございますが、その後四十五年、四十六年と事業をいたしてまいりますので、おそらく今年度末に残ります事業費は、およそ四十八億程度であろうかというふうに考えております。もちろん、これらの金額については諸物価の変動あるいは人件費の高騰等がございますので、今後、なお時間の推移と共に、修正をしていかなければならないかと存じますが、およそ約四十七、八億の残事業費が残っておるであろうというふうに考えております。そこで、四十五年当時の計画では、この四十七、八億の残事業費を昭和五十二年までに使って、全部完成をするという予定をおったわけでございますが、一方、昨年公害防止計画が確立をいたしましたして、その公害防止計画の中には、四日市の公共下水道事業費といたしまして、七十八億二千五百万という事業費が繰り入れられておるわけでございます。そして、この公害防止計画の中に組み込まれた事業を見ますと、橋北地区においては、被災復興地域を除いたすべての地域がこの中に含まれておるわけでございます。

さらに新しく、いわゆる三重団地を中心いたしました中部の処理区と、それから川島にできる予定になっております各団地の処理、それからさらに、新たに南部の公共下水道といたしまして、塩浜地区の近鉄線から西、奥西から東の区域の下水道計画が、この七十八億の中に組み込まれておるわけでございます。

そこで、橋北地区におきましては、昨年、この計画にしたがいまして東洋紡績の工場跡地を買い入れまして、そ

こにポンプ所を設けるということで、すでに整地を終わりました基礎の工事にかかっておるわけでございまして、この工事が完成をいたしますと、千二百ミリ二台、八百ミリ一台をここに設置をすることになりまして、橋北地区の排水はこのポンプによって処理をされるであろうと、こういうことになるわけでございます。したがって、東側の現在、奥側に備えてありますポンプは八百ミリ一台と三百ミリ一台でございますので、およそ、このポンプ所が橋北のポンプ所が完成をいたしますれば、東のポンプの能力が不足をするということはないかというふうに考えております。

ただし、それまでの間が問題でございますので、できれば来年度、この新たに公害防止計画の中で組み入れられております七十八億の計画の中から、橋北にポンプを一台据えつけてもらいように国のはりに働きかけて努力をいたしたい、かように考えております。

管渠の工事は、すでに始めておりますので、来年度になりますとかかなり上のはうまで管渠工事を延ばすことができますであろう、こういうふうに考えておりますので、蒲の川一帯の浸水もこれを実施をすることによってやわらげることができる、というふうに考えておる次第でございます。

なお、この際、最近私の感じておりますことは、昨日もいろいろ皆さん方からお話ございましたが、確かに地域の開発あるいは遊水池の減少等によりまして、浸水を、あるいは工業用水の多量の使用等によって、大雨が降った場合には一時的にたん水が非常に出るというような現象が最近ではだしくなっておりますというふうに感じておりますが、なお、この浸水の原因の一つに、やはり海岸地帯における地盤沈下があるのではないかと、というふうに考えておるわけでございます。この地盤沈下がありますと、いわゆる干潮時におきます排水というものが従来予定しておったポンプ能力では不足をするという事態が生じておるのではないかと、こういうふうに考えておりました、できれば地盤沈下がどの程度しておるかというふうなことにについても調査をしてみたいと、かように考えてお

るような次第でございます。

橋北のポンプについては、以上のとおりでございます。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） 災害時におきます各地区の避難場所につきましては、地域防災計画の中に定めております。この町題も含めまして、防災に關する市民の心得といえますか、常に災害に対する心得をしておいていただいたほうがよいというような問題につきましては、今後、公報に計画的に登載するように、ただいま関係者のうちで検討いたしております。

次いで、避難経路につきまして、あらかじめ固定しておくということは、私は適當ではないと、ケース・バイ・ケースで定めるべきものであると、このように考えております。したがって、今次防災計画を策定するにあたりましては、道路交通応急対策といたしまして、基幹道路網の整備に關しまして、緊急時における通行可能な短絡道路の検討、橋梁の位置、構造の把握、こういったことにつとめて災害応急活動の円滑を期することにしております。

したがって、それぞれの状況に応じてこの問題は措置いたしたいと、このように考えております。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 災害共済制度につきまして、お答えをさせていただきます。

災害救助法の中でうたわれております、災害施設資金等で処置をしていきたいと、こういうように考えております。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 公害問題について、お答えを申し上げます。

高煙突による公害対策というものについての疑問でございますが、まあ、四日市市にはすでに、百八十メートルという煙突が出現をいたしております。しかしながら、まだ全面的に稼働いたしておりませんので、ほんとうに高煙突というものの効果というものについては、まだ判明をいたしておりませんが、すでに、アメリカ等におきましては三百メートルの煙突、二百五十メートルの煙突というものがすでにできておりまして、イギリスの学者あるいは、アメリカの学者において、この高煙突の拡散効果をめぐって非常な論争があるということも伺っております。イギリスの学者なんかは、非常に、もう全く無害だという意見でなし、アメリカの学者等では、まだ疾病汚染というものが出るのではないかというような疑問を出しておるといような争点がございすけれども、私は、一応大気汚染の防止につきましては高煙突によるものの拡散、それから燃料の改善、この燃料の改善につきましては、重油を低硫黄化するということと、それから重油に対してガスを混焼していくというやり方があると思います。

その次に、第三番目として、排煙脱硫の技術を採用するという、この三つというものが考えることができると思いますが、そのほかに、まあ根本的には立地を規制するというような問題も、当然考えられるべき問題であると思えますけれども、一応この高煙突による拡散と燃料の改善、排煙脱硫に尽きるのではないかとこのように考えております。確かに、高煙突によるものの百メートル、百二十メートルの四日市の現状の高煙突によるものの拡散につきましては、汚染の地域が広がっているという事実も出ておりますし、それにつきましてはすでに、百八十メートルの煙突、あるいは二百メートルの煙突に取りかえることによって、さらに拡散効果をあげようというように努力を、ただいま目の前でしておるわけでございまして、私は高煙突によるものの拡散というのは、やはり

それなりの効果があるものであると思います。

それから、煙突の一つ一つに測定器をつけたらどうかというご提案でございますが、一つ一つについては、排出基準というものが厳重に守られておるわけでございまして、まあ、こういうような一つ一つに測定器をつけるという、そういうところもあると思いますけれども、今後十分検討させていただきたいと、さように思います。

出産母児等への影響ということでございますが、これは何も四日市に限らず大都市におきましては確かに、いろいろな面で胎児への影響が出てきておるといことが言われておりますが、私は専門家でございませんで、お答えするだけの何がございせんけれども、結局これは公害除去を努力するという以外にはないことでございまして、公害防除につきましては、かねがね企業にもそういう技術的な要請をし、かつそういう要請というものはたえずいたしておるわけでございまして、あらためて公害除去の宣言をするということは、私は考えておりません。発生源対策を強化するための民間防止協議会を設立したらどうかということでございますが、すでに四日市におきましては、以前から四日市市公害対策協議会というものがございまして、また、三重県並びに通産省、厚生省、自治省等も入ったところの四日市市公害防止協議会というものもございまして、また、三重県には三重県公害審議会というものもあります。また、霞ヶ浦には霞ヶ浦公害対策審議会というものもできておるわけでございまして、もとより、それだけの世論を結集するためには、民間の協議会をつくる必要があると思っておりますけれども、屋上屋を架する必要はないと私は考えております。現状のいろいろの協議会あるいは、審議会というものの活用いかんであらうとさように考えております。

認定患者が何を希望しておるかということでございますけれども、認定患者の救済につきましては、かねがね県といろいろ話し合いをいたしまして、通院、医療手当の何のために、通院の六日以下の通院手当を出すというようなことも、県、市半々でやっておることでございまして、かねがね要望の強い生活の保障をしろと、あるいは避難の場所をつくれとか、あるいは養護学校をつくれということが出されてきておりますけれども、これらにつきましては、すでに各議会において、私はお答え申し上げてきておりますので、重ねて申し上げる必要はないと思っておりますが、まあ、公害認定患者のこういう切実な希望につきましては、何らかの形でやっぱりおこたえをしていくような努力を続けていきたいと思っております。

なお、お答えできなかった点につきましては、衛生部長からお答えさせていただきます。

○議長（日比義平君） 衛生部長。

〔衛生部長（國浦和己君）登壇〕

○衛生部長（國浦和己君） 市長のお答えに、補足させていただきますが、高煙突化による拡散効果は、市長が申されたとおりでございますが、お尋ねの問題点はそういうふうにして拡散しつつあるが、公害認定患者の救済措置に基づく認定地域を拡大する意思はないかという問題点、ご質問の要旨かと思っておりますが、この問題、あとで社会党議員団からの山本議員のご質問の中にもあるように考えますので、ご質問を承ってはおりませんけれども、一緒にお答えをさせていただきますと思います。（笑声）

四日市が、黒川調査団によって公害の汚染濃度をいろいろと調べていただき、患者の発生数の状態から見て高濃度の汚染地域に対して、しかも患者の発生率が高い地域を四日市独自の救済措置を講じまして、三十九年には現在認定地域を設定されたようでございます。その後法律が施行されました、四十二年に法に基づく地域指定をされて、現在に至っておるといことは三月の議会でございますしたか、松島議員の質問に対して市長が答弁をしておるのでございますが、最近ご承知のように環境庁が独立いたしました、厚生省からそういう機関がすべて一カ所にまとまって発足をしたわけでございますが、国の考え方は、特に四日市のような大気汚染のひどい、いわゆる政令都市における公害対策の進め方は、あくまでも環境基準なり、あるいは排出基準なり、あるいは特別排出基準の縮

めつけをやりまして、発生源の対策を強力に推し進めることによって、上空の四日市の大気の汚染を改良していきたいという方向にございまして、吉垣議員のおっしゃったように、神奈川・京横浜の鶴見地区、あるいは、川崎地区、あるいは、川崎地区の一部等のように人口の非常に密集しており、しかも四日市が三十九年前後に体験をしたような高濃度汚染の地域については、新たに地域、認定地域を拡大していくことを今後三年間にわたって検討するといふような態度をとっているようにございします。

いずれにいたしましても、この認定地域の拡大の問題は大臣の権限でございますので、四日市といたしましては、さきの三月議会で市長の答弁されたとおり、目下のところ拡大の方向にはございませんことを補足して、答弁いたしておきます。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 母子家庭に対する問題と、身体障害者に対する問題について、お答えをさせていただきます。

母子家庭の中で、保育所の問題がうたわれたわけでございますが、保育所につきましては各議員さんからも強い適正配置の要望もございしますので、その点にそって適正に配置をしていきたい、こういうふうに考えております。

それから授産所でございしますが、母のために授産所を考えたらどうかということでございますが、過去に母子寮の中に授産所というものをもっておりました中で、非常に労働需要が活発になった関係で、授産所を解消した経過もございしますので、こういったこともにらみ合わせて今後考えていきたいと、こう考えております。

それから、母子センターにつきましては、関連するものもろの問題もふまえて福祉センターの中で考えていきたいと、こういうふうに考えております。

それから、心身障害者に体系づけた対策を立てて、あたたかい手を差し伸べたらどうかという問題でございしますが、その中で授産施設の問題でございしますが、これにつきましては近い将来、授産施設を設置していきたいと、こう考えております。

それから、在宅者の訪問策を考えたらどうか、ということでございますが、本議会に提案を申し上げておる中で二点ございますので、このご承認が得ればさっそくその問題に対処したいと、こう考えておりますのは身体障害者の家庭奉仕員として現在一名でございしますけれども、それをさらに、一名増員をしていきたい。

それからもう一つは、心身障害者の家庭奉仕員を一名、新規にお願いしてございしますので、議会にご承認得ればそれらの活動を十月から実施していきたい、このように考えております。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 建設部長。

〔建設部長（滝 伝之助君）登壇〕

○建設部長（滝 伝之助君） 住宅問題で、お答えさせていただきます。

現在、私のほうは二千四百戸近い住宅を持っております。住宅のほうは、まだまだ不足しておりますので、ことしを入れまして五カ年計画でなお、百四十戸ぐらいの増加をはかっている最中でございます。

そこで、補修の問題でご指摘を受けておるわけでございますが、金額的に、予算的には四十二年以来ずいぶん予算をもっていただきまして、現在といたしましては、家賃収入の二〇％程度までいただいてやっておるわけでございます。ところが、この補修でございしますが、補修というものは金額ばかり上げていきましても、事務的に修繕の係のほうの努力、一つ一つの工事の設計の見積り、やはり支払いの準備までの事務的な方面にも能力が欠けますといひますか、手狭ではございますので現在のとおり、努力しておるわけでございます。現在、千三百件くらい修繕

をさしてもらっております。

そこで、その補修の範囲でございますが、ご指摘のありました曙町の住宅のあれはどうかという、具体的なところを教えていただきましたけれども、曙町におきましては立地条件があいりところで、非常にしけるところになってしまっておるところでございます。

この間の台風でも、一階はほとんど水でつかるといような状態でございますので、ちょうど二階、三階に全部お移り願って、一階は現在あけてございます。これにつきましても、下水のほりの完備とともに、大きな修繕をしたいと考えております。

それから、このことをご指摘を受けましたけれども、いにつきましては、中にお住まいの人の負担であるといふふうに市はきめております。一軒一軒の家につきましても、非常に大事にお使い願える方と、ほりりっぱなしの方とが、実はあるわけでございます。まあ、そういう場合に、向こうがほりっておくから、こちらが悪くなる、こちらが直さなきゃ向こうがいつまでもほりておいてやろうと、こういうような極端に申しますと、そういうことになりますので、係のほうでは、非常にその点を苦勞して入居者の方と話し合って解決しておるような状態でございます。

それから、払い下げの問題でございますけれども、これについてはいま払い下げる計画も、意思もっております。

なお、住宅の二十年以上たちました住宅につきましては、いま補修するについてはかえってお金の入仏事になろうというところがございます。これにつきましては、いまの計画の中に改造地区の中で考えて、いずれそういう問題もわくかもしれないけれども、増改築の点で力を入れていきたいと、将来に向かってはそういうふうなことを考えております。

○議長（日比義平君） 教育長。

〔教育長（市川一郎君） 登壇〕

○教育長（市川一郎君） 吉垣議員のお尋ねに、お答えいたします。

冒頭にもおっしゃいましたように、学校の施設、設備を整えるということは教育行政といたしましては、ほんとうに第一歩のことでございます。まあ本市にまゐりましてもずいぶん過去において多額の経費がその方面に投入されておるということを知っておるのでございますが、しかし、まだ連日校舎の改築、増築いろいろの面で陳情を受けておるのでございます。私参りましてからでも、もうすでに二十件ぐらゐるので、まことに驚いておるのでございます。しさいに見ますと、これまで投入されたお金は大体普通教室の整備、そういうところに重点に使われておるようでございまして、小学校のほうでいいますと、普通教室の数は大体まゝとまっております、しかし、まだ十数教室不足がある、あるいは特別教室

〔発言する者あり〕

はい、あの、まあ簡単に申し上げますが、危険校舎もございまして、いろいろの問題がございます。ご指摘の桜地区におきましては、その団地の開発もございまして、いずれは学校が膨張して新たに独立校をつくらなければならぬと、そういうようなことになるかと思つて、他の地区と同様の線では検討しておるところでございます。

なお、幼稚園につきましては、いまの中教審の答申で幼稚園教育非常に重視をしておる。五歳児で入園希望のものは、それを入れるようなことを考えよと、まあそういうような答申も出ておることでございますので、この点につきましても地域の実情をよく勘案しまして、検討したいと思っております。

以上です。

○議長（日比義平君） 吉垣君。

〔吉垣照男君登壇〕

○吉垣照男君 ええ、時間も相当超過いたしましたので、あと要望だけにとどめておきます。

土木部長からの答弁がありましたけれども、山の地質の調査についての答弁がなかったので、あとで書類にていただきたいと思います。

災害については、いまだ多く問題になっております。市にあっては災害に対する条例をつくってはどうかと思ひますので、この点についてもよろしくお願いしたいと思います。

あと公害問題についても、市民の多くの方の要望でもありますし、どれだけ市民の方が願っているかもわかりませんので、特によろしく、あらゆる対策を講じていただきたいと思います。

以上で、質問を終わります。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午前十時五十分休憩

午前十一時六分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

大島武雄君。

〔大島武雄君登壇〕

○大島武雄君 通告してございます二問について、お尋ねをいたします。

まず、第一問の公害問題につきまして、お尋ねをしたいわけでございます。

ご承知のように公害問題は、国際的な大きな問題となり各国ともに真剣に取り組んできている状態は、ご承知の

とおりでございます。

最近の天候異常、または異常潮位等によります自然現象にたいへんな異常が起こっておりますのが昨今でございます。この現象は、核爆発の突如とあるいは、水爆等の突如、または、石油化学等による大気汚染、あるいは産業廃棄物等による海水汚濁などによって大きなその原因と考えられるのでございます。

私は日本のみならず、あるいは四日市のみにこだわらず、国際的な問題として、宇宙の自然を守るための話し合いが必要な時期であろうと痛感いたしておるものでございます。その問題は別といたしましても、あくまでも生命尊重の立場から、健康的で健全な環境の中で安心して生活が営まれるために、あらゆる努力が必要であろうと思っております。しかしながら、四日市は毎日が大きき不安の中で大ぜいの方々が生きておられるのが実態でございます。この不安をなくするために、きのうからも、あるいは今日までたびたびこの議会に質問が出されているわけでございますが、市長はどのようにして市民に対し、公害絶滅に対するその姿勢なり、方針の決意をされておられるかということが、一番大事な問題であろうと思っております。

そこで、質問の第一点は、私は重ねて申し上げておりますが、先ほども、吉垣議員の答弁の中にもございましたが、再度ここで市長にお願いをするわけでございます。

公害患者に対します生活安定のための、一部の経済援助についてでございますが、ご承知のように最近の経済状況の不安は日を増すごとに、つのるばかりでございます。患者の方々には病院で治療を受けながら、家庭生活の苦勞は以前にも増して困難をきわめているのではないかと、心を痛めているのが実情でございます。市長は生活保護に該当するような状態になれば、生活保護法の中で見ていくと発言されているのでございます。患者の方々は、この市長の発言を聞いて憤慨しているのでございます。市長のいままでの発言、あるいは考え方のワクにこだわらず、一歩前進の市民の喜ぶ政治を要求しているのが実態でございますので、政治のうえでき得る限りの救済をすべき

であろうと考えます。

この患者の方々は、自分の持病というよりは加害者があっての病気で、あるいは加害者があっての病気で、と考えているのでございます。ここを念頭におきましてこの生活保障の問題等のことについて、再度お伺いをいたしたいのでございます。

第二点目には、公害遺児救済制度をつくる必要があらうと思ひます。

毎日のように、家庭の中でだれかがせきをし、苦しむその姿を見ているのでございます。このような家庭の中で、おとなは別といたしましてもかわい子供は自分が苦しみ、あるいは親が苦しむその中で親としてともに励まし合ひ、あるいは激励し合ひながら一日も早く元気になってほしいと、その一心でがんばっているのが現状でございます。そのように苦勞し、努力しながら健康を保つための努力は並みだいでいいことではございません。こうした涙ぐましい努力の中で、公害により父が死亡し、母が死亡していくそのときのその子供の心境はどうでありましょうか。幼ない清らかな心が、一変してまっ暗になつてしまふような気持ちになるのは当然でございます。そのような子供たちを少しでも救うための努力が必要であります。したがって、公害遺児救済制度を設置することに対して、市長並びに部長のお考えをお伺いしたいのでございます。

第三点目には、水銀中毒事件について、お伺いをいたします。

去る、八月二十一日の新聞に記されておりましたのでございますが、この事件は、ある会社に入社してより、三十五年に入社してほとんどの期間が無機水銀などを使っている製品をつくっているプラントに、働いておったようでございます。

症状といたしましては、ことしの春ごろから頭のしんが重い、または頭の中がからっぽになる感じであるというような症状が起きておるようでございます。また、本年の四月髪の毛を大阪府立公衆衛生研究所で調査したところが、普通の人は六PPMであるのに対し、その方は三一・四PPMもあったと、無機水銀が検出されたということでございます。

さらに、また昨年九月ごろには八名の中毒患者が出たと聞いておりますが、この問題について、現在は四日市労働基準監督者に申請してあるということでございますが、この件について、わが四日市市公害担当の部長のお考えを、お伺いしたいのでございます。

第四点目には、去る十四日午前十時ごろに本市に初めてと思われる、光化学スモッグが発生しております。そして、大ぜいの児童が目の痛みなどの苦痛を訴えている現状が起きたのでございますが、その状態は新聞などを見ますと、今後調査するというふうに出ておりますけれどもその状況、あるいは今後の対策について、お伺いをしたいのでございます。

第五点目につきましては、公害による農作物の被害についてでございます。

川尻における約百五十アールに及ぶ稲が枯れ、さらには昨年よりも約三倍に近いものの被害が出たということでございます。その枯れた水田は、工場に近しいところだけであるだけで、話によりますと工場から出る有毒ガスではないかということでございます。この問題につきまして、工場と地元の方々の話し合いがあったということでございますが、その状況、または八月末に市に対してその原因の調査を依頼したということでございますが、その結果はどういう状況であったかを、お伺いしたいのでございます。

いずれの場合におきましても、公害対策の根本は発生源対策について勇敢な戦いが必要でないと、私は考えております。さらに、一人一人が公害防止の意識の高揚が大切であらうと思うのでございます。

ただいま申し上げました五点について、お答えを願ひたいのでございます。

第二問に移りますが、変動経済における地元産業の育成についてでございます。

昨日も、中島議員あるいは出井議員の質問もございましたので、できる限り重複を避けたいと思っております。

去る八月における、アメリカのニクソン大統領の経済新政策は、世界各国の耳目を驚愕させ、米国が不況経済で近代にない深い深刻な状況にあることを発表し、今日までのニクソン経済政の失敗を天下に露呈したのであります。さらに、米国を救済するために、他国にその救済の一部の責任を負わせるというよりなきわめて悪らつな権力の行使であろうと、考えるものでございます。また、今日までわが国は、あまりにも米国に頼り過ぎた経済外交を行ない、米国追従外交の失敗をわが国民にしわ寄せをしているのが、政府の現在の状況であろうと思っております。

ドルショック以前における経済不況の苦しみのうえに、さらにドル対策による不況が加重され、それを乗り越えることのできないために自殺をした方々も出たという状況でございます。

昨日の質問にもありましたので、重複を避けるわけでございますが、この長期にわたる不況を乗り越えるには、やはり勇敢な救済対策が必要でありましょう。すでに、本市においても就職の取り消しや、あるいは倒産等が起これ、それによる家庭生活の破壊が起きつつあるのでございます。本年暮れの迫まるにつれて、給料の遅延などが起これる可能性があると考えます。したがって事前に調査し、その対策が必要であり急務であります。

したがって、私は第一点お尋ねしたいことは、中小企業及び零細企業をこの不況から乗り切るために、金融制度の大幅の改正はもちろんのこと、産業界の商工課の中に経営相談係の設置をしていく必要があるかと痛感いたしてゐるものでございます。

この点についてのお考えを、お願いしたいのでございます。

第二点目には、わが地元産業界の育成をはかるために、今日までは米国を主体とした輸出体制でなく、世界各国に向けての輸出体制をつくるのが大切であろうと思ひます。そこで、いま埋め立て工事が進められております商港にコンテナ埠頭会社ができることになっておりました。すでに、その体制が着々と進められており、その活躍が

期待されておるわけでございますが、この国際貿易商社を誘致して地場産業の発展の推進に積極的な活躍を望むものでございます。

この点についてのお考えを、お伺いしたいのでございます。

第三点目には、地場産業をこの除大しく繁栄させるために、産業界に新たに貿易課を設置して、国内及び国外に向けて地場産業のPR、あるいは積極的な活躍を進める必要の時期が来たのではないかと考えます。

この点についてのお考えを、お伺いしたいのでございます。

第四点目には、この不況を乗り越えるために、市及び関係企業、商工会議所、銀行、農協、学識経験者などによる仮称「経済対策協議会」を設けて、その対策をする必要があると思ひるのでございます。

この点についてのお考えを、お伺いしたいのでございます。

○議長（日比義平君） 衛生部長。

〔衛生部長（園浦克己君）登壇〕

○衛生部長（園浦克己君） 公害に関するご質問に、お答えいたします。

第一番目の、患者に対する経済援助の問題でございますが、本年の七月分の医療手当から、従来までは通院が六日以上の方にそれぞれ医療手当を差し上げておりましたのを、県と協力いたしまして通院二日以上の方々に手当を差し上げるように処置いたしております。七月分からといいますと、九月の月末に、今月の月末に支払う分から適用されるように実施をしております。

さらに、経済援助の中で、いままで、たびたびご要望のございました所得制限の撤廃とか、あるいは葬祭料の制度化というふうな問題につきましては、環境庁と交渉中でございます。環境庁も来年度の予算に予算要求をいたしておりますので、実現の可能性があるのではないかと考えております。

第二点の、公害によってなくなられた遺児の救済を考えたらどうかというご質問かと思いますが、現在、いわゆる公害患者の遺児と考えられる十八歳未満の方が、おとうさんがなくなられて子供さんが十八歳以下の方が七名ございますが、ひとところいろいろと論議されました交通遺児だとか、その他ほかの関係もございしますので、目下のところこの公害患者の遺児に関してだけ優先して特別な措置をするというふうには、考えておりません。

第三番目の、水銀中毒事件でございますが、いまお話がございましたような事件であることを工場長を呼びまして説明を聞き、その前後に市のほうから、いわゆる工場外における水銀の濃度測定等は行ないましたけれども、工場敷地境界線付近における水銀の測定には、器械にからないほどの程度しか出ておりませんので、わたしたちといたしましては、あくまでも工場内における労働衛生問題として労働基準監督署のほうの行政指導におまかせをしておるわけでございます。むしろ、議会の公害対策委員会等で問題になって、いろいろと心配いただいておりますことは、この工場のもつ電解工場から排出される水銀が、水質汚濁にいかなる影響を及ぼしつつあるのか、及び今後それがどういふ影響が出てくるのかという問題について、公害行政の観点から十分監視をしていかなければならない問題かと思いますが、当工場では昨年十二月一日以降に発令されました、施行されました水質汚濁防止法による環境基準の、排出基準の範囲内におさまるような廃水処理をいたしておりますので、目下のところ法に抵触するような大きな問題が起きてないようでございますが、私たちといたしましては、市といたしましては十分関心をもって、監視をしていきたいというつもりであります。

第四番目の、光化学スモッグの問題でございますが、新聞紙上で報道されましたように、十四日の十時半ごろからたくさんの方が目が痛いというふうな訴えがございまして、県の公害センターと、市のほうで協力いたしまして測定をしたり、その範囲がどの程度に及ぶものであるかという問題を心配いたしまして、総動員で測定をしたのでございますが、結果的には周囲四キロにわたるほとんど全域に及んだ、そして被害を受けたという申告が、被害を

受けられた市民の方が二千名に及んだということになったわけでございます。

いわゆる光化学スモッグ、オキシダントというものにつきましては、また十分な原因の説明がなされておらないようでございまして、いろいろと複雑な発生のメカニズムがあつて大気中における、何がどういふことになったならば、いわゆるオキシダントとして光化学公害を起こすかということが正確には説明されておらないようでございますし、県も、市もまだそういうものに対する測定器の整備されておりませんので、今後十四日における現象を十分に県、市で検討いたしまして、原因の解明にあたっていきたいというふうに考えております。反省といたしまして、こういう場合における市のとるべき措置に、たとえば教育委員会等に連絡をして、各学校にいち早く通告をするとか、あるいは県、市でラジオとかテレビと年間契約を結んでおいて、直ちにこれをテレビやラジオによって、市民の皆さんに通報をするとかいうふうな措置を、これからは考えなければいけないというふうに反省をしております。

第五点の、農作物の被害でございますが、これは河原田における、ある工場の周辺、おっしゃるように一・五ヘクタールぐらいの稲の被害だそうでございますが、問題はその付近にある稲以外の作物には、何らの損害も被害もないようでございまして、稲だけに、稲作だけに限定をされているという特殊性にかんがみまして、これは当該工場から排出される大気によるものであるのか、あるいは、いわゆるDDTとかBHCとかいう在米から稲作に非常に効果があつた農薬が使用禁止になりました、それにかわるべき農薬をお使いになった、その反対現象として、そういう被害があつたのか等の因果関係が明確でございせんので、地区の方が県の農業事務所にお話になり、農業事務所から県の一志郡にある農業研究指導所に、被害状況の調査検討を依頼いたしました、さらに、三重大学の稲作専門教授のご意見等も承りつつある状況だそうでございます。また、その結論が出ておらないようでございます。したがって、この問題は大気汚染を担当する衛生行政ではなくて、農業部門において第一義的に検討を

していただいて、その結果によって、その結論を承った結果考えていくべき問題ではないだろうかというふうに思うわけでございます。そういう問題が協議を受けました時点において、県、市ともに公害担当者が当該工場周辺における大気の測定をいたしましたけれども、見るべき測定が、測定値としてあらわれるべき、あらわれるほどの汚染がなかったことを申し添えておきます。

○議長（日比義平君） 産菜部長。

〔産菜部長（阿南輝彦君）登壇〕

○産菜部長（阿南輝彦君） 激しい経済変動の状況、あるいは市の考え方につきましては、昨日ご説明申し上げておりますので、ご質問の四点につきまして、簡単にお答えをしたいと思います。

経営相談係の設置についてのご意見でございますが、名前は違いますが昨年四月より振興係という形にいたしまして、相談業務を重点的にやるように、体制は整えております。ただ職員の質におきまして、相談を十分に乘れるという段階にありませんので、先進県、市にならぬように、中小企業振興事業団が行なっております中小企業診断員の養成課程にぜひとも派遣をして、商菜、工業のコースを学び業界のお役に立ちたいということで、いま人を送り込む準備をいたしている状態でございます。それまでの間、ことし六月につくりました中小企業振興規則の中にも、経営指導のことをうたっておりますので、当面部外の人たちにお力を借りるという形で、昨年愛知大学の先生方に各専門分野に応じまして、各業界ごとに調査、話し合いをいたすというふうなことをいたしております。

また、一昨年より市が主催いたしました経営合理化講座を行なっており、すでに十一回を開いております。来たる十九日より本年度の連続六回の講座を開く予定にいたしております。

次に、国際貿易商社の誘致というご意見でございますが、四日市の港が輸出入のアンバランスであることは、常常ご指摘があるわけでありまして、これは是正のために、かねがね貿易商社の誘致ということが議論になっており

ます。昨年八月、三重県貿易振興会を発足いたしましたして、わたしども専門委員会の一員となりまして、この商社の誘致問題に取り組んだりいたしておりますが、なかなか四日市の輸出産菜の状況では、商社が四日市に来るという状態にはなかなかむずかしく、大体、まあ名古屋、愛知県の商社にほとんど中小企業の雑貨等が扱われているわけでございますが、神奈川県におきましては貿易公社という形のものを四年ほど前に設置をいたしております。まあ、そういった方式なども貿易振興会を通じて研究いたしております。

それから、産菜部内に貿易課の設置というご意見でございますが、昭和二十七年に市に港湾課が設けられましてより、港湾課が港湾の問題あるいは、貿易の問題を扱っておりますので、四十一年三月にこの港湾課が廃止されました。その貿易面につきましては、昨年の四月、この議会で事務分掌条例の改正をお願いいたしまして、貿易業務は明確に商工課で行なうということにいたしておりますので、貿易課というところまでいってありませんが、この貿易係を中心にして県の貿易、三重県貿易振興会と、ともどもご指摘のような線に沿うような努力をいたしておりますところでございます。

経済対策協議会の設置、仮称のご意見がございましたが、昨日も申し上げましたこの二十二日に開く予定にいたしております中小企業振興対策協議会、大体、商工会議所あるいは、各業界代表の方々を網羅いたしまして構成している会議でございます。ご意見の提議は入っておりますが、こういった形のもので十分な協議をいたしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 大島君。

〔大島武雄君登壇〕

○大島武雄君　ただいま、お答えをいただいたわけですが、その中で幾つか要望を時間の関係でさしていただいて終わりたいと思います。

何といたしても、公害問題につきましては、やはり今日まで四日市は、他の都市に比較できないほどの努力をしてきているわけですが。いかにせん、市民がほんとうに喜んでいるという状態にはいまだになっておりませんので、こちら辺で、再度協力体制をいしてですね、この善処に当たっていただきたいと考えております。その中でこの生活保障の問題もさることながら、やはり先ほど部長からの説明で、七名の十八歳未満の方々がおられるということでございます。たとえば、この前の新聞にいたしましては、瀬尾さんの場合、あの長女の方が愛知商業へ行かれておったわけでございますけれども、私の人生が一変したところというその非常につらい発言をしているわけでございます。まあ、この一言をどのように受け取られているかわかりませんが、やはり自分の大きな夢を描き、そして自分の幸せのために、あるいは社会の貢献のために努力をしてきた一人でございますが、それがこのような母の死によって大きく転換をしなければならぬというような現実が起きてきておるわけでありす。まあ、このことをどうか忘れないで今後の公害対策に取り組んでほしい、このように私は要望をいたしておきます。また、広瀬さんの場合におきましても、あるいは曙町の加藤さんの場合におきましても、やはり大きなショックを受けているのが実情でございます。こりう方々の救済を何らかの形で前進をしてみたい、またお願いしたいわけでございます。この手当がふえたから、それで経済の援助になったかというところではございません。多少のことはあろうといたしましても、今日までも売薬を買い、あるいはそういうせきしながら自分の生活を確保するために努力をしてきた方々でございます。で、そういう点についても、一つよろしくご配慮をお願いいたします。

なお、第五点目のところにおいて、まあ時間もありませんので、ちょっとお願いをしたわけですが、私はこちらの近くの会社の排水に、問題があるかと思うのでございます。先ほどは、農薬のことではなかったんではないかというお話でございましたけれども、私はそうでなくて、あそこの隣接する会社です、ね、廃水がたとえば硫酸などが素堀りの中で約十メートル四方の沈殿槽に、素堀りの中で捨てられておると。そして薄くなったものを廃水処理の施設のはうへ流しているというようなことではなからうかと、想像しているわけでございます。中へ入っておりませんのでわかりませんが、外部から見るところはそのような感じがしてなりません。一回これは調査をお願いしたいと思っております。

これは、要望いたしておきます。

それから、経済の問題につきましては、たとえば陶磁器の面を見ましても、北米、南米は二千六百二十九億五千七百七十一万円の輸出を行っております。また、中南米におきましては四十七億三千八百七万円の輸出を行っております。たとえば消費の多い、人口の多い中国にはゼロでございます。したがって、こりう方面へもやはり地場産菜の一つの育成の方向として貿易の、あるいはこりうPRです、ね、積極的な姿勢をもっていくことによって、大きなまた、経済のあるいはこりう営業の安定が少しでも見出せるのではないかと考えたからでございます。したがって、いままでも努力しておるわけですが、さらに強力な体制を望みまして、私の質問を、終わりたいと思います。

○議長（日比義平君）　暫時、休憩をいたします。

午前十一時四十二分休憩

午後零時四十四分再開

○議長（日比義平君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

小林博次君。

〔小林博次君登壇〕

○小林博次君　それでは、質問通告に従いまして、質問させていただきます。

第一点目は、災害の対策についてお尋ねをいたします。

いわゆる九月十三日の議会の冒頭に、二十三号台風に関する被害状況と応急処置についての市長報告があり、さらには十三号台風等につきましても、昨日来の質疑の中で、質問したいことの大半が答えられておりますので、重複する面があると思いますが、よろしくお願いをいたします。

災害に対する行政のあり方についてであります。これは言うまでもなく、災害が発生してからの対策よりも、むしろ災害の予防から行政が始まらなければいけないというふうに思いますが、いかがでしょうか。もし防災から始まるとするならば、なぜ毎年同じような場所が被害を受けるのでしょうか。市民に言わせれば、えらいさんのあるところは十七億円もかけているのに、何で毎年われわれだけが泣かなければならないのかという声が聞かれますが、これまさに住民の市政に対する不信の声であると思うのであります。昨日も幾人かの議員が指摘しておりまして、これに、防災のことなら四日市に見習えといわれるようにしていきたいものだと思います。そこで、なぜ防災計画なるものが、完全に実施、守られていないのだからかという点についてお尋ねしたいと思います。

さらには、万が一にも災害が発生したときの処置についてであります。住民に対しては、災害についての知識や防災の訓練などが必要であると思いますが、現状はどのようなことがなされているのか、お尋ねをいたします。

次に、災害が発生した時点の体制についてありますが、九月十三日の市長報告にもありますように、災害の現状を担当する各部署というのは、土木と耕地のことだと思えますが、せいぜい十名ぐらいの担当者で、ほんとうの意味の防災に対する体制がとれているのかどうかということが疑問であります。現状について、少々説明をい

たいただきたいというふうに思います。

次に、水防資材についてであります。

河川がはんらんしたとき、ないしは増水しそうなときなどに使用される水防資材は、一行政区の単位で一カ所ぐらい、大体水防倉庫は現在十二カ所、その他に出張所などに資材が置いてあります。災害が発生して道路が寸断をされたりした場合は、水防資材を運ぶことが実際にはできないという場合が考えられます。最近の例では、尾鷲のような例があるわけですが、水防資材の置き場を何とかふやすことができぬものだろうかということについて、考え方をお聞かせ願いたいというふうに思います。

さらに台風によるがけくずれとか、集中豪雨等による災害などの復旧について、三年計画でやっていくということとありますが、思い切ってすぐに全部の復旧工事を行っていくべきだと思いますが、昨日の答弁に、二十三号の台風で生じた災害の応急処置は全部済んでいますというふうに聞いたわけですが、応急処置だけでは不安でありますので、災害にあったものを完全に復旧させるよう、努力をしていただきたいというふうに思います。

災害の原因についてであります。これも昨日来の質疑の中では説明らかにされたと思いますが、その一つに、新しい団地の造成、いわゆる新興団地の造成があげられております。たとえば桜団地の造成のために、ちょっとした雨とか、あるいは集中豪雨や台風のために矢合川がやられておりますし、坂部団地の造成によって郡田川が、あるいは朝明団地についても、昨年の台風で山城駅付近が水攻めにあっています。このあたりの対策については、六月議会に質問された議員がおりましたが、台風のたびに寿命の縮むような思いをしなくてもいいように、県や国と協力して、抜本的な対策を立てていただきたいと思えますが、このあたりについて、市長の考え方を明確に出していただきたいというふうに思います。

次に、さきの十三号台風では、雨水によって特に旧市内一帯が、排水などの逆流によって、水が床下まで入った

ところがたくさんありましたが、私の地元の中町、八幡町はもとより、旧市内全域に被害が出ているわけです。その原因の一つは、昨年来指摘されておりますように、排水ポンプの能力にも問題があると思います。これは、単に台風だけではなく、一度にたくさん雨が降ったときなども、程度の差はありますが、同じように水が道路にあふれることがあります。特に、曙町のあたりがひどいというふうに思いますが、その対策があればお答えをいただきたいというふうに思います。

それから二十三号台風では、海蔵川の堤防の被害が出ておりますが、三滝川の国道一号線より下のほうに、いわゆる堤防の内側に、芝生を張った河床公園がありすが、これもさきの二十三号台風で、半分近くが流失しております。そこで、この河床公園についてお尋ねをしたいと思いますのでありますが、いつの時点で、県のほうから、市に管理が移されるのかについてお伺いをしたいと思います。

さらにまた、三滝川の流れを海蔵川に切りかえる工事についてでありますが、これは一体、いつごろ完成をさせる予定なのか、続いてお尋ねをいたします。

二つ目に交通の対策について、お尋ねをいたします。

まず一つ目は、六月議会に質問させていただきました磯津橋の近くに、歩道橋をつけてくださいという質問がありますが、市長は六月議会で、磯津の歩道橋につきましては、大体、この四十六年度内に完成するとお約束をされておりますので、四十六年じゅうには、ぜひ完成させたいと、さよう考えておりますというふうな答弁をして、確約をいただいたわけですが、聞くところによりますと、磯津橋より約二百七十メートル西に寄った地点で、陥石からのそういう間の橋脚の上に歩道橋を取りつけるんだという、まさに爆弾の上を磯津の住民に歩かせるような案が示されたわけですが、とてもそんな物騒なところは歩けません。私どもは、公害と違ってかよわい人間であります。これは磯津の自治会や婦人会、あるいは育成会にしても、安全性に欠けるもので、つくっても

らっても一切使用はしないと言っておりますというふうな住民の声が聞き入れられたのかどうかはわかりませんが、昨日になって、安全性の面から見て、そういう間の橋脚の上に歩道を取りつけるのは、中止をされたというふうに聞いたわけですが、そのあたりの事情を説明をさせていただきたいというふうに思います。

次に、道路の舗装についてお伺いをいたしたいというふうに思います。

私は議員になってから、何とか足元の道路に穴のあいているやつを埋めたいということで、一月ほどかかりまして穴を埋めたわけですが、同和地区の状態を出して言うなら、一雨ごとに道路に穴があくわけです。もちろん穴は、これからもあきらめずに危険ですから埋めていきたいというふうに思いますが、何よりもまして、本格的な舗装を早急にしていただきたいと願うわけですが、舗装については、どんな状態のものから先にやっていったけるのか、何か舗装についての基準でもあればお聞かせを願いたいと思いますし、さらに歩道の舗装にしても、中町や、北町、八幡町、北条、北浜になると皆無の状態があるわけですが、この点についても、何か計画があればお聞かせを願いたいと思います。

三点目は、通学路についてお尋ねいたします。

これは大池中学への通学路についてであります。四日市、関ヶ原線の交通が激しくなってきたので、耕地担当の農道を通学路に活用しようということで、地元のPTAと学校で、道路に手を加えたのですが、ほかに農道を利用してある場合がありますが、通学路は、農道に水をかぶることなどもあり、そのつど勤労奉仕でやったものではなかったものではありません。これからも、農道などを通学路にすることがあると思いますが、住民にやらせるのではなく、市が積極的にやるべきだというふうに思います。理事者の考え方を伺いたいと思います。

三点目に、最近の経済情勢、いわゆるドルショックに対する対策についてお伺いしたいと思います。この事項は、昨日来の討議の中で、私の質問したい大半が出ておりますし、さらには、うしろに小林哲夫議員が控えており

ますので、簡単に一言だけ伺いをしたいと思います。

特にドルショック以降、地場産業の万古焼きは、まるで受注がとまってあるわけですが、さらに悪いことには、下請の業者は、ほんとうの意味で仕事がないわけでありす。これは、単に一例にしかないわけでありすが、そのほかの業種にも、いろんな影響が出て、ないしは出つつあるというふうに思いますので、商工なり、農林課で調査された状況を説明していただきたいと思います。説明の中で、万古と穢維については省いていただきたいというふうに思いますが、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（日比義平君） 市長。

（市長（九鬼喜久男君）登壇）

○市長（九鬼喜久男君） 災害対策に關連をいたしまして、お答えを申し上げます。

この行政のあり方の問題でございますが、これは何といたしても、お説のように、絶えず予防的に措置をされておるといふことにしたことはないと思ひますけれども、大体四日市市にございすところの、ご指箇のような水害に例をとりますと、内部川、あるいは三滝川、天白川、あるいは朝明川というようないろいろの河川の上流というものは、ほとんどが大昔からの自然の状態のままでございまして、草むらの土手の下を水が流れておるといふような状態でございます。ところが、ここ二、三年、過去に例のないような時間雨量の非常に高い集中豪雨がやってくるということが、たびたびございまして、昨年、ことしと続いて非常な記録的な集中豪雨がある。そのために、たとえば足見川であるとか、あるいはまた谷川であるとか、矢合川というようなところが、大きな事故を起こすというようになりまして、まことに申しわけなく思っておりますが、これらの復旧につきましては、できる限り原状復旧でなく、改良復旧に進みたいというふうに考えております。県管理の河川につきましては、そのようにお願いいたしておりますし、市の管理の河川につきましては、やはり従来の土手のような草のはえたものから、

ブロック、あるいは石積みのようなものに、当然変えていかなければならないと思っておりますが、現在の情勢では、予防的なことまでできないというのが現状でございます。従来から問題のあるような河川については、重点的に、そのような方向で進まなければならぬというふうに考えております。ご承知のように、内部川の上流では、足見川であるとか、谷川、春雨川、諏谷川、三滝川では矢合川、朝明川では、先ほどご指箇にもございましたところの谷川、あるいは、その他鉄砲川、十四川、米洗川、海蔵川等、いろいろ尚ほある河川がございす。こういう河川の危険なところについては、できる限り予防的な措置を講じなければならぬと、かように考えております。災害防止計画、あるいは担当課の現状、水防資材等の点につきましては、担当者からお答えをさせていただきますと思います。

災害の原因が、何にもこの、確かに東名阪国道ができたために、あるいは、また団地が開発されたために、それが一つの大きな要因になっておるといふことは事実でございます。そういう点につきましては、そういう開発をするところの責任のある原因者に、小河川の強化ということを嚴重に実施をさせたいというふうに考えておりますし、四日市の開発公社でやっておりますところの三重団地の場合も、矢ノ根川等につきましては、一億二千万円をかけて小河川の強化というものを、現在実施中でございます。

三滝川の河床公園の移管の問題でございますが、近いうちに四日市に移管されると思ひますけれども、現在のままで移管をしていただいても、いたずらに四日市がいろいろの負担をしなければならぬ。何といたしても、この三滝川を海蔵川へ切りかえる工事がなくして、あの河床をつくっても流失し、あるいは流亡してしまふ危険性が非常にあるわけでございますので、昭和十六年からかかって、まだ完了しない、約三十年もかかっておるこの県営の事業でございます。われわれも一日も早く、この三滝川を海蔵川へ切りかえるように要望いたしておりますが、まだ県が海蔵川へ切りかえて、はたして海蔵川の護岸が安全であるかどうかについては、自信が持てないというよ

うなたよりない状態でございますが、しかし少なくとも、あれだけ河床公園を整備したわけでございますので、河床の保護のためにも、やはり一日も早く、海蔵川へ切りかえて水を案分する必要があると、さように考えております。

蔵津橋の歩道橋でございますが、加藤助役をキャップにいたしまして、従来いろいろ努力を重ねてまいりました。幸い昭和四日市石油が楠町からの原油のパイプの橋をかけますので、それに合わせて歩道橋を建設するようにいろいろ話し合いを進め、なかなか困難な情勢でございましたが、やっとこさ、この十月から工事にかかろうかということになりましたが、その後建設省の指導等で、パイプの高さが非常に、奥防より高くなるというようなことから、歩道橋の一部が、したがって高くなり、階段で上下しなければならぬということから、いろいろ難点が出てまいりました。そのために、この蔵津の歩道橋を早期に完成するということが、非常にむずかしくなってきたということでございますが、今後の問題として十分検討をさせていただきたいと思っております。

通学路の問題につきましては、担当者からお答えをさせていただきますが、市の方針といたしましても、通学路であるとか、通勤道路であるとか、あるいは買ひもの道路というような生活に直接かわるところの、しかも自動車事故のないような道路につきましては、四十六年から優先的に、少しでも舗装し、安全に通れるように努力をいたしてある最中でございます。

○議長（日比義平君） 消防長。

〔消防長（富山光三君）登壇〕

○消防長（富山光三君） 水防資材と、それから防災の平素の訓練はどうかいろいろお尋ねだと思えますが、水防用資材につきましては、先ほどご指摘のように水防倉庫と、各出張所に資材を保管いたしております。それで何か事があった場合に、それではいかぬのではないかと、事があつたときに別の方法が考えられぬかというようなお尋ねか

と思ひまするが、災害というものは、全市的に、一ぺんに来るといふ関係ではございませんので、いまの考え方といたしましては、各地に保管してあるところの水防資材というものを、そのときの状況に応じて、有機的に運搬することによって、水防資材を有効的に活用していきたいということ、もう一つは、ご指摘のようなこともありますので、土木のほうともよく連絡、調整をいたしまして、資材担当の商人とも特約をいたしまして、いつでも資材が手に入るというような契約をいたしてございますので、その辺のところよろしくお願いしたいと思ひます。

それから平素の訓練でございますが、何と申ししましても災害を想定して訓練をするということは、まことにむずかしいことでございますが、しかしながら、手をこまねておつては、事が成就いたしませんので、当市といたしましては、本年も七月七日に防災訓練をやりまして、その防災訓練の中で、あわせて水防訓練をも実施いたしておるような状況でございます。ご案内のとおり訓練でございますして、訓練の規模、その他につきましては、他市に例を見ないところの大々的な訓練をやっておるようにならぬように考えております。来年度の目標といたしまして、来年度は、特に水防を主体とした訓練を実施いたしたいというような考え方をいたしておりますので、ご報告申し上げます。

なお、平素あつたような大々的な訓練は別にいたしまして、常時水防組合なり、水防団、つまり水防団というのは消防団とかねておりますが、消防団とよく連携をとりまして、また各コンビナートの各社と連絡をとりまして、所と場所を変えまして、常時訓練をいたしておるというような状況でございます。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 土木部長。

〔土木部長（谷沢文男君）登壇〕

○土木部長（谷沢文男君） ご質問の交通対策についてご説明を申し上げます。

なお先ほど、交通対策の中で三滝川の問題が触れましたが、これにつきましては市長がご答弁のとおりでございますが、三滝川の河道整備につきましては、四十五、四十六年引き続いて行なわれておりますし、また海蔵川の河川改修、及び河道整備による瀬替え工事も進められております。なお、三滝川、その他についての地元の要望もございまして、管理上、県土木といましては、管理を考えた上での一部使用を認めておるといような現況でございます。

飯津橋については市長ご答弁がありましたので、省略させていただいて、問題は、通学路の問題を含めてのご質問でございますが、交通安全対策の面から考えました予算といしまして、当初に千五百四十九万の予算をいただき、さらに今回の補正をいただきまして歩道橋の整備、特にこれにつきましては子酉八王寺線の歩道橋、及び歩道につきましては塩浜、大治田付近の二線、それから、その他通学の対策としての交通安全施設を行なっております。また学童の通学路につきましては、教育委員会との連携をとりまして、すでに教育委員会等からの要望にこたえて、逐次、計画的に進めさせていただいておりますし、歩道整備につきましても、本年といましては、約五千平米から六千平米の舗装を実施していきたいという考え方でございます。

なお、舗装についての重点的な考え方はどうかというご質問でございますが、この点につきましては、昨日来の市長のご答弁にもありますように、一応四十八年までには、主要道路の舗装を重点的に行なりと同時に、通学路、あるいは生活道路等に重点を置いて整備を進めたい。なお再舗装を含めて、整備計画を進めていきたいと考えております。以上です。

○議長（日比義平君） 下水道部長。

〔下水道部長（天野助春君）登壇〕

○下水道部長（天野助春君） 旧市内部の床下浸水があったということでございますが、これは、先ほど市長から

もお答えがありましたように、このたびの十三号台風は、時間雨量で九十三ミリありまして、公共下水道における雨水強度は、時間雨量を五十ミリで算定しておりますので、九十三ミリ、驚異的な雨が降りましたので、一部浸水したというような状態でございます。それから曙町付近の浸水でございますが、これは十三号、二十三号のときにも浸水いたしましたので迷惑をかけたわけでございますが、あの地域につきましては公共下水道の認可区域でございますので、本年度にこれを完成したい、このように考えております。その予算につきましては、本議会にお願いをいたしまして、補正をお願いしておるわけでございまして、これは、あの道路へ七百ミリから六百ミリの管をいけまして、あれを北松本昌栄線にあの塩浜街道のところに、シールド工法で管渠ができておるわけでございます。それから西のほうへ、あの踏切の付近までもう管が入っておりますので、それに取りつけまして、あの付近の排水をするという計画になっております。これができますと、一応あの付近の排水はできることになるわけでございますが、まだあの付近の全部の排水の管渠ができない以上は、完全にはいきませんが、ある程度の効果はあります。そのように確信しておるわけでございます。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） 先ほどのご発言の中で、二十三号台風、八月三十日の夜、土木関係に十名前後の人しかいなかったように聞き取りしたのでございますが、当日は午後八時、災害対策本部を設置いたしました時期には本庁、並びに各出張所の職員は三百六名出ておりましたし、午後十二時には四百三十名ほどの職員が出ておりましたので、ご了承いただきたいと思います。

なお、災害体制につきまして申し上げますと、災害が発生し、また発生するおそれがある場合におきましては、災害を防御し、また応急的な救助を行なうために組織を定めておりまして、これは地域防災計画の中に明記してお

ります。まず市の災害対策本部の組織につきましては、災害対策本部条例、並びに同施行規則がございまして、その中に定めております。そして市内に暴風とか、大雨、津波、高潮、洪水等の災害が発生するおそれのあるような場合、市長が必要と認めたとき、また市域に大きな地震とか、火災とか、また爆発、水難等が発生した場合に、災害対策本部を設置することになっております。

組織の概要につきましては、災害対策本部の本部長が市長、副本部長は助役が当たることになっておりまして、組織の概要は市長公室総務部以下十四の部と、各出張所管内等二十七の分隊に編成しております。

配備体制につきましては、第一次警戒配備、第二次警戒配備、災害出動と三段階に区分しております。第一次の警戒配備は、三重県内に大雨警報とか、暴風雨警報等の警報が一つ以上発せられた場合、直ちに置く。また、その他市長が、特に必要であると認めた場合に、第一次警戒配備をとることになっております。そして、市の全域にわたります。風水害が発生するおそれのある場合、または全域でなくとも、被害が特に甚大であるということが予想された場合には、第二次警戒配備をとることになり、さらに市域に、風水害、その他異常な自然現象、または大規模な災害が発生したときには、災害出動と、こういった体制をとることに規定されております。

○議長（日比義平君） 産業部長。

〔産業部長（阿南輝彦君）登壇〕

○産業部長（阿南輝彦君） 最初に、通学道路に利用されている農道の維持補修の問題について、お答えを申し上げます。

農道というものは、本来農家の農作業に利用される特定の受益者があるものでございまして、農業機械の大型化に伴いまして、最近、農道が非常に規模が大きくなってまいっております。それに伴いまして、純然たる農家の利用だけではなくて、いまご指摘の通学道路の場合もありますし、一般の通行等も出てまいるわけでございまして、

道路によりましては、農家による維持管理が非常に困る場合も出てまいっておりますので、今年度当初予算におきまして、農道の補修を行なうための予算を耕地課で持っております。これによりまして、できるだけの維持をいたしていきたいというふうに考えております。

次にドルショックの問題でございしますが、繊維、万古以外の業界について状況を説明せよというご指摘でございしますが、四日市市の場合、常々申し上げておるわけでございますが、他市のような陶磁器だけの町、あるいは刃物金属の町というところと違いまして、四日市の場合、きわめて多種多様な産業、これに伴う中小企業がございまして、それらについてご説明申し上げますと、たいへん長くなるわけでございますが、最初にこのたびドルショックによって、あるいは円の切り上げ等によりまして、四日市市、特に製造業の関係がどういうふうになっているか、その点について簡単に申し上げてみたいと思います。

通産省の指定統計によりまして、昭和四十五年度の工業統計調査の結果がまとまっておりますが、これでは四千八百三十九億七千万の出荷額を出しております。それからことしの三月に、県と各市が協調いたしまして、輸出産業製造業についての調査をいたしました。その結果では、四日市市の製造業のうちの輸出関係のものが、三百三十九億四千万円でございます。前工業出荷額に比べますと、七・〇％が輸出の関係があるわけでございます。円の切り上げ等による各国平価との通貨調整のいかによりましては、この輸出が、全体に影響が出てくるわけでございますが、当面しております課徴金の対象になります北米関係、アメリカ関係は、先ほどの三百三十九億のうち、百四十五億五千万になるわけでございます。輸出額の中で四二・八％を占めるわけでございます。こういうふうな関係で、それぞれ食料品、繊維関係、化学、鉄鋼、機械金属、それから陶磁器、その他というのが、輸出関係、あるいはそのうちの対米関係というふうな関係をもっておるわけでございますが、昨日からお話出ておりますように、昨年の暮れ以来の不況というものが、今日の全産業界に大きく影響を及ぼし、引き続いているわけでございまして、

先ほどの、直接輸出、あるいは対米問題となつてまいりますと、いま除けとご指定のありました繊維、陶磁器が、一番関係が深いわけでございまして、その他につきましては、当面のところ、それぞれにはたいへん問題がございますが、輸出、あるいは対米ということについては、影響が全般的には比較的少ないと、いろいろな状況になつておるわけでございます。

私も産業界といたしましては、いまでもお話ありました農業、あるいは商業、消費者問題全般にわたしまして、調査をいろいろ続けてまいつておるわけでございますが、逆に、円の切り上げに伴う輸入の問題、消費者の問題、こういった影響もいろいろ考えられるわけでございます。今後ともそういった調査を続けながら、ショックの緩和、救済ということに力を尽くしていきたいと思つております。

簡単でございますが、以上でお答えを終わります。

○議長（日比義平君） 小林君。

〔小林博次君登壇〕

○小林博次君 まだ知りたいことがあるわけですが、時間の関係もありますので、横津橋と、ドルショックの問題について少し触れたいと思います。

横津橋については、横津の歩道橋については、それができ上がるまでの間の処置について、ひとつあったかい態度を示していただきたいというふうに思います。

ドルショックの問題については、たとえば、これは最近の例であります、九月一日に東茂福にある三共製造というのが倒産をしたわけであります。これは一昨年来の鈍物に対する不況のところに合わせて、ドルショック以来受注が減ったんだと、そういうふうなドルの問題ではあらわれ方をしたわけであります。問題は、こういう状態のときに一番困るのは、やっぱり従業員であるというふうに思うわけでありまして。特にそこに働いておった方々は、

約十名ほどおるわけですが、この方たちは、その月の賃金も、なかなか退職金すらもいただけないという状態が出ておるわけでありまして。さらには中小、零細に、特にひどいしわ寄せがあるというふうに思います。万古関係の下請についても、実際には仕事がないと。そういう非常に最悪の状態を迎えつつあるというふうに思いますので、何とかそこに働いている方たちが助かると、報われるというふうな、そういうことを中心に置いていただつて、積極的な対策、指導をお進め願いたいというふうに思います。

さらに、これは直接ドルショックというふうには、関係がないわけですが、参考のために出したいと思ひます。これは、実は九月議会に請願、陳情したかったんでありますけれども、いろんな事情で取り下げたわけでありまして、社会保険の、いわゆる公立病院の問題でありますが、……

特にそういうことで、いろいろとドルショックによる影響が、これから先、十月ないしは十一月に地面化すると思ひますので、そのときには手おくれにならないように、積極的な対策を立てていただくことを強く要望いたしまして、発言を終わりたいと思ひます。

○議長（日比義平君） 山本君。

〔山本 勝君登壇〕

○山本 勝君 発言を希望された方が、非常に多くなりまして、時間がそれぞれ短縮されましたので、通告をいたしております項目を、特に日本数字の一の項につきましては、一括して質問をいたしますから、通告しておりますこの項目を参考にさせていただいて、ご答弁を願いたいと思ひます。

地方自治体における政治は、そこに居住をし、そこに働く人々の福祉を向上させていく。こういう大きな目的をもつて進めていくということについては、私たちは過去何回となく申し述べてきたわけであります。しかし政治が執行されていく段階で、そういうことがなかなか実現されていないという場面に、直面をするわけであります。特

に政治を行なり立場、国、あるいは県、市のそれぞれの連絡が緊密にいていないがために、そこで、市民が右往左往しながら困っている。こういう事実が市内各所にあらわれているわけでありす。たとえば、昨日来から災害問題で、各議員からいろいろ問題提起がされております。私が居住をいたしております三重に海蔵川が流れておりますが、昨年の集中豪雨からことしの十九号、あるいは二十三号の台風によりまして、相当の被害を受けたのです。ところがこの海蔵川を管理するのは、県ということになっておりますけれども、この海蔵川にかかる農薬施設は、耕地課の担当であります。そこで地元の方では、海蔵川を災害から守るために、根本的な施策をする必要があるのじゃないかということで、昨年から改修促進委員会をつくって、それぞれの機関に運動を進めているところでありすけれども、市の土木に話をしますと、それは県の管理河川だから、ひとつ県のほうでよろしくと、こういうことであります。県のほうへ行きまして、特に海蔵川にかかっておる、市が維持、管理をしていかなければならない、あるいは指導していかなければならない農薬施設関係については、これは市のほうでどうぞと、こういうことになってくるわけでありす。そうしますと、そこに居住をしながら、海蔵川の改修をですね、一日も早くというふうに望んでおられる方々は、一体どこへ、どの話を持っていったらいいのかということ、あっち行き、こっち行きして、困っているわけでありす。

さらには、三重、県両地区にかけて県営の基盤整備事業が進められております。この基盤整備事業の一環として海蔵川の支流であります竹谷川が、現在改修をされつつあるわけでありす。河川の改修というのは、特に大々的な改修を進めていくということは、常識的にいえば下流からしていくのが常識であります。上流から改修をして川幅を広げてきたときに、川下は一体とうなるのか。多量の水が袋小路にどっと押し寄せたような形で、堤防をこわし、決壊させ、それにかかる施設を押し流していくというのが、災害をより大きくさせている実情にあるわけでありす。現に三重、あるいは海蔵の一部でも聞くわけでありす。海蔵の改修を上からやるんだったら実力でも阻止しよ

うかと。そうしないことには、自分たちの田畑はもちろん、家屋についても、災害から守ることができないんじゃないかという声が、聞けるわけでありす。

これは一つの例でありす。が、こういう実情をつぶさに、系列的にながめてまいりますと、県と、市の事業執行、行政執行に対する連絡というのは、私は十分でないということを目指をせざるを得ないわけでありす。

もう一つ、たとえば出したいと思ひますけれども、市内の交通が相当、繁雑となりまして、特に近鉄四日市駅周辺の交通緩和の話が出、さらには西浦土地地区画整理の促進と、あの駅裏の整備が問題に提起をされておりますけれども、私は議会に該席を占めるようになりまして当時、建設委員をしておりましたが、当時の話の内容から判断しますと、もうとくに、あのあたりは整備をされていなければならぬはずでありす。ところがここから点については省略をいたしますけれども、国、あるいは県、市の間の連絡が十分にいていないがために、当初議会の、特に建設委員会等の中で説明をされた内容が、実現されていぬ。これは私は、県と市、あるいは国との各行政機関との間の連絡が、十分でないのではないかと、この指摘をせざるを得ないのであります。こういう行政をやっておりますと、いろいろな事業を、推進していくためには、すべてとはいひ切れませんが、住民の協力を要請する場面が多々出てくるわけでありす。したがって、先ほど申し上げたような行政をやっておりますと、今度、逆に事業を推進していくために住民に協力を求めたときに、はたして期待をするような協力が住民から得られるだろうか。こういうことを、私は非常に心配をいたします。

先ほど通学路の問題で、私は土木部長から答弁があるだろうというふうに期待しておったわけでありす。が、産業部長から答弁がされております。いかに農道といひながらも、あれは公有財産であります。農民が農薬を中心にした、そういうために使ひ道路かも知れませんが、公有財産である以上、私は今後改良していくためにも、住民に協力を、逆に求めていかなければならない場面が出てくるはずだと思ひわけでありす。しかし、事業が横

の連絡、あるいは縦の連絡を十分にやっていないがために、市民に不満を与えて、あるいは不安を与えておるということについては、公後十分注意をしていかなければならないと思いますが、そこで縦の連絡について、市は今まででもやっておるといえばやっておるかもわかりませんが、今後具体的にどういう形で、たとえば、連絡窓口を新しく設置するとかいうような方法をとっていかれるのかどうかということをお尋ねをしたいと思います。

次に、行政を円滑に、効果的に執行していくためには、そこに働く職員の待遇をおろそかにすることはできません。たとえば市の条例はたくさんあるが、この中に職員の待遇に関する条例が含まれております。昭和二十八年から施行されております条例の中に、四日市市職員救慰金条例というものがあります。調べてみましたところ、この条例ができてから、この条例の適用を受けた職員がないということであります。せっかくの条例がありながら適用されていない、これが傷害等による見舞い金、あるいは救慰金の条例であります。実際に適用されていないということであれば、そういう事実がなければ幸いですけれども、残念ながら、いままでは、当然適用されるべきではないかという事例があります。特に、消防職員の出勤中における傷害に対して、私はこの条例の規定からいけば、当然見舞い金が支給されるのではないかと、いふに考えるわけでありますが、この条例をどのように判断をしておられるのか、公室長のほうからお答えを願いたいと思います。

なお、先ほどの冒頭の質問については、特に海蔵川、あるいは西浦都市計画の問題について触れましたので、担当助役のほうからお答えを願いたいと思います。

次に、さきに人事院勧告がなされました。職員の待遇の項目に入りますが、政府は五月一日から、これを完全に実施するということをすでに発表いたしておりますが、市はこの勧告を受けてどのように措置をされようとしておられるのか、お尋ねをいたします。これも、公室長からお答えを願います。

次に大きな二番目の公害問題に入ります。この項目につきましましては、通告しております項目どおりにまいりますので、そのようにお答えを願いたいと思いますが、さらには、昨日高橋議員のほうから霞ヶ浦の埋め立ての問題について質問がなされております。たいへん失礼なことをしたわけでありますが、私久席をいたしておりましたので、部分的に重複する点があるかと思いますが、その点については、あしからずご了承をお願いしたいと思います。

まず、昨年十二月に、公害対策基本法をはじめとする公害関係法が改正され、または新しく制定されたことによつて、三重県の公害防止条例が改正されようとしております。この県条例の改正に対して、私たちはぜひともその条例の中に低硫黄重油の使用を義務づけること。二番目といたしましては、工場立地規制条例を定めて、公害防止のための条件を明らかにしておくこと。三番目としては、企業と住民を代表する者との間に公害防止協定を結ぶこと。四番目としましては、工場の新增設の場合には、専門委員会の事前審査制度を条例化してはどうか。五番目といたしましては、公害に関するすべてのデータは、公開を義務づけてはどうか。六番目といたしまして、施設の設置は届け出制ではなくて、許可制にしてはどうなのか。七つ目といたしまして、住民の調査請求権を規定してはどうか等の要望をもってありますし、すでに県に対して、そういう要望を行なっているところでありますが、四日市としてですね、この県条例の改正に対して、どのような働きかけをされたのかですね、またその内容がわかっています。市長のほうからお答えを願いたいと思います。

二番目に霞ヶ浦の問題について触れたいと思います。

私たち社会党は、公害の発生防止については、従来からこの議会の中でも、き然とした態度で臨んでまいりました。こういうことは多くの人々の知っているところであります。その態度については、いまでも全く変わりのないところであります。そしてこの精神の上に立って、公害の追放に取り組み、四日市の公害認定患者が減少をし、汚染地区が縮小されない限りは、公害防止の諸施策の成果があらわれたとは認められない。そのようなことを申してま

いったわけでありす。したがって霞ヶ浦の、あの地元を埋め立てる。昭和四十二年の議会のときにも、私たちは新しく公害発生源をつくり出すことではないかということで、当時反対をしてみいたわけでありすが、残念ながら四十二年七月二十八日の臨時議会で、私たちの主張が入れられずに、埋め立てが決定をされたわけでありす。ところが現状を見てまいりますと、私たちが当時指摘したとおり、事故とはいいいながらも、羽津あるいは富田、富洲原方面の人々から苦情が出ておりますように、霞ヶ浦地元からは公害というものが発生をしてゐる。こういうことを私たちは耳にし、あるいは事実を見てきているわけでありす。このような状態のときに現在埋め立てられておりますのは、いわゆる第一期工事の第一次分の中に立地をされておりますが、第一期工事のうちの、これはすでに、議会で埋め立てが承認、議決されている二十六万坪、これの今後の埋め立てと、さらには、議会には何らはかれていない十四万坪についても云々という話を、方々で聞くわけでありす。この十四万坪を追加埋め立てをして、企業の新増設をはかろうというような話が、市内に流れているのは事実でありす。そういう事実に対して、いわゆる残っておりす二十六万坪の埋め立て用地をどうするかということと、合わせて十四万坪の、この話は事実なのかどうか。事実とすればどういう内容になっておるのか。このことをはっきりとご説明を願いたいと思ひます。

次に患者の認定区域の拡大に入ります。先ほど吉垣議員の質問に対して、衛生部長のほうから答弁が、先ほどありましたが、私の質問内容とは違ひますのであらためて申し上げます。部長から答弁された内容は、いままで何回となく聞かされてきた内容でありす。その後になつて、私は、さらに認定区域を拡大したらどうかということと言ひわけでありすが、市が全国のほかの都市に先がけてこの認定制度をもつたのは、昭和四十年でありす。このときには、国の法律でも何でもありません。四日市市が自発的に、自主的に、公害に苦しむ患者の方々の立場に立つて、この認定制度をもつたわけでありす。その後四十四年、一部は変更されましたが、今日に至っているわ

けであります。今日では国の法律によつて、いわゆる部長答弁のままの、国の権限によつてされているわけでありすが、そこで私が、再度お尋ねをいたしますのは、昭和四十年四日市市が踏み切つた自発的に、全国でまず最初といわれたところに、踏み切つた当時のあの精神に返つて、市は新しく認定地域を独自で拡大をし、独自で患者の方方を救済していく意思があるのかないのか、このことをお尋ねをしたいと思ひます。これ市長からお答え願ひます。次に、公害対策課を中心にいたしました公害防止体制といひますか充実の問題でありす。公害の多様化に伴つて行政上の問題として、責任所在の不明確、あるいは実施面における統一、徹底の不備が指摘をされておりますし、また公害防止にかかわらずひろく環境保全の行政を推進するために、政府には環境庁が発足されました。本市の場合でも、環境諸点に関するすべての問題を、総合的に処理するための行政対策の一元化が必要であると思ひますけれども、市長はどのようにお考えになりますか、お尋ねいたします。

さらに法律の改正に伴ひまして、事務量の増大があります。大気汚染防止法の改正によつて、この十月一日から四日市は政令都市として、事業所にかかる事務が委任されることになっております。そこで予想されますのは、一つとしましては、特定施設設置などの届け出に関する事務。二番目としましては、計画変更命令、改善命令などの命令に関する事務。三番目といたしましては、ばい煙発生施設の設置、または、構造変更の施設の制限期間の短縮に関する事務。四番目としましては、燃料使用基準適用の勧告に関する事務。五番目といたしましては、大気汚染状況の常時監視に関する事務。以上の申し上げました事務の実施に關しての報告検査などの事務等が、今後、四日市市にかぶってくるわけでありす。かぶってくるかといひますか、四日市でやらなければならぬようになるわけでありすが、これらの事務を、今後やっていくためには、現在の公害対策課だけでどうかという問題があります。したがつて、先ほど申し上げました総合的な体制を確立すると同時に、これが今後ふえてくる事務、あるいは調査研究等も踏まえて、公害対策の市の体制をどのように考えておられるのか、お尋ねしたいと思ひます。以上です。

○議長（日比義平君） 暫時休憩をいたします。

午後一時四十五分休憩

午後二時二分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

加藤助役。

（助役（加藤寛嗣君）登壇）

○助役（加藤寛嗣君） 山本議員のご質問の第一点についてお答え申し上げます。

日本の官公庁の組織は、すべて縦割りできております。したがって、横の連絡が悪いということは絶えず一般市民の間からいわれる批判をこうむっております。私たちが十分その点については、自分らを戒めながら日常の業務に携わっておりますわけですが、なまじりした縦割り行政のために思わぬところで横の連絡が漏れていたりということが必ずしもなきにしろあらずだということで、平素反省をし、今後においては、できるだけそういうことをないようにつとめたいというふうには考えております。

ところで、一例として引き合いに出されました海蔵川に關連をいたしまして、その上流である竹谷川の改修が問題点として提出をされておるわけでございますが、この竹谷川の改修は昨年度の災害復旧と災害関連、及び県の國場笠河に關連をいたしまして、國のほうで災害関連事業として総額三億七千万ということで改良復旧が行なわれるということになったわけでございます。元来、災害に対する復旧の仕事でございますが、これは、普通の場合でございますすと原型復旧というのがたてまえになっておるわけでございます。しかしながら、河川におきましては、ある一定の長さの間に非常に災害が多く起きておるといふような場合には、國のほうでも思い切ってその部分につ

て改良復旧を認めるということをしておりますので、県の河川課を中心にいたしまして、昨年度は竹谷川の改修について國のほうにお願いをし、國でもその必要を認めて取り上げてもらったような次第でございますが、同時にこれは、河川の改修のみならず、さらにこの河川の改修にからみまして、橋梁の改良というような問題も起きております。これは本市の土木、主として土木のほうの負担になるわけでございますが、そういった面についても、県とも十分連絡をとりながら、逐次これを実施していくという態度をとっておるわけでございます。なお、上のほうがそういうような改修をされますと、下のほうの改修がおくれている場合には、下のほうで災害が起きる可能性が出てくるわけでございますが、その点についても、私たちといたしましては、県の河川課と十分連絡をとりながら、下の海蔵川の改修をできるだけ早い機会に整備をいたしますように運動を続けておるわけでございます。四十五年度は九千万、そして四十六年度は一億ということで用地の買収、あるいは水流堤防除去というように掘きくを行なっております。一部四十七年度にかけて三億川から海蔵川のほうに分流をされるというふうに聞いておるわけでございます。しかしながら、これで事が完了するというわけではございませんので、その点今後において十分連絡をとりながら、しかも単に県のほうだけでなしに、これはご指摘のありました地元の改良促進委員会の窓口ともなりながら、海蔵川の改修について整備を進めていきたい、かように考えておるわけでございますので、地元の皆さま方のご協力もお願いをしたいというふうに存じておるわけでございます。

なお、同時にご指摘のありました西浦の駅西の整備の問題でございますが、これは昨日も土木部長が答弁をいたしておりましたが、かつて、西浦の土地区画整理事業の実施を決定いたします当時、いわゆる昭和三十九年当時でございますが、その当時に、現在の駅西にお住まいの方々と当時のほうの折衝、あるいは県、市との折衝で、ある約束ができておりますし、また工業高校の前の七十メートル道路をつくるということに關しまして、工業高校のほうとも県、市の間でいろいろ折衝がもたれたといういきさつがございます。したがって、こういういきさつを基本

にいたしました。今後において、あの沢西に広場をどういう形でつくっていくかということについて、現在住民の皆さま方と再三再四にわたりまして、ひざを突き合ましてお話し合いを進めておりますし、そのことは、同時にまた県、国のほうにも連絡をしながら問題の解決をはかりつつあるわけでございます。また、工業高校の問題につきましても、県の教育委員会を中心いたしましたして、私が両三年この問題にかかりきりで話し合いを進めてまいりました。ようやく近く、この県の工業高校のほうも私たちと同じ立場に立って問題を考えていただけるといふような段階にまで立ち至っておるわけでございます。ただ、この問題は、過去においてそういういきさつがありましたので、あまりにあせりますとかえって問題をこじらせるというふうなおそれもございしますので、住民の方々、あるいは県の当局者、土木あるいは教育委員会、さらには国の建設省のほう等と十分連絡をとりながら問題を解決していきたいと、かように考えておる次第でございますので、住民方のご協力についてもまた皆さま方のご協力を賜りたいと、かように考えておる次第でございます。

いずれにいたしましても、確かにご指摘のありましたように、官公庁の組織というものが縦割りであるために、思わぬところで連絡が落ちて住民の方々にご迷惑をかけるというふうなことがあっては相済みないと考えておりますので、十分戒めながらその点については今後スムーズに事が運ばれるように努力をいたしたいと、かように考えておるわけでございますが、なお、経の連絡の窓口というのは、官公庁の組織がそういうような状態でございますので、やはりそれぞれの担当部局が窓口になる。むずかしい問題があれば、やはり私たちが中心になってそれをまとめていくというような姿勢でいきたいと考えておりますので、何ぶんともご協力のほどをお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） 衛生部長。

〔衛生部長（園浦和己君）登壇〕

○衛生部長（園浦和己君） 公害問題に関するご質問の第一項の知事権限に対する市の態度についてという問題に

つきましてお答えしたいと思います。

お説のように、県は、公害基本法の全面改正による県条例の改定の作業を実施中でございます。三重県公害審議会という審議会に対して諮問をされまして、全面改正の作業中でございます。現在のところこれが審議会から知事あてに答申案なるものが出されておる段階でございます。この答申案を中心といたしまして、今後さらに検討を加えられるようでございます。したがって、四日市市といたしましては、県内の学識経験者及び行政の広い分野にわたっての練達の士を集められての審議会で審議されております過程でございますので、いまだ意見がございましたような具体的な要件に対して、特に積極的な意見の申し出は現在のところしておりませんが、市といたしましては、この公害防止条例の全面改正の意図するところは、基本法の改正と符節を合わせた表現の改正でございます。四日市として最も大切な大気汚染、水質汚濁、その他に関するいわゆる公害六悪に対する環境並びに排出基準等に関する法律に許された知事の上乗せないしは横架せの基準値の設定につきましては、条例の中には含まれず、後日改めてという考え方で進めておられるようでございます。市といたしましては、その基準値の設定の場合の基準値について、いろいろと四日市の特殊性にかんがみた意見を申し述べたいというふうに考えている次第でございます。

それから、第三点の認定地域の拡大の問題は、たいへん先ほどは失礼いたしました。ご意見も聞かずに申し述べましたことをおわびいたしますが、先に市独自の考え方から認定地域を指定いたしましたその時点における四日市の大気汚染のいわゆる高濃度の地域は、地域に基づいて認定区域を設定されたのでございますが、皆さん方の努力によりまして、現状は逐次改善の方向にございまして、当時 PhO_x 法による二・五ミリグラムというあの当時の汚染の状況よりは、いわゆる高濃度の汚染地帯が縮小されてきておりますので、認定地域の拡大という問題については、目下のところ考えておりません。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） 霞ヶ浦地先の埋め立ての問題、十四万坪についてご答弁を申し上げます。

昨日もご答弁申し上げましたが、山本議員ご欠席でございましたので、重ねてお答えを申し上げます。三重県知事から市議会への埋め立ての諮問がまいっておりますところの十四万坪につきましては、私は、四日市市に残された地先海面のうちの唯一の場所であるところから、できる限りやはり広い場所を将来のために確保しておくことが、四日市のためになることだと思いますが、しかしながら、ちょうど昇降の埠頭になるところの東端の法線と埋立地の法線とのありようなところに線をまっすぐに引きますと、ちょうど十四万坪くらい造成しなければならぬということになっておりますが、この十四万坪につきましては、スポンサーなしで一応埋め立てを完成させたい。しかもこれは、第一次にやりましたところの三十八万坪と違って四日市港管理組合の事業としてこれをお願いをいたしたいと。しかもこの十四万坪につきましては、特定の企業を予定しておるわけじゃございませんので、現在までですべて三万坪と一万坪というより小さい分譲の希望がございますけれども、大部分のところは今後の公共的な用地として利用すべきものは将来のために残し、その他の余ったところは、もしもそういう産業あるいは企業から希望があるとするならば、市議会の皆さん並びに該当地域の自治会等のご意見を承って案種を決定したいと、さように考えておるわけでございます。

ちよっと注意がありましたんですが、まだ市議会のほうに諮問は来ておりませんので、訂正をさせていただきます。

○議長（日比義平君） 岩野助役。

〔助役（岩野見斉君）登壇〕

○助役（岩野見斉君） 公害対策課の充実についてお答えいたします。

大気汚染防止法施行令改正の政令二条による事務委任が、この十月一日から行なわれるわけでございますが、これにつきましては、県、市の間で十分事務引き継ぎについての協議を行なり予定になっております。これに伴いまして、公害対策課を充実しなければならぬということは当然でございますけれども、これにつきまして、単に人をふやし、あるいは測定器をふやすというだけではなく、公害に対する判断のできる人を送り込んでいかなければならぬと考えております。単に化学とか薬学等の知識だけでは足りるものではなく、専門的な知識以外に全般的な判断のできる人によって公害問題を解決していきたいと考えております。

環境対策の一元化につきましては、これは非常に必要なことではございますけれども、現在の市の状況を見ますと、庁内のはとんどの課が環境衛生に、環境対策に非常に強い関連を持っておりまして、特にこれを一課あるいは他の課で総合するということは、非常に困難な点もあると考えますので、この点の総合化につきましては、市長あるいは助役において十分調整していきたいと、このように考えております。

○議長（日比義平君） 市長公室長。

〔市長公室長（三輪喜代司君）登壇〕

○市長公室長（三輪喜代司君） 職員の待遇のうち、人事院の勧告実施についてのお答えをいたします。

人事院は、例年どおり本年四月における官民給与の比較を行ないまして、その結果ご承知のように、一一・七％の格差があることを明らかにいたしまして、八月十三日国の給与改定について勧告を行ない、政府は八月二十四日の勧告の完全実施について閣議の決定を行っております。地方の給与につきましては、基本的には公務員法の規定によりまして、生計費、国及び他の地方公務員、並びに民間事業の従事者の給与、その他を考慮いたしまして定めることとされておるのでございますが、このような法律上の根拠、準拠、または人事院勧告の制度上から国の

給与改定がされる場合、地方については、国に準じて改定がなされているのがたてまえになっているのはご承知のとおりでございます。しかしながら、本年度、本議会においてもたびたび種々論議がされておりますが、いわゆる最近のドルショック等経済情勢がきわめて深刻な状況に立ち至っており、法人関係の税収の停滯、また交付税についても、国税三税の収入状況によっては総額の確保が至難となっております。地方財源はきわめてきびしい事態に直面いたしております。地方を国に準じて改定するときには、国の適切な財源措置が地方についてもできる限りの財源措置と、地方についてもできる限りの努力が必要なのは申すまでもございません。しかしながら、本市におきましては、国に準じてこの改定を行なう場合、一応試算をいたしましたところ、一般、特別会計を合わせまして、約三億円を上回る財源が必要となってまいります。前述のとおり、前年度の経費事情等によるきびしい市財政の運営でもあり、私といたしましては、財政当局と十分連絡をとりながら、給与改定が円滑に行ない得ることができるよう、今後とも努力をいたしていきたいと思っております。

次に、消防職員の救慰金条例の適用でございますが、これが運営につきましては、消防職員はご承知のように常に危険なところで職務を遂行いたしております。したがって、そういう特性を十分留意いたしまして、慎重な態度でこの制度の運営をはかりまして、遺憾のないように措置をしていきたい、かように思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（日比義平君） 山本君。

（山本 勝君登壇）

○山本 勝君 時間が来ておりますので、簡単にまじめな思いです。

地方政治の一項のことにつきましては、いろいろ答弁がございましたが、おおむね精神的には努力をされるという

ふうに受けとめましたので、なお一その努力を払って、特に縦の、あるいは横の連絡が十分にいくこと、あるいはそこに働く職員がどのような態度に出るかということが、政治を執行していく場合に、受けとめられる市民の態度というのに反映してくるわけですので、そこらあたりは今後の執行体制の中で十分にひとつ心して進めていっていただきたいと思っております。

なお、問題提起として一項目だけ申し述べておきたいことがあります。先ほど災害問題等で触れられておりますけれども、今度の二十三号台風で土木課あるいは耕地課のほうで、ほかの課から応援を求めて、そして事故処理に当たっているわけです、これ、日常でもですね、各議員から、土木課へ行っても土木課長一体いつおるのかどうかというような話をよく聞くわけですが、一度ですね、このような問題についてやはり市民にサービスをするということを念頭に置きながら、一度ですね、特に現業関係の機構改革といえますか、それをひとつ整備調整をしていただいて、高橋さんの言われておりましたように、すぐやる課というように、そういう体制を早急にですね確立していただけるようお願いをしておきたいと思っております。

それから、公害問題であります。知事権限の拡大に伴う問題であります。これから県条例の制定とともに出てくる、そのあとで出てくるわけですが、基準値の設定時に際して市の意見を述べていくと、こういうふうな説明がありました。私に言わせれば、それ以前から、県条例が制定されるあるいは改正される以前から、公害対策協議会なりあるいは審議会等の意見もあろうと思っておりますけれども、市が自発的に、積極的にですね、公害をなくするという立場での意見というものを出してほしかったのであります。このことについては、十分に反省をしていただきたいと思います。

霞ヶ浦の埋め立ての問題であります。ここで一点だけ明らかにしておきたいと思っておりますが、いままです霞ヶ浦、霞ヶ浦だけにこだわらぬと思っておりますけれども、いわゆるスポンサー方式で埋め立てをするというふうに

議会でいままでも言明されておったわけですが、いま聞きますと。先行投資方式にですね、いろいろ説明でございすけれども、今後そういう先行投資的な方法によってでも埋め立てをしていくのかどうか、この点だけですね、簡単にひとつご説明を願っておきたいと思ひます。

それから、認定地域の拡大であります。部長からの答弁でいきますとですね、当然患者がふえてこないということにかならずならぬはずでありますけれども、逆に患者の方々は、毎月月ふえてくるんですよ。私は、地域の拡大を主張するのは、患者の方が減少していく、そういう現象がですね、あらわれておれば私は強くは申しません。しかし、毎月月患者の方が増加をしているという事実を、さらに具体的に申し上げますと認定地域内に住んでおられてですね、他へ移住されて後発病されるというふうな、そういう方もあるわけでありす、市内で、同じ市内で。そういうことも含めて、当初条例を制定した当時の、市がそういう制度をとった当時の精神にかえって検討をしてほしい。このことを強く申し述べておきたいと思ひます。

公害対策課を中心とした体制の充実ににつきましては、今後十分に注意をいたしながら、私たちの望む体制がとれるようにしていただきたいと思います。悪ければその時点で強く指摘をしていきたいと思ひますので、そのことを申し述べて私の質問を終わります。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） お答えを申し上げます。

二十六万坪プラス十四万坪の、合わせて四十万坪を埋め立てをしたい。その十四万坪については、前から申し上げるようにスポンサーをなしてやろうということでございまして、先行投資ということにつきましては、昨日も申し上げましたが、地方債の許可方針の運用についての通達を見ますと、採算性の確実なものについて、公共事業と

の関連及び受益者による予納金の納付の見通し等を勘案して許可予定額を決定するというような方針で、先行投資というものは、国では認めないというような方針で対処されておるということをご報告申し上げておきたいと思ひます。

○議長（日比義平君） 小林哲夫君。

〔小林哲夫君登壇〕

○小林哲夫君 市民クラブのトップを承りまして質問を行いますけれども、私がお尋ねいたしたいことは、通告いたしましたとおり、ドルショックが四日市に与える影響でございます。しかしながら、この問題につきましては、すでに昨日米多数の議員の方から質問が出ておりますので、二番せんじ、三番せんじならまだしも、五番せんじともなりますとまことにやりづらい。しかもそのうえ、先ほど小林博次議員からけたを頂けられますと、ますますもってやりにくいわけでございます。ただ、このように、この九月議会において、ドルショックの問題が議員の皆さん方からたくさん提起されてまいったということは、それだけこのドルショックについて、四日市の市民の関心と不安が強いという、私はひとつの証左だろうというふうに解釈をいたしております。

そこで質問の本論に先立ちまして、市長にひとつ伺いをいたしておきます。

ドルショック、ショックと言いましても、これは決して一時的なものではなしに、今後末長く大きな影響を及ぼす問題でございます。すなわち、アメリカのドル防衛政策というものを、市長はどのようにご理解をされご認識をされておりますか、市長のお考えを承りたいと思ひます。もちろん、こういう国際問題を一地方自治体の市長がどうこうするといふ力はないわけでございますけれども、市長のお考え次第で今後の四日市の市政に大きな反映があるだろうというふうに思ひますので、ご参考までに承りたいと思ひます。

それでは、本論に入りまして、四日市の産業界に与える影響でございますが、これはもう昨日来たびたび質問が

出ておりますので、できる限り重複を避け、角度を変えてお尋ねをいたします。

まず、産業界の影響でありますけれども、昨日采のお話は、主として四日市の輸出産業でございました。輸入産業ということばがあるかどうか知りませんが、四日市には原油を輸入いたしましたして、大規模な生産活動になっておりますいわゆる石油コンビナートがあるわけでございます。したがって、このドルショックが、石油コンビナートに与える影響はいかにということでございます。

それからもう一つ。これも質問からいままではずれておりますので、こまかい問題でありますけれども、一つだけお伺いいたしておきます。

それは、四日市の特産品であります水沢茶のことでございます。年間二千トンの生産を持ち、全国生産のほぼ一割を占めるといわれますこの特産品の水沢茶に対して、ドルショックがどのような影響があるか。たとえば、水沢茶の輸出が年間どのくらいあるか、これにおそらくおわかりにならぬだろうと思います。わからなければけっこうですけれども、むしろ水沢茶の場合は、輸出よりも、現在全国で、年間約八千トン近い台湾茶が国内へ輸入されており、これがドルショックに続きましていわゆる為替変動制がさらにおそらく近いうちにきめられると思いますけれども、円の切り上げによって、さらに輸入が大幅にふえるんじゃないか、ふえなくても、いわゆる台湾茶の価格というものは下がるわけでございますから、そうになりました場合、水沢茶はたしてどこまで価格競争に耐えられるか、またそれに対してどのような方策があるか、そういう点をお伺いをしたいと思うわけでございます。

産業界に聞けば、大体以上でございますが、続いて、港に対する影響でございます。

まず、四日市港の貿易がどうなるか。ただでさえ輸出入のアンバランスで困っております四日市港が、このような新しい国際情勢のもとでは、ますますこのアンバランスの傾向が助長されこそすれ、これを改めることは非常にむずかしいだろうと思えますけれども、しかしいままではたびたび市長も言明しておられますように、これからのコ

ンテナー補送時代を迎えまして、見返りの輸出品がないということは、四日市港の将来に非常に暗い結果を及ぼすわけでございますので、はたしてこれについて、輸出を振興するだけの方策があるのかどうか、その点をお伺いしたいと思えます。

それからもう一つ、四日市港の港湾整備計画でございますけれども、あの膨大な経費を要します港湾整備計画が、今日こういうような国際情勢の中で、はたしてどの程度達成できるのか、このままやっていけるのかどうか、あるいは修正を必要とするのではないかどうか、そういう点のご見解を承りたいと思います。

次に、それに関連いたしまして、長く問題になっておりました四日市コンテナ埠頭会社、これはひとつ確認させていたきたいんですけれども、この九月三十日に設立総会を開くことは間違いございませんか。それを一つお尋ねします。

続いて、市財政への影響でございますけれども、これについては、昨日もすでに中島議員はじめほかの議員さんからご質問がございました。それに市長は答えられて、三重県の県税収入は、おそらくその伸び率一〇％を割り込むであろう、あるいは愛知県では伸び率が四割程度になるんじゃないかという答弁がございました。しからば肝心な四日市市の市の税収の伸び率はどうか、いまの時点におきます推測をお願いしたいと思うわけでございます。しかも、いずれにいたしましても、市財政が今後非常にシビアがきびしいものであることは、もう予想にたかくございせんが、それに対して今後市財政の運用をいかになさるか、そういう方策も参考までに承っておきたいと、かように思うわけでございます。

以上、第一回の質問を終わらせていただきますけれども、時間がございませんので、ご答弁はなるべく明瞭、簡略にお願いをいたします。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） お答えを申し上げます。

ドル防衛政策に関連する問題でございますが、この問題はたいへんむずかしい問題でございます。まあともかく、あれだけの経済的な隆々たる大国が、ベトナム戦争、並びに世界企業によるところの非常なドル持ち出しによるところの発展、またベトナム戦争のその以後の国内的ないろいろの不安、たとえば人種的な対立であるとか、あるいはヤングパワーによるところのいろいろの非行行為というような情勢を考えたならば、アメリカの情勢というものには、非常にむずかしい段階に来ておるのではないかとということが考えられます。たとえば一例を昨日の金相場を見ましても、一オンス三十五ドルの金価格が、一オンス四十ドルになっておるということを考えましても、実質的にもドルはこのように金価格においても低く見られておるということでございます。アメリカの今後のドル防衛の体制というものは、相当強化されてくるのではないかとこのように考えられます。その場合に、各国に及ぼすところの、やっぱり世界的な経済の影響というものは非常に大きいのではないかと。たとえばいろいろ、あのグレイブフルーツとか、オレンジとか、そういうのが問題になっておりますけれども、スケールから見ましても、アメリカのオレンジをつくっておる農家の平均反別が一戸当たり三百ヘクタールであるとか、日本の農家の平均は一段家当たり段々畑の六十アールにしかすぎないということを見ましても、私は、この将来のドル防衛政策との関連するところの日本の経済、あるいは世界の経済態勢というものは、非常にむずかしいんではないかとこのように考えられます。なかなか簡単に申し上げられないことでございますけれども、まあ、この変動相場というものが落ちつき、港灣ストライキが落ちつき、課徴金の行くえというものを引き止めなければ、ドル防衛政策についての考え方もはっきり申し上げられないのではないかとこのように考えられます。

石油コンビナートに与えるところの影響というものは、やはり原油価格というものがそれだけ安く買えるんではないかというように一応簡単には考えられませんが、またこれに対しては、オペックが値上げをするというような態勢も当然考えられますので、樂觀はできないと思っておりますけれども、原料の全部を輸入しておる石油コンビナートにとっては、やはり有利なのではないかとこのように考えております。

港に対する影響は、輸出振興策あるいは港灣整備等につきましては、担当の助役からお答えをさせていただきますが、四十六年の一月から六月に至るところの四日市港灣の実績というものは、輸出が二百五十三億円、前年度比二六・一％の増でございますし、輸入は一千百十四億円、マイナス〇・四％ということで、あまり変わっておりませんが、輸出がともかく、かけ込み輸出であろうかと思いますが、非常によくなってきておりますけれども、現下のドル防衛政策の情勢から見れば、樂觀を許さない問題であると、かように思います。

コンテナー会社は、大体九月三十日に発起人会ができるのではないかとこのように考えております。

市財政への影響でございますが、昨日も申し上げましたように、県税収入は直接の事業の、何と申しますか、反映等にかかわるところの法人事業税であります。市の財政は、固定資産税と法人住民税、あるいはまた所得等に関連するところの個人所得税、個人住民税でございますので、その面でやはり景気の悪くなるということは、それだけ申告所得も少なくなる、それに見合うところの地方税の賦課も少なくなるというようにございいますから、私は、将来の問題といしましては、急激に悪くはならなくても、だんだん住民税関係は悪化してくるのではないかとこのように考えます。ただ、固定資産税関係におきましては、順ヶ浦コンビナート等によるところの税収というよりなものが、四十六年、四十七年、四十八年と引き続いて考えられます。まあ、直接市の財政に対しては、その急激な悪い影響はないと思っておりますけれども、将来漸次悪くなるということは予想されたいと思っております。

○議長（日比義平君） 岩野助役。

〔助役（岩野見齊君）登壇〕

○助役（岩野見齊君） 四日市港の貿易につきましては、影響がなしとは思いますが、幸か不幸か陶器にいたしても、また繊維にいたしても、四日市港からは輸出されておりませんので、これについての打撃は比較的少ないのではないかと思います。

それから、港湾施設につきましては、いまやっております、コンテナの計画にいたしても、最小限度の施設でございますので、これが過大施設になるということは、まだ考えられないんじゃないかと、このように考えております。

○議長（日比義平君） 産業部長。

〔産業部長（阿南輝彦君）登壇〕

○産業部長（阿南輝彦君） お茶の問題でございますが、全国的な数字でまいりますと、昭和四十年ころには日本から四千六百五十三トンという輸出がなされております。その後、輸出はずっと減少いたしております。お話のように輸入がふえております。いずれも台湾、中国産の緑茶でございます。四日市のお茶がどれだけ輸出されておるかという点については、戦前四日市のお茶はすいぶん大陸のほうに出ておりましたが、最近ではほとんど四日市のお茶は出ておらないというふうに判断をいたしております。ご指摘のように、特にこの台湾茶の輸入がふえてまいりました。ただ、品質的には悪いということで、婦人会あたりでも、最近まずはお茶が出てくると、台湾茶が混入しているんじゃないかということで問題になっておまして、商工課でも、消費生活係が調査をいたしておりますが、特に、特恵関税の問題なんかが出てまいります。また、少なくとも日本のお茶との競合問題が出てくるわけでございますので、四日市のお茶が比較的古い、いわゆる在来種が多いという現状からいまして、こういった台湾あたりのお茶との競合が国外、国内で問題になってくるんじゃないだろうか。したがって、どうしても新しい品種のものの導入ということが、この数年来議論をされているように、この際必要じゃない

だろうかと思っております。昨年失敗いたしました水沢パイロット事業も、そういった事態に備えての計画であつたわけでございます。今後とも、最近、お茶、非常にこう不況な状態になっておりますが、その辺留意しながら、今後の対策を考えていきたいと思っております。

○議長（日比義平君） 小林哲夫君。

〔小林哲夫君登壇〕

○小林哲夫君 たいまのご答弁の中で、ちょっと漏れておるところと、それからもう一度聞きたいたいところがございますので、お願いいたします。

まず、港湾整備計画のほうへは影響はあるかないか、その点についてのご答弁がありませんでした。全然修正なしで進まれるつもりなのかどうか、その点をただしておきたいと思います。

それから、もう一つ、市長のご答弁の中に、九月三十日にコンテナ埠頭会社の設立発起人会と言われましたけれども、これは設立総会で、正式に発足するんじゃないでしょうか、その点もひとつ明らかにしていただきたいと思えます。

○議長（日比義平君） 岩野助役。

〔助役（岩野見齊君）登壇〕

○助役（岩野見齊君） 港湾整備五カ年計画は、本年から始まったばかりでございます。これが変更になるかどうかは、少なくともまあ本年は変更にならないと思えますが、来年度以降、これはどうなるかということにつきましては、いま私もわからないと申し上げるよりしかたがないと思えます。

それから、九月三十日は、設立総会でございます。

○議長（日比義平君） 小林君。

〔小林哲夫君登壇〕

○小林哲夫君　また持ち時間は若干ございますけれども、あとの議員各位のご質問に備えまして、私の質問時間は、今回の質問をもって終わりたいと思います。

アメリカのドル防衛政策についての市長の考えについては、私も同感するところが多いであります。とにかく、このドル防衛政策というものは、単に日本の円を切り上げるとか、あるいは国際通貨を、国際間の通貨調整をやるとかいうだけの問題ではなしに、むしろアメリカのドルが弱くなった最も大きな原因は、アメリカの国内自体の問題ではないかというふうに考えるわけです。それは、先ほど市長がご指摘になりましたように、まずベトナム戦争の、二千億ドルにのぼるドルの浪費、なおそれに連なつて、アメリカの国内の産業の、いわゆる三軍複合体制、このためにアメリカとしては、現在軍需品と農産物以外にはほとんど世界の先進国に輸出するものがないという状態になつております。また一方、アメリカのドルを一番乱しておりますのは、アメリカの国内にあります、いわゆる世界企業であります。これが諸外国に進出して、そこで生産を始めるために、かえつてアメリカ自身の首を絞めておるといふ。こういう現実から考えてまいりますと、私はアメリカのドル防衛政策というものは、単に国際間の協調だけではなかなか片づかないだろう、したがつて日本の円、ドルの切り上げだけではなかなか追いつかない問題であろうというふうに考えるわけです。そういう点から考えてまいりますと、このドル防衛政策というものは、相当長い将来にわたつて続き、しかもそれが日本の経済界全般に長い間尾を引いて問題を残すであろうという観点から考えまして、私は、今後の日本経済、したがつて、われわれの国民生活、あるいは四日市の市財政へも長く尾を引いて残る問題であろうというふうに覚悟をしておるのでございます。

まあ、そういう点については、市長もおそらくご同意であろうと思ひますが、先ほど私がお尋ねいたしました石油コンビナート関係への影響でございますけれども、これは市長のご答弁にもありましたように、円の切り上げが

あれば、当然原油価格というものは下がるわけでございます。したがつて、それだけ、いわゆるコンビナート関係の、特に石油精製関係の会社には利益が出てまいるだろうと思ひますが、特に申し上げておきたいことは、現在まで日本の石油会社が持つておるといいますか、要するに外国に債務を持つておりますが、これが、まあ一説には二千億円とも四千億円とも言われておりますけれども、これが切り上げになれば、そこでいわゆる相当大きな為替差益が出てまいるわけでございます。かりに五割の円切り上げになりますと、それだけでも百億の金が出てまいります。そういうことで、今後コンビナート関係の会社にとっては、かなりの増益になるだろうというふうに予想されるわけでございます。まあその点はひいては四日市の財政へも影響してまいるわけで、けっこうなことであるけれども、特に私がここで申し上げておきたいことは、このようにコンビナート関係にもたします増益を、できる限り、いま四日市で一番苦しんでおります公害防除の発生源対策のほうへ使つていただくように行政指導を切にお願ひをしておきたいと、かように思ひわけでございます。

それから、輸産産案への影響につきましては、いままでにもたくさん質問も出ておまして、またこの対策の急務なることももういまさら申し上げるまでもございせんが、最初に中島議員から出ておりました四日市の陶磁器関係の打撃につきましては、特にこれは、四日市の場合輸出の比率が非常に高いわけでございます。中島議員から詳細な数字が出ておりましたが、たとえば、課徴金のかりますアメリカ向け並びにカナダを含めたいわゆるA地区に対しては、四日市の輸出額が四十四億七千三百万円、失礼しました、これは輸出総額です。それからA地区に対しては三十七億八百万円、これが四日市のA地区向けの輸出額でございますけど、総輸出額に占める割合が、中島議員も指摘されましたように八二・八％あるわけです。ところが、全国の陶磁器の輸出総額を見ますと、これが五百三十五億五千万円、そのうちで、輸出の占めますのが三百七十九億三千万円で、六七・九％、約六八％です。したがつて、全国の比率から見ますと四日市の輸出の比率は比常に高い。しかも現在の四日市の陶磁器

工業に働く人々の人数は、おそらく四千五百人を下るまいというふうに言われております。こういう四日市の重要な地場産業に対する振興育成については、何とぞ一そうのお骨折りを願いたいと、かように思っております。

それから、いよいよ四日市のコンテナ埠頭会社が設立されることに相なりまして、長年の懸案がようやく解決される今日に至りますまでの関係者の皆さん方のご努力に対して、深甚な敬意を表するものでございますけれども、難産のうえにやっとできあがりますこの四日市コンテナ埠頭会社の将来というものは、残念がらまことにきびしいものがあるんじゃないか、生んではみたけれど、これを育てることも非常にむずかしいんじゃないかというふうに思っております。その第一番の根拠をいたしまして、この四日市コンテナ埠頭会社に参加いたします、いわゆる船会社、郵船、商船三井、川崎、山下新日本のこの四社が、今度のドルショックのために、いわゆる非常な為替差損を生ずるおそれがあるわけでございます。かりに円の切り上げが一〇割になった場合を試算いたしますと、郵船の場合二百五十六億円、商船三井の場合二百八十七億円、川崎汽船の場合百八十七億円、山下新日本が二百六十三億円という為替差損が出るそうでございます。いわゆる現在の日本の船会社は、ほとんど運賃収入がドル建てになっておりますために、かりに一〇割の切り上げがありますと、こういうような差損が出てまいるという現状でございます。したがって、せっかく生まれてはみましたけれども、おそらく今後船会社のこのコンテナ埠頭会社に対する態度は非常にさびしくなるんじゃないかと、そういう点で、このコンテナ埠頭会社が今後どのように運営されるか、これは非常にむずかしいことであろうと思います。特に先ほど指摘されておりますように、市財政もきびしくなっております。ますますこの会社の前途というものは困難を加えてくるんじゃないかというふうに考えます。そういう点において、せっかく生んではみたけれども、何とかこれをうまく育てていただきますような方途を、さらに関係者の皆さん万の一そうのご奮闘をお願いする次第でございます。

以上でもって私の質問を終わらせていただきます。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午後二時五十七分休憩

午後三時二十三分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

粉川君。

〔粉川 茂君登壇〕

○粉川 茂君 ご通告のとおり、水害対策と教育問題についてご質問いたしますが、いままで、各議員さんが、災害問題について、それぞれご質問され、また、明確なるご答弁を拜聴させていただきましたが、重複する点はご要望として、新しい点のみ明確なるご回答をお願いしたいと思っております。

私個人の質問ではなく、市民クラブの趣旨に沿い、地区民の総意でございますので、真剣なるご答弁をくれぐれもお願いたします。

われわれの日常生活は、著しい高度成長によって、非常なる進歩を見ましたことは、いまさら言うに及ばぬことでございますが、地域的な防災対策は、はなはだ不十分な感じがいたすのであります。幸いにして、本市は防災について、あらゆる角度より調査、研究されておられることは、われわれとして、実に心強く、感謝にたえない次第でございます。しかしながら、ことにおいては、昨年の集中豪雨のつめあとの消えぬにもかかわらず、はや、十三号、二十三号台風と、二回にわたって大被害を受けたのであります。われわれ市民の受けた被害を見ると、いささかなりとも反省をする必要があるかと思えます。台風、豪雨そのものは自然現象で、発生を消滅することは、原子力をもってもできないと思えますが、それ以外は必ず防げると確信いたします。このたびの被害状況を見まし

て、第一に、被害状況が何回となく、ほぼ同一であろうかと存じます。家屋の浸水といえば、富田、富洲原、曙、塩浜、また、河川のはらんに伴う道路、堤防の決壊も、またしかりでございます。いまの状態で、抜本的な対策が講じられなければ、公害四日市の汚名とともに、水害四日市の汚名も着せられるおそれが十分にあらうかと思えます。幸いにして、本工事がせられ、完全に見える場所が、また同じく決壊されているのを見ると、人災の感を受けるのであります。何十万、何百万円の巨費をかけながら、一瞬にして流失している姿を見るとき、その原因は、私、しろうとでございますのでわかりませんが、専門家の土木課としては、ある程度おわかりかと存じます。この点、技術面において、真剣に研究していただき、二度とかようなことをなきよう、お願いするとともに、その原因と対策をお聞かせ願いたいと思います。

第二に、災害対策の機構と合わせて、末端出張所の受け持ち責任範囲についてでございますが、四十六年度の災害対策計画は、いまご創作のようにお聞きしておりますので、改正点はわかりませんが、私は、抜本的に改正する必要があらうかと思えます。

防災計画の第一章、第一節に、関係各機関、全機能を有効に發揮して、住民の生命、身体、及び財産を災害から保護すると述べてありますが、地域において、実行でき得るか、はなはだ疑わしいのであります。たとえば、夜間緊急なる行動は、災害時にたびたびあらうかと思えます。そのときの分隊長の二地区兼務は、分を上回る計画かと存じます。また、夜間災害時の職員の招集もしかりでございます。それに関連しまして、災害復旧に、中心となつて働く土木課の技術員の増員を切にお願いしたいと思えます。

第三に、一年間の雨量は、全国平均千六百ミリ、約六千億トンといわれておりますが、かかる水から受ける被害を考えると、すべて自由に交えられれば、どれだけ豊かになるかはかり知れないと思えます。この、二十三号台風によって、山間部の河川や、田や道は、ほとんど復旧不可能かと存じます。山間部の農家の救済事業として、ま

た、治水事業として、多目的ダム等に、思い切つて投資せられるよう切望いたします。

第四に、いま完成間近にある県住宅供給公社、桜岡地、及び川島近鉄団地、三交団地、大京リッチランド等、一連の住宅地が計画されておりますが、もしこの住宅ができ上がって、その時は、台風、豪雨の際、異常的な水が出ると思ふのであります。この団地に対し、市として、いかなる対策を講じられておられますか。六月の議会において、下水道部長よりご説明をいただきましたが、細部にわたってお尋ねいたします。

次に、教育について。あすの期待をおとなたちは子供にかけると思えます。期待をかけるからこそ、父親や母親は、子供の教育には、何を欠いても真剣になり、真剣にならざるを得ないのであります。四日市でも、陳情、請願の八〇％は、教育関係であると聞いております。この父母の熱意にこたえるための財源は、どれだけあっても足りませんが、問題の解決には、真剣に取り組んでいただきたいと思うのであります。世界の国々でも、先進国、後進国とを問わず、よりよい教育を目ざして、教育改革を行いつつあります。が、わが国でも、昭和四十七年六月十一日、中央教育審議会は、いわゆる第三の教育改革案を文部大臣に答申いたしました。明治五年の学制、戦後の六、三教育に次ぐ第三の教育改革といわれるだけに、四歳児から始まる幼児学校をスタートとして、四・四・六・四・五・五などの、新しい区切り方の、先導的試行と呼ばれる学校体系など、思い切つた答申が行われたのであります。この改革案をめぐって、ただいま各方面から批判、検討されている最中であります。この革新案は別といたしまして、二十一世紀に生き、生きなければならぬこの子供たちに、教育として、してやらねばならぬいろいろの問題がございます。近代的な校舎の完備、自由に実験し、観察のできる理科室、豊富に備えられた図書と資料のある図書館、教育資料の導入された教室等、どれだけの財源をつぎ込んで、限りなく消化されていく教育という仕事でありましょう。振り返って、四日市の現状を見たとき、これで、はたして二十一世紀に生きる子供たちへの用意ができていられるであらうか、反省せざるを得ないことでありましょう。新しく着任された市川教育長に、そのす

べてを望むことは無理であるかも知れませんが、一つ一つ検討していただいて、四日市市の教育水準を、少しでも高めていただきたいと期待しているわけでございます。着任早々の教育長に、四日市の教育に対する抱負を述べよということは、少し酷であります。これからの四日市の教育に臨むといった心がまえでもお聞かせいただきたいと思うのであります。

○議長（日比義平君） 土木部長。

〔土木部長（谷沢文男君）登壇〕

○土木部長（谷沢文男君） ただいまのご質問のうち、水防の問題で、特にご指摘のありました対策の面、それから開発の面についてお答えをいたします。

河川の再度にわたる桜堤、災害等につきましてのご質問は、今朝来の吉垣議員にもお答え申しましたように、われわれといたしましては、まず、起きたものに対しては、緊急の措置をし、さらに原形復旧、あるいは抜本改修という方法をとってまいりたいと思っております。もちろん、これを防ぐための方法といたしましては、すでに新法に基づく、市街化区域における開発についてのきびしい規制をもって臨んでいきたいと考えますし、また、これに対する改修費の事業者負担という方向で指導を考えてまいりたいと思っております。また、山土の盛り土、河口等における山くずれ等の問題についても、けさはご示し、ご説明いたしましたように、今後十分、あらゆる方法での方法を考えたいと思っております。

次に、ご質問のありました、桜団地、あるいは名阪、あるいは桜地取における山畑、区画整理事業の問題、大東リッチ等の問題がござりますが、現在、新法に基づいて、開発行為の申請がなされておるものにつきましては、一ヘクタール以上のものについて、すでに五件の受理をいたしまして、部内での審査を終わり、四件の許可を与えております。なお、一ヘクタール以上につきましては、六十九件のうち、四十件の許可を与え、いろいろと指導をい

たしておるわけでございます。また、桜団地の問題については、昨年七月の集中豪雨に伴いまして、四日市市といましては、九月十七日、住宅公社に対して、これに対する抜本的な改修、あるいは工事中の防災等についても取重なる指導、及び要請をいたしまして、これに対する明快なる回答をいただき、その改修が進められておるわけでございます。また、名阪国道に因連いたしまして、被害を受けた問題の改修、あるいは、それに対する措置といたしまして、すでに行なわれております。なお、大東リッチランドその他については、先ほどご説明いたしました開発の申請の中で、一つの条件を与えて、指導いたしておるわけでございます。こういうことにおいて、今後とも、災害を未然に措置するというような姿勢で対処してまいりたいと思っております。以上です。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） 災害時におきます出張所の担任事務につきましては、地区の被害状況の調査、報告、本部からの連絡事項の周知、並びに応援救助に關することとございまして、現在のお出張所におきます職員の配置の状況からいたしまして、ふだんから、その地区の出身の職員のうちから、応援者を定めておきまして、災害対策本部を設置した場合、また、その他必要な場合には、直ちに出張所に急行、また出勤させて執務させるようにしております。過日の二十三号台風のときにおきまして、富田、富洲原、塩浜等の各出張所のほうに被害の甚大なところには、本庁の課長を派遣いたしまして、かなりの成果をあげておると、このように考えておりますので、当面、兼務の出張所長の職につきましても、必要に応じて、本部から応援者を出す等、弾力的な運営で対処いたしたいと、このように考えております。

○議長（日比義平君） 教育長。

〔教育長（市川一郎君）登壇〕

○教育長（市川一郎君） お答え申し上げます。

ただいまは、粉川議員から、教育に対するたいへんど熱意のあるご発言をいただき、ご鞭撻をいただいた思いがするのでございます。いすわれわれが預かっております児童、生徒というのは、十年後、二十年後、三十年後、二十一世紀に大いに働いていく生徒でございますので、ほんとうに教育は、国家百年の計とそういうことを、しみじみ胸に刻みまして、慎重にこの教育の問題に対処していきたいと思っております。まだこちらにきいてまして、教育行政のすみずみ、よくわからないのであります。思っておりますことを述べよと、まあこういうようなご趣旨でございます。私、まいるまして、午前中にも申しましたように、学校の施設、設備、そういうもののご要望が非常に高い、こういうことについては、市政当局ともよくご相談をして、その充実にまいりたいと思っております。しかし、教育は、こういう施設、設備だけではないか、まあそういう感を深うしておるのでございます。しかし、教育は、先生の果たす役割りというのは、非常に大きいのであります。まあ、この先生方の給与の改善とか、勤務条件の改善とか、まあこれらは主として、県ですることでございますけれども、そういう情勢の中で、先生方の教育に対する情熱、これをかき立てていくということは、教育委員会独特のことで、そこにわれわれの仕事の一番むずかしいところ、一番大事なところがあるんじゃないかと思っております。先生方に情熱がなければ、いい校舎をつくっても、あるいは、いい設備をつくってもらっても、それがほんとうに子供のものにはなっていない、そういうことを、私、日ごろ考えておりますので、そういう面に向かっていろいろ考え、いろいろの人の知恵を拝借して、そのことに専念してまいりたいと思っております。

もう一つは、教育界といいますが、そういうものに秩序を立てていきたい、そう思うのでございます。今日、教育委員会の指令というのは、校長室まではよく通りますけれども、それから教員室のすみずみにまで通るとは限ら

ない、通らないことも相当あるということを、私感じておるのでございます。これは四日市に参りまして、そういうのでなしに、全国的に、あるいは全国的にそういうような傾向になっておるのでございまして、その教育委員会と教員室との間にあって、校長先生はすいぶん苦勞をなさっておる。まあそれが、全国的な情勢じゃないかと、こう思うのであります。一度乱れました秩序というのは、なかなか回復するものではない、容易なことではないと思っております。なかなか校長の権威というのもの、いま保たれていないような状況かと思っております。学校を取り巻くPTAなり、あるいは社会の方々、いろいろ協力いただき、こういう学校の秩序といいますか、そういうものの確立に、格別のご支援もいただきたいと、まあこんなことを思っておりますのでございます。いろいろな申し上げたいことは、思っておりますこととございすけれども、まあいよいよ申し上げようと思っております。この辺で終わります。

○議長（日比義平君） 下水道部長。

〔下水道部長（天野助春君）登壇〕

○下水道部長（天野助春君） 新しく造成される団地の排水について、お答えをいたします。

桜団地、並びに近鉄団地、三交団地、大東リッチランドの団地が、三滝川の右岸で計画されておるわけでございますが、この団地の排水につきましては、将来この団地が、公共下水道として認可されるような姿で造成をするように指導しておるわけでございます。全部管で排水するわけでございますが、ただ問題になりますのは、その集めた水を放流する先の問題でございます。その先の河川が市の管理する河川であり、県の管理する河川、国の管理する河川、いろいろあるわけでございますが、われわれとしては、そういう管理する河川の関係する官庁の同意を得て、協議して、遺憾のないようにするよう指導しておるわけでございます。桜団地につきましても、県の土

本部とよく協議して進められておるわけでございます。ただ問題は、工事の施行中における被害でございます。これは、県並びに市の土木部、われわれもよく監視いたしまして、市民の方々、または、それによる耕地等の被害のないように進めていきたい、このように考えておるわけでございます。

なお、桜団地、近鉄団地、それから三交団地、大東リッチランド等につきましては、全部で二百四ヘクタールあるわけでございますが、これから出るところの、住宅地から出る汚水の処理につきましては、そういう河川へおの放流されますと、河川が汚濁されて、いろいろ被害があるわけでございますので、これを、一つに統合いたしまして、四日市が現在建設し、また拡張を計画しております日永の処理場で、この汚水を持ってまいりまして、ここで処理をして、完全なものにして放流するという計画をしておるわけでございます。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 粉川君。

〔粉川 茂君登壇〕

○粉川 茂君 治水、治山は、われわれ政治にとって、ひとときたりとも忘れることができないと昔から言われております。近時、至るところで宅地造成が行なわれておりますが、自然を破壊し、地坂全体からの立地条件、及び排水、下水等、既成住宅地に悪影響を与えることのないよう、きびしい指導をお願いいたしますとともに、来年には、はや家が建てられるように聞いております団地でございますが、その下水道も、一日も早く工事にかかれるようお願いいたします。

教育面におきまして、二十一世紀がどんな社会か、私には想像もできませんが、おそらく進歩した社会だといわれております。この二十一世紀に生き、生きていかねばならぬこの子供たちに、教育としてしてやらねばならぬことがたくさんあるのではなからうかと、私は思います。一日も早く、校舎の近代化をはかり、充実した学校教育の

できるよう努力していただきたいと思います。また、先ほど地区以外の議員さんまでご質問にいただいたような、桜小学校、幼稚園の状態でございますので、一日も早く建設していただくようお願いいたします。これで質問終わらせていただきます。

○議長（日比義平君） 後藤寛治君。

〔後藤寛治君登壇〕

○後藤寛治君 通告いたしました件につきまして、二、三お伺いいたします。遠洋漁業基地と市営魚市場についてでございますが、この件につきましては、すでに再三にわたりご審議され、示されていることと思いますが、あえて皆さまと立場の違うところから、基地ができてよりいままで見守ってきたものの一員といたしまして、こまかいことにつきまして、二、三お伺いさせていただきます。よろしくお願いいたします。

遠洋漁業基地、富田港ができてから、早くも十年の歳月が流れております。当初は、県、市民ともに囂り物入りでこれを祝い、これに携わる業者も、宝船が入ってくるような気持ちで、これの歓待につとめたものでございましたが、その結果といたしましては、皆さまご承知の、現在のような、あってなきがごとき状態でございます。将来もおそらく、このままの状態が続くのではないだろうかと考えられますが、市当局としては、それではいけないのか、基地としての業績を今後伸ばすつもりがあるのかないのか、お伺いいたします。ただ、遠洋漁業基地は伸ばしていくのだ、これだけではどうにもしようがないと思うのでございます。伸ばすためにはどうするのだ、こういうことも考えておるとか、具体的に聞かせたいと思います。

貧弱な港、四十トン未満の漁船しか着かない港をつくって、あとは業者でよろしくやっていきなさいということだけでは、なかなか無理なことでございます。

そもそも、四日市に遠洋漁業基地ができたということは、全国でも一、二の水産県であるところの三重県の漁船

が、すべて他県に水揚げをしてある、この漁獲物を県内で揚げればです。それだけ地元が潤う、内岸漁業の不振敗退のおりから、水産業者ないしは加工業者も何か生きる道が開けるのではないかと、そういう発想のもとにできたものと思われまし、われわれもこのように聞いてきました、ところが、すでにその当時、四十トン未満の船は三重県内には五隻しかございませんでした。しかもそのうち、稼動している船が三隻くらいで、なおそのうちの二隻を所有するところの船主を、何とかこの富田港に引きつけて、入ってもらおうと、他県、先進港であるところのひもを断ち切って、何とかして、どうにかして、手の上にすえるようにして、船主の言われるままに前渡金を出して最後まで富田港に入港してもらいましたが、その不良貸付金は、千三百何十万円、これ以上前渡金を出しては、富田港魚市場が立ちゆかないということ、もう今後はだめですよとその船に申しましたところ、旬日を経ずしてその船会社は倒産をいたしました。要するに、四十トン未満の船は漁獲のうえからも、航海という点から見ても、経営が困難で、国家としても、四十トン未満の新造船はすでに認めておりませんでした。百五十トンないしは三百トン以上の船で、兩半球まで出て操業ができる大型漁船でなければ、政府の資金貸付金も出ておらないと聞いております。いまでこそ、大遠冷蔵が来たために、港のしゅんせつもして、その大型船も入るようになりましたが、当時は、とても干潮時には四十トン級でもなかなかむずかしい状態でした。以上のような状態にありながら、当時の港で遠洋漁業基地でございすとは言っておれないと思います。また受入態勢がまるで何もできたりませんでした。早くても海の上で四十五日から長いのは半年も本土の土を踏んでおらぬ船員でございすから、宿舎や酒、女は全さえ出せば何とかなりす。ところが、肝心の、揚げた魚の保管をするところの冷蔵庫がございせん。現在では、目の前に全国でも有数の、皆さまで承知の太もの専門の冷蔵庫がございす。しかしそれは、冷蔵物だけを扱う専門的な個人所有の冷蔵庫でございす。一般業者が自由に使うことはできません。また、氷がございせん。ないことはいのでございす、一枚、といひますと六十キロです。これが、現在五百円の

値段がしております。これでは漁船にとっても使えません。この値段ですと、当時のこのですね、氷の値段は、トン七千五百円になります。現在下関では、大体トン二千八百円で販売されております。この一事を見ても、富田地区に最低千トン級の冷蔵庫と製氷のできる機関を持った冷蔵庫を、どうしても必要とするものと考えてございす。基地としての受入態勢だけではなく、地元水産業者を育成するうえにおいても、目下の急務と考えるのでございす、どうでございしょうか。

二番目に造成地の問題でございす、一時は、いろんな企業の誘致もやられ、地元民に対しても、水産業者にもどれくらい土地がほしいかというアンケート方式の申し込みもございましたが、そんなことには、何の、一べんも返答もなく、大遠冷蔵に肩がわりしたような形で、いまでは公共用地として、残ばかりの土地を残すのみと聞いておりますが、その土地も、いまでは港に打ち寄せるごみの集積場のような形となっております、この埋め立ての始まる当時は、富田、富洲原の水産加工業者は、唯一の煮干しの乾燥場であるところの浜州を締め出されるが、造成地ができれば、お前たちもそこに進出できるではないかと、甘いことばにだまされて、漁業基地をつくらうたのだから、われわれの業界もそのほうにかわっていくだろうという淡い希望をつないで、県、市の政策に協力したものでございす。ところで、その公共用地でございす、あくまで公共用地としてそのままにしておくものか、それとも、地元零細業者の希望があればある程度でも開放する意見があるのかないのかお伺いたします。在来の大企業誘致にのみうき身をやつして、足元の零細市民の生活を少しは考えてやってほしいと思ひますがどうでございしょうか。造成地の問題は、すでに余る土地が少ないようですが、埋め立て計画にある、もっとも地元民の怨嗟的になっておる二十六万坪、それに伴う十四万坪など、幾らでも使えろと思ひますが、要は、遠洋漁業基地を口では伸ばすといひながら、ほんとはその気がないのではないかと考えられますがどうでございしょう。

三番目に、地盤沈下の問題でございます。遠洋漁業基地の富田港並びに造成地の地盤沈下は、皆さまあまりにもご承知のことと思いますが、一昨年ですか、九十センチの港のかさ上げをいたしましたが、本年は一昨年以上の被害がすでに出ているような始末でございます。大潮になりますと、大体魚市場の開始時期が満潮になるため、名四国道の市場に通ずるところの樋門は締めなければなりません。市場内の道路には、ひさを越すばかりの海水で自動車の乗り入れもできないような始末でございます。漁舎は、九十センチのかさ上げをしたために、海水にはつきりませんが、大型トラックは上部がつかえて入ることはできません。将来、二、三年の間には漁舎とはいえずなくなつて、浜小屋になるようでございます。先ほど申しました名四国道の下を富田、一色に通ずる道路も、これと同じことが言えます。このことについての考え方を伺いたいします。

地盤沈下の問題は、異常潮位からということでございますが、大自然のなすことでございます。この異常潮位がいつ平常に戻るという保証はどこにもございません。さすれば、平常に戻るまで毎日大潮になると、日二回の満潮時、約月に十二、三日は水入りをしていなさいということでしょうか。この点、どう考えておられるか、伺いたします。

次に、市営魚市場株式会社富田港魚市場、この長い名前の会社についてでございますが、この会社の性質を、市当局の考えてみえる会社のあり方は、こうあるべきだということを明確にお聞かせ願いたいと思います。消費市場であるところの魚市場が、市営という名のもとに、遠洋漁業基地、魚市場で受けた損害を、健全財政にするまでにあらゆる努力をして、今日に至ったことは、皆さまご承知のことと思いますが、もちろんその間市当局といいたしましても、年々利子増給、または漁舎の使用料免除ということもございしますが、それだけではとても挽回はできなかったでございます。各関係者の協力と現に、仲買業者の買い上げに対し、従来は一・八割の奨励金という歩戻しがございました。これを一・二割に切り下げるにより、年間約五百万円の黒字を出したのでございます。ま

た、各個人の手で販売をしておりました輸入ハマグリの会社を通じて販売をいたすようにしたのでございます。ちなみに、去年の富田港魚市場の総売り上げが大体十三億円でございます。そのうち、一畝もの、これは魚屋さんが泊費するものですね、これが大体八億円、輸入ハマグりが約五億、遠洋漁業基地市場として太もの、いわゆる「マグロ」、カジキの類です、これを当市場で売った実績は、最高年間、一億五千万、三年間やりまして四億円ちょっとと記憶しております。富田港魚市場の去年の収入黒字が、大体一千万円でございます。そこで、株式会社富田港魚市場は健全財政を取り戻しましたが、取り戻しましたならば、仲買人に対して歩戻り金の一・二割がもとの一・八割にするという約束がしてあります。また、輸入ハマグりは、そのほかにまだ大体同額くらいの扱いがございしますので、ハマグリ組合ではそういういまでも富田港魚市場に、ご奉公しておられぬということで、近く独立をする計画がございします。この二社いずれかが実現いたしますと、健全財政となりましたと、手放しで喜んではおられぬと思いますんですが、どうお考えでございましょうか。遠洋漁業基地としてこれを満たすほどに打つ手が現に見当たらないとすれば、基地の看板はおろせないまでも、現在利用されておるところの外国ハマグリの九五割は当四日市を通じたいしております。これは、県も市も、全く知らぬうちに、いわゆる雑草の力でここまでできたものでございます。その間、失敗したものもございしますが、この際ハマグリセンターというようなものをつくって、貿易、集荷、販売など、一切の仕事のできるような施設を設けるということも一案ではないかと考えますが、いかがでございしょう。

最後に、名四国道、富洲原橋のことについて触れておられますが、ここで質問していいか悪いかということばかりませんが、もし大事故があったとすれば四日市の名前も出てくることでございますから、お伺いをいたします。いまの富洲原橋は、技術的なことはあまりわかりませんが、地盤沈下に伴いまして、国道自体も相当に下がっておりますのでございます。すでに二回くらい橋と国道との段階ができて、かさ上げをやっております。ところが、そ

の道路をささえておる、セメントでできておる外堀りといひますか、これは、そこに相当大きな亀裂ができて、しろりと目にもかなり危険を感じさせるものがございます。また、橋の下から見ますと橋自体、ところどころに熔接のとれたところもございまして、私はまだ実地は見ておりませんが、先日、磯津の漁師が来まして、話しておりますが、天カ須賀川の橋の根元がどうにかなくなっておると、何とかこれは市に伝えて見てもらいたいということをお申しましたが、一度専門的な目でお確かめのうえ大事故にならないうちに事前処理をお願いしたいと思います。以上、質問終わります。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

（助役（加藤寛嗣君）登壇）

○助役（加藤寛嗣君） 富田魚市場に関するご質問にお答えを申し上げます。

富田魚市場といひますか、遠洋漁業基地は確かに、ここを遠洋漁業、マグロの荷揚げ基地とするという決定を県がいたしましたからしばらくの間は、実際には基地らしい設備が何らできなかつたわけでございますが、この間、地元の漁業者の方々は、せっかくここが遠洋漁業基地として、県のほうで定められたからには、自分たちもぜひそれに協力をして、マグロの遠洋漁業を誘致をしようということで、現在の富田魚市場を中心にいたしまして、マグロの誘致に努力をされたわけですが、お話にありましたように、残念ながら、当時の遠洋漁業に対する前貸しで、富田魚市場の経営が成り立たなくなつたということは事実でございます。その後、会社の立ち直りのために、関係者の方々がたいへんご努力をされておりまして、私が、この市のほうにどやっかいになりました当初、魚市場の方々がおいでになられまして、ぜひ冷蔵庫をつくってほしいと、あるいはここへ船泊を誘致するための設備をしてほしいというようなお話がありまして、特に、県の遠洋練習船でございします大成丸の誘致を声大にして叫ばれました。私自身も当時の県の農林部長と折衝いたしましたことを記憶をいたしております。それが、ちょうど昭和四十

四年になりました、たまたま静岡に基地を持っております現在の大遠冷蔵が当地に進出をするというようなお話がございます、ここに七千トンの冷蔵庫ができてまして、そしてそれにたがって大遠グループのマグロ漁船が入港をするようになりましたのは、ご承知のとおりでございます。ところで、マグロ漁船が入港をいたしましたわけですが、魚市場のほうは、このマグロの取り扱いということに不なれな点もございましたし、また、大遠冷蔵、当時の大遠冷蔵の会社の方針が、いわゆる、各消費市場に対する会社からの直売りということをその方針にいたしておりましたので、大遠冷蔵が来たために、富田魚市場がその業績に貢献をしてもらうというような結果にはなっておりませんでしたことは事実でございます。しかしながら、いまお話のありましたように、関係者のご努力によりまして、次第に会社の業績を取り戻し、昨年度は、年間の取り扱いが、十三億三千万というようになつて大な取り扱ひ量で、従来累積をしておりました赤字も消して、やがて黒字になろうというような会社の実態でございます。そこで、市といたしましては、その間、この会社の赤字を何とか立て直さなさいかぬということで、年々八十万程度の利子補給を続けてまいり、さらに銀行へ預託をいたしましたして、銀行から資金融通をしてもらうという制度をとつてまいつたわけでございますし、さらに、市営富田魚市場の漁舎の使用料もこれは免除するということのような措置をとつて、会社の立て直しに協力をさせていただいてきたわけでございます。ところで、最近大遠冷蔵の業績が昨年あたり、これはやはり、急激な設備投資の過剰と、それから漁船を誘致するための前貸しというようなことから経営困難におちいったという事実も、おそらく皆さんご承知のとおりでございますし、当時、大遠冷蔵と取引を始めた地元の業者の方々も若干の被害を、何がしかの被害をこうむられたということも事実でございます。この点に關しましては、私たち関係者といたしましても、市長をはじめみんなで努力をいたしまして、何とか会社を立て直しをやってほしいということで、種々会社と折衝を重ねてまいり、ようやく今日、会社、大遠冷蔵と三重造船という会社の経営をはっきり二分をいたしまして、大遠冷蔵は東食がこれを責任を持って経営をするというこ

となり、東食から役員が入って今日に至っております。そこで、大遠冷蔵の今日の経営方針というのは、この遠洋漁業基地がスタートをした当時の設立方針とはだいぶ異なりまして、地元の関係者の方々との協力なしには、会社の発展はできないということから、最近、非常に地元の魚市場、富田魚市場のほうにも協力の態度を示しておりますし、さらにこの基地を発展させるために、県カッあるいは日カッ連等にも働きかけをいたしております。そこで、日カッ連も非常に熱意を持しまして、この基盤整備について、何とか協力をしたいという申し出がありました。近く日カッ連の業務部長がこちらへ来て、会社並びに地元の方々とも話し合いをされることだというふうに聞いておるわけでございます。なお、遠洋漁業基地の基盤整備のために、現在私たちが考えておりますのは、九月の追加協正に予定をいたしておりますのは漁船員会館の建設の調査費でございます。これはこの、現在あいております公共スペースに漁船員会館を、鉄筋コンクリート四階建て、大体建て面積、延べ坪千五十平米というような漁船員会館を県、市、基地振興会の手で設立いたしましたして、三重漁船がここに入りやすいようにいたしたいと、そういう基盤整備を考えておるようなわけでございます。そこで、現在のカッオ、マグロ船の入港状況でございますが、これも一時漁船の入港数が減ったのでございますが、本年に入りましてから、一月には四隻、二月に五隻、三月六隻、それから四月七隻、五月四隻、六月四隻、なお七月が一隻、八月が二隻ということで、七、八月は非常に少なかったわけでございますが、九月に三隻、十月に四隻、十一月には八隻程度再びふえるようなことになっております。で、最近の特徴といたしましては、マグロだけでなくて、九月から来年の四月ごろにかけては、南方の遠洋もののカツオ漁船も入ってくるというようになっておるわけでございます。まあ、こういったような事態を踏まえながら、できるだけ地元の方々と会社との接点を探めていただいて、それによって、富田魚市場の業容を伸ばしていきたいと、かように考えておるような次第でございます。なお、地盤沈下によりまして、富田魚市場の、あの漁舎のところが、かなり、満潮時には、水がかぶっておりますので、そういった排水対策、あるいはま

た、ここに通ずる、富洲原のほうから通ずる道の排水対策等については、十分関係の機関である管理組合のほうとも相談をいたしまして、できるだけ早い機会にそういうことのないように善処をいたしたいと、かように考えておるようなわけでございます。

先ほどお話のありましたハマグリセンターでございますが、これは確かに富田魚市場の成績があがっておりますのは、陸送もののハマグリが、非常に貢献をしておるということは事実でございます。そこで、ハマグリセンターをつくったかどうかというご提案がございましたが、現在、生鮮野菜、あるいは魚類の取り扱い市場の統合といえますか、近代化を考えておりますし、そのことについて話し合いを進めておりますので、そういった中で、この富田市営魚市場の発展を考えていったらいかかというふうに考え、現在、産菜部のほうで検討を続けているところでございますので、このハマグリセンターの件もあわせて検討させていただきたいと、かように考えます。

なお、名四国道富洲原線の件につきましては、さっそく関係の建設省の三重工事のほうに連絡をとりまして、もし危険がありましたら、危険を除去するような対策を立ててもらうように努力をいたしたい、かように考えております次第でございます。

○議長（日比義平君） 後藤君。

〔後藤寛治君登壇〕

○後藤寛治君 株式会社富田魚市場と、市営魚市場との関係をお伺いしたのでございますが、どうもはき違えておられるようなことで、それから、遠洋漁業基地は、もう大遠冷蔵におまかせしたというようなご答弁でございしますが、富田港を中心とする遠洋漁業基地を伸ばすか伸ばさないかという考えは、全然ございませんか、重ねてお伺いいたします。三十九トン型、要するに四十トン未満の漁船を対象につくった漁業基地というものが、はっきりとして時代おくれであつたということを認められるか、そうでないと思われませんか、お伺いします。私の、お伺いし

ておるところでは、市営魚市場というものは、要するに遠洋漁船の持つてくる、要するに太いものですね、これを扱うのが市営魚市場の仕事だと、あとの魚屋の扱う小さい魚のものは、これは富田港魚市場株式会社の仕事だというような区別で大体聞いておりましたが、市営魚市場であるところの遠洋漁業基地の荷受け機関が大きく損をしたものをですね、株式会社富田港魚市場がこれを努力して、苦勞して、市にもお願いし、どこかあらこちらにおすがりして、これを健全財政にいままで持ち込んだということは、私はどうにもふに落ちないでございます。もちろん市当局も協力は非常にしていただきましたが、しかし、これは、私は反対じゃないかと思ひます。市からですね、こういう迷惑をかけたと、お前とこの会社がこういう迷惑をこうむつておる、市当局としては、こうするから、お前らもがまんして、これの挽回につとめてくれといわれるのが、私はたてまえではないかと考えておるのでございますが、この点いかがでございますしう。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

（助役（加藤寛嗣君）登壇）

○助役（加藤寛嗣君） 市営魚市場と、富田魚市場との関係でございますけれども、市営魚市場というのは、魚市場の汽舎を持つており、そして、はかり所を持つておるだけでございます。これを富田魚市場の方におまかせをいたしまして、貸して、富田魚市場の方によって、この遠洋漁業の魚市場としての運営をしていただいておると、こういうふうに私は考えておる。そこで、元来、遠洋漁業というものの従来の方ですと、いわゆる、遠洋漁船が積んできたものが入った場合に、市場がこれを買入れて、そこで市場を立てて、せり売りをやって、仲買人にさばいてもらうと、こういうのが普通のあり方だというふうに考えておりましたが、その後これは、最近における傾向でございます、いわゆる遠洋もので鮮凍ものと称しまして、漁船が積んで来る、いわゆる冷凍の魚は、どこかの港におきましても多く、会社が直にこれを冷蔵庫に入れて、そのまま消費地の市場に売つてしまつと、いわゆる

基地の市場を通さないという形態が出てきております。特に、これは富田ばかりでなしに、この間も、昨年、私は林省の市場の審議会に出て聞いておつたのでございますが、釜石のほうでも同じような傾向が出ておる、したがって、魚市場を通さないで、魚市場が非常に繁栄しないので困るんだというふうなお話が出ておりました。これが最近の新しい流通形態ではなからうかというふうにいわれておるわけでございます。したがって、もし、もとのような流通形態、たとえば焼津あたりでは、依然としていままでのような市場が立つておるようでございますが、清水においては、すでにそういったような市場の形成が困難になりつつあるというふうな話も聞いておるわけでございます。そこで、それでは一体、富田魚市場はどうするんだと、いわゆる、生産地市場として考えるのか、消費地市場として考えるのかということが一つの大きなポイントになってきておるといふふうに私は考えております。それで、これを、じゃあ、どちらに切りかえていくかと、もし消費地市場であるということにすれば、遠洋漁業基地市場としての指定を、認可を取り消さなきゃいかぬというふうに考えておりますし、生産地市場ということで認めていくならば、むしろ太ものを全部取り扱わせると、市場を通して冷蔵庫へ入れさせると、こういうような形をとらなければならぬではないかというふうに考えております。いま、私は先ほどちょっと申し上げましたが、四日市にあります魚市場の、あるいは野菜市場、こういったものを一つにして、大きな市場団地をつくらうという計画をいたしておりますが、そういうような近代化の線に沿つていった場合に、富田魚市場をどうするかというところが一つの問題点でございます、これは、いずれにしても、このままの状態ではいけないということを考えておりますので、その点はよく魚市場の方々ともお話し合いをしながら、今後解決をしていきたい。すでに、この先月だったと記憶しておりますけれども、魚市場の役員の方々がお見えになったときに、むしろ、魚市場の方々のほうからそういうお声が出ておりますので、この点については、十分検討をさせていただきます、そして将来の繁栄を期していきたいと、かように考えておる次第でございます。

○議長（日比義平君） 後藤君。

〔後藤寛治君登壇〕

○後藤寛治君 大体、ご丁寧なご答弁で、私にはよく理解できらるでございますが、皆さまには、まだはっきりできないところがあるかも知れません。まあ、そのくらいの返事しかできないと私は理解しております。しかし、ここで、富田港魚市場を中心とする遠洋漁業基地の看板を下げるということになりますと、いままでこれに心血を注いで、ともに苦勞をしてきた仲間の人、はっきりいいますと、富田港魚市場株式会社を苦境におとしれたと、非常に汚名を着せられておる前社長の伊藤竹次郎、これと行動をともにした、いまは亡き渡辺嘉一、これは、富田港魚市場をですね、富田港を遠洋基地に何とかしたいと思う一念でですね、経営不振の三九型の漁船を購入して、出漁するたびに大きな損害をいたしまして、なおこれを一年何がし続けましたところ、ささえきれなくなって、これを手放すと同時に、さっきも申しました幸盛丸が、千三百何十万円の借金を、これ以上あなたにはお貸しすることではできないというて断わったときと時を同じゅうして、会社としては、その水産会社は両方ともまあ倒れた形になったでございます。しかし、会社は倒したけれども両人ともに不動産もございません。ただ、言うて悪いのでございしますが、こういう三九型の船主というのは、裸一貫、げんこつ一つの船主が多いのでございます。現に、第三幸盛丸、千三百何十万の借金を残して、富田港魚市場に残していったこの船主の何の取り柄もございません。一銭の金も、これは返らないのでございます。ところが、地元であるところの彼ら兩名には、ある程度の不動産も、またメンツもございしますから、できるだけのものは払っていきしました。渡辺嘉一は、それを苦にして病魔におかされ、ついに一昨年、世を去りました。まだ年は五十六か七でございます。仮らの前にですね、何としてわれわれ後輩が申し開きをするかというふうに思いをいたしますと、実に情けないの一語で終わるものでございます。この点、市当局といたしましても、よろしくご洞察のうえ、お計らいをお願いしたいと思います。私の質問を終わらせてもらいます。

とします。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午後四時三十二分休憩

午後四時五十四分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

山口君。

〔山口信生君登壇〕

○山口信生君 やっと順番が回ってきまして、私の通告してあるのは、市の道路行政についてと、二番目に、霞ヶ浦埋め立て問題についてと、二つでございますけれども、運営委員会の場において、私からオーストラリア館の問題について、時間の許す限り質問をお許しを願ったような次第でございますので、少々時間が延びてもいいということ、議長から言質をいただいておりますので、あらかじめ、皆さんにご了解のほどをお願いいたします。

（笑声）

いや、そうとも言わんことにはねえ。またブツブツ、ブツブツ言われてね、またくだぬことをしゃべっておると言われるで、初めから皆さんにお話しておかんことには、相すまぬと思ひまして。

それでは、本論に入ります。一番の、市の道路行政についてでございますが、私が市政を考えるときに、一番四日市市が、何が一番肝心の市政かと考えるときに、市の道路行政と港の問題と、この二つが、四日市市が直面しておる一番大きな市政の問題と考えるおる次第でございます。そういうことにもたれて私がここに持ち出したわけでございます。道路行政といいますと、私の申しますのは、非常に範囲が広いのでございまして、つい最近、

一週間ばかり前の新聞で見ますと、東海、北陸市長会において、四日市を起点として関ヶ原、また、四日市を起点にして岐阜の道路を、国道を二線つくることを申し合わせができたというのを新聞紙上で拝見いたしました、非常に私は喜んだものでございますが、この点は、ただ報道だけでございまして、細部にわたって関知をいたしておりませんので、市長からこの点のほんとうの真実性があるのかないのか、または、どれくらいの時日を要してできるものかをひとつお答えを願いたいと思います。

次に、幸いにして、四日市日野線は来年あたり開通すると聞き及んでおりますし、東から西に向かっての道路は、大体これで、四日市も港を控えての道路といたしましたしては、完成の域に持ち込まれると私は考えておるわけでございますが、ひるがえって横の連絡線を思うときに、私といたしましては、非常に憂慮にたえぬ次第でございます。と申しますのは、この、市が二、三年前にわれわれに見せていただきました都市計画路線でございますが、この路線を見ますと、非常にけっこうな案でございまして、われわれが願ってもかなわないくらいのりっぱなものでございますが、これが真実性を、やるかやれぬかというほんとのことを私たちにお聞かせ願いたいと思います。と申しますのは、われわれはこれをいたいたければ、これを審議した過程は、私はないと思います。こういふふうに都市計画路線はできたが、皆さん、これでどうですかと、私は詰問されたことは、私はないと思います。あつたら私の不行き届きと、皆さんにおわびいたしまするけど、いまだにもって、案は示されたけれども、これで皆さん満足ですかというようになことを聞いたことがないと私思いまするので、この点について、市の当局者はほんとにこれを遂行できるかいなやということをお答え願いたい。

もう一つは、この計画路線は、十年までに完成できるものか、何年後に完成できるものかを、はっきりとひとつお示しを願わんことには、これから先、非常なる道路の問題が重点になってくると私は考えるので、ここでお尋ねする次第でございます。

次に、提案申し上げるのはそれでお答えを願って、考えていただきまして、次に、計画路線ができて、いまの現状を考えると、南北線にわたって、いまでも非常な渋滞を来たしておりますが、私が市役所へ出ますときに、時によっては半時間もかかりますので、阿倉川を渡って末永、末永西町、西町から四日市の市役所へ来るのがたびたびでございますが、いまの現状においても、このままでございするが、五年先になったときには、いかにしてこれを切り抜けるかということを市長にお尋ねいたしたいと思ひますが、私の試案でございする。あまり市長ばかりを責めてもはじまりませんので、私の試案でございするが、私はこういふふうに考えますので、私の申しすることが悪いかわいさを、ひとつ市長にご判断を願いたいと思ひます。と申ししますのは、名阪国道は、これは完成はいたしましたも、おそらくこれは、利用するという、ほんとうの利用とするものは、名四国道でもほんとうの利用は、五年後になっております。ましてや、山間部を通る東名阪といたしましては、昭和五十年に、名古屋に連絡線をつけたときに、初めて利用価値が出ると私は考えておる次第でございする。さようなわけで、南北にわたるこの交通量の緩和ということ、いましばらく期待はできぬということ、私のいま考えておるわけでございします。そういたしますと、次には何かと申ししますと、国道一号線でございますが、一号線は、いまの状態をいまずぐ直すということは、とうていこれは、六年前に、河野建設相時代に、拡幅問題が起こって、実現の運びになるかと私も考えておったときもございしたけれども、これも、とてもとてもできぬというので、終止符を打った記録が残っております。最後に、私が考えますのは、名阪をいま一度拡幅したらいかかなものと、私がここで市長にお尋ねするのでございする。と申ししますのは、名古屋区域だけが六車線でございます。名古屋をはずれて三重県に入って四車線になっております。これを六車線にしたらいかかなものと、六車線にしたら、おそらく倍の輸送力があります。と申ししますのは、来年度になりますと、有料道路が無料になります。これは、新聞でも報道いたしておりますが、これは、来年は、おそらく無料扱いにいたしますと思ひますが、そのときには、勢

い、無料のところは殺到いたします。殺到いたしましたときには、違いましたかな、違った。

「『名阪と言った』と呼ぶ者あり」

あつ、名阪というたか、あつそうか。名四。間違いです。訂正いたします。名四は殺到いたすことは、これは事実でございます。そのときになってからではおそいと、私はいま判断いたしております、こういうことを申すのでございますが、そういたしますと、ただのここには果中することは、これは当然の帰結でございます、国道一号线のほうも緩和するのは、当然の理でございます。名四が、いまの四車線を六車線にすれば、倍の輸送力になります。そうすることにおいて、五年間の間は、当然これは維持できるやないかと、私は考えておる次第でございます。その五年間は、これで切り抜けて、その次は、先ほど申しましたように、東名阪が、おそろ、利用価値ができて、相当緩和の域に達するやないかというのが、私がいま考えており、皆さんに申し上げておる根本原因でございます。と申しますと、いかにしてやるかと、私なりの考えは、ひとつここで、特別委員会でもつくって、市長の諮問機関の特別委員会でもつくって、衆名、四日市、鈴鹿と、三者が手をつないで運動をやれば、おそらくこれは、私は、実現性があることと確信するものでございます。

また、国道一号线の拡張と違ひまして、いま現在なれば、相当の有利な立場で家の立ちのきも、ささいな点で済まされることと思ひまして、経営の点におきまして、あまりたいしたことではないと、私は思っております次第でございます。大体、市の道路行政については、このくらいにいたしまして、これから先は市長から、いま私が申しましたことにつぎまして、ご返事をいただきたいと思います。

次に、畠ヶ浦埋め立て問題についてでございますが、この問題は、きのう高橋議員が言われましたことの二番せんでございまして、私も、高橋議員がいま少し掘り下げておっしゃれば、私やめるつもりでやったのでございます。けれども、高橋議員も時間の都合上おやめになったことだと思ひまして、私は非常に残念に思つたけれども、

議会運営委員会で、四十五分ときめられた範囲内で退場されたことと私思ひます。したがひまして、私の言える場がでたと、まあ反面は喜んでおりますが、この問題でも、市長から提案になっておるものなれば、私はいま一歩進んでやりたい気持ちにはございますけれども、いかにせん、市長、まだ諮問しておりますので、私は、私の考えなりを申しまして、これが市長の提案される参考資料だにいただきたいと、こういう考えで、私、いまから申そうと思つておるわけでございます。したがひまして、答弁のほうも、私がこれと、これと申した点だけをお答えしえれば、余分のことは、次のときにしていただきたいと。私が申しますのは、富田、富洲原がまっこうから反對いたしておりますので、その反對を踏まえて、ただいまから市長の提案されるまでに、私は、私の考えなりを、市長に申して、できたならば、市長のまるっきり石油企業のみに取りつかれておるような姿勢を、何とか左向いておる首っ玉を右向いて曲がらんかなというのが私がいま申しますほんとうの姿でございます。どうかそういうつもりで、ひとつ、私のくだらん質問でも、ひとつお聞き及びのほどをお願いいたします。こう申しますと、あつ、もう一つ言つと、私、ちょっとしゃべると長くなりますで、質問に対しては、もう簡単にひとつお願いしたいと思ひます。できるだけ私がしゃべりたいと思ひますんで、質問の答弁は、できるだけ短く。

オーストラリア館については、この問題は、実は先ほど申しましたように、背に腹かえて私が質問いたしたいと思ひます。これも運営委員会にはかつてありますので、別に時間をいただいておりますので、ここであらためて申しますのが、始まりは、道路行政と畠ヶ浦の二点にしろってお尋ねし、市長の答弁があつてから、あらためてこれは持ち出すことにいたしますので、ご了承のほどをお願いします。そのかわりに、畠ヶ浦埋め立て問題とオーストラリア館とは、埋め立て問題で関連性がありますので、それだけではひとつ、お聞きとりのほどをお願いいたしておきます。私が皆さんにこう申しますと、また山口が昔のことを、また持ち出したかというふうにお聞きとりのことと私思ひますが、私も振り返ってみますと、ちょうど、まいた種は帰ってきたなという気持ちがございます。

ます。と申しまするのは、三十四年、三年でございます。三十五年の年に、この現在の埋め立ての問題で、非常に議会は紛糾したんでございます。と申しまするのは、そのときに、私の護長の最終の年で、あそこへ播磨造船を誘致するかせぬかというので、必死になったのが、そのときの市長の吉田勝太郎市長と私と公室長の園桐君でございます。一番の元本は山手代議士、この四人が非常に必死になって再々会合をやりまして、九分九厘まで、これは来ることになったのでございます。その計画といたしましては、いまの東洋紡績のあと地の五万坪を、これを機械工場にし、播磨造船がそこへ進出してやるっちゃうことを九分九厘まできまつたときに、私は議長を交代したんでございます。そのときに、平田市長は一生懸命八幡製鉄を、これを持ち出して、一生懸命に運動をやつたんと、これは、まっこうから反対になりました。私は、こういふ、何というのやな、ある問題で、ちょっと外国へ、約二月くらい逃げたことがございますので、その間に、（笑声）この問題が、平田市長が八幡製鉄と決定されたもんでございますけど、いまま思いますと、このときに、いまの平田市長と現の九鬼市長と交代しておつたら、こんな姿にならんなんじ。ないかなと、いまま思ひ次第でございます。と申しますのは、例によって、平田氏は、大ぶろしきを広げて、やっとうけたんは何かといひますと、学校の予算外義務負担。これは確かに、九鬼市長の先見の明でございまして、あのときに、むちゃくちゃの予算外義務負担をとって学校を建てた、ということ、いまになって、非常にこれは大きな功績だと私は思っております。

（「平田市長」と呼ぶ者あり）

あつ、よう忘れるな、やっぱ年寄りやな。（笑声）

平田市長、間違ひ。年寄りのかげんやな、これは。確かに、これは予算外義務負担で、これは、いまになってみやりっぱなものでやつたと感心しております。その反面に、八幡製鉄に播磨造船をひっくり返つたということだけは、私はいまだにもって、それさえなかったら、公害問題で、われわれはこんなに苦しまなかつてもよかったな、と申

しますのは、ひっくり返つたばかりに、漁業補償という問題で、三十五年の一月十九日、全員協議会でもって、富田、富洲原に、五億一千万円の漁業補償、それから、楠、四日市、綴津に七千六百五十万、計五億八千六百五十万という支払い、また、そのほかに、富田、富洲原の五百万の協力寄付金を払っております。これさえそのときせなかつたら、おそらくいまのこのときに、公害問題なんかと騒ぐことは、絶対なかつたと私思います。と申しますのは、あれから後に、公害がやかましくなりまして、おそらくそれから後になつたら、絶対に富洲原の連中は、これは漁業補償は言いません。言わなかつたれば、絶対いまままで前みたいところに、あんな製鉄所ができるわけがございません。これだけは平田市長の先見の明はけつこうやつたけれども、なぜ私らが知っていた播磨造船に持ってきておつたなれば、石川播磨造船所は、りっぱなものが、優秀な造船所が名古屋にできたんだと、これは、四日市、実現しております。ひるがえって、八幡製鉄に本人が熱中し、私はそれに猛反対したのでございます。これは皆さんも記憶に新しいと思ひますけれども、反対したときには、私は、平田市長に申したのが、八幡製鉄が来たなればおれは橋の上で、さか立ちになつてぼうて見せるわと、こうまで私は断言したのでございます。私が、先見の明と、これはあほなこと言ひますけれども、そのくらい反対したけれども、あにはからんやというとおかしなことはでございますけれども、そのときには、富洲原の議員の方々が、おらが市長という気持ちで、全部が賛成されたものでございます。賛成した中に、漁業補償というものは成立し、いまはただ、富田、富洲原が苦しみの種をまいたのが、この議会でございます。ほんで私さっき、一番さきに申したように、吐いたつばきは、もとへ戻つてきたなというて、感想はただいま私は持つておるわけでございます。まあ、この一事は、ここにお見えになるのが、一番よく知つておるのが生川議員と申します。生川議員は、一生懸命に、おれの市長を山口はほろくそに言うのかと食つてかかつておるのでございます。（笑声）けれども、振り返つて、平田市長のやつた功績は、何が残つたかと私申しますと、さっき言ひました予算外義務負担、これは確かにけつこうですけれども、あとの問題は、全部漁

棄補償を取ったばかりに午起ができて、いまだによって、富田、富洲原の公害問題で一生懸命にねじりはち巻きて反対せなきやならぬ原動力をつくったのはたれかと、これです。けれど、できたものはしかたがございません。しかたがございませんで、これからひとつ市長に、これから申しまするのは、きのうのときに、きのう、高橋議員の質問に対して、市長の申されたことは、百二十億の埋め立てがかかり、また、それに対して、年間の九億円も利息があつて、いつでもこれは、いけることは当然やということを市長、申されましたが、市長は、どういふところから、こういう計算をされたかということ、私は疑いを持っておるのでございます。私も、ただむちゃに私は言うたんやない、相当に私調べております。相当調べておつたことを私はいまから申ししますが、この中による資料は、坪二万七千五百円と試算しておるようでございます。坪二万七千五百円に二十五万坪掛けるといいますと、六十八億七千五百万かかります。これに起債は年六分五厘と加算しますと、四億四千六百八十七円五十銭が、これが年間の起債の利息でございます。

もう一つは、十五万坪に対しては、四十一億二千五百万掛ける六分五厘としますと、利息は二億六千八百十二万かかります。合計、合わせて約七億でございます。七億ですけれども、あなたがきのうおっしゃられたのは、年間九億からあるのにこれでやっていけるかとおっしゃられたのも、埋め立てというものは、そういうものと違います。一ぺんに金を出してやるもんなれば、確かにそのとおりで、けどもこれは、七億です。七億でも一ぺんに出してやるなら確かに七億かかりますけど、埋め立て地というものはでき高払いでございます。私の調べたところによりますと、二億七千、二万七千五百円の埋め立てに対して、短期債でやる場合というのは、スポンサーつきでやるときは、(笑声) スポンサーつきでやるときは、この埋め立ては、四十万坪は二年でいけますぞ。二年か三年でいきます。けれども、全部が先行投資でやるとなりますと、五カ年かかるということを私耳に入っております。五カ年でやるのと、二カ年やるのと、利息計算でいって、坪千三百円高くなるというのは、これは専門家の意見でございます。

います。あなたが、きのう九億円かかっていけるかと、こうおっしゃったが、これは、しろうと考えてございます。専門家というものは、そういうものの埋め立て事業と迷います。いかにスポンサーつきになれば、起債を許すのは、政府の許可が、一ぺんに許しません。一ぺんに十億を給付するやつを、おそらく、半分ぐらい削ります。そうすると、二年でできるやつが、当然これは五カ年かかります。その迷いのあることは事実です。スポンサーつきのあるやつとないやつと、これは当然政府の起債は、それだけ変わってきます。先ほどおっしゃった点は、こういうものが政令が出ておるで、絶対つけぬとおっしゃいましたけども、私の調べておる範囲内では、決してそうではございません。ただ、スポンサーつかぬやつは、年限が長くなる。もう一つは、それで、私が市長に申し上げたのは、そういう会社の名前をあげぬと先行投資をしたらいかやと申ししますのは、会社の名前をあげてやれば、あとになって、きのうは、あとになって公害が出た場合には、やめたらいいやないかということ、きのう申されましたけれども、会社の名前をあげて先行投資ということは、これは成り立つものでございます。会社の名前をあげれば、あとになって、きみのほうは公害が出るでやめとけというふうな意味合いのものと違います。その時点において、きみの会社は許可をするぞということはでございます。市長は、富田の説明会においても、そのことは出ないで、私は、よほど、市長それは違うやないかと言いたかったけれども、せっかく市長が富田まで、わざわざお見えになって、説明会を開いてみえて、市長が二年、三年は確かに埋め立てにかかるやろうと、二年、三年かかったその前に、いやならやめてもいいやないかと、こういふふうに申されたが、二年先になってやめときゃいいもんなら、だれも、いま心配しとりゃしません。また、さっき申しましたように、会社は、名前をあげんことには、五年かかる起債になります。会社の名前をあげると、二年になります。絶体、会社はあげた、あげぬが、ただそれで、千三百円だけ高くつく、そこで私が申したいのは、会社をあげぬと、短期債ではなくて、長期債でもって五年間つくくるくらいにいったらいかがかと、その間に会社は、いまは現在として、疎棄しておるのは、私は半分と思います。

半分。そうすると、もう一年経てば、会社は全面的にフル運転すると思います。フル運転してから一カ年よく見て、これならば公害が、出んやないかという、皆さんの地区の意見で、また議員諸君の皆さんも、これならいいやないかという時点において、許可してやったらいいかなんやなと、私はここを申すのでございます。決してやるなど言わない。やめるなど、あの会社には、いまの石油会社には、絶対渡すやないというのと違います。あなたが説明会で申されたように、二年、三年先に何か出たときには断わりやええやないかとおっしゃったけれども、それでけっこうでございます。けっこうでございますけれども、それは完全に断われるように、会社の名前をあげぬと、少々長くかかっても、先行投資的に行うてはいかかなんというふうに、私は市長に言っているのでございます。決して私は、いまの新大協和石油にやらすなというのと違います。やってもよろしい、よろしいけれども、現在としましては、いま、富田、富洲原は反対の声が清々としております。まして、議員でも、議員諸公でも全然声がないという方は一人もおらぬと思います。この時点において、会社の名前をあげるということは、もともとだと思えます。そうすると、会社の名前をあげると、やるというと先ほど申しましたように、二年か三年でやるのが五年かかる、五年かかっても、五年かかってもその間に、私が先ほど申しましたように、りっはな、いまから一カ年たぬことには、全面操業に入らぬ、全面操業に入ってから一年間、皆さんにじっと見ていただいて、これならまあ公害出ぬやないかと地区民も了解し、市議会の皆さんも、これならいいやないかと思つた際に、これは清場一致でやるべきものと、決して私は、やるなと申しません。そりゃいま富洲原などでは、絶対土地も使わさぬという猛反対しておみえになりますけれども、私も、港の整備五カ年計画出ておるうえには、何とかして、これはものにしてあげなければ悪いという気持ちは考えております。市長もその責任は持っておみえになると思えます。市長も、四日市の市長として、四日市港整備五カ年計画に、これは協賛をしておみえのことは当然のことでありまして、管理組合の一員としてあたりまえのことでございます。そういうたてまえから、いまさらになつて、これをくたくというこ

はできぬ。けれども、地区の方々、猛反対してみえることを、これを押し切つてやるということも、市長としては、ほんとうに許すべき行為と違つて考えるので、こういう提案をしておるのでございます。重ねて申し上げますけれども、絶対やるなと違います。やり方を交えよと。名前をあげぬとつくと、いりのが私の何で……。けれども、それを初めから、名前をあげてやったら絶対に、これは会社に許可したんですよ、市長。名前をあげてからあとになつてそれはできる、それは絶対できません。そこを私申しておるんです。あらゆる知恵をしぼつてみても、あなたの考え方は、どうしても、新大協和石油にやらしたいということが頭にこびりついているので、そういうきりのような、高橋さんの発言になるのでございます。これを何とかして、地区の皆さんの喜んでいただくように、納得のいくようにして新大協和石油にやらすような、そういう方法を考えれば、私、申したようなことを踏まえて考えれば、できぬことないとは私は信ずるので、一言申す次第でございます。これは、あなたに答弁をせいと書いておいて、この答弁は、次の、あなたが今度、この問題を質問されたときでけっこうでございます。そのときにあらためて、また私は申したいと思ひます。

ただ、一つ答弁を願ひたいのは、川越の問題でございます。川越は皆さんもお聞き及びのとおり、ただいま、発電所、石油会社、これの誘致の一手手前まできておることは、皆さんもすでにご承知のことと私は聞き及んでおります。すでに新聞紙上でも、朝日、榮名は阻止運動に入っております。四日市の市長として、この阻止運動に一役になられるか、にわれぬかということを、ひとつお尋ねしたいと思ひます。と申しますのは、これをやらなかったら、幸いにして、新大協和から全然出やんときはよろしいけれども、工場の建つ限りは、公害出やんというのは、これはもうでございます。またそろ、発電所と石油工場が川越地先において北の風になれば川越、南の風になれば午起と、そういう節に、富田、富洲原はいかにするかというのは、富洲原の一番ご心配になつておみえになるものと私思ひます。なぜかと申しますと、公害のときは富田と富洲原の方々は、反対運動はなかったのに、今度は富田よ

り、まだ以上に富洲原の方はカンカンになって目の色を変えておみえになります。その点だけを、ひとつご答弁をお願いいたします。そのほかは、答弁は要りません。その答弁は、次に、特に私が、あなたが提案されたときに、はじめて私は、質問の答弁をお願いいたします。

次に、これだけで一べん、終わります。パビリオンの問題は、この答弁を願って、次にします。大体、私の持ち時間は、四十五分でございます。よろしいか、あんだ。簡単にひとつお願いいたします。

まあ、おりにいくわ、まだだ上がってこんならねで。

○議長（日比義平君） 市長。

（市長（九鬼喜久男君）登壇）

○市長（九鬼喜久男君） きわめて簡単に答えるということでございますので、簡単にお答えを申し上げます。

関、羽島、四日市港線というのは、岐阜県知事の平野さんがご提案をなさってみえる問題でございます。具体的にどのような問題になるかということは、私は、直接承っておりません。三重県知事から承った程度でございます。都市計画路線の、南北路線が非常に、この、足りないという、ご指摘のとおりでございます。それにつきまして、かねてから、日永、八郷線等を国道一号線のバイパス的なものに使ったとかということ、整備をしているところでございます。現在、国道一号線は、大体三万、三滝橋のところで、三万五千台、名四国道は、長島のゲートで大体四万五千台、名阪は六千台という通行量でございますが、現在、この一國、名四とも、たいへん、もう過密になってきております。名四の拡張ということも考えるわけでございますけれども、これは、かつての名古屋助役、田淵さんの話によれば、必ず将来困るから、四車線、片道二車線ではなく、片道三車線にしろということを関係者にくどく申し入れたけれども、三重県側は応じなかったというお話を直接伺いましたが、名四国道の拡張というのは、現在の段階では、非常に困難ではないかと思えます。したがって、第二名四の構想というものが建設省に

はございますが、まあ、そういうような構想が実現されれば、よほどたくなるのではないかとというように考えられます。まあ、運輸特別委員会等につきましては、今後の問題として検討してもらいたいと思えます。

霞ヶ洞の埋め立ての問題は、答弁がもう必要はないということでございますけれども、私は、かねてから地元にもそういうぐあいにお約束を申し上げておりますし、この議会におきましても、高橋議員はじめ、再三そういうお答えを申し上げておりますので答弁には変わりございません。まあ、造船所を建てたらどうかと、建てた結果はどうであるとか、まあ八幡はどうかという、過去の問題がございましたが、過去の問題はともかくといたしまして、たとえこの播磨造船が来ておりましたといえども、現在、日本の大手造船会社は、長い債権で外国に船を売っております。現在、その債権の総額が約二兆円ございます。二兆円のうち、債権のうち、屋一〇％円が切り上げられたとすれば、二千億円の欠損です。その二千億円の欠損は、全部の造船会社の二年分の利益に相当すると。そういう事実を見ましても、造船会社が、今後非常に苦難な道を歩くだろう、歩むだろうということは明らかでございます。造船所が来たからと、あるいは八幡製鉄が来たからと、ということとは、なかなかその善悪は判断するのは困難なのではないかと考えられます。

それから、埋め立て地の詳しい計算を伺いましたが、土砂で埋め立てする場合と、山土を埋める場合ではだいぶ違います。今更の新しく四十万坪を埋め立てをする場合には、全量、八郷あるいは大矢知等の山土を運ぶということから、三万円という計算で四十万坪を乱暴に計算をいたしておるわけでございまして、川越町の埋め立て地問題につきましては、これに容喙する考えは毛頭ございません。

○議長（日比義平君） 土木部長。

（土木部長（谷沢文男君）登壇）

○土木部長（谷沢文男君） 市長の答弁に補足して、ご説明を申し上げます。

現在、四日市市が計画いたしております、都市計画決定をいたしておりますのは、三十七年の一月二十四日の計画で、百四十三・四キロメートルでございます。現在までの改良、舗装済み、平均いたしますと、約三〇％、改良の中では、改良が未改良がまだ六八％、未舗装七〇というような、まことに進捗率はさびしい状況でございます。ですが、ただいま市長から答弁のありました。やはりまた、山口議員からもご指摘のありました、四日市の新しい町の考え方から、街路網、あるいは道路網形態というものをいかにしていくかということ、この事業をいかに促進するかという問題が大層な問題かと思えます。現在といたしまして、東西路線につきましては、ご指摘のように富田山城線、これはまあ本年から事業が進められますが、この問題は、さらに北部におけるインターを通じまして、名古屋環状線、あるいは、ただいまご指摘のありました関、四日市間というような問題、あるいは従来から促進を進めております四教道路というような関係で、北部地域については、このほか市の進めております日永八郷線、あるいは平津バイパスというような諸幹線の結びつきを考えるべきかと考えます。また、南北道路で一号、二十三号、名四国道の問題、あるいは、いま市長からお話のありました第二名四構想の問題、あるいは名阪道路の五十年前に完成させる問題、あるいは三百六号の津彦根線等の問題等がございますが、これと、現在進めております西八王子線、あるいは千歳町小生線、これをさらに、松本昌栄線を延長するような問題も出てまいりますし、昨年から進めております稲葉町内部線、あるいは六地蔵中川原線、あるいは赤堀小杉、今後、付来考えていかなければいけない常磐堀木線等々幾つかの問題がございますが、一応、いまご説明いたしました各路線についても、予算の方途がすでにつきつつあり、また、現に事業を進めさせていただいておるわけでございまして、今後さらに、新法の使用指定とからみ合わせまして、街路計画の修正を行ないたいと思います。以上です。

○議長（日比義平君） この際、本日の会議時間は、議事の都合上、あらかじめこれを延長いたします。

山口君。

〔山口信生君登壇〕

○山口信生君 市長のただいまの答弁、ちょっとふに落ちませんことは、造給会社がドルショックで、どうしたらうたらと申されましたが、私の言うところのは、現時点で踏まえて言うところのと違います。こういうものが昔があったなれば、現在として、こういう公害の問題で論議するような必要がなかったかなということを申し上げておるのでございます。造給所ばかりでございます。日本じゅうの問題が赤字でございます。それをあえて、そういう意味でもって出して、答弁に持ち出すとは何事ですか、君は。

もう一つは、先ほど山本議員が言われたけれども、三億円と踏まえておると、これは山から持ってくると言われたけれども、それくらいのことではなくてちゃんと調べております。全部山から持ってくるものを試算しておるのでございます。そんなことぐらいわからぬようなことで、こんな数字が出ますか。

もう一つお尋ねしますが、名四国道を私の言った提案に対しては、けんもほろほろのあいさつで、いま一度名四国道つくるということを言われましたが、名四国道はどの辺につくる余地があるんですか、お答え願いたいと思います。

○議長（日比義平君） 土木部長。

〔土木部長（谷沢文男君）登壇〕

○土木部長（谷沢文男君） ご質問の意思、たぶん第二名四高速道路の構想かと思えます。これにつきましては、現在の都市計画街路、富洲原から一応計画街路として、四日市の七千メートルつなぐ山ろく構想がございます。要するに、この問題と現在進めております日永、八郷、そういういろいろないろの路線の調整があるかと思えますが、いずれにしても、中山間地帯を、その四日市域外から抜いてくるという一つの構想ができておりますが、まだ現実などのルートだということはきまっておりますが、あくまでも将来、交通量を考えますときに、名四、名

阪、あるいはその他の幹線通過交通を考えた場合にも、やはり四日市の交通事情からいって、中山間部に抜くべきであるという構想があるという説明でございますので、ご了承いただきます。

○議長（日比義平君） 山口君。

〔山口信生君登壇〕

○山口信生君 これ以上追及しても市長が困るだけで、大体この問題はこれで終わります。

先ほど、土木部長が答弁しましたけれども、まるきりキツネにつままれた何とやら申すようなことで、まるきりわけがわかりませんけれども、まあ、土木部長の立場として、あれくらいが精一ぱいだと思いますので、これ以上は追及いたしません。

次に、運営委員会で許可のお断わりいただきましたバビリオンの問題でございます。私の一番疑問に思います点は、先ほど……。

○議会運営委員長（荒木武治君） 議長、運営委員長の立場から申し上げます。

四十五分ということに關してまとめてもらっていたきたいという、運営委員会の席での話でございます。

○山口信生君 待ちなさい。おかしいな、それは。先ほど言いたやろ。議運でちゃんと承認とるんやもん。君、運営委員長として、どう言っとるんです、それは。

○議会運営委員長（荒木武治君） 四十五分でええということだった……。

○山口信生君 冗談やない。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩いたします。

午後五時四十三分休憩

午後六時十八分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

山口君。

〔山口信生君登壇〕

○山口信生君 どうも私の時間の延長で、皆さんたいへんど迷惑かけてまして、まことに相すまんことです。おわび申し上げます。おかげさんで、私もだいぶ元氣が出ましたけれども、これでくしゃんと、もう、ちょっと力が抜けましたので、これから再質問に入りますので、ご了承のほどをお願いいたします。

この問題は、きのう高橋議員が申されましたけれども、しり切れトンボになったような気持ちがございますので、あらためて私が再質問のような形で、ひとつお尋ねいたしたいと思います。

一番私の聞かんとするところは、先ほど、私が申しました漁業補償の問題、営々辛苦して、平田市長がとった金、この金でございます。と申しますのは、これは、ひとつ考えれば、一応別の金やということは、かねがね助役も、私申ししておりますけれども、けれども、深く掘り下げていきますと、第一回分に払った一億何千万の金を銀行で借りて払った。それから三回にわたって漁業補償の金を支払っております。相当の穴をあけてそれから三年か四年に八幡製鉄から財政援助金たら調整金たらというて六億一千万円、元利ともに持ってきて穴埋めしておるのは事実でございます。けれども、平田市長が苦勞して取った六億ちゅうものは、これから取らなければ何の、一銭の利益も四日市になっておらぬことは事実でございます。その第一回分としては、遠洋漁業基地に五万坪埋め立てのときに、これは市長が市会にはかって、遠洋漁業基地であるから、この補償金は、ひとつこれは免除をしてもいいという。議会におはかりになったので、われわれは、快く、これは了承しております。

次にたたいま、きのうの高橋議員の質問によって、初めてわれわれも、この一億六千八百万円という金の便處に

ついて、初めて知ったようなわけで、これも高橋議員が質問せなだときには、やみからやみに葬ったと受け取られてもしょうがないと私は思います。確かに、県会においては、田中知事が、県は五百万よりか絶対出しませんと言明し、また、市においても、市の金は五百万しか使いませんと、市長が宣言して、われわれにも協賛を得ているのは事実でございます。あとの金はどこから持ってくるのやと尋ねても、知らぬ存ぜぬで、そのときは一べんも、聞いておりません、突然にこういうことを出されて、これはいいものか、悪いものか、この金は海のものやで、管理組合に移行しとるで、われわれ黙っとれとおっしゃるのか、その点がわれわれとしては聞かんとするところでございます。聞くところによりますと、県、市五百万ずつ出合って、財団法人というものをつくって、それを運営し、またこれに理事会というものをつくって、これで協賛し、これを運用されたように聞き及んでおりますが、理事会だけはかつて、われわれ市議会に、全然はからなくとも、これはいけるものか、いけぬものか。いけるとしても、われわれといたしましては、この利用法については、県、市において相談をするということに、一項目入っておるように聞き及んでおります。この点でございます。県、市において相談するとなっておる限りでは、市会に一言はかつてしかるべきものと思うのが、私の考え方でございます。その点を市長からひとつ、まずもってお聞きします。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） お答えを申し上げます。

バビロン建設につきましては、四十五年に財団法人が設立をされまして、市議会からも参画をされて、この、いろいろの審議がなされてまいっております。この漁業補償の金につきましては、県、市で処分をはかるということになっておりますが、その前に、この漁業補償は、当初分けようというような考え方がございましたが、これは

分けるわけにいかないと。やっぱりこの、四日市市の全面水域の利用によって得た金であるから、やはり四日市市の、霞ヶ浦全面地先の海岸のために使うということで、知事と一応約束をいたしました。したがって、この一億六千九百万の処分につきましては、追ってこの市会の中でも、全員協議会なり、適当なものを準備をしていただきまして、そこでおはかりをさせていただきたいと、さように考えておる次第でございます。

○議長（日比義平君） 山口君。

〔山口信生君登壇〕

○山口信生君 ただいまの、後ほど全員協議会を開いておはかりしたいということばが出ましたが、いままじそういうことばが、なぜ早く出なんだかというだけでございます。それでけっこうでございます。もう、それを聞いて私は一言も言いません。そのことばを高橋議員がお尋ねする前にこれをやっておれば、こんなことを私がいま持ち出さなくても、皆さんが、おそらく皆さんも、このオーストラリア館をたきつぶせという気持ちを持っておられる方は、私はないと思います。でもわかりません。私だけのことです。皆さんが協議会を開いて、たきつぶせというおことばが出るかもわかりませんけれども、それまでして市長を苦しめるという方は、私はないと思うんです。けれども人間でございます。黙ってかかってにやられたんでは、見てつかれというのが、これはもう人間の根性でございます。（笑声） まあ、実際、議員というものはそんなものでございます。議員のこれは根性でございます。その根性がないようなことでは、議員ではないといってもいいと私は思います。（笑声） これで終わります。まあ、時間延長して、皆さんを騒がして（笑声） まことに相すまんことでございましたけれども、けれども、市長に、全員協議会を開きます、このことばだけ得たということで、皆さんもお許しを願いたいと思います。どうも相すみません。

（笑声） （拍手）

○議長（日比義平君） 本日はこの程度にとどめ、あとの方は明日にお願いすることにいたします。
明日は、午前十時に会議を開きます。
本日は、これをもって散会いたします。

午後六時二十七分散会

昭和四十六年九月十三日

四日市市議会定例会会議録（第四号）

四日市市議会

○議 事 日 程

第 四 号

昭和四十六年九月十八日(土) 午前十時開議

第 一 一般質問

第 二 議案第八八号	昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について	質疑：委員会付託
第 三 議案第八九号	昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について	〃
第 四 議案第九〇号	昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算(第二号)	〃
第 五 議案第九一号	昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算(第一号)	〃
第 六 議案第九二号	昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(第一号)	〃
第 七 議案第九三号	昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)	〃
第 八 議案第九四号	昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(第一号)	〃
第 九 議案第九五号	昭和四十六年度四日市市公共用地取得事業特別会計補正予算(第一号)	〃
第一〇 議案第九六号	昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算	〃
第一 議案第九七号	四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	〃
第二 議案第九八号	四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定について	〃
第三 議案第九九号	四日市市国民健康保険条例の一部改正について	〃
第四 議案第一〇〇号	四日市市消防員じゅつ金条例の一部改正について	〃
第五 議案第一〇一号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について	〃

第一六	議案第二〇二号	四日市市消防手数料条例の廃止について	質疑：委員会付託
第一七	議案第一〇三号	四日市市防災会議条例の一部改正について	〃
第一八	議案第一〇四号	町及び字の区域並びに名称の変更について	〃
第一九	議案第一〇五号	町の区域の設定について	〃
第二〇	議案第一〇六号	町の区域の変更について	〃
第二一	議案第一〇七号	字の区域の変更について	〃
第二二	議案第一〇八号	字の区域の変更について	〃
第二三	議案第一〇九号	工事請負契約の締結について	〃
第二四	議案第一一〇号	工事請負契約の締結について	〃
第二五	議案第一一一号	工事請負契約の締結について	〃
第二六	議案第一一二号	工事請負契約の締結について	〃
第二七	議案第一一三号	工事請負契約の締結について	〃
第二八	議案第一一四号	工事請負契約の締結について	〃
第二九	議案第一一五号	工事請負契約の締結について	〃

○本日の会議に付した事件

日程第 一	一般質問	
日程第 二	議案第 八八号	昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について

日程第 三	議案第 八九号	昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について
日程第 四	議案第 九〇号	昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算(第二号)
日程第 五	議案第 九一号	昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算(第一号)
日程第 六	議案第 九二号	昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(第一号)
日程第 七	議案第 九三号	昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)
日程第 八	議案第 九四号	昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(第一号)
日程第 九	議案第 九五号	昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算
日程第一〇	議案第 九六号	四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
日程第一一	議案第 九七号	四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定について
日程第一二	議案第 九八号	四日市市国民健康保険条例の一部改正について
日程第一三	議案第 九九号	四日市市消防賞じゅつ金条例の一部改正について
日程第一四	議案第一〇〇号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について
日程第一五	議案第一〇一号	四日市市消防手数料条例の廃止について
日程第一六	議案第一〇二号	四日市市防災会議条例の一部改正について
日程第一七	議案第一〇三号	町及び字の区域並びに名称の変更について
日程第一八	議案第一〇四号	町の区域の設定について
日程第一九	議案第一〇五号	町の区域の変更について
日程第二〇	議案第一〇六号	町の区域の変更について

日程第二一	議案第一〇七号	字の区域の変更について
日程第二二	議案第一〇八号	字の区域の変更について
日程第二三	議案第一〇九号	工事請負契約の締結について
日程第二四	議案第一一〇号	工事請負契約の締結について
日程第二五	議案第一一一号	工事請負契約の締結について
日程第二六	議案第一一二号	工事請負契約の締結について
日程第二七	議案第一一三号	工事請負契約の締結について
日程第二八	議案第一一四号	工事請負契約の締結について
日程第二九	議案第一一五号	工事請負契約の締結について

○出席議員（四十三名）

青	天	荒	小	伊	伊	伊
山	春	木	井	藤	藤	藤
峯	文	武	道	金	太	信
男	雄	治	夫	一	郎	一
君	君	君	君	君	君	君

岩	大	小	川	喜	訓	粉	小	小	後	後	志	高	高	田	坪	出	中
田	島	川	村	野	朝	川	林	林	藤	藤	積	井	橋	中	井	井	島
久	武	四	也	哲	喜	寛	藤	政	三	力	政	妙	隆				
雄	雄	郎	潔	等	男	茂	夫	治	郎	夫	一	三	一	子	博	平	
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

○欠席議員（一名）

○議事説明のため出席した者

市	助	助	収	市	総	税	産	厚	衛	土	下	建	副
長	役	役	入	長	務	務	業	生	生	木	水	設	収
九	岩	加	庄	三	平	荒	阿	小	園	谷	天	滝	伊
鬼	野	藤	司	輪	井	木	南	西	浦	沢	野	藤	藤
喜	見	寛	良	喜	清	三	輝	忠	和	文	助	伝	涼
久	齊	嗣	一	代	三	郎	彦	臣	己	男	春	之	一
男	男	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

小林博次君

吉	山	山	山	安	六	松	増	藤	福	日	早	服	長	橋	橋	野	生
垣	本	中	口	垣	平	島	山	井	田	比	川	部	川	本	本	崎	川
照	忠	信		豊	良	英	泰	香	義	正	昌	鐸	増	建	貞	平	
男	勝	一	生	勇	司	一	一	郎	史	平	夫	弘	元	蔵	治	芳	蔵
君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君	君

教育委員長	森	幸雄
教育長	市川	一郎
次長	佐々木	晃精

病院事務長	村山	了
-------	----	---

水道事業管理者	中	英郎
次長	菊	英也
技術部長	杉本	義広

消防長	富山	光三
次長	山北	彰

代表監査委員	森	新八
--------	---	----

事務局長	鷺野	正和
次長	森	正太郎

○出席事務局職員

議事係長	小林桂輔
書記	佐藤正俊
書記	板崎大之丞

午前十時四分開議

○議長（日比義平君） ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の出席議員は、三十七名であります。

本日の議事につきましては、議事日程第四号により取り進めたいと思っておりますから、よろしくお願いをいたします。

日程第一 一般質問

○議長（日比義平君） それでは、日程第一、一般質問を昨日に引き続き行ないます。

伊藤信一君。

「伊藤信一君登壇」

○伊藤信一君 地元優先のどぶ板政治という、こういうことばがございます。市長が朝明都市下水路を二カ年間短縮して完成したいと、こう基本的な姿勢を示しているにかかわらず、あえて私がまたその問題をこへ取り出すことは、まさにどぶ板政治になろうと、こういうふうに考えておりますが、しかしどぶ板であろうと、あるいはどぶネズミであろうと、来る年も来る年も浸水で苦しみ、浸水で泣いている富田、富洲原の人たちのために、その大ぜいの人たちの声にこたえるためには、地元の議員として一言ここで述べなければならぬことをご了承いただきまして、

簡単にご質問を申し上げたいと存じます。

この問題につきましては、橋本議員の質問に答えて、天野部長から期間を短縮したいと、こういう答弁がありました。続いて、出井議員の質問に対して、市長から二年間短縮したいと、こういう答弁がございました。続いて、喜多野議員の質問に対して、加藤助役から近鉄路線まで仕事をしたい、工事をやりたい、そして千二百ミリと千四百ミリのポンプを備えたいと。それからどなたのご質問か忘れましたが、天野部長から現在ある排水ポンプについては、今後増強を考えていきたいと、大体これが朝明都市下水路に関する理事者側の答弁でございました。どういうわけかばらばらに出てまいりますので、これを私がひとつまとめてみたいと思うんですが、朝明都市下水路は今後四カ年間からなければ完成しないから、富田、富洲原の住民が浸水に困っているから、この工事を二カ年間短縮したい、さしあたり工事は近鉄路線までとポンプを千二百、千四百ミリのものを備えつきたい、なお、現実的にはその排水口にあるところの排水ポンプの増強をはかっていきたい、こういうふうに私は解釈いたしておりますが、それでよろしゅうございますか、それが一つ。

続いて、この問題に関連いたしまして、この朝明都市下水路の計画の基礎となっておる水量、それから流量、それから下水路の大きさ、なおこの排水に要するエネルギー、いわゆる排水ポンプの大きさ、これらの数あるいは計算、そのことについて一応ご説明をいただきたいと思ひます。

なお、それに関連いたしまして、天野部長から朝明川の伏流水云々というご答弁がございましたので、あわせてその朝明川の伏流水をどれほどに計算しておられるかもあわせてご答弁いただきたいと思ひます。

次に、加藤助役の近鉄路線までという、そういう考え方、理由、それについて一応ご説明をいただきたいと思ひます。私たち、私たちとこう申し上げますと、富洲原出身の議員団でございますけれども、私たちはこの工事は近

鉄路線まででなくて、近鉄の西側までやっていただきたいということを話し合っておるわけでございます。その理由はご承知のように、近鉄の路線は四日市の排水問題に非常に影響がございます。あの近鉄路線との間の排水口の非常に狭いことが、四日市の全体の排水を非常にじゃましております。そういうような関係から、私たちは茶の水の排水溝に流れてくる川筋を、一応近鉄路線の西側に押えていきたい、そのことによって川越町の天神町、それから甚五兵衛町、あるいは西元町、東洋町までの浸水が防げるという考えからでございます。この点について市側のお考えをひとつ承りたい。

以上の三つの点についてご答弁をいただいて、続いてその問題に対しての私の考えも述べさせていただきます、こう思っております。

よろしく願ひいたします。

○議長（日比義平君） 下水道部長。

〔下水道部長（天野助春君）登壇〕

○下水道部長（天野助春君）

第一点の、先日市長から答弁のありました二カ年間短縮する、近鉄までやりたいという加藤助役の答弁があったわけでございますが、それはその方針に従いましてわれわれも努力していきたい、そのように考えておるわけでございます。

それから、朝明都市下水路の概要を申し上げますと、この対象といたしております流域面積は三百三十一ヘクタールでございます、この水路に集まってくる流域といたしましては、下之宮町、川北町、蒔田町、それから豊田、

川越町の豊田、それから高松を含めまして、富田、富洲原の現在市街地の上流に位置する地域でございまして、排水路は四千二百メートル延長がございします。これは全部自然流下を原則といたしております。建設費の軽減をはかりまして、既設の水路を利用してこれの拡幅、一部は新設をして建設するものでございします。下之宮町の東部の農業用排水路を起点といたしまして、北は向かって三岐鉄道を横断いたしましたして、国鉄関西線沿いに北へ行きまして、それから蒔田町で国鉄関西線を横断して東へ下りまして、暁小学校の北側の既設水路を利用して東流し、近畿日本鉄道富洲原駅の西を北に向かいまして、豊田町地内で宇部の生コンがございしますが、あの中を通過して国道一号線を横断し、県道を横断いたしまして、いわゆる高松町地内のくそ池というところがございますが、四日市と川越、朝日、菰野で共同のし尿処理場がございしますが、あの付近でポンプ場をつくらせて排水することになっております。

それから、ポンプ場の規模といたしましては、現在の計画といたしましては、千百ミリ二台、千二百ミリ二台ということになっておりますが、いろいろ先日から検討をし直しましてポンプを大きくしております。その内容は、口径千二百ミリのポンプを二台、千四百ミリのポンプを二台にしておりますので、現在の計画の水量よりも四〇%、約四〇%増しの水量になるわけでございます。その水量を具体的に申し上げますと、水路の延長でございしますが、これ一番上流のところでは、下之宮の一番始まるころでは、上幅が四メートル二十、下幅が三メートル、高さが二メートルという水路でございしますが、これがだんだんと流域面積をふやしてまいりまして、最終的には二メートル四十、二メートル四十、高さ二メートル四十、幅二メートル四十のボックスの水路が二連と、これが二つできるわけでございます。これによりまして水量は最終的に計算してまいりますと、十六・九二トン、毎秒でございしますが、十六・九、約十七トンの排水量になるわけでございます。で、ポン

プの施設といたしましては、いままではいろいろ技術的に理想的と申しますか、経済的な計算をしております、千百ミリ、千二百ミリ、おのおの二台の計画をしておたわけでございますが、まあオンドックスな、ある程度水路に水がつき、田んぼに水がある程度ある状態で、なおかつ五十ミリの雨を計算済みの基礎としておりますので、その程度の雨が降った場合に排水できる能力のポンプを計算いたしまして、これが約十七トン以上しておりますので、最悪の場合でもポンプだけでも完全に排水できるという計算になっておるわけでございます。それから、現在耕地がたくさんあるわけでございますが、あの地域に三百三十一ヘクタールの都市計画をし、新しい都市計画によります用途地域によりますと、住宅と工業地域と、それから商業地域と三つに分かれまして、調整区域はございませんで、あの地域が住宅化した場合にでもこのポンプで完全に排水ができるという計算になっておるわけでございます。

それから排水路の延長は、先ほど申し上げました四千二百八十八・九メートルでございします。開渠のところはブロック積みによる水路、それからボックスのところは、当然鉄筋コンクリートの水路であるわけでございます。それから浸透水の問題、伏流水の問題でございしますが、これは計算の中で水路がいろいろ断面が違う水路があるわけでございしますが、これの余裕高というものを計算にしております、たとえば一番上流の、先ほど申し上げました下幅が三メートル、上幅が四メートル二十のこういう水路でございしますが、これが二メートルの高さの水路になっておりますが、余裕高はその中で五十センチ余裕があるわけでございまして、そういうものの中で伏流水を厳密には計算しておりませんが、これは堤防の長さといわゆる水位で計算できるわけです。これは堤防の構成しております土質等によりましていろいろ違うわけでございしますが、これは計算できますが、これはまあ大体一割程度考えておると、中に入っておるといふ計算をしておるわけでございます。

それから、ほかの問題につきましては、一応近鉄のかさ上げとか、そういういろいろな問題につきましては、大きな問題でございますので、いろいろそういう方面に働きかけて進めていきたいと、こういうふうに考えております。

それから、こういう大きな工事を早く早期に完成するためには、国庫補助の問題とか、起債の問題、市の財政的な問題もちろんあるわけでございますが、中央にいろいろな働きかけて、建設省はもちろん選出の国会議員の先生方、それから市会議員の方々、地元の方々、これはいろいろご協力を願ひまして、朝明都市下水路の早期の完成を期したいと、このように考えておるわけでございます。

○議長（日比義平君） 伊藤信一君。

〔伊藤信一君登壇〕

○伊藤信一君 ただいまの天野部長の説明で了解したいというよりむしろ、今後この問題について、財政面についてもいろいろ問題がございますけれども、万難を排してこの工事を一日も早くやり遂げていただきたいということをお願いいたしております。

昨日来市長の言っておりますように、円切り上げの問題、景気の問題、ひいては市政にも非常に問題が多かるうと思ひますけれども、やはり富田、富洲原の住民の浸水の苦しみから一日も早く救っていただきたいことをお願いいたします。

なおまた、ことばに甘えてのことばでございますけれども、先ほどの部長の説明の中に、既設の水路を利用するということばもございましたし、既設の水路が今日までどういう状態であったかということは理事者の諸君もよくご存じでございます。それにましてこの計算された工事計画、一分のすきもないということを私は信じてお

りますけれども、災害というものは常識を越えて起こるものでございますので、その常識を越えて起こったときの場合のことと考えていただいて、各河川の各川の流れてくる接点の井ぜきについてひとつご考慮をいただきたいと思ふんであります。

なおまた、近鉄西の土地買収につきましては、ご承知のように、道路を新設する場合は非常に協力する節が多いのでございますけれども、水路となりますと、非常に買収がむずかしいように聞いております。かりに来年そこを工事しようと考えられましても、はたしてその土地が買収できるかどうか、非常に私はこの疑問に思っております。だからかりに近鉄の東までの水路を開きくすると同時に土地買収にかかれてもおそくはないかと、こういうふうに考えております。どうか土地買収につきましても、一日も早くかけられて、そして仕事の進めやすいようにお願いしたいと思ひます。

最後に、ご承知のように今年から下水部が独立いたしております。きのう、おとつい三日にわたるこの質問の中でも、排水問題が多く出ております。それほどに四日市の排水については、非常に問題が多いのでございます。どうぞ独立した下水部にふさわしい予算、あるいは工事内容、そういった点について今後よろしく私たちの期待を裏切らないような、そういう仕事をしていただきたいということを申し添えて終わります。

○議長（日比義平君） 訓覇也男君。

〔訓覇也男君登壇〕

○訓覇也男君 昨年の六月議会で新全総、新全国総合開発計画が巨大な力と速い速度で市民生活を、その計画の中に組み込み、ひいては市民生活を破壊するおそれがあるということを指摘いたしました。そして私は、それ以来これに対応するために、地方自治を守り、市民生活を守るために主として市民生活の側から地域の問題を提起して理事

者の態度をお尋ねしてきましたのであります。で、今回は行政の側からその組織運営上の諸問題にピントを合わせてお伺いをいたしたいと思ひます。

時間の関係で焦点をしますが、組織運営上何が一番欠除しているかということを一言で言うならば、それは行政組織の専門分化に対して総合性の原則、総合化の機能が著しく欠けているということでありまふ。そのためにたとえば新都市計画法は、大正八年にできてから、できた旧法よりも新法は手続的には地方自治に配慮が払われているにもかかわらず、もちろんこの法自体にも欠陥がありますけれども、その総合化の原則が欠けているために、いま市民生活はその直撃弾を受けている現状であります。市当局としては、これに基づいて受けるために基本構想も案を発表されましたけれども、そういう観点で、地方自治を守るといふ観点でつくられていないし、そのような使い方をしていないので、棚上げになっているので、たいへん現状を見てもよくわかるわけでありまふ。一昨日来の同僚議員のご質問の事項の中にも、数多くこれに関連した問題が出ておったように思ひます。市長の姿勢もさることながら、各部署が自分の守備範囲に忠実であつて、総合性の原則を軽視しているということに起因するもののがかなりあつたと思ひます。

さつそくお尋ねいたします。都市計画法により線引きが施行されてから一年を過ぎましたが、その総括について特に調整区域における私権の制限による市民生活の影響、市街化区域における被害の現状等をお聞きしたいのであります。時間の関係で省略いたします。

それで市街化区域内の、問題に移ります。それで、市街化区域内を流れる用水の問題であります。先ほどから出ておりましたけれども、この問題に対して例をあげれば、八郷、大矢知を通っている羽津用水について、関係住民は土木か下水で担当してほしいと言つております。一番初めの青山議員の発言もこのようなことであつたかと思ひ

ますが、市街化区域の中におきますこういう問題、線引きをされた影響はこんなところにもあらわれておるのであります。それに対する財政の投資ができておりません。もちろん新都市計画法の最大の欠陥は、財政的な裏づけがないと、それが制度化されていないことにあるわけでございますが、それにいたしましたもたとえば私の申し上げます羽津用水の問題についてどうお考えになつてゐるか、どう対処せられるかということをお伺ひいたします。

次、また給食費の値上げのようでありまふが、この問題はこれで三度目であります。契約栽培が何としてもできないものかということでありまふ。三月議会で市長は、学校給食用のニンジン年間二十三万円ぐらゐなので契約はむずかしいと言われましたが、実は市長は単位を一つ間違えられておるのであると思ひます。で、昨年一年のニンジンは、市場の卸売りの年平均の価格で見ましても二百三十四万二千元でありまふが、キャベツでも二百四十三万円、ジャガイモでも三百二十七万六千元であります。実際はこの価格よりも高く学校給食は買つてゐるわけでありまふ。しかもこれだけに必要な農地はニンジン二十六反、キャベツ十五反、ジャガイモ四十反あまりを必要とするのであります。給食の値上げは野菜だけの問題ではあまり大きな影響はないかもわかりませんが、そしてまた冷蔵庫などの問題もあるにいたしましても、契約栽培を実験するには二万三千人の固定した消費者であり、しかも価格の操作は市のできるものでありますから、これほどいい条件はないと思ひます。学校給食の問題ではなくて契約栽培ということの実験ができるかどうかということでありまふ。そのことがいまの農業政策上たいへん大事なことだから、三度目ではありますけれどもお伺ひいたします。

次に幼児問題であります。幼児は公立の幼稚園と保育園、私立の幼稚園と保育園、そして無認可のもの、下野、貝家、川尻、さらにそれからみ出しているもの、これだけ就学前教育に格差があります。機会は均等でなければ

ばならない幼児問題について、前議会でも公立の幼稚園十二名で、教師二人つけているが、それに対してこういう格差をどうするかということを特に厚生部にお伺いをしたわけですが、現状は九百円の保育料の公立幼稚園のすぐ隣りに無認可の保育園があります。千五百円でうちからにぎりめしを持ってやってきております。これは下野ですが、驚いたことには朝明にある保育園の、公立保育園の近くの子供が遠いこの保育園に、無認可の保育園にやってきておるのであります。このことを行政当局がなぜつかまないのであるか。この原因は保育料が高いということだそうであります。貝家、川尻におきまして、公立保育園からは遠いのでありますが、一つは保育料が高いということにも原因があるようであります。その教育の質、内容などにも、その他たくさん問題があるわけでありす。

あるいは公立保育園がないために低所得者が利用できないという場合もあります。で、前の議会でも市の勢い、つまり市勢に見合う厚生行政について申し述べたのでありますが、市長は真剣に判断をいたし、ご期待に沿うような努力を重ねたいと答えております。その後担当の者に聞いてみましても、議会でもそんな話があった、市長がそう言ったということは一言も聞いてないということでもあります。たいへんオーバーな言い方かも知れませんが、もしそうであるならば議事を軽視するということになるのではありませんか。

次、下水問題ですが、ほんとうは市街化区域内の用水を下水にする計画について伺いたかったのでありますけれども、これも省略いたします。

ただ一つ、ポンプの移動の問題ですが、いまは管理組合になっておるかも知れませんが、県の海岸のポンプは、たとえば千ミリだ、その上にある市の排水ポンプは千五百ミリだということがあるようであります。県と市の設置目的が違うといっても、これでは相当な危険があるのはしろうとの私たちでもわかります。もちろん浸

水の原因はほかにもあったでしょうけれども、それにいたしましたとしても両者を統一して指揮しなければ命令統一の原則にはずれておりますし、これがこのままの態勢であるということについては問題があるのではないかと思います、いかがでございます。しかもこの問題はまた、行政責任を明確にするという原則にもはずれているわけでありす。

この際ついでに申し上げておきますけれども、パピリオンの行政責任は知事です、市長ですか、まあこれは全協に譲るといたしましたが、埋め立て事業は管理組合がやるとすれば、これに対して今度は知事が行政責任があるんではないかと思いますが、そうすれば市長は、そうこめかみに力を入れておくることはないかと思ひますし、いたしますが、何にいたしましたしても行政責任を明確にしておくことは大事なことでと思ひます。つけ加えて一言多かったかも知れませんが申し上げます。(笑声)

なお、答弁によって時間がなくなるといけませんのでつけ加えて申し上げます。経営管理上の組織原則のうち、この総合化の原則はどこでどういうふう担当していくかということですが、当市の場合は企画を含む公室長でもないようでありますし、予算編成の責任を持つ総務部長でもないようであります。そうすると部長会ということになるようであります。このトップマネジメントの問題がどうやら行政組織上の、運営上の当市の問題ではないかということ指摘いたしたのであります。

十二名の公立の幼稚園に二人の職員で開いているところがある。それを所管するところの教育長と、先に述べたような現状の児童福祉法を扱うところの厚生部長とが隣の席にすわっているということは何としても珍妙なことはありませんか。たいへん厚生部長をやり玉にとるようでございますけれども、一例でございますからお聞きいただきたいと思います、そういう部長会であるからこそたくさん問題が出てきているのであります。この辺に一

応焦点を当ててお考えになることが必要ではなからうかと思ひます。

市街化区域でありながら、いまのような用水が老朽化している。そして休耕あるいは米価の据え置き、さらには開発、埋め立てで水の遊び場がなくなってきた。そのために災害が起きる。そして地元負担が膨大になる。どうもやる意欲がない。しかもそれは関係のない流れる流域の市民に被害を及ぼしているんだ。この場合に産業部長、土木部長、下水部長が同席している部長会でこの問題が出ないことはどういふことでありましよう。私はこの問題は、耕地関係のほうで、国の補助がよろしいから下水や土木に移せというのではありません。市街化区域内におきますこの問題は、大幅に負担金を削減するというような措置をとられるべきであると思ひますが、当然各部長からこの話が出て、部長会ではこのような決定がなされるものと思ひます。で、総合化の原則は、部長会においてチェックしていただくこととし、いたしますが、専門分化の総合調整のためにぜひ必要なことであろうと思ひますが、もう一つは出張所長の問題であります。ブロックごとでもよろしいから、出張所長会議を定期的に開くということが、一つは総合調整上の大事な機能を果たすのではないかと思ひます。県のところにあるなどということは、人件費の節約になりまして経済性の原則は貫けても、住民福祉の大原則を無視した、忘れてゐるからではないかというふうに思ひます。

最後に、この総合化の問題は、何といたしまして地方自治の最大の優先の原則であります住民福祉の原則を踏まえたものであります。このことによりまして、国の新全総などを受けとめて市民の幸せを守ることができると思ひますが、市長の姿勢におきましてこの点を十分ご配慮をいただきたいと思ひます。また一言余分であるかも知れませんが、市長はいままで一度だけというと極端になるかわかりませんが、市民のほうに顔を向けられたことがあります。実例をあげます。道路舗装というのは、市民の歩く道路のことが大部分でございます。

ども、道路舗装費を見ますと、当初予算でありますが、四十三年度は八千万円、四十四年度は一億五千万円、約倍増です。四十五年度は二億円、四十六年度は二億一千万円、なぜ四十四年度が倍増いたしましたのか、それは市長も身に覚えがあると思ひます。四十五年が市長の選挙であつたからであります。このように市民の動きは会社組織のほうがいいと言われますけれども、やはりどういたしまして市民が生活の基礎としております地域の問題にどうしても顔を向けざるを得ないというのであります。どうかこの気持ちを忘れずに住民福祉の原則に立って行政運営をやつていただくようお願いいたします。

○議長（日比義平君） 市長。

（市長（九鬼喜久男君）登壇）

○市長（九鬼喜久男君） ただいまの質問にお答えを申し上げます。

総合性、総合化の欠除の点に触れましたが、私はこの総合性の問題というのは、組織論的にいえば日本のあらゆる組織が大体縦割りの組織になっているということは、かねがね申し上げておりますけれども、やはり横の連係を保つような、やはり調整あるいは組織づくりということが大切なものであるというように認識をいたしております。したがひまして、部長会等におきましても、横の連係というものを失わないように今後も努力をいたしたいと、さように思っております。

市街化区域内の用水の問題でございますが、この一例を羽津用水にとられて申し上げますならば、都市化地域へ入ったから直ちに都市的な施設ができるかどうかというところについては、それは財政的には不可能でございます。まあ市街化区域へ入ったその段階におきましては、過渡的な過程として、やはり見ていただかなきゃならぬんじゃないか、一度に都市的施設としてこれを扱うということは不可能であるというように考えます。ご承知のように

この農業が主体となっておりましたところの農業地域、あるいは農家経済というものの性質を考えましたならば、非常に閉鎖的な性格がこれまで強かったわけでございまして、したがってこの農家経済というものは、非常に閉鎖的な性格が強い、したがってそれだけに共同体的な意識を持ち、かつ自治的な活動をこれまでできていたただけでございまして、ところが昭和三十年ごろから非常に工業化、都市化が進展したすにつれまして兼業農家というものも非常に増大をしてまいりました。この兼業化ということがこの地域に非常に大きな影響を与えまして、したがってこの農家経済、あるいはこの農業地域というものが非常に開放的な傾向を持ってきた。したがって開放的になるだけに農業所得よりも都市的な所得に依存するようになってきたと、それにつれてその共同体的な意識がだんだん減少し、縮小されてきたと、それだけ従来自主的な活動でやられていたいろいろの行事というのが、一般的に行政需要の拡大として市政に反映されてきたものであるというように私は認識をいたしております。したがって従来のような道普請であるとか、あるいは水路の修理であるとか消防団活動というものがだんだん困難になってきておるといふことはご承知のとおりでございまして、だからといって一べんにこの行政需要の拡大を、現在のこの市の財政で受けとめることができるかということにつきましては、漸次やはりこの市街化区域においては計画的に進めなければ不可能であるというように考えております。したがって羽津用水につきましても、そういうような考え方で善処いたしたいと、さように考えております。

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君、私は、第一に心身障害者、心身障害児童、乳幼児医療費の無料化について市長のお考えを伺いたいと思

います。

本日の議会には、老人医療費の無料、老人医療費の助成に関する条例案が提案されていますけれども、これが制定されますと、国民年金法別表に定める程度の障害を有する六十五歳以上の、いわゆる寝たきり老人、及び七十歳以上の老人など老齢福祉年金受給権者の方々は、一部を除いて医療費の無料化が実現することになります。この条例案には対象年齢や所得制限、助成方法など、まだ不十分な点がございします。しかし市長は、この半年前までは、無料化に事実上反対をしておられ、また三カ月前までの六月議会でも、七十五歳以上の老齢福祉年金受給者程度という、いわゆる県並みの域を出られなかったわけでございしますが、この点から見れば大きな進歩であり、その対象となられる老人と家族の皆さんや、その実現のために努力をされてこられた多くの市民の皆さんとともに喜び合いたいと思います。で、市長がこの英断をなさるにあたっては、市議会、老人対策特別委員会をはじめ議員諸公の意向や共産党、社会党、地区労などが中心になって進めましたところの、老人医療無療直接請求運動その他に代表される老人、市民の大きな世論を考慮に入れられたことと思いますが、願わくば私の第一の質問についても、ぜひとも誠意のあるお答えをいただくようお願いをしたいと思います。

心身障害者児童は、交通事故、労働災害の激増、公害などによる環境の悪化等々社会的要因によりましてふえる一方でございします。で、この人たちに対する国の施策は、医療、生活、仕事、教育などの面をとっても、いづれをとりにしてもきわめて不十分です。で、私たち共産党は、これらの人たちにせめて医療費を無料にすべきではないかと考えるわけでございますが、四日市では老人医療費の無料化によって、六十五歳以上の国民年金法別表に該当する障害者は無料になりますが、その年以下の方々、この機会に少なくとも身体障害者あるいは児童で一級から三級該当者を、またIQ五〇以下の精薄者あるいは児童の医療費を無料にすることはできないか、お伺いいたします。

該当数においてはそう大きな数ではございません。津におきましても、この老人医療無料化が問題になりましたときに、議員のほうからそういう問題が出されて、そして進んで理事者が今度の議会に提案すべく準備をされているように聞いておるわけでありませう。

次に、乳幼児の問題でございますが、わが国の乳幼児の死亡率は、近年医療の進歩その他によりまして減っているとはいえますものの、四十五年度版の厚生白書によりまして、たとえば一歳から四歳児はいまだにアメリカの一・五倍となっております。中でも四日市では、公害その他により死亡率が高いと聞いております。で、乳幼児は大気汚染、食品、衣服などの公害による影響を受けやすく、病気が激増をしております。おとなは少々調子が悪くてもがまんをすることができまされども、子供はそうはいりません。この医療費が国民健康保険でも三割その他の社会保険ではまるまる、付加給付のあるときの一部を除きましては、最高五割の負担となり、家計の大きな負担となっております。で、こうしたことから乳幼児の医療を無料にしてほしいという声が、これまた全国的に大きくなりつつあります。すでに内容的にはまちまちですが、横浜市をはじめ百をこえる多くの市町村が無料化をしつつあります。四日市でもぜひ実施していただきたいと思いますが、市長の考えはいかがでしょう。

さらに、すこやかな子供の出生という点でいま一つ大切な問題は、妊産婦の健康問題でございます。労働環境の悪化、母性破壊、各種公害の影響などで流産、死産、奇形児、未熟児がふえているだけでなく、分べん後も妊産婦の健康をそこなっております。妊産婦に対する無料化検診を前提にし、保健指導を徹底して行なう、それから糖尿病、妊娠中毒症などについては、医療費の無料化を実施してはどうかと思うわけですが、市長の考えを伺いたいと思います。もちろんこれは、妊産婦の問題につきましては、県ともよく協議しなければならぬ問題であらうかと思ひます。私もはもともと医療費の無料化というものは、国においてその責任で実施するのが当然で

あらうと思ひますけれども、そのために私ども努力いたしますが、同時に老人医療費の場合、あるいは公害患者の認定制度の例が示しますように、市としても進んでやる中で政府にその実施を迫るという、そういう姿勢をやはり貫くべきではないかというふうに考えるわけでございます。

第二の質問は、抜本的な治水、道路舗装対策の実施についてであります。ただ計画をお聞きするという事ではないことにご注意をいただきたいと思ひます。七月、八月の集中豪雨と二十三号台風で多くの被害を受けたあと開かれました今日の議会で、この問題はすでに中心的な問題となり、多くの議員の皆さんも質問をなさいました。私はそれらの質問と、市長をはじめ理事者側の答弁を真剣にお聞きしたつもりでございます。しかしこれまでの市長らのご答弁の中からは、抜本的な治水、道路対策がすぐに実行に移され、今後の水害その他の災害による被害の心配がなくなるという保証を十分得たというふうには思えないのであります。このままでは被害を受けられた市民の皆さんに対して議員としての責任を果たすことはできないと思ひます。再三再四にわたって同じようなところで被害を受けておられる市民の皆さん、そしてまたあすはわが身に及ばなければと不安を持っておられる市民の皆さんがいま何を求めているか、言うまでもなく抜本的な万全の治水、道路対策をすぐに実行に移してほしいということでございます。この点をはっきりさせ、その保証をこの際得たいと思うわけでございます。そうしないとまた水害が起こると、勢いたえば一般職員が、市の職員がまるでさばっているかのように言ったり、あるいはすぐやる精神論が飛び出したりするからであります。今時の水害について、一般職の職員の皆さんは一生懸命努力されたのであります。日常ふだんにおきまして、治水、道路問題と直接関係をしておる土木、下水道部関係の一般職員の皆さんを見ても、しかも人員不足と膨大な業務量の中で、昼夜分かたず精励されていることは、多くの議員の皆さんがよくご存じのことではないかと思ひます。幾らすぐやる課をこしらえましても、すぐやる精神を発揮しよう

しましても、肝心かなめの市長の政治姿勢が、市民の立場に立っていなかったら実を結ぶはずはないと思うのでございます。

時間の関係もあり、災害道路問題全般に及ぶことはできませんので、幾つかの点に限り話を進めてまいりたいと思います。

第一に、九鬼市長は今度の七、八月の災害の責任をばかしておられるのではないかと思うのでございます。市長は、雨の降る量が多かったということで、人災であり政災であると、こういうことを認めておられないように受けとめたのでございます。当然のことながら、何らの責任をとろうとなされないわけでございます。富田、富洲原をはじめ、羽津、海蔵、橋北、塩浜と、今度被害を受けたこの部分に限りまして、初めてのことでないわけでございます。予測できなかったことでもありません。その原因もとくに明らかになっていたし、その抜本的対策を関係市民の皆さんは何度となく要望してきたのであります。市長がその対策をとらなかったでございます。確かに一定の机上プランは立てておりましたが、どれも五年ないし八年、九年もかかる計画でありまして、現に実現をしておらないのでございます。今度の議会でも、その幾つかのすでにきまっておる公共下水道、あるいは都市下水路の整備計画を述べられたという、そういうことが多かったのではないかと思います。ただ今回の議会を通じて、下水関係で先ほど伊藤信一議員も言われましたとおり、前進した部分がございます。それは、朝明下水路計画を、国の了承を得たら二年くらいで完成させたいということ、橋北にポンプを一台国に働きかけて設置したいと答弁されたぐらいではなかったかと思うわけでございます。で、あとは一日も早くやりたい、皆さんに迷惑をかけないように努力したいと言われるだけで、私たち議員も市民の皆さんも納得できるような答えは示されていないように思います。塩浜の例のように、市民が下水路として使っていたのを、いつの間に

か大きな工場が独占的に大量に排水をし、水害の原因となったことを事実として認められておられても、ポンプを増強したいとか、四十七年から五十年の計画で開始をするよう国に予算をつけてもらう努力をしているとか言われただけで、これを放置してまいりましたみずからの責任と、その工場にどんな責任をとらして負担を課するのか、そういう点は明らかにされておりません。

第二に、市民の命と財産、暮らしを災害から守るということを、市政の中にどのように位置づけておられるのか明らかではありません。というよりも実際上は、非常に軽視されているとしか思えないのでございます。できる範囲でやるということであって、何が何でもやるという姿勢ではないと受けとめたのでございます。六月議会でも市長は、霞ヶ浦の国鉄貨物基地建設は、住民がどんなに反対しても進めるという意味のことを言われ、実際にもそのように進められておるわけでございますが、事この問題につきましては、幸いこの問題につきましては、そのような姿勢は示されないだけでなく、予防的なことまでやればよいが現状ではできないとまで言っておられます。朝明下水路の繰り上げもあり、老人医療問題についてもしかり、全く市長は市民に押され押されておられます。詰まらなければ、市民のための施策はみずから進んでおやりになるということがないように思うのでございます。市民の皆さんが、九鬼市長は市民の命と暮らしを守ることも、大企業の利益を守ることを第一としていると言っているのも無理はないと思います。で、今度の議会にはかられている補正予算を見ましても、大企業のための港湾費、これを一億七千万円も追加計上されています。これで、今年度の港湾費は五億七千四百万円になります。この港湾費についていえば、第四次四日市港整備計画により今後五年間に四十数億円も市費から持ち出すことになっていると聞いております。四日市における石油中心の産業構造ともからんで片貿易となっており、コンテナ埠頭会社の設立が難航したことでも、また多額の犠牲まで払ってパビリオンを持ってきたことの事情が

らでも明らかのように、将来の発展にも大きな問題点を持つ四日市港にあって、しかも油関係の荷物扱いが大部分を占めることになるという四日市港整備に巨額のお金をつぎ込むことは、いまでも納得できないのでございます。この事業の大部分は港の利用者が不特定多数ということで、大企業はほとんど負担をしないのでございます。この点では九月号の四日市広報で、新々町の安井さんという方が市政に質問を寄せております。公共下水道の受益者負担、あるいは補助金も融資も、十分な手当をしないままに水洗化を強制する問題について、怒りをぶちまけておるわけでございますが、私もこれは当然のことだと思ふのでございます。また、四日市港管理組合には多額の金を出させている県は、たとえば公共下水道、都市下水路に一銭も補助をしないのでございます。

愛知などは、市町村に補助をしていると聞いております。さらにパビリオンの問題でも、一億六千九百万円というお金をつぎ込むということでございますが、これは言うなれば市民の大事な財産でございます。しかも、市長のすでに説明がありましたように、お金がこれから四億も入るのか入らないのか、あいまいな中で仕事を進めていく、市民の貴重な一億六千九百万円のお金をつぎ込んでいく、こういう問題については、私どもはどうしても納得できないのでございます。パビリオンそのものの設置という問題につきましては、われわれもよく考えてまいりたいと思いますけれども、いまのこの水害のことで困っておられる、こういう中で貴重な一億六千九百万円というものをつぎ込まれる、こういう問題は、十分に考えなければならぬ問題ではないか、これは単に理事者だけでなく、後ほど全員協議会も開かれると聞いておりますが、議員の諸公におかれましても、ぜひともご検討を、ご賢明な判断をいただきたいと思うわけでございます。

また近鉄高架につきましても、私も共産党は、この近鉄が立体化することに反対をしておるのではございません。むしろその都市の発展をはかるためにも立体化は必要だと考えております。しかしあまりにも近鉄資本の

負担が少ないのでございます。六十四億九千二十万という事業費の中で、たった近鉄は四億五百万しか負担しない、市はこれから三年間に、約九億円も負担しなければならない、こういうことでございます。しかも高架に伴う付随事業も、十分の九は市が負担することになるというのでございます。

これら三つのお金だけを見ましても、向こう五年間に毎年七億円から約十二億円のお金をつぎ込むのでございます。このうえドルショックで市財政も逼迫する。景気浮揚のために、国が一兆円というばく大な国債を発行して市町村に事業を押しつけるわけでございますが、この事業費もまた、まるまるくればよろしいが、そうではなくて、少ない補助率で市費の持ち出しというものが当然伴ってまいります。その圧迫が、たとえば教育でも老朽校舎新增対策、そういう点でこのしばらくの間でも、数十億円の校舎、給食施設、そういうものに投資をしなければならぬ、そういうところのところにしわ寄せがいくんではないか、その他民生関係にも及びかねない。で、こうしたときに、これらの問題について、やはり市民の治水対策の面を重視する。そういう姿勢をとっていただいて、そしてこの四日市港の事業を一時繰り延べするか、あるいはパビリオンの計画を再検討し、とりあえず公共下水道、都市下水路の計画繰り上げとして全体に早めるように使うお考えはないか、こういう点をお伺いしたいのでございます。

それから、市長は今度の災害を人災あるいは政災として認識しておられないのか、その責任は感じておられないのか、もし市民が家屋、財産、この損害賠償を求めてきたときにはどういうふうに対処なさるおつもりかというところをお尋ねしたいと思います。

海蔵川と三滝川の合流の再検討をするお考えはないか、県にお求めになる考えはないかというふうにお尋ねしたいと思ひます。市長自身のご説明の中でも、非常に護岸があぶないというふうな説明がたしかあったように記

億するわけですが、この間の水を見てまいりましても、相当な両方とも河川の量でございます。これを集中豪雨が非常に多いという、この気象条件がずっと重なってきておる中で、三滝川、海蔵川の合流という問題について、あの付近の住民が非常に心配をしております。この点の再検討を県とともになさるお考えはないかというところでございます。

さらに最後に、道路舗装の問題でございますが、四十八年度までにおもな道路を舗装するとおっしゃったわけですが、たとえば羽津の山手方面、笹川団地のような市道に編入をされていないところはどうしているのか、この辺に入るのかどうか。それから傾斜地の道路、この舗装という問題は、今度の台風の中でも、水害の被害の中でも非常に大切な問題ではないかと、あわせて側溝とも含めまして非常に大切な問題ではないかというふうに私どもは判断をしておるわけですが、この傾斜地の道路の舗装というものは、要舗装道路といふこれまでの範疇の中に入っているのか、入っていないのか、道路幅の多少にかかわらずそういうところの舗装というものをお進めになるお考えはないか、お伺いしたいと思います。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午前十一時八分休憩

午前十一時二十二分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君）

えらいどうも失礼を申し上げます、質問の第一点につきましてお答えをさせていただきます。

若干質問の点からばやけるかもしれませんが、ご参考までに申し上げます。四十五年度から本市独自の制度として、重症心身障害児手当制度を実施しております。これに該当する児童が約百二十名おります。ただいまご指摘のありました三級以上、あるいはIQ五〇以下というご指摘もございましたが、二級以上でIQは三五以上ということになっておりますが、新しい制度として四十五年度からお認め願ってやっておりますことをご報告いたしたいと思います。

なお、いろいろの児童に対する制度が、児童手当法とか、あるいは特別児童手当法とかといういろいろな制度から拾われる形になっておりますが、心身障害児者に限ってご答弁申し上げますと、いまのような制度もからめて、やはり考えていかなきゃならぬのじゃないかと、こういうふうに考えておまして、本議会に出しております無料化の中に、ご指摘のありましたような別表の二級以上というのは、心障法でいうと十五級までが入っておりますので、者の六十五以上の方についてもこういったことで手厚く医療については保障ができるものと確信をいたしております。これに漏れるもの、及び乳幼児、あるいはまた助産婦というような、助産婦じゃございません。失礼いたしました。妊産婦でございますが、すべての手当を無料にする意思がないかということでございますが、何をいたしまするにもご指摘のように、やはり国、県、市という立場のうえから考えていかなきゃなりませんが、ご指摘がありましたように県とも十分に協議もせなきゃならぬ事項もでございます。そういったことも合わせて、貴重なご意見として踏まえて善処していきたいと、こういうふうに考えております。

以上でございます。

○議長（日比義平君） 市長。

（市長（九鬼喜久男君）登壇）

○市長（九鬼喜久男君） たいまは、日本共産党のまことにはなばなしいご意見を賜わりましてありがとうございます。私の本心から申し上げるならば、はなばなしいと申し上げるよりも毒々しいと申し上げたいのが私の本心でございます。（笑声）

私は、ご指摘のような考え方で決してやっておるわけでございませんで、少しでも四日市が住みよい都市になるように努力をいたしておるわけでございまして、そこに見解の相違があるかもしれませんが、それは自由であろうかと、さように考えております。まあ低いところには水が入るといのは、従来からのことでございまして、これは何も四日市に限らず国道一号線におきましても、桑名市をはじめ四日市、鈴鹿、津、松阪、あるいは鳥羽、尾鷲、あるいはまたこの近くでは他県でございすけれども、名古屋の緑区なんかは三日間も水につかっておったというようなことでございまして、これらはすべて人災であるというように割り切ることとはちょっとおかしいんではないかというように私も考えます。まあ時間雨量にいたしまして、記録的な時間雨量が降るということもありますし、あるいはまた、地盤沈下というような決定的な自然的条件もございすし、また従来遊水池になっておったところの田んぼであるとか、あき地がどんどんと埋め立てられて、高い埋め立て地になって倉庫が建つとかいうようなことで、そういう遊水池がなくなり、従来うちの建ってたところが一番低くなるというような、そういうような社会的な要件によっても浸水が起こっておるのが現状でございまして、まあわれわれは、それをどのようにしたらいいかというように、ただいま苦勞をさしていただいております。そのために雨池川であるとか、あるいは先ほど説明の朝明都市下水路というような構想を早急に実施しようということとございまして、そういう点

で今後強力に事業を推進いたしたいと、さように考えておるわけでございます。

その他の問題につきましては、今後部内でよく検討をさせていただきますと、さように思います。

○議長（日比義平君） 土木部長。

（土木部長（谷沢文男君）登壇）

○土木部長（谷沢文男君） 道路舗装についてのご質問にお答えをいたします。

一応私どもが要舗装と考えておる基準は、二メートル五十以上の道路と考えております。ただし交通量の問題とか、住宅周辺の問題、あるいは集落連絡等々のこと、あるいは道路の維持上むしろ舗装をしたほうがいいと考えられるようなものについてはこの限りでございせん。したがしまして、ご指摘の面については、一応要舗装基準として検討をいたしてまいります。なお、具体的な実施についてもさらに地域の状況等を判断して検討し、実施をいたしていきたいと考えます。

以上。

○議長（日比義平君） 下水道部長。

（下水道部長（天野助春君）登壇）

○下水道部長（天野助春君）

抜本的な治水の問題でございすが、下水道といたしましては、公共下水道並びに都市下水路で四十六年度を初年度といたしまして新五カ年計画を立てております。その金額は、公共下水道で七十七億七千万円、都市下水路で十六億五千万円、合計九十四億二千万円を五カ年でやるという意気に燃えて、これの問題と取り組んでおるわけでございます。

それから、そのほかの水路でございますが、いわゆる市単独でやらなければならない水路の改修、新設があるわけでございますが、これも私二年ほど下水道関係から離れておったわけでございますが、その当時は、新設改良費を見ても二千万から三千万程度であったと、それが四十六年度には当初予算で八千五百万円、この議会でもお願いしておるわけでございますが、千五百万円、合計一億円の新設改良費を見てもらっておるわけで、われわれとしては感謝しておるわけでございますが、これをもって足りるとはしておりません。なお一そう努力して抜本的な治水対策に邁進したい、そのように考えておるわけでございます。

それから、先ほど水洗便所をやれといって、受益者負担金を取っておいて、何か水洗便所ができないとか、そういう問題がございましたが、水洗便所ができるところは、できるような状態になったところでないといふ水洗便所をしてくださいというようなことを言っておりませんので、ちょっとどの地区かわかりませんが、そういうことはございません。

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君 まあはなばなしにとられようと、毒々しいにとられようと、それはご随意でございます。しかし実際問題として、たとえば羽津の都市下水路が来年度からかりにかかったとしても、九億に余る事業費で八年もかかると、こういうその計画でございます。朝明の都市下水路の計画を繰り上げてなされた、なさろうとしておると、こういう点ではできるとするならば、雨池にしても、羽津にしても、そしてまた既成市街地の公共下水道事業にしましてもやはりできるのではないか、問題はお金の問題でございます。だれでも市民の利益のためによりよい生活環境のためにするという点では、いろいろ申し上げるわけですが、しかし今日限られた二割、三割自治のもと

で、差し迫ったそういう水害をなくする、市民のその命や財産を水害から守る、災害から守るということになりますと、どうしてもそういういままで九鬼市政がばく大な金をつぎ込まれておる、ここにメスを入れざるを得ないんじゃないかと私も考えるのです。パビリオン一つにしましても、一億六千九百万というこの貴重な市民の財産を、まだ他の企業から出るお金が当てつかないというのをつぎ込むんだ、つぎ込むんだと、市民感情としては、やはり毎度毎度水につかるということのないようにしてほしいという気持ち、これが本音ではないでしょうか。そのお金を持ってきてほしいということがほんとうの気持ちじゃないでしょうか。何が毒々しい、はなばなしですか、その市民の気持ちかわからない、実際につかんで見えない、朝明のこの下水路の問題でもです。富洲原の議員の皆さんをはじめ、あの今度水浸しになった皆さんたちが、あの日にかけて込んだ、そして直談判する、こういう形の中に初めて繰り上げるという形をとられたんじゃないですか。先ほど私は具体的に医療費、老人医療費の問題について申し上げた、たったわずか半年前までは、ことしの三月議会では、市長は無料化をする考えは持っておらぬということを言われておったんです。無料化したって医者をもうけさせるだけだとか、むだ金を投ずるにひとしいとかいうこともあえて私どもにお話になっておったはずなんです。これが市民の気持ちをくんだ市長として、実際に市民があがめることができるでしょうか。また四日市港の整備計画に当たって、五年間に四十数億の金をつぎ込むなんて、たちどころにいま老朽校舎、急増、学童数が急増して困っている、給食室もなく困っている、こういうところに来るまる金をつぎ込んで、いま五十数億あればできるんです。いまそのほうを大事にするか、港のほうを大事にするのか、港の第四次整備五カ年計画を見ますと、五十五年を指標に五億八千万トンですか、五百八十万トンですか、その荷扱いをする計画でやるんだと、そのうちの四百四十万トンですか、それが油関係の取り扱いになるんだという計画を立てておみえになるんです。四日市港は片貿易でたいへん困っている。

パビリオン問題もそういうところから出てきたんじゃないでしょうか。豪州政府にわざわざ当てもない金を予定しておるといふような、これがいま市民にとってもう緊急欠くべからざるものでございますか、私はそれよりも小学校の一つでも、いま現にこの議会でも中心問題になった水害問題、水害対策の問題、これにどうして手がつけれませんか。雨池の都市下水路一つにしましても、国の補助を含めましても、五億四千七百万あればできるんです。羽津の都市下水路九億一千九百万でできるんです。朝明の都市下水路、二年もかからぬでも七億四千二百万でできる。何をまだこれのうえ二年待たせる必要がありますか、この点を真剣にひとつ考えていただきたい。何が毒々しいですか。いつも、この間の六月議会においても、共産党のご意見として賜わっておきますという、答弁を求めておるのにそういう姿勢をとられる。もう少しまじめに態度で示してください、態度で。

市民が家財道具、家屋の被害の問題で損害賠償を求めてきたときにどういふふうに対処なさるつもりか、それをお聞きしたいと思います。

私どもは、この霞ヶ浦、いや港湾整備五カ年計画、これも県と協議して一時繰り延べて火急のものに回したらどうかと、こういうことを申し上げているんです。さしあたりです。パビリオンのお金もそういうふうにしてもらいたいということを申し上げてゐるんで、決して共産党が暴論を申し上げておることでは決していらないと思うんです。市民の皆さんたちに共感を大きく受ける問題だと思っております。確信しております。

それから小西部長にお尋ねしますが、先ほどの重度の心身障害者に対して、四十五年度から二万円のお金を出しておみえになる。今度六十五歳から年金法の別表に該当される方は医療費は無料になる。で、この間におみえになる、年齢的にですね。少なくとも貴重な意見として善処したいということじゃなくて、もっと前向きの答弁が私は出るべきだと思うんですがね、数から見ても何でも大した数じゃないんですね。二十歳まではその四十五年度から

始まった措置がある。六十五歳からは今度の措置であると、その間のアンバランスという問題をもっと前向きに考えるということがどうして出てこないですかね、あんまり数は多くないんですよ。私はその二十歳未満の、現に四十五年から出している問題ですよ、それで事足りるとするものではないんです。いま申し上げたのは、そのものも含めてもっと抜本的に無料化の措置をとってほしいということを申し上げておるんですが、善処したいとか、抽象的なことじゃなくて、現にそのほんとうに前向きの姿勢をとられるんなら、日の当たらない人たちに日を当てるという姿勢をほんとうに持っておみえになるんなら、その差のところでもちょっと何とかしましょうというふうにお答えになるのが、私はまじめな態度ではないかと思うんですが、いかがでございましょう、お答えいただきます。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 市長にかわって答弁いたします。

〔「まじめにやってくださいよ」と呼ぶ者あり〕

ただいまの重症心身障害児手当、本議会に出しております無料化の別表との間の者に対するご質問があったかと思いますが、これについては小井議員さんもお承知かと思いますが、心身障害者扶養共済制度というのが二年前から国の制度として発足しております。これはそういう重度の心身障害の子供さんを持っておられる親御さんが死亡されたときに、この子がどうなるのかという不安の解消のための共済制度でございまして、

〔「答弁になっとらぬ」と呼ぶ者あり〕

これはそういう意味の共済制度で、その面を拾ったわけで、こういうふうにご了承を願いたい。したがって、

最初に申し上げたように、ご質問の趣旨から若干はずれかもしれませんがという前提で申し上げたんですが、この無料化の問題につきましては、いま本議会に出して、ご承認を得るべく出しておるこの問題だけでも相当の財政負担がかかりますので、そういったことも合わせてこういう社会保障制度というようなものは、やはり国、県との関連もございますから、そういう点をよく踏まえて善処をしていきたいと、こういうように申し述べましたので、ご了承を願いたいと思います。

以上でございます。

〔「休憩にせよ」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 暫時、休憩をいたします。

午前十一時四十五分休憩

午後一時四分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。
市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） お答えをいたします。

午前中の、浸水した家屋に対する損害賠償の問題でございますが、これらは原因あるいはその他環境等一般の問題として判断するのが非常にむずかしい問題でございますので、答弁する限りではないと思います。

○議長（日比義平君） 橋本建治君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 経済危機と市民生活の安定と向上についての施政方針と、公害対策の抜本的強化という二つの問題について質問をいたしたいと思ひます。特に私はこの中で、質問と同時に具体的に提案を行なつて、市政に反映していただきたい、特にこのことを先に強く申し上げたいと思ひます。

まず最初の第一項でございますけれども、すでにこの議会におきましても多く論ぜられましたので簡潔にいたしたいと思ひます。しかし、今回の円のドルの問題は、まさに国民生活の根本に及ぶきわめて重要な問題であると私は思ひます。一時的な不況とか一時的なアメリカの貨幣問題の危機だという、そういう簡単な問題ではないと思ひます。ドル防衛、円切り上げによつてこれからの市民生活、国民生活は一体どうなるんか、多くの人々がほんどうに不安な気持ちを抱いております。市民への影響につきましては、三日間のこの議会におきましても、具体的にいろいろと明らかにされております。今日、この市民の深刻な不安にどのようにこたえるかということが政治の責任であると思ひますところが、水田大蔵大臣は、政府の方針として、ドル防衛政策に協力することが政府の方針であると述べております。また、わが国経済は鎮静しており、静かにおるという、そういう意味だそうですが、円切り上げが物価安定に好影響を及ぼすものと予想されると参議院大蔵委員会では答弁しております。

昨日、市長は、ドルショックが石油化学コンビナートに及ぼす影響についての質問に対して、石油関係は有利だといふ発言がありました。また、造船所よりも石油化学工場が有利であつたといふ意味の発言もございました。確かに、輸入原料に依存し、製品は国内市場に依存している産業、石油精製、アルミ、電力、食糧油、製粉、砂糖等々などの産業は有利になるということはいえると思ひますが、では石油、電力料金が値下げになつて、物価が下がつて、国民生活が安定するかということになりますと、事実は全く反対となつてあらわれております。年収千二百

億とか千三百億の替為差益があつて石油産業はもうけたと、その分を値下げに回せという国民の強い要望が出ておりますが、冬を迎えました今日、石油ストーブに使用します灯油代が約二割も値上げになっておるわけであります。

私は、最初の表題に掲げましたように、経済危機ということばを使いました。今回のドル、円問題はまさに日本経済の危機、国民生活に及ぼす影響、深刻さはきわめて大きいものがあると思います。日本経済のあり方についてほんとうに真剣に今日考えなければならぬときであると思うのであります。

そこで、行政面での市政の運命になっていらっしゃる市の三役の皆さんに、私は率直にお尋ねするわけですが、まず第一に、ドル危機とこれに伴う円切り上げが、どういう理由で何の原因によってやられたのか、二番目に、経済危機打開の展望について、市政の転換の必要があるんかないんかということを含めまして、たいへん恐縮でございますけれども、三役の四人の方から簡潔でございますが、ご意見を述べていただきたいと思います。これが、第一項でございます。

第二項は、公害対策の抜本的強化の問題でございます。

私は、六月議会で、企業の新設と増設に対して、公害を広げるために反対であるという意見を申しました。また、市民の命と暮らしを守るために、企業発生源の責任において排水源での測定、また地方自治体の責任において地域での測定の体制を強化すること、東京と川崎市の例をあげて私は意見を申し上げました。また、五年間の公害防止計画を改正するというについても意見を申し上げました。特に、硫酸酸化物等の環境基準をきびしくきめて改正すべきではないかということをお願いしました。そうして、公害患者の認定地域を拡大し、被害者の救済問題について直ちに抜本的な対策をやることも要請いたしました。さらに具体的には、公害教育の問題から、さらに市民運動と公害委員会の提案も行ないました。市民運動に対しての理解助成と公害委員会についての提案を行ないました。

ところが、六月議会からこの九月議会の間の三カ月間に、われわれが心配しておりましたように、多くの公害問題の事例が起きました。私は具体的に申し上げて、市の首脳部の皆さんのご認識を改めていただきたい、事実をしっかりとききわめていただきたいというふうに思うわけであります。

まず第一に、公害認定患者の方が、六月以降三月間で一〇%もふえたという事実であります。六月に二十五名、八月に十八名、六十九人ふえたと、それからこの間に自殺を含めてなくなられた方が六人あります。現在認定患者の方で死亡された方が五十四名でありますので、約一割の方がこの三カ月間になくなれたということです。

その次に、新しい公害が発生しました。先日この問題が提起されました。十四日の光化学スモッグであります。石油化学コンビナートによる四日市型光化学スモッグというふうに報道されております。私も共産党が十一月十一日に市長にこの対策を強く要望しましたら、市長は四日市では起きないということを言い切られました。しかし、非常に事実として残念なことでありますけれども、十四日広域の地域に汚染が起きました。

また、クラレ油化は公害が起きないということが一部では言われておりましたが、大島議員も指摘されましたように、一反七俵から七俵半取れたたんばが、二年間にわたって三俵しか取れない、こういう事態が起きてきております。また、職場においても水銀中毒患者がこの間に出了ました。

その次に、もう一つ心配しましたコンビナートの爆発災害、その他の事故が続発しました。おもな件数で五件あります。あげていきますと切りがありませんので、企業の名前だけ言いますと、協和油化のブタノールの流出、大協石油のガス爆発、二人の人が重傷しました。東海精糖の水素ガスの爆発、江戸川化学過酸化水素のタンクがこれまた爆発しました。三菱油化の川尻工場では、フレアスタックからの火の粉が油に燃え移ったということがござい

ました。

またこの間に、公害センター等の多くの調査の発表によりますと、四日市地域の汚染が、昭和四十一年と四十五年を比較しますと、〇、〇一五PPMの汚染地域が五十二平方キロメートルから百三十三平方メートル、二、六倍にも広がったということがあります。菰野の境界線まで、この濃度で汚染されておるといふ地図まで発表されております。市内の面積にしますと約六六％になります。

もう一つは、通産省が発表しましたように、残念なことでありますが、石原産業の重金属がたれ流しになっておるといふことも発表されました。

さらに、社会問題としまして、四日市ではありませんが、イタイイタイ病の裁判が原告の訴訟どおり判決がありました。

また昨日、四日市の磯津では、全町あげて第二次訴訟の原告団が結成されております。

私はこのような事例を長時間申しましたが、わずかに三カ月間の間で、公害の被害及び公害をなくすためのいろんな諸運動が起きておるわけであります。こういう現実を立て、今日公害をなくす問題についてほんとうに真剣に取り組まなくちゃならない、このことを先に強調いたしまして、次に具体的な提案をいたしたいと思ひます。

私は、これ以上公害を許すことはできない、許させないということで、次の三つの点について提案したいと思ひます。

一つは、公害に対しての予報、測定の体制について、市独自の対策を強化しなければならないという問題であります。もちろん、公害の権限が多く知事に渡され、一部事務的な問題として市にも移管されますけれども、県、市で協議してやるというようなことだけではもう済まされぬ事態に來ておるのじゃないかと思ひます。だからして、

独自で公害に対しての予報、測定体制をつくるための条例をつくるとか、何か抜本的な対策を早くやらなければ、私はおくれるんじゃないかと思ひます。市原市、倉敷市にはそれぞれ予報を出す条例や要綱がつくられております。特に、吉垣議員も強調され、私も六月議会で申しましたように、この煙突一本一本ごとに亜硫酸ガスその他の有毒物質の測定機械を備えつけて、そうしてそれをテレメーターシステムで一カ所に集中する。地域の測定とあわせてそういう測定体制をつくるということは、今日さわめて重要だと思ひます。県がやらなければ市独自でやっていただきたい。どうしてもやらなくちゃならぬと思ひます。そうすることによって、私は、現在の大気汚染防止法の一番盲点であります、地上で計算した着地濃度で、着地濃度さえ守っておればよろしいという、そういうごまかしの公害対策の法体制、具体的な測定で市民の命を守っていくことができるんじゃないかと思ひます。ご承知だと思ひますが、防止計画によりますと、昭和五十年、昭和四十四年に比べて重油使用料が一・七倍、排ガスが二倍、排出される亜硫酸ガスの量が一・三三倍となっております。これが昭和五十年の到達点であります。だからして、今日総排出量をいかにして押えるかということが大気汚染、公害防止の一番肝心なことではないかと思ひます。十四日の光化学スモッグの発生の一つの要因は、さっき申しましたように、この地域までに相当濃度の高い亜硫酸ガスが充満しておるといふ中で起きておるわけでありまして。今日、神奈川県最近でございました公害防止条例も、年間一二・五％ずつの総排出量を押えていくという立場で、個々の企業を規制するということがやられております。特に、太平洋メカノポリスといわれておりますように、この地域の広大な広域化した汚染を押えるには、どうしても総排出量を押えるということが大事だと思ひます。そのために予報、測定体制を抜本的に改める、強化するということが大事ではないかと思ひます。

第二点は、被害者の救済問題でございます。

原因者が負担するということは当然なことでありませうけれども、しかし、現在の救済法は、企業者側が、経団連が申しておりますように、経団連が要望したように、被害者救済法ができたといわれておりますように、これは全く被害者に対してのほんのすずめの涙ほどの対策でありまして、抜本的対策にはなほほど遠いわけでありませう。市長がたびたび申しておりますように、生活保護法の適用しかありませんと、であれば、昨日も町ぐるみで、どうしても今日のいろんな対策の中では裁判しかないという形で立ち上がられた訴訟原告の皆さん及び患者の皆さん、組織に対して、今日富山県がやっておりますような援助を予算化するお考えはありませんか。

次に、私が最初に申しました経済危機の問題と関連いたしまして、第三点の提案を行ないたいと思います。

それは、進出企業選択の基準と申しますか、三つの基準が私は必要ではないかと思ひます。最近、聞くところによりますと、河原田地域にも三菱油化が進出したいということで、地域の皆さんと話し合っているということも聞いておりますし、今日の議会においてもはなはだ重要な問題となっております霞ヶ浦問題等も含めまして、私は次の三つの点をひとつ選択の基準にしたいかどうかという具体的な提案を行ないたいと思ひます。

その一つは、まず平和的産業であること、無公害、無災害産業であるということでありませう。これが第一の条件。もちろん公害対策を完備する、測定及び使用燃料等の公表、報告等をきちっと義務づけるということはもちろんであります。第二番目は地元の雇用をふやし、悪い労働条件を持ち込ませないということでありませう。これが第二点であります。既存の工場の配置転換を中心に地元の人を採用しないという企業もちらほらあります。こういうことをなくさなくてはならぬと思ひます。第三番目に、地元の農業、水産業、また地元産業の発展にプラスになるということが大事ではないかと思ひます。この三点を提案したいと思ひます。

そうして、もちろん自然とか風景をそこなうことがないように、それを保持すると同時に、民主的な開発計画と

して地域住民、もちろん議会の審議を経てきめるという民主的な手続が必要なこととは言ひませう。

以上、まず提案を含めまして質問したいと思ひます。

○議長（日比義平君） 市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） お答えを申し上げます。

冒頭にお断わりをしたいと思います。石油と造船との優劣を比較したというお話でございますけれども、私はそういうぐあいに申し上げたのではありません。石油が円の切り上げによって輸入上有利になるということをし上げただけでございまして、造船の場合には一〇％の切り下げがあれば造船業界としてこれだけの損失が出るんだと、損失だけじゃない、これは結局失業という問題として地元にはね返ってくるという意味で申し上げたわけでございまして、石油と造船との優劣を比較したもんじゃないということをあらかじめお断わりを申し上げます。

このドルの切り下げ、ドルの危機というふうなものを、どういうわけで招来した原因は何かとか、あるいはこの経済危機打開の展望ということにつきましては、私自身は小林哲夫議員のご質問にお答えを申し上げますのでご了解を賜りたいと、さように思ひます。

公害の抜本的対策に関連をいたしましていろいろご意見がございました。もとより、お答えさしていただく前に、前置きのごさいますことばに對してお答えしたいと思ひますが、われわれといたしましても、高煙突の拡散ということだけではもう解決はしないと、どうしてもそれ以外の問題について排煙脱硫の技術を大々的にやはり採用してもらうて、排煙脱硫で九五％以上の、やはり排煙過程における脱硫をしなければもういけないんじゃないかと、そういうような排煙脱硫の条件づけということを将来の問題として考えていきたいと、さように思ひます。

第一点の公害に対する予報の問題でございますが、すでにこれは大阪でやっておるように私も承知いたしておりますけれども、まあいろいろの気象条件、観測体制等との関連がございますので、なお研究をさせていただきたいと、さように思います。

被害者の救済問題でございますが、現在のところ、この訴訟費用等を予算化するという考え方はございません。進出企業、進出の基準等につきましては、私といたしましても大賛成でございます。したがって、もとより各産業において無公害、無災害ということを非常に大きく掲げている工場もございます。何万時間無災害というようなことを大きな目標にしておる工場もございますし、こういうこと自身が企業にも有利にもなるという時代でございますので、こういう三点の基準等につきましては、私も異議はございませんので、こういう線から、もしも進出する希望がございましたならば、丘陵地向けの産業、あるいはその他の産業等適切なものを選んでいきたいと、さように思います。

○議長（日比義平君） 岩野助役。

〔助役（岩野見斉君）登壇〕

○助役（岩野見斉君） お答えいたします。

アメリカがドルによって経済的に自由世界を支配しておった時代が終わったと感じております。今後の世界は数個にブロック化した多元的な経済競争の時代に入るのではないかと考えます。市のこれに対する対策といたしまして、私は当分静観すべきであろうと思います。ドルと金と切り離れたこの問題がどのくらい深刻であるかという、その影響を見てからでいいと思います。緊急対策は別といたしまして、市の根本対策は、これを見きわめたうえで、さめるだけの余裕はあると思います。

○議長（日比義平君） 加藤助役。

〔助役（加藤寛嗣君）登壇〕 お答えをいたします。

たいへん出された問題が大きな問題でございますして、ドル危機と円の切り上げの原因はどこにあるかということでございますが、これはむしろ私がお答えをいたしますよりも、毎日の各新聞紙上に出ておりますので、新聞報道されてるほうが正しかろうというふうに私は考えております。

第二番目の経済危機打開の方途と、これは一市の助役である私が述べるべく、あまりにも大きな問題であろうと思います。まあ現在の経済の段階は、ニクソン声明以来非常に経済界が混乱をしておりと、特に輸出産業が円の貨幣の変動相場制の採用によってびたりとまっております。日本の輸出産業の代表であります鉄鋼、繊維、機械、そういうものは現在一カ月間ニクソン声明以来経っておりますが、輸出の契約の新しい契約は少しもできていないということだそうでございます。新聞紙上を見ますと、商社によりましては円の外貨ルートを設定をして商談を進めようとしておるが、やはり新しい契約は一向に進まない、現在手持ちの契約が約三カ月ぐらい持つておる、したがってあと三カ月ぐらいたつと、非常に深刻な事態が展開をされるであろうということを新聞紙上で読むわけでございますが、これは四日市市においても一昨日来産業部長からご報告申し上げておりますように、陶磁器関係において、近くそういったような情勢があらわれるのではなからうかというようなことが予想をされております。そこで、すでにご報告申し上げましたように、県なりあるいは商工会議所なりと連絡をとりまして、私たちは四日市の企業に深刻な打撃を与えることのないように、またそういった現象が生じてきたならば、これに対して何らかの緩和策がとれるようにということで、国、県、市の対策と相まって考えていきたいと、かように考えておるわけでございます。

以上で、私の答弁を終わらせていただきます。

○議長（日比義平君） 収入役。

〔収入役（庄司良一君）登壇〕

○収入役（庄司良一君） 久しぶりにしゃべらしていただいて、ありがとうございます。（笑声）

たいへん問題がむずかしい、われわれごときがわかうはずがございませんが、ドル問題についてのたいへん深い造詣の一端を昨日小林哲夫議員から聞かしていただきました。原因の一端がアメリカの偉大なる世界企業の外へドルを持ち出してる二千数百億になるもの、その他世界の防衛費、ベトナムの関係等々がございました。これがまた大きな原因ではないかと思うでございます。

一方、円につきましては、これはきのうやおとこのことではなしに、市長ともときおり話した話の中で出てきたことでございますが、ご承知のようにわが国の円というのは、まだG H Qが押えていた時代、昭和二十四年に、貿易再開にあたりまして、一ドルを三百六十円と定められまして今日に至っているわけです。そのころは製鉄所になべ、かまをつくり、日本レーヨンでウイスキーをつくっていたことを知っておりますが、そういうときのレートが今日にきているわけでございます。したがって、そのときの円と今日の円とが国際比較の上で貨幣劣貨として確かに強くなっている、喜ばなきゃならぬとも言えるではないかと。やがて、IMFの精神からいっても、固定相場制をとっているたてまえからいえば、いずれは調整しなきゃならぬというのが経済界一般のここ数年來の考え方であったことは皆さんもご承知のとおりであると思います。しかしながら、いま突然異変のように発表せられました。アメリカが戦前、一九四四年、ブレトン・ウッズで協定を開きました、世界連合国がIMFをつくり、世界銀行をつくり、さらにガットをつくった、この精神にまっとうから全く反対する対策をアメリカがとらざるを得なかった

たいへん苦しい事情が国内的にもあるんじゃないかという話をしたことがございますが、こういった世界的な事態に備えまして、われわれはこまで来た日本経済、自信を持って四日市市も、特に心配しなきゃならない。また、日本の外貨を蓄積した大功労者である中小企業の方々に対して、その影響の少ないようにどうすればいいかというのを、先ほど加藤助役からお話ございましたが、産業部が中心となりまして、この困難な事態克服に努力していられると。私どもも及ばずながらそばで見、かつ何か意見をさしはさましていただいているような実情でございます。

お答えになりますかどうか、以上で終わります。

○議長（日比義平君） 衛生部長。

〔衛生部長（園浦和巳君）登壇〕

○衛生部長（園浦和巳君） 公害対策の問題につきまして、市長の答弁に補足いたしますと、予報、測定に関する市独自の体制並びにこれを条例化する意思はないかという問題かと思いますが、おっしゃるように、公害対策を行政の面に具現化していくためのいわゆる原点といえますか、最も必要なことは測定体制、監視体制の整備であろうということはお説のとおりでございますが、これは、よその県でやっておりますような市独自の条例に基づく監視体制、すなわち企業に対して強制力のある行政権として企業側にも測定監視の義務を負わすというふうなご提言だと思いますが、監視測定の本質的な責任といえますものは国、県、市の行政機関にございますし、監視測定のためのいろいろな技術的な問題、あるいは測定機器の整備が、全国的にあるいは制度化された完成されたものが現在ではまだ十分なものができているような体制とも思えませんし、これを条例化して強制力を持たした行為にするには、まだ若干の問題点があるのではないだろうかというふうに考える次第でございます。

むしろ、企業との関係におきましては、協定あるいは確認書等の中で、あるいは四日市の公害防止五カ年計画の中に監視測定の項も入れてございまして、あえて条例化するという段階がくるとするならば、監視測定の行為だけを条例化するのではなくて、むしろ協定あるいは確認締結条例というふうな意味で、企業との間で協定書を結ぶことに関する行為を条例化して、包括的な責任体制を確立していくほうが望ましいのではないかとこのように考えます。

○議長（日比義平君） 橋本君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 三役の皆さん、たいへん急なことで、また短い時間にこのようなきわめて大切な問題を述べよという私のたいへん無理なことに応じていただきまして、ほんとうに恐縮でございます。しかし、先ほど申しましたように、この問題はきょうここで短い時間に論議するだけで解決できる問題ではないと思いますし、きわめて国の政策に関係する問題でもございますので、今後、私たちがほんとうに経済危機をどうしたら打破していくことができるんかという問題について、今後お互いに真剣に考えていきたいと思うわけです。

しかし、私があえて原因についてお考えをお聞きしましたことは、今日までいわゆる高度経済成長政策とか、また安保のおかげで日本が繁栄したとか、いろいろとそういう繁栄論の宣伝がございました。しかし、実際よく考えてみますと、いままでの経済のあり方、また日本とアメリカとの経済の従属依存の関係等、この際にはほんとうに真剣に考えまさんと、日本の将来について、われわれが心配するあまりにその問題をあえて申し上げた次第でございます。

そこで私は、いまの答弁の中にもありましたように、市財政が裕福で将来楽観的な展望があるということは絶対にないと思います。またそういうようなお答があったと思います。そこで、先日来問題にされておりますように、輸出産業、中小企業に対しての育成強化、これはどうしても抜本的に進めていただくと同時に、市民が心配しておりますいわゆる不況下のインフレ、不況下の物価値上がり、新しいそういう事態がもう目の前に来ているんじゃないかと思えます。そういうことで行政面に、特に民生、教育、生活環境の問題に対してどうしてもそうなりますとしわ寄せが来たり、また職員給与の問題等、いわゆる合理化問題がいつも問題にされてくる。またもう一つは、公共料金の値上げということによって、この財源を確保していくというようなことが普通考えられる道筋でございます。しかし、私はそういうことだけの政策だけでは今日の市民生活の安定と向上、日本経済の繁栄ということはいかぬんじゃないかということを思うわけです。特に先ほどどなたもおっしゃいましたように、アメリカのドルの権威が全く失墜して、もとに戻るといふことはきわめて困難ではないかと。また日本とアメリカとの依存従属の関係についてもどうしてもこれは断ち切らなくてはならない、もっと自主的な平和的な道を選ぶべきだという声も最近各所にあがっております。

そういう意味で、四日市港一つ見ましても、ここに入っております輸入の主役が原油であります。国際価格よりも一割高いということがいわれております。また四日市に公害をもたらしております亜硫酸ガスのもとになります硫黄分が、世界で一番多いアメリカの石油資本が握っておる、国際的な石油資本が握っておるその中近東からわざわざ遠いところを経て四日市に来ておると、こういう問題を見ましたときに、四日市港が持つ役割りから考えて見ましたときに、この四日市港が、いわゆる自主的な平和的な経済の発展の方向に向けていくということは、やはり市政の中においても先を展望した政策としてどうしても備えつけなくてはならぬんじゃないかと思うのであります。石油原油一つ見ましても、ソビエトの石油は硫黄分が少なく、その産油のほとんどが一・〇以下の硫黄分の含有し

かないということもいわれております。アメリカの原油でもしかりであります。いわゆる選択権がわずかに二十数％しかない今日のこの状況を、どうしても平等互恵の関係、どの国とも平等互恵の貿易港に四日市港をすることによって、四日市からの公害追放の一助にもなると思えますし、また四日市の産業も繁栄させることができるんじゃないかと、そういう意味で私はこの問題をあえて申し上げたわけでありました。

どうか、私も真剣にこの問題について考えていきたいと思えますし、特に経済の自主的、平和的な発展の方向についてお互いに真剣に考えたいと、このことも申し上げたいというふうに思うわけでありました。

その次に、公害問題について協定、確認締結の条例等をつくってそれで規制したらどうかということでございます。いまの衛生部長の回答がございましたが、私が先ほど来申し上げておりましたのは、そういうことを含めて、今日のオキシダントが、光化学スモッグが発生しているという事態、また公害センターが具体的に測定しました結果、汚染源が非常にふえているというこういう事態をもとにして、いままでのような体制をそのままずるとやっておったんでよろしいかどうかと。また、もちろん公害防止五カ年計画がありますが、この計画を達成して、現在きめられております非常にゆるやかな硫酸酸化物の環境基準によりやく達成する。それもまだ達成してみぬことにはわからぬ話であります。そういうようなことでは、今回の議会で問題になりましたように、下水対策が数年先しか解決できない、これと同じように、この間はどうするんかという問題を含めまして、どうしても急いでやらなくちゃならない。命に関係することでございますので、借金してまでもやらなくちゃならぬと、それぐらいの非常に強い心がまえで対処していただきたい。それと同時に、具体的に先ほど申しました各地域の事例もありますので、理事者側で検討していただきまして、また合同庁舎が警察前にできるという話も聞いております。そういうチャンス、また市の新庁舎ができます。コンピュータを導入するということも聞いております。この際に、そういう今日の

技術水準を総動員いたしまして、市民生活の安定と向上、命と暮らしを守るために、一日も早く予報体制それからこの測定の体制を強化して、市民の心配がないような公害対策を進めていただきたい。また、われわれもそのために努力したいというふうに思うわけです。

それから、最後に申しました進出企業選択の三基準であります、市長は簡単に大賛成でありますと言われましたが、これはそう簡単にいかぬと思えます。(笑声) 現に、企業側がそう言っておるから決して間違いないということでも多くの企業を誘致しました。私は、先ほどあるクラレ油化の問題を出しましたが、先日私はあそこへ行きました。現在集合煙突をつくっておりますというので、私は百八十メートルか二百メートルの煙突と思いましたが、六十五メートルの集合煙突をつくるということです。いま現在二十五メートルの煙突が三本あります。これが公害がないということでも来た工場であると私は聞いておったわけで、現に行って聞きましたらそういうことであります。今日六十五メートルの煙突というのは、いわゆるコンビナートの工場の中でも計画してつくられており、全く高煙突化の政策に反しておる。二十五メートルから六十五メートルでは三倍ぐらいになるかも知れませんが、そういう工場もあるわけでありまして。だからして、簡単に大賛成と言われますけれど、これはもう少し、先ほどあげました、また衛生部長も答弁されましたように、この現在のある企業、それから新しく来る企業に対してのその規制ですね、それをいま一度、根本的な問題をいま一度はつきりとする必要があるんじゃないかと。先ほど協定、確認締結の条例と言われましたが、条例を制定することはけっこうですけれども、これのもとになるところをですね、しっかりしないことにはいけないと、私はそのように思います。

ちょうど与えられた時間がまいりました。

私は、きょう、経済危機の問題と公害対策の問題を出しました。どうか、ひっそくどう申しませんけれど、先日

の議会で共産党の意見として承っておきますというふうに市長から申されましたが、二度とそういうことがないように、先ほど小井議員も申しましたが、そのことを再度つけ加えまして、直ちに行政の面で生かされることを強く要望しまして、終わりたいと思います。

○議長（日比義平君） 以上で一般質問は終了いたしました。

○議長（日比義平君） 暫時、休憩いたします。

午後一時四十八分休憩

午後二時七分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第二 議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、ないし、日程第二十九 議案第百十五号工事請負契約の締結について

○議長（日比義平君） 次に、日程第二 議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、ないし日程第二十九、議案第百十五号工事請負契約の締結についてを一括議題といたします。ご質疑がありましたら、ご発言願います。

早川君。

〔早川正夫君登壇〕

○早川正夫君 簡単にお尋ねします。

議案第百号、四日市市消防賞じゅつ金条例の一部改正についてですが、この中で授与の対象と、それから別表にある障害者賞じゅつ金、この内容でございます。で、障害の等級と功労の程度による支給額、いわゆる第一級から第八級までついておるわけでございますが、前回はたしか二百万までが限度だったと思います。で、今回こういった三百万までを限度として賞じゅつ金に充てると、こういうことになっております。で、この三百万というこの限度はどういう算定基礎に立っておるのか、これひとつ詳しくお知らせ願いたい。

○議長（日比義平君） 消防長。

〔消防長（富山光三君）登壇〕

○消防長（富山光三君） お答えを申し上げます。

この賞じゅつ金条例の準則が、中央の準則が三百万円に改正されましたので、それに右へならえをして改正しよう、ということでございます。

以上です。

○議長（日比義平君） 消防次長。

〔消防次長（山北彰君）登壇〕

○消防次長（山北彰君） 消防長のお答えを申し上げました件につきまして、若干補足させていただきます。

消防賞じゅつ金につきましては、従来から三百万以下ということできめられておりますが、このたび賞じゅつ金の適用範囲の解釈につきまして若干行政指導がございまして、その面と、それからさらに適用をされる金額の判定につきまして全国的に行政指導がされましたので、それに合わせて当市も改定をお願いしたということでござ

います。したがって、最高限度の三百万については変わっておりませんが、適用をされる範囲が拡大されたということでございますので、ご了承賜りたいと思います。

○議長（日比義平君） 早川君。

〔早川正夫君登壇〕

○早川正夫君 お話をしまして概略はわかったわけでございますが、そういう算定基準の基礎があるとすれば、話はこういうふうになるんでございましょうが、いずれにしても、交通事故による強制賠償保険が約いま五百万ということになっております。で、同じ死亡ということにいたしましたも、この消防団員に対する補償が三百万ということについては、何か私はその矛盾を感じざるを得ない。したがって、市において特別措置がさらに三百万以上において講じられるとすれば、何らかひとつお考えしていただきたい、かように思うわけでございます。で、そういった問題について、総務衛生でひとつよく検討いただきたい、かように思いますのでよろしく願います。

○議長（日比義平君） 福田君。

〔福田香史君登壇〕

○福田香史君 議案第九十八号につきまして、ご質問申し上げたいと思います。

老人医療費の助成に関する条例について、ご存じのとおり老人医療費の無料化の問題は、全国的に条例化に向かっております。しかし、ほんとうにやはり老人対策という問題については、やはりおかれておるのが現状ではないかと思うんです。特に四日市市におきましても、三月議会あるいは六月議会で、多数の議員さんが老人対策についての発言がありました。しかしながら、この老人対策について、市長は県の情勢を見てから、あるいは予算

が非常にない、このような状態で積極的に取り組む姿勢がなかったのであります。その後多くの市民の声が高まり、市民の運動が起こるなどして、あわてて記者会見等で老人医療費の助成を九月議会で提案すると、このような発表をされたわけであります。市長は、もっとやはり市民の声をよく聞いて、早くこの問題を取り上げて実施すべきであったと思います。今後は老人対策に対してあたたかい気持ちでひとつ取り組んでもらいたい、このように考えます。

問題点は非常にたくさんあるわけでありますけれど、特に日本の老人対策については、ヨーロッパなどの先進国と比べて、老人の福祉行政は十年以上で立ちおくれてる現状であります。特に総理府の最近の調べでは、老後の生活のうえの悩みは、六十歳以上では健康上非常に問題があるということで、第一として報告されております。また、東大の老年病学教室なんかでは、五十五歳から五十六歳ではからだの不調を訴える人が六・九%もあるわけであり、病気がまた二九%、あるいは病名では、高血圧とかあるいは神経痛、胃腸病、腰が痛い、このような人たちがですね、非常に多くの方がおるわけです。ですから、こういうような問題を私たちはとらえる中で、四日市の条例をやはり中身としてりっぱなものにしたいだけなけりやならないと思います。

この問題点の中で、条例の中でまず申し上げたいことは、六十五歳以上のすべての老人に無料化する考え方を持ってるかどうか、その辺をただしたいと思えます。

また、老人であるがために、この条例が制定されても、非常に手続の問題で老人が困る点があると思います。このような問題点についても、やはり明らかに老人が医者さんに行ったら、すぐにかかれるような方法を考えるべきではないだろうか。このような問題はどのように考えてるか、ご説明願いたいと思います。

また、住民の基本台帳等について記載されている者は、引き続き一年以上という内容になっております。

〔「議案質疑か」という者あり〕

この問題についても、当然やはり一年というのでは長過ぎるんではないかと思ひます。ですからこの問題については、やはり期間を短縮すべきだと、こういうふうに考えます。この点について、どう考えているかご質問したいと思ひます。

それから、国民健康保険に加入している人たちの中には、外人の方がおると思ひます。この辺の取り扱いについてはどう考えてるかお伺ひしたいと思ひます。

社会保険の被保険者です。この問題についても、やはり現物給付方式を考えていたらどうだろう、このようにも考えますが、理事者としてはどう考えておるか、この辺のともお尋ねしたいところであります。

それから、本人所得の額が定められておりますが、三十五万というのは、非常に最近の物価指数から考えますと不適當であると思ひます。ですからこの問題についても、やはり最低五十万程度は引き上げるよう考えていかなきゃならぬ問題だと、このように私は考えますので、理事者のほうではどうこの問題についてやっていくとするのか、中身があったら聞かしていただきたいと思ひます。

それから、先ほどの議案の中でも、審議の中でも、質問の中でも出ておりましたが、国民年金法に定める程度の障害を有する、要するに六十五歳以上の老人の問題で取り上げておりますけれど、この二級以上というのはやはり重症心身障害者、こういうふうな形でうたわれておるわけでありますが、この問題について、非常にやはり中身の問題として寝たきり老人の問題があるわけです。ですから、この問題についての範囲をやはり広げるべきではないかと考えられますが、この点についてどう考えておられるかご質問申し上げたいと思ひます。特に、六十歳以上の老人にはこういう人たちが多くなりますので、ひとつその点も十分考えていただきたい、こういうふうに思ひます。

います。

非常に不なれなもので、迷惑をかけております。お許し願ひたいと思ひますが、まあ実施の時期ですが、一月一日ということ、せひとも早い時期に実施できるように願ひしたいと、こういうふうに思ひます。

えらい非常に申しわけございません。いろいろ問題があると思ひますので、ひとつ教育民生のほうで十分ご検討願ひて、ひとつ進めていただきたい、こういうふうに思ひますので、ひとつよろしく願ひいたします。

○議長（日比義平君） 山本君。

〔山本 勝君登壇〕

○山本 勝君 二点ほどお尋ねをいたします。

まず、総務部長にお尋ねをいたしますが、議案九十号、一般会計補正予算の中で、総務費、交通安全対策費が計上をされておりますが、この中で工事請負費一千八百万余り、内容は交通安全施設などの整備工事請負費等があるわけでありますが、私の考えるところでは、これだけの補正をいたしましたも、市内から交通不安な箇所を除くことはできないだろうというふうに考えますし、さらには、実は私PTAの会長もやっておりますので、児童の交通安全については、相当留意しているつもりであります。八月半ばごろでしたと思ひますけれども、交通危険な、あるいは標識のほしいところの依頼といひますか、公式ではないんですが、そういう連絡が来とったわけでありま。す。その時期から判断いたしますと、この予算計上の時期とは食い違つてまいりますので、この内容については、さしあつたての問題としては了解をするわけでありますが、これを計上するのになんかどういふ調査方法とどういふ集約内容したのか、さらには今後どういふように、特にこの交通安全施設についてやっていかれようとしておられるかをお尋ねをいたしたいと思ひます。

これは再質問いたしませんので、細部については、総務衛生の委員会で十分に資料等も提出を求められまして、審議をしていただくようにお願いしたいと思います。

続いて議案第九号、工事請負契約の締結についてが提案をされております。内容は垂坂町地内に北部清掃工場を建設をする、そのための請負契約であります。

そこで私は、この北部清掃団地といいますが、あの位置をめぐっての質疑をしたいと思うわけがあります。で、ご存じの方も非常に多いと思いますが、北部清掃団地の中はですね、非常にまあ今後の建設も含めてよいものになっていくだろう。さらには、進入道路の一部も市の手で開発をされまして、非常に、こうりっぱな道路ができていくわけでありまして、完成とは言い切れませんが、りっぱな道路ができていくわけでありまして。ところが、その進入道路につながる県道の問題、これは坂部から垂坂に抜ける県道があるわけでありまして、これが全くの未整備のままであります。現在あそこを清掃車が日に何台通っておるかということは、私が言うまでもなく理事者のほうがよく知っているはずですが、そのために迷惑を受けているのは、あそこを、あの道路を利用する人々です。ところが、その道路も一本しかありません。したがって、私はこの清掃団地とあわせて、清掃団地に通ずる、南部から北部から西部から、いろいろな角度から通ずるやはり道路が私は必要だと思ふわけでありまして、その計画について、どのようになっているのかお示しを願いたいと思います。ヘビが卵をのんだような形で中だけふくらませてみたって、入口はふさがっておる、こういう計画については、私は十分に反省を求めたいわけでありまして、回答いかんによっては、私はこの議案について反対をせざるを得ませんので、その点心得てひとつお答えを願いたいと思います。

以上です。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君） 登壇〕

○総務部長（平井清三君） 今回追加をお願いいたしました交通安全施設整備工事請負費につきましては、主として国の補助対象事業でございます。塩浜大治田線の歩道整備、それから子西八王子線の、これは日永地区でございますけれども歩道橋の工事、こういった工事がこの千八百四十四万の中に千三百四十四万一千円ございます。その他通学路を主とした道路標識の改良とか歩道整備、こういったものに単独費五百万、合わせて千八百四十四万一千円をお願いいたしております。

○議長（日比義平君） 衛生部長。

〔衛生部長（園浦和己君） 登壇〕

○衛生部長（園浦和己君） 第二点のごみ団地に至る進入路とでもいいますか、県道の拡幅の問題でございますが、おっしゃる様に県道でございます。これは昨年度におきまして、県土木事務所のほうでいろいろと調査していただきまして、本年度に入りまして用地買収の交渉をほぼ終わられましたので、人家の立ちのきが入口にございまして、この立ちのき補償買収の問題で、二件難航しているようでございますが、それを全部を解決してから工事にかかっておってはおそいので、買収の終わったところから、終わったところ、ほとんどの部分ですが、近いうちに拡幅整備の工事を発注される運びになっていくようでございます。

○議長（日比義平君） 山本君。

〔山本 勝君登壇〕

○山本 勝君 いま説明あったのは、私の知る範囲では、昨年度の末の話であります。その後、私がかきのうも一般質

問の中で、県、市の連絡を密にせいという話をしたわけですが、この問題もその一つであります。その後進展をしていないんです。したがって皆さん方には、直接議案と関係がないじゃないかというふうに受けとめられる方もあろうかと思えますけれども、実際に中へつくられる、あるいはそこを利用することになってまいりますと、いま申し上げた、また部長のほうから説明のあったあの道路、いわゆる坂部から垂坂に抜ける道路、その一本だけでも早急に工事を終わらないことには、地元感情として清掃車を実力でもとめるぞと、こういう話が一部ではありますけれども、出ておるわけでありまして。したがって、そういう住民感情をやわらぐるためにも、この議案と並行をして道路の問題を解決をしなければならないというふうに私は強く感じているわけでありまして。そういうことで、今後もしいろいろ地元の方々との相談もありますけれども、理事者のほうに対しても注文をつけたいと思います。ここで特に建設、総務ですか、総務のほうにかかっていくわけでありまして、そこらあたりですね、周辺の状況等についても十分に考慮をいただきまして、この議案についての審査をしていただきたい、このことをお願いをしておきたいと思えます。そういうことでまいりませんと、せっかくの着工工事が、付近の人々から不平のこもった、あるいは不満のこもった眼で見られなくて済むように、ひいては今後、県道から入る進入道路一本だけでなくて、新しく進入道路を考えなければならぬときに、住民から協力を求める、住民に対して協力を求める、そういう立場にも市の側はなっていくわけでありまして、そういうことも考慮をいただいて、十分な措置を講じていただきますようにお願いをして、私の質問を終わります。

○議長（日比義平君） 伊藤君。

〔伊藤信一君登壇〕

○伊藤信一君 病院の会計は、どう考えてみても私の頭では理解しにくいのでございます。それによってお尋ねをす

るわけでございます。

本年度の、四十五年度の決算を見ますと、昨年度より、四十四年度よりも一千万円ぐらい増収になっておるといふことはわかります。しかし、最終的な欠損で一億六千二百九十二万三千四百六十九円という数字が出ております。はたしてこの赤字をどういうふうに解消していけるか、非常に気にかかっておるわけでございます。しろうと考え方でございますけれども、少しぐらい一般財政から繰り出して、そうしてやらなければ病院の運営もうまくいかぬのじゃないかと、こういうふうに考えておりますけれども、その点がわかりませんので、ひとつお教えをいただきたいと思えます。

○議長（日比義平君） 病院事務長。

〔病院事務長（村山 了君）登壇〕

○病院事務長（村山 了君） 病院の赤字が四十五年度の決算で六千万になっておりますが、ちょっと質問の意味を私はよくのみに込んでおりませんので、見当違いなご回答を申し上げますが、六千万をどうやって今後解消していくんかという問題は、当病院に限らず全国的な病院の問題でございます。先般全国的に行なわれた保険医総辞退の問題もその一つの大きな焦点になるわけですが、こういった問題を踏まえて、国家的な配慮を持った解決を待つということと、それから私どもは先般の、あるいはまたそれ以前の議会でも申し上げておりますが、赤字を解消するだけでなく、地域の中核病院としてあるべき姿を追求していくと、そのためにたとえば看護婦の数も基準をオーバーしたふやし方をしていく、あるいはまたドクターの確保につとめる、あるいはまた一般財源から

本年度シンチエーションカメラだとか、あるいは人工じん臓だとか、こういった高度の医療器械に多額の市費を投じていただいておりますが、そういったことによって、病院としてのあるべき姿を追求していく。それと並行して企業の合理化をはかっていくということは、先ほど申し上げた国家的な配慮とともに、われわれはたとえば薬の公認のしかた、あるいはまた日常の業務にロスがないか、そういったことを合理化を進めていきつつ解決していきたい。しかし結論的には、国家的な配慮がなければ最終的な黒字に転換することはとうてい不可能であるというふうに考えております。

○議長（日比義平君） 伊藤信一君。

〔伊藤信一君登壇〕

○伊藤信一君 公立病院のことでございますので、当然赤字は生じております。しかし、一億六千万の借財をかかえて運営が非常にやりにくいと思われましたのでご質問申し上げたんでございますが、この点につきましては、総務衛生委員会のほうでひとつご検討いただいて、病院がうまく運営できるようにご配慮をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（日比義平君） 橋本建治君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 補正予算の一般の四七ページであります。港湾費、港湾総務費、負担金として、四日市港管理組合一億七千四百七十八万三千円が補正として計上されております。この金額の内容について第一にお尋ねしたいと思います。管理費、それから設備費等があるというふうに思いますけれども……

それから二番目に、この港湾整備計画ということをお聞きんですが、全体の事業がわかりましたらお知らせいた

きたい。それと市費の負担が、現在の計画の中で向こう何年間、できたら年度別にわかりましたらお知らせいただきたい。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） ただいまご質問の管理組合の負担金でございますけれども、当初予算に一応概算で計上いたしておりますので、その後、この七月に管理組合の四十六年度の一般会計予算が決定いたしましたので、その負担額に基づきまして、今回補正をお願いしたような次第でございます。

で、管理組合の一般会計の現計予算は三十七億五千四百四十九万二千円でございまして、そのうち使用料収入が、これは上屋とかそういったものの使用料でございすけれども二億三千四百二十六万、それから国の支出金が三億七千五百万、財産収入が二千三百三十六万一千円、諸収入が五千七百八十二万二千円、地方債が十八億一千三百万円、繰越金が千九百四十万四千円でございまして、この合計が五億二千二百五十四万七千円でございます。で、先ほど申しました歳出総額との差額十二億三千百九十四万五千円が一般財源で措置しなければならぬんでございまして、この十二億三千百九十四万五千円を五対四という割合で県、市が負担する。この市の負担額が五億四千九百七十八万三千円でございまして、そのうち今回、先ほど申しました当初予算で概算を計上しておりますので、その差額を今回お願いしたと、こういう形でございます。

それから、この付記の中にございます首都圏等（中部圏）整備事業債償還金が二百八十五万四千と出ておりますけれども、これは、中部圏の圏域内の公共事業につきましては財政の援助がございまして、市の施行いたします公共事業につきましては補助金のかき上げという形で行なわれますが、県の施行する事業につきましては、特別の起

債を認めまして、その元利補給という形で財政援助が行なわれます。で、この管理組合の公共事業、これは補助事業と直轄事業を含めてですが、これらに対する財政援助は、市の負担分につきましては同じように補助金のかさ上げという形で行なわれ、県の関係につきましては起債の元利の補給という形で行なわれるものですから、この県の分が四十五年度に直轄事業として五千六百万円、それから補助事業として二千三百万円の起債が認められたんでございます。で、この金額は、県のほうで起債をやりまして、それを特別負担金のような形で管理組合に納めておりますので、その元利償還金相当額のうち五対四という四の負担がこの二百八十五万四千になるわけでございまして、これは県費のほうへ納めると、こういう形でございます。

○議長（日比義平君） 橋本君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 私もう一つお尋ねしたのはすんですが、それはただいま一般管理費と、それから港湾建設費と両方の合計金額であったふうに思うわけですが、私もう一つ、港湾関係の金が、どういう年度の中でこの全体の計画が組まれて、市費の負担がどうなるかという点を質問したんですが、その点についてもですね、関連がございますのでお答えいただきたいと思います。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） 港湾負担金の今後五カ年の見通しでございますけれども、四十六年度は、先ほど申しました市の負担金が五億四千九百七十八万三千円でございますが、四十七年度はいまの管理組合の計画によりますと六億七千七百万、四十八年度が約八億四千三百万、四十九年度が九億四千四百万、五十年度が十一億八千三百万と、

このような計画を持っております。

○議長（日比義平君） 橋本君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 相当多額な金が支出されるようでございます。どうか建設委員会におかれまして、先ほど来、本日の三日間の一般質問で出されましたように、われわれの市民生活の問題について多くの要望がございます。それと関連しまして、どうかこの多額の支出を要する港湾建設につきましても、あわせてご検討いただきたいということをお願いして終わりたいと思います。

○議長（日比義平君） 山中君。

〔山中忠一君登壇〕

○山中忠一君 私がお尋ねしたい質問は簡単な質問でございますけれども、一度地区民にも、一ぺん何とか善処をしてくれという問題で、話も聞かせてもらっておる問題なんで、ちょっとお尋ねしてみても、また総務衛生のほうでも特にひとつ研究をしてもらいたい。

総務衛生費の款の四の目の二のほうのじんかい処理場の項なんです、これは私、水沢の何とかという、大門池ですか、あそこへ四日市のじんかいをいま捨てさせてもらっているという問題だと思っておりますが、そこに今度側溝をこしらえてもらう、まあわずか費用としては二十四万、百二十メートルというような工事なんです、地元民の話を聞きますと、あそこの水は鎌谷川へ流れるということを私は聞かしてもらった。この本議会の一般質問につきましても、青山峯男議員がうちの簡易水道の水は非常に危険だということを申されましたが、私たちがいか産業委員をさしてもらっておったときに視察をさしてもらって、よくも山田の方はこんなきれいな水を飲んでみ

えるだなあと思いましたが、やはり山の上の沈でん槽へ一時上げるときは浄化もされるし、沈でんもするのできれいな水にはなっておりますが、まあしろうと目で見ても非常に危険度があるということはもう確かです。その後もう十年余りたっているので河川の汚染というものはなはだしいと思いますが、その鎌谷川へ市がじんかい処理場として求めているので、その水が流れるということについては、非常に私は危険度であると。もしも、数年前に水沢にチブスの発生がございましたが、そのような諸問題が出てきたときにはどういうふうになるんだろうと。ここでわずかな工事ではございますが、この工事を、たった二十四万ではございますが、市が施工したという限りは、一朝そういう不慮の際、起こったときには、その全責任は私はやはり市長が持たなければならぬ、こういうふうなことを感じるわけです。まあ私も土地が近いので、ときおりと水沢方面へもやってもいいまして、私がもしも大名政治のようなときで大名であったなら、四日市市長には私はほうびをやらぬと、花咲かじじいだと、四日市市長は、まああたり一面ほんとうにビニールとか何とかというふうな、ああいふ廃棄物で、一面風が吹くと舞い上がって、周囲一面の山にほんとうに白く花が咲いたようになっておりますが、そういうような危険状態の中で、市がはたしてここにブルトーザーの費用もでございますが百十万、ほんとうに市民の納得いくような政治をしておられるんであるかと、こう思いますので、まあこれが危険度があるかないかというご返答をいただいて、特に総務衛生委員会では不慮がないというふうなことに特に注意をもらって、この問題をひとつ処理していただきたいということを願います。

以上のような質問でございます。

○議長（日比義平君） 衛生部長。

〔衛生部長（園浦和己君）登壇〕

○衛生部長（園浦和己君）お答えいたします。

二十四万円は、お説にあります市有地である空池という池に廃棄物を、じんかいの埋め立てに使っております。空池にございます水たまりを水沢の民有林との境界線に沿って、小さな排水路をつけさせていただいて、処理場をじんかいの集積したところをブルトーザーで覆土をして、逐次埋めていくための一つの手段としてお願いをしているわけでございますが、お説のように鎌谷川に落とすこととなりますので、ただいまご意見のございましたことを踏まえまして、実施に当たりましては、もう一回検討をして、第二次公害が起きないように十分注意をしてやっていきたいというふうに考えます。

○議長（日比義平君） 六平君。

〔六平豊司君登壇〕

○六平豊司君 議案第九十号、補正予算のうち庁舎建設費と、それから一般管理費中の庁舎総合管理委託料について質問いたします。

まず、庁舎建設費についてでございますが、本日までの議会におきましてドルショック、あるいは治水対策、道路の改修、学校の建設、いろいろと四日市にとってやらなければならない問題がたいへんに出てきたわけでございます。私、以前ある地域のPTAの方々とお話をしたときに、学校をつくっていただくのはいいけれども、学校の上のほうは電気もつけてもらえない、さらにカーテン等につきましても全然考えていただかれないので、自分たちでこれ出していかなくちゃいけないんだ、市の庁舎もおそらくカーテンもつけなければ電気もつけられないでしょうねという、そういうことを言われたことがございます。もちろん新しいりっぱな庁舎ですから、庁舎は庁舎なりに一定のものを必要があるとは思いますが、このようにいろいろと問題が山積みをし、そして緊急に対処をして

いかなければならない問題が多くあります現在の時点で、庁舎の内装あるいはいろいろな備品等があまりにも四日市の現状につき合わない場合には、そういう声も非常に大きくなってくると思うわけでございます。私が一つの例として、学校のことをあげたわけですが、庁舎の備品あるいは内装等について、どのような考え方でこの金を出されたかについて、第一点ご質問いたします。

第二点は、新庁舎総合管理委託料についてであります、この内容についてご説明をお願いいたします。

○議長（日比義平君） 総務部長。

〔総務部長（平井清三君）登壇〕

○総務部長（平井清三君） まず、庁舎の建設費の追加二千三百三十万でございますが、これはその後検討いたしました結果、六、七階の一部内装等につきまして、当初は保留するつもりでございましたが、その後いろいろ検討いたしてみますと、あとから工事を施工する場合、非常に大きな手戻りが生ずると、こういったことで特にお願いしたようなわけでございます。たとえばエレベーターのとびらの問題等つけずにおきますと、あとこの六、七階を使う場合にはエレベーターをとめないかぬとか、また天井の下地なんかの場合に非常に長大ものの材料を使うもんですから、それを六、七階に持ち上げる場合には、窓をこわしてそこから入れるような設備をせないかぬとか、いろいろ手戻りがございますので、そういったものをこの際合わせてやらしていただきたいということ、それから一部庁舎の建設に従って、テレビの電波障害等を生ずることがございますので、そういった工事費等をお願いしたわけでございます。

それから、庁舎の備品関係で九千万円をお願いしておるわけでございますが、これも新庁舎ができた場合の、これにふさわしいいろんな調度をそろえたとよろしいわけでございますけれども、現在の調度等もできるだけ活用す

ることにして、そのうち特に、真にやむを得ないというものについてお願いしたような次第でございます。

それから、一般管理費の新庁舎の総合管理委託料でございますけれども、市内にこの新庁舎のような、非常に何といいますが高層建物というものが非常に少ないので、こういったビルの管理につきましては、いろいろ問題もあるうかと思いますが、いろいろ検討いたしまして、たとえば直営でやる方法とか、全面委託でやる場合とか、またその混合方式でやるとか比較検討した結果、総合委託ということでお願いしたいと思っております。

内容としては、清掃関係、警備関係、それから設備、電気と電気機械等の補修関係、エレベーターの運転、庁内の案内とか電話交換、こういったもの一切を委託したいと、このように考えております。

○議長（日比義平君） 六平君。

〔六平豊司君登壇〕

○六平豊司君 第一点の庁舎建設の問題につきましては、委員会の中で十分論議していただきました、市民の要求度にマッチする、そういうことを基準にして、この問題について論議をしていただきたいと思います。

二番目の問題につきまして、ただいま交換手であるとか案内係、現在市の職員がやっておられるような仕事を委託をするという問題が出てきたわけでございますが、この問題は、ここで聞いてもなかなか論議が長くなると思いますので、人事の問題も非常に入っておりますし、現在市の職員がやっておった仕事も非常に入っておりますので、これらの点を含めまして、そしてこの問題を総務委員会ですら十分論議をしていただきたいということをお願いいたします、質問を終わります。

○議長（日比義平君） 後藤藤太郎君。

〔後藤藤太郎君登壇〕

○後藤藤太郎君 一般三七ページの十九、補助金、子供広場整備費についてありますが、これは遊具の、ちょっと内容がわかりにくいんですが、遊具に対する補助金ということについては三分の二でわかっております。しかし子供広場をほしいということで、各地でそういった広場に対する補助要求というものが出ておることは承知をいたしておりますが、その費用とするならば、補助基準と条件、それから予定されておる地区があるとなれば、それを発表をいただきたいと思います。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） お答えをいたします。

新設の八件に伴う分を計上してございますが、その八カ所についてのこまかい内訳につきましては委員会の場で説明をいたしたいと思います。

失礼いたしました。先にお認めを願っております子供広場の造成にかかる分ですね、造成をする場合、その額の二分の一というふうに要綱が定められておりますので、その要綱に基づいて支出をしていくと、こういうことでございます。

〔「条件は」という者あり〕

これはですね、その遊具というような面につきましては三分の一ということになっておりますが、新しく造成をされていく分の八カ所についての助成でございますので、そのようにご理解を願いたいと思います。

○議長（日比義平君） 後藤藤太郎君。

〔後藤藤太郎君登壇〕

○後藤藤太郎君 地区の八カ所については委員会ということでございますので、了解をいたします。ただ、広場をつくってほしいというのは各地からの声でございます。それがために青少年対策特別委員会というのが前年度決定をした項目の一つでございます。そういう中で、いま埋め立て費の二分の一の補助をするんだということでございますが、それは条件として、何年間貸していただけたらその補助金を出すのかということをお願いしております。その条件ということでお伺いしております。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 期間は一応十年になっております。十年でございます。

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君 水道事業の決算の報告と関連いたしまして、ご質問申し上げたいと思います。

この意見書を見てまいりますと、二ページで「また本事業が独立採算制を建前としている関係からも、現行料金の検討を必要とする時期に到来しているよう思慮される。」そういうふうになっておるわけでございますが、さらに第二決算付属書類の一六ページ見てまいりますと、河原田水源池の汚染の問題、そして取水を一時停止しておるということになっております。一方で値上げがしなければならぬという、そういう意見を出されておる中で、河原田水源池がいわゆる各種産業廃棄物などによる公害の影響で一時停止をしていると。これを一体、この分まで水道企業が独立採算の名のもとに見なければならぬものなのかどうか。この損失というものをどれほどに見られており、そしてその損失の補償という問題はどのようにお考えになっておるのか。こういう点をひとつご解明いた

だきたいと思うわけでございます。

それから、受託工事というものがかなり大きなワクを占めておるわけでございますけれども、この受託工事というものは、あくまでもこの原価主義でいくべき、そういうその法律的な規制があるのかどうか。昨年のおもな事業として、新大協和石油化学株式会社が、そしてまた四日市港第三埠頭船舶給水工事がございすけれども、こういうところの、この給水工事にかかっただけでもらえたいという形で処理をされていく。普通われわれが土地の売買をいたしましたも、中に入る人に両方からマージンを取られるというような時代に、一般会計からの繰り入れという、そういう問題がきびしく規制をされているやに聞きますけれども、収益性を一方で追求しなければならぬ、その収益性を追求するその範疇としてこういう問題は入らないのかどうか。もっともこれは私も一律に論ずるということとはむずかしいと思います。たとえばやっぱり、同じ昨年度に三交生桑台団地と、あるいは笹川団地というふうに、結局はこの住宅を建てたいという一般勤労者の人々の土地の購入のコストに入れられるという問題もかわつてまいりますので、一律に論ずることはできないと思いますが、少なくともこういうこの営利会社、そういうところへはこの点ははっきりさせるべきではないか。もっとこの原価主義だけで受託工事ということにすべきではなくて、そこにマージンを、やはり必要な分見るといふ、そういうことができないのか、法律的に規制でできないのかと。あるいはできるとすれば、考慮する余地はないのかどうか。そういう点をひとつお答えいただきたいと思います。

○議長（日比義平君） 水道事業管理者。

〔水道事業管理者（中山英郎君）登壇〕

○水道事業管理者（中山英郎君） 一点の河原田水源、現有勢力公称能力八千トンでございますが、監査委員さんの意見として、報告ということで、現在報告どおりとめております。とめた理由は、フェノール臭のにおいの問題と濁りの問題でございます。これをどうするかということにつきましては、現在検討中でございます。で、この検討のタイミングといたしましては、ときあたかも北伊勢用水、これは木曾川から持ってくるわけですが、県営事業の北伊勢用水の水を持ってくる時点で、昭和五十年までの現有勢力九万九千トンプラス三万トンの第三期拡張計画が五十年まで、それ以降の問題につきまして、北伊勢用水の県営のところから、桑名から取ってくる水を入れると、こういう長期計画を現在策定して、一部コンサルタントの手でいま検討中でございます。その段階でこの河原田水源をどうするかということを検討中でございます。水量確保ということから、能力としては現在公称能力八千トンでございますが、最近の調査では六千トンぐらいに、五十五年程度は六千トンぐらいしか水が出ないという計算をしなければならぬではないかというようになことを検討中でございます。で、一応現段階としては、六千トンを推定してもやはり水源として確保すべきであると。ただあとは経費の問題でいまA、B案がございすが、一億程度の金が必要ということで、経済性をてんびんにかけておる最中でございます。一応生かすという考えでございます。

それから、ご質問の、一応この河原田水源は、局といたしましたは被害者の立場に立っていることは明らかでございます。したがって、この被害者の立場から県知事あるいは公害局に対しまして、管理者の名前からこの改善方策を公文をもって要求しております。で、それについて公害局長から、県の公害局長から、よその河原田水源に關係ある鈴鹿あるいは亀山に位置しておる工場の規制關係、あるいは数値關係についてこうするとう返答も来ております。いま直ちにこれが補償という問題では、いま発生源が、汚水源が明確で、非常に多目的で工場廃水あり、それから自然汚水あり、それからいろいろな要素で非常に判然といたしませんので、単一工場の汚染なれば求償

権の発動ということも考えますが、複雑でございますので、まだその点については触れておりませんが、汚染を防止すべきであるという点までは、現在そういう公文でやり取りして、まあ最近では公害対策のほうと連絡をとりまして、鈴鹿川協議会というほうで、これも水道局とは直接関係しておりませんが、防止をしていただくようなことを聞いております。で、問題点は、これを水道会計で全部負担するのかどうかということでございますが、純理論といたしましては、加害者があればそれに払うと、それに求償権を行使するというのがたてまえでございますが、現在の見通しではそれが非常に判然としない、困難だという判定をしております。で、このことにつきましては、被害者であるという立場から、公害防止計画のうちにのせろということも四日市市としては考えたわけでございますが、それで去年の秋に中央へ持っていきました、加害者という立場から公害防止計画のうちにに入れてくれということをやったんですが、いま環境庁に変わっておりますが、時の中央の公害審議会の段階で前例がないということ、下水の費用が大きいということで削除されたということでございます。また、これにつきましては、ある程度地元で努力して、そういう道を、新例を開かすということが必要だと考えてまして、おりに触れて下水道協会、あるいはそういう総会にもちまして、実例として四日市から発言して中央に喚起しておるというのが現状でございます。

それから、第二点の受託工事ということでございますが、端的に言えば、この受託工事のところでもうからないかということでございます。水道企業会計といたしましては原価主義を、了見にいたしましたけれどもそれから財政運営にいたしましては原価主義をとっております。マージン、利潤、その分配ということは公企業会計法の精神から出てまいりません。予定の何パーセントをマージンに加えるとかいうことを企業法では、あるいは所得の分配ということも公企業会計では触れておりませんので、あくまで受託工事としては実費主義ということになっております。た

だ決算上損益勘定と資本勘定に分かれておりますけれども、一見受託工事では、ことし四十五年度決算では一千四百萬程度、四、五年前の決算を見ますと大体五、六百萬から一千萬程度の利潤が出るわけでございますが、これは主として水道局の職員の手によるところの、一般会計で申しますと、戸籍の手数料と同様に設計監督手数料という形のもので一応利益と、収入と支出の差というふうになっておりますが、原則といたしましては利潤なしの実費計算という形になっております。

それから、一例としてお示しになりました大協石油の受託工事、これは去年の大きな大口工事でございますが、これは第三コンビナートの二十六万坪の飲み水の給水工事でございます。これは入口から全部向こうの金で施行し、まあこちらが設計、監督はいたしました。が、本来ならばこれは公共投資という手が打たれるわけでございますが、局にも余分の金ありませんし、また立地条件からいたしまして全部需要者負担ということで、あとで財産区分をいたしますが、完了いたしますれば、これを無償財産譲与という形でうちは財産に計上するつもりでございます。で、現在の傾向といたしましては、昨年の秋から、これは市長部局の一つの大きな方針でございますが、土木部の都市計画課において主管課がまっております開発行為、新都市計画法に基づくところの開発行為、法的権限はございませんが、助役が責任者で開発会議というものを申請に基づいて審議をされてます。その際、局といたしましても技術者、事務者が出まして、この住宅団地の開発許可の討議の際に、局としては住宅団地の状況に応じまして、受益者負担の原則を貫いて、拡張工事に入らない以外の分につきましては水源負担、そういったものを全部もらうようなことにして運営しておるという状態でございます。

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君 申しわけございません。

この設計監督手数料、受託工事の中の設計監督手数料という面で、今後よくご検討いただけないかと思うわけでございます。先ほど申し上げたように、一律に論ずるわけにはいけないと思いますが、そういう点をよくご検討いただければ、これのもっと大幅な引き上げという問題をも合法的に運用なさるという点をぜひお考えいただきたい。

それから、この河原田をはじめ朝明川、内部川、この砂利採取等で水がよごされていると、水の量に影響されるということもございますが、この点ですね、いわゆる四日市における公害対策の面から、あるいはまたこの河原田なんかになりますと、いま少し広域的になりまして、鈴鹿市とか亀山市とかそういうかかわりを持ってまいりわけですけれども、県との関係の中で、別に加害者をこのもちろんはつきりさせて払わしむるということは当然でございましょうが、それがはっきりしないという中においてですね、市の一般会計あるいは県との関係の中で、この手当てがなされるという問題をやはり考えられるべきではないか。

それから、公共下水道が順次整備されつつある中で、阿瀬知川の関係の中でも四十八年末までに水洗化を進めようと、義務づけると、こういう事態が起こっておりますが、この水洗化が進みますと、下水道化が進みますと、当然水の使用量がふえるわけでございますが、こういう点なんかも水源地の新しい建設の問題なんかにいかかわってまいります。何か聞くところによりますと、三重用水の計画では、将来水道が、いまの水道量が何十倍にもなると、相当な高い、三倍ですか、四倍の高い値段になるというふうな話も聞くわけでございますので、そういう点をこの一般会計の中から十分この手当てができないものが、出資という形で手当てできないものが、そういう点を一ぺんご検討いただきたいと思います。

どうも。

○議長（日比義平君） 他にご質疑もありませんので、質疑を終結いたします。

議案第八十八号ないし議案百十五号を関係常任委員会に付託いたします。各常任委員会の担当部門は、付託議案一覧表によりご了承を願います。

付 託 議 案 一 覧 表 （昭和四十六年九月定例会）

○総務衛生委員会

議案第 八八号 昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について

議案第 九〇号 昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）

第一条 歳入歳出予算中

歳入全般

歳出第二款

第四款 総 務 費

第九款 衛 生 費

第二条乃至第三条 消 防 費

議案第 九一号 昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算（第一号）

議案第 九五号 昭和四十六年度四日市市公共用地取得事業特別会計補正予算（第一号）

議案第 九七号 四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

- 議案第一〇〇号 四日市市消防賞しゅつ金条例の一部改正について
- 議案第一〇一号 四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について
- 議案第一〇二号 四日市市消防手数料条例の廃止について
- 議案第一〇三号 四日市市防災会議条例の一部改正について
- 議案第一〇四号 町及び字の区域並びに名称の変更について
- 議案第一〇五号 町の区域の設定について
- 議案第一〇六号 町の区域の変更について
- 議案第一〇七号 字の区域の変更について
- 議案第一〇八号 字の区域の変更について
- 議案第一〇九号 工事請負契約の締結について
- 議案第一一〇号 工事請負契約の締結について
- 議案第一一一号 工事請負契約の締結について
- 議案第一一二号 工事請負契約の締結について
- 議案第一一三号 工事請負契約の締結について
- 議案第一一四号 工事請負契約の締結について
- 議案第一一五号 工事請負契約の締結について

○教育民生委員会

議案第九〇号 昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算(第二号)

第一条 歳入歳出予算中

歳出第三款 民生費

第五款 労働費中

第二項 労働諸費

第一〇款 教育費

議案第九三号 昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

議案第九八号 四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定について

議案第九九号 四日市市国民健康保険条例の一部改正について

○産業水道委員会

議案第八九号 昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について

議案第九〇号 昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算(第二号)

第一条 歳入歳出予算中

歳出第六款 農林水産業費

第七款 商工費

第一款 災害復旧費中

議案第九二号 第一項 農林水産施設災害復旧費
 昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予算（第一号）
 議案第九六号 昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算

○建設委員会

議案第九〇号 昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）

第一条 歳入歳出予算中

歳出第五款 労働費中

第一項 失業対策費

第八款 土木費

第一款 災害復旧費中

第二項 土木施設災害復旧費

議案第九四号 昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（第一号）

○議長（日比義平君） 次に、本日までに受理いたしました請願及び陳情は、お手元に配布いたしました文書表のとおりでございます。それぞれ一覧表記載の関係常任委員会に付託いたします。

請願

受理番号	受理年月日	件名	請願者の住所氏名	紹介議員氏名	付託委員会
第七号	四六 九一三	保々地区小牧町西 公立保育園設置に ついて	四日市市小牧町西 一〇三七 自治会長 森下 国夫 ほか一名連署	山本 勝 小林 博次 福田 香史	教育民生
第八号	〃	市役所旧庁舎活用 について	四日市市北浜町八 番一二号 四日市勤労者音楽 協議会 代表委員 山下 保	服部 昌弘 喜多野 哲夫 小川 元 長谷川 鐸 山本 勝 訓本 治 橋本 建治	総務衛生
第一〇号	〃	泊山小学校校舎建 築第二期工事促進 について	四日市市日永四丁 目五番一六号 日永地区連合自治 会副会長 稲垣 清 ほか八名連署	増山 英一	教育民生

受理番号	受理年月日	件名	請願者の住所氏名	紹介議員氏名	付託委員会
第一号	四六 九一三	市立桜幼稚園新設について	四日市市智積町 七二三の六 多湖 英 明 ほか八八八名連名	長谷川 鐸 元 吉 垣 照 男 松 島 良 一 大 島 武 雄	教育民生
第二号	〃	災害復旧に際し黒田橋の拡幅について	四日市市赤水町 一〇三三 県地区連合自治 会副会長 羽 木 信治郎 ほか二名連署	安 垣 勇	建 設
第三号	〃	市立大矢知興譲小学校及び市立大矢知幼稚園（併設）校舎ならびに園舎の増改築について	四日市市大矢知町 東陣屋一〇五番地 大矢知興譲小学校 建設後援会長 大矢知地区連合自治会長 松 永 久 治 ほか二名連署	高 橋 力 三	教育民生

第一四号	四六 九一三	市立東橋北小学校の給食室改築及び体育館の新設について	四日市市東新町三番一八号 四日市市立東橋北小学校PTA会長 南 川 豊 ほか二七八〇名連署	伊 藤 金 一	教育民生
第一五号	〃	近鉄名古屋線及び国鉄塩浜線横断の排水路暗渠拡張について	四日市市海山道町一丁目一五 海山道自治会長 村 山 鎮 包 ほか七名連署	服 部 昌 弘	建 設

陳情

受理番号	受理年月日	件名	陳情者の住所及び氏名	付託委員会
第二六号	四六 九一三	市役所旧庁舎の開放について	四日市市三栄町五番一九号 四日市美術協合理事長 坂井 喜三	総務衛生
第二七号	〃	騒音に対する学校施設の整備について	四日市市高砂町四番三号 港地区連合自治会長 中村 武郎 ほか一八三五名連署	教育民生
第二八号	〃	市立富田中学校管理棟の改築について	四日市市丸の内町一区 富田地区連合自治会長 矢川 辰一 ほか一名連署	〃
第二九号	〃	通学路の整備について	四日市市平尾町栄 大池中学校PTA副会長 池田 忠馬	建設

第三〇号	四六 九一三	十四川堤防改修工事継続方について	四日市市丸の内町一区 富田地区連合自治会長 矢川 辰一	建設
第三一号	〃	市立富田小学校管理棟および危険校舎の改築について	四日市市丸の内町一区 富田地区連合自治会長 矢川 辰一 ほか一名連署	教育民生
第三二号	〃	小倉橋北詰の橋下に通学道路新設について	四日市市磯津北町 市立塩浜中学校PTA会長 石田 徳一 ほか四名連署	建設
第三三号	〃	市立海蔵小学校の改築について	四日市市東阿倉川町二六一番地 市立海蔵小学校建設協力委員長 山本 貞三	教育民生
第三四号	〃	西阿倉川三区排水施設の整備について	四日市市西阿倉川一三〇三 竹原 京作 ほか一三五名連署	建設

受理番号	受理年月日	件名	陳情者の住所氏名	付託委員会
第三五号	四六 九一三	市立山手中学校校舎改築について	四日市市本郷町六五七番地 市立山手中学校PTA会長 井垣高雄 ほか二名連署	教育民生
第三六号	〃	通貨変動に伴う輸出陶磁器業界の救済措置について	四日市市京町二番一三号 四日市陶磁器工業組合理事 長 森 忠 明 ほか一名連署	産業水道
第三七号	〃	身体障害者の医療費無料化について	四日市市中部二番五号 四日市市身体障害者連合会 会長 浅野富数	教育民生

○議長（日比義平君） この際、ご報告いたします。目下、教育民生委員会において審査中の陳情第十一号、及び建設委員会において審査中の陳情第十八号は、差しかえの申し出がありましたら、ご了承を願います。

○議長（日比義平君） 以上をもちまして、本日の日程は全部終了いたしました。

次回は、来たる二十三日午前十時から会議を開きます。

本日は、これをもって散会いたします。

午後三時二十三分散会

昭和四十六年九月十三日

四日市市議会定例会会議録（第五号）

四日市市議会

○議 事 日 程

第五号

昭和四十六年九月二十三日(木) 午前十時開議

第一 議案第 八八号 昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定

について

委員長報告・質疑、討論、議決

第二 議案第 八九号 昭和五十五年度四日市市水道事業決算認定について

〃

〃

〃

〃

〃

第三 議案第 九〇号 昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算(第二号)

〃

〃

〃

〃

〃

第四 議案第 九一号 昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算(第一号)

〃

〃

〃

〃

〃

第五 議案第 九二号 昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(第一号)

〃

〃

〃

〃

〃

第六 議案第 九三号 昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

〃

〃

〃

〃

〃

第七 議案第 九四号 昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(第一号)

〃

〃

〃

〃

〃

第八 議案第 九五号 昭和四十六年度四日市市公共用地取得事業特別会計補正予算(第一号)

〃

〃

〃

〃

〃

第九 議案第 九六号 昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算

〃

〃

〃

〃

〃

第一〇 議案第 九七号

四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

委員長報告・質疑、討論 議決

第一 議案第 九八号

四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定に

ついて

第二 議案第 九九号

四日市市国民健康保険条例の一部改正について

第三 議案第一〇〇号

四日市市消防賞しゅつ金条例の一部改正について

第四 議案第一〇一号

四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正に

ついて

第五 議案第一〇二号

四日市市消防手数料条例の廃止について

第六 議案第一〇三号

四日市市防災会議条例の一部改正について

第七 議案第一〇四号

町及び字の区域並びに名称の変更にについて

第八 議案第一〇五号

町の区域の設定について

第九 議案第一〇六号

町の区域の変更にについて

第二〇 議案第一〇七号

字の区域の変更にについて

第二一 議案第一〇八号

字の区域の変更にについて

第二二 議案第一〇九号

工事請負契約の締結について

第二三 議案第一一〇号

工事請負契約の締結について

第二四 議案第一一一号

工事請負契約の締結について

第二五 議案第一一二号

工事請負契約の締結について

第二六 議案第一一三号

工事請負契約の締結について

第二七 議案第一一四号

工事請負契約の締結について

第二八 議案第一一五号

工事請負契約の締結について

第二九 議案第一一六号

公平委員会委員の選任について

第三〇 議案第 七号

無過失賠償責任法の早期制定に関する意見書提出に

ついて

第三一 発議第 八号

中小企業の救済措置に関する意見書提出について

第三二 発議第 九号

日中友好と国交回復促進に関する決議について

第三三 発議第 一〇号

暴力追放に関する決議について

第三四 委員会報告第一二号

請願書等審査結果報告

第三五 委員会報告第一三号

請願書等審査結果報告

第三六 委員会報告第一四号

陳情書審査結果報告

第三七 委員会報告第一五号

請願書等審査結果報告

○本日の会議に付した事件

日程第 一 議案第 八八号

昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について

日程第 二 議案第 八九号

昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について

日程第 三 議案第 九〇号

昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算(第二号)

日程第 四 議案第 九一号

昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算(第一号)

委員長報告・質疑、討論、議決

議案説明・質疑、討論、議決

採 否 決 定

日程第五	議案第九二号	昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予算(第一号)
日程第六	議案第九三号	昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)
日程第七	議案第九四号	昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算(第一号)
日程第八	議案第九五号	昭和五十六年度四日市市公共用地取得事業特別会計補正予算(第一号)
日程第九	議案第九六号	昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算
日程第一〇	議案第九七号	四日市市委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
日程第一一	議案第九八号	四日市市老人の医療費の助成に関する条例の制定について
日程一二	議案第九九号	四日市市国民健康保険条例の一部改正について
日程一三	議案第一〇〇号	四日市市消防賞じゅつ金条例の一部改正について
日程一四	議案第一〇一号	四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正について
日程一五	議案第一〇二号	四日市市消防手数料条例の廃止について
日程一六	議案第一〇三号	四日市市防災会議条例の一部改正について
日程一七	議案第一〇四号	町及び字の区域並びに名称の変更について
日程一八	議案第一〇五号	町の区域の設定について
日程一九	議案第一〇六号	町の区域の変更について
日程二〇	議案第一〇七号	字の区域の変更について
日程二一	議案第一〇八号	字の区域の変更について
日程二二	議案第一〇九号	工事請負契約の締結について
日程二三	議案第一一〇号	工事請負契約の締結について

日程第二四	議案第一一一号	工事請負契約の締結について
日程第二五	議案第一一二号	工事請負契約の締結について
日程第二六	議案第一一三号	工事請負契約の締結について
日程第二七	議案第一一四号	工事請負契約の締結について
日程第二八	議案第一一五号	工事請負契約の締結について
日程第二九	議案第一一六号	公平委員会委員の選任について
日程第三〇	議案第一一七号	無過失賠償責任法の早期制定に関する意見書提出について
日程三一	議案第一一八号	中小企業の救済措置に関する意見書提出について
日程三二	議案第一一九号	日中友好と国交回復促進に関する決議について
日程三三	議案第一二〇号	暴力追放に関する決議について
日程三四	委員会報告第一二二号	請願書等審査結果報告
日程三五	委員会報告第一二三号	請願書等審査結果報告
日程三六	委員会報告第一二四号	陳情書審査結果報告
日程三七	委員会報告第一二五号	請願書等審査結果報告

○出席議員(四十四名)

青 山 峯 男 君
天 春 文 雄 君
荒 木 武 治 君

山 安 六 松 増 藤 福 日 早 服 長 橋 橋 野 生 中 出 坪 田
 谷
 口 垣 平 島 山 井 田 比 川 部 川 本 本 崎 川 島 井 井 中
 信 豊 良 英 泰 香 義 正 昌 鐸 増 建 貞 平 隆 妙 政
 治
 生 勇 司 一 一 郎 史 平 夫 弘 元 蔵 治 芳 蔵 平 博 子 一
 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

高 高 志 後 後 小 小 小 粉 訓 喜 川 小 大 岩 伊 伊 伊 小
 多
 橋 井 積 藤 藤 林 林 林 川 霸 野 村 川 島 田 藤 藤 藤 井
 力 三 政 藤 寛 喜 博 哲 也 四 武 久 信 太 金 道
 太
 三 夫 一 郎 治 夫 次 夫 茂 男 等 潔 郎 雄 雄 一 郎 一 夫
 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君 君

吉 山 山
垣 本 中
照 忠
男 勝 一
君 君 君

[illegible]

野正和君

板	佐	小	森	鷺		森		山	富		杉	菊	中		村		佐	市
崎	藤	林		野				北	山		本	地	山		山		々	川
大	正	桂	正	正		新			光		義	英	英				晃	一
之			太															
丞	俊	輔	郎	和		八		彰	三		広	也	郎		了		精	郎
君	君	君	君	君		君		君	君		君	君	君		君		君	君

○議長（日比義平君） ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の出席議員数は、四十二名であります。

本日の議事は、議事日程第五号により取り進めたいと思いますから、よろしくお願いをいたします。

なお、議事説明者中、産業部長は欠席いたしますので、ご了承を願います。

日程第一 議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、及び、

日程第二 議案第八十九号昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について

○議長（日比義平君） 日程第一、議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、及

び日程第二、議案第八十九号昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定についてを一括議題といたします。

本件に関する委員長の報告を求めます。

まず、総務衛生委員長にお願いをいたします。

野崎君。

（総務衛生委員長（野崎貞芳君）登壇）

○総務衛生委員長（野崎貞芳君） 総務衛生委員会に付託になりました議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四

日市病院事業決算認定について、審査の経過と結果についてご報告申し上げます。

本決算の審査にあたりましては、理事者に詳細な説明を求め慎重な審査を行なった結果、本案を認定するものと決定いたしました。

まず、収益的収入及び支出を比較いたしますと、収入における予算の執行率は一〇一・〇九％となっております、こ

れは主として医業収益における入院患者の増加による収入増によるものであります。また、支出につきましては、七億九千三百四十六万三千三百三十三円となり、六千十五万三千四百十五円の純損失を生じたのであります。これは、特に人事院勧告に伴う給与改定等による人件費増と諸物価高騰によるものが原因であり、この結果、累積欠損金は一億六千九百六十九万六千九百九十九円であります。

次に、期間外収入及び支出であります。収入は昭和四十四年度分診療報酬請求の追加分八万六千四百四十四円及び固定資産売却益二万八千六百八十七円であります。支出は昭和四十四年度分診療報酬請求の減額分百六十一万七千六百円並びに過年度における医師公舎改造工事費を期間外費用として処理した百二十三万五千円及び固定資産売却損二十九万二千七百二十六円を支出したものであります。

次に、資本的収入及び支出におきましては、支出額七千七百一万五千二百七十七円となり、これをまかなうための材源は、一般会計からの出資金三千七百七十八万三千三百七十七円、長期借入金三千八百万円、その他二十六万七千五百十三円となっております。この結果、九十六万七千六百二十七円の不足額は、期末留保資金で補てんされているのであります。また、資本剰余金につきましては、前年度末残高二百七十七万七千五百円と当年度増加額すなわち脳波をはかる装置一式二百五十四万円、脳外科手術セット一組百七十九万円の計四百三十三万円を合わせて七百三万七千五百円を翌年度に繰り越されております。

以上が決算の概要であります。特に欠損金及び病院管理体制の問題についていろいろ論議されたのであります。理事者からは、公営医療機関における経営の悪化は、もはや全国的な傾向であり、欠損金はこれ以上減額することは不可能だとの説明であります。

当委員会としては、近代的医療方式を採用して赤字経営にならざるを得ないと判断されるので、抜本的な政府の医療行政の改善をはかるよう積極的に厚生省等関係機関に対し、働きかけるよう、また、さらに全国市長

会を通じて、効果的な運動を展開するよう要望いたしました次第であります。

何とぞ、よろしくご審議のうえ、ご賛同を賜わりますようお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） 産業水道委員長にお願いいたします。

増山君。

〔産業水道委員長（増山英一君）登壇〕

○産業水道委員長（増山英一君） 産業水道委員会に付託になりました議案第八十九号昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定について、その審査の経過と結果についてご報告を申し上げます。

本決算の審査にあたりましては、理事者より詳細な説明を求め慎重な審査をいたしましたのでありますが、決算書及び付属書類は地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成され、この計数は正確であり、本年度の財政状態と経営成績を適正に表示されており、当年度未処分利益剰余金三千四百六十九万六千九百十四円のうち減債積立金に二千九百万円を充て、残額二百四十万六千九百十四円が翌年度に繰り越されており、特に理事者より本年度は収益的収入支出の予算上、当初三千七百二十九万二千円の赤字が見込まれたので、財政上種々の制約を受けたが極力経費の節減につとめ、限られた予算を最大限に活用し、事業の推進と施設の改良、特に漏水防止については、徹底的な防止作業を行なうとともに、寒波対策、配水管の改良工事等平生の維持管理面を強化し、有収水量の向上につとめた結果、有収率は八五・六七％となり全国平均を大幅に上回った。

また、過日の本会議にて質疑のありました水源の汚染について河原田水源が水質悪化のため取水を一時停止し、その改善方法について、種々検討、研究を続けており、また、朝明川、内部川においては近年汚濁が目立ち、取水量にも影響を受けておりますので、機会あるごとに関係当局へ防止措置を強く要望しているとの説明を了とし、本案を原案どおり認定すべきものと決定したのであります。

よろしくご審議のうえ、ご賛同賜わりますようお願いを申し上げます。

○議長（日比義平君） 以上で、各委員長の報告は終了いたします。

各委員長の報告に対しまして、ご質疑がありましたらご発言をお願いします。ご質疑はございませんか。

〔なし〕と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 別段ご質疑もございませんので、これをもって委員長の報告に対する質疑を終結いたします。

おはかりいたします。これら二件につきましては、討論の通告もございませんので、直ちに採決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。

これより、議案第八十八号及び議案第八十九号の二議案を一括採決いたします。

本決算に対する委員長の報告は、認定すべきであるとするものであります。

本決算は、委員長の報告のとおり認定することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。よって、議案第八十八号昭和四十五年度四日市市立四日市病院事業決算認定について、及び議案第八十九号昭和四十五年度四日市市水道事業決算認定については、委員長の報告のとおり認定することに決定しました。

日程第三 議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）、ならし
日程第二十八 議案第百十五号工事請負契約の締結について

○議長（日比義平君） 次に、日程第三、議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）、ないし日程第二十八、議案第百十五号工事請負契約の締結についてを一括議題といたします。

本件に関する委員長の報告を求めます。まず、総務衛生委員長にお願いいたします。

野崎君。

（総務衛生委員長（野崎貞芳君）登壇）

○総務衛生委員長（野崎貞芳君） 総務衛生委員会に付託になりました議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）中、関係部分ほか十九議案に対する当委員会の審査の経過についてご報告申し上げます。

当委員会は、去る二十日委員会を開会し、関係各議案について慎重な審議を行なったのでありますが、いずれも妥当なものと認め、原案のとおり承認いたしました次第であります。

以下審査の経過の概要と要望のありました諸点についてご報告申し上げます。

議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）中、第一条歳入歳出予算、歳出関係部分からご説明いたします。

第二款総務費、第四款衛生費、第九款消防費の補正につきましては、別段異議はなかったのでありますが、第二款総務費の新庁舎竣工後の総合管理委託につきましては、委託業種に関する質疑がなされ、委託業種のうち電話交換については秘密保持、交換手の配置転換等の問題も考えられますので、慎重に検討し再考されるよう理事者に強く要望いたしました。

また、第四款衛生費の水沢埋め立て地排水路の築造工事に関しましては、悪水等の処理方法についての質疑があり、理事者から簡易処理場の設置等万全を期し、二次公害の起きぬよう、十分検討したいとの答弁がありました。

次に、歳入につきましてご説明いたします。

歳入は、歳出の各款にかかる特定財源、市税増収分、及び前年度繰越金をもって収支の均衡をはかっているものであり、第二条債務負担行為補正、第三条地方債補正につきましても別段異議はありませんでした。

次に、議案第九十一号昭和四十六年度四日市市基金特別会計補正予算（第一号）は新庁舎建設関係経費に充当するため一般会計への繰り出しでありまして別段異議はありませんでした。

次に、議案第九十五号昭和四十六年度四日市市公共用地取得事業特別会計補正予算（第一号）は、前年度予定の借入ワクを下回ったためと、本年度の国庫補助事業の変更による償還元金の減少分が減額補正されたので、別段異議はありませんでした。

次に、議案第九十七号四日市市委員会の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてであります。が、本年十月一日から新設される予定の心身障害者家庭奉仕員の追加並びに学校等の嘱託医師及び嘱託歯科医師の報酬を増額改正しようとするものでありまして、別段異議はありませんでした。

次に、議案第百号四日市市消防費じゅうつ金条例の一部改正につきましては、今回の市町村費じゅうつ金条例準則の一部改正に伴い消防費じゅうつ金を授与する場合における要件の範囲を拡大するとともに殉職者賞じゅうつ金及び障害賞じゅうつ金の支給額の決定について、実情により弾力的に運用し得るよう改正しようとするものであり、議案第百一号四日市市消防団員等公務災害補償条例の一部改正については、補償基準の算定等整備したものであり、また議案第百二号四日市市消防手数料条例の廃止については、去る六月公布されました危険物の規制に関する政令の一部改正に伴い条例で定めることなく市町村長が当該検査を行ない手数料を徴収できることになり廃止しようとするものであります。

以上、消防関係三議案につきましてはいずれも異議はありませんでした。

次に、議案第百三十三号四日市市防災会議条例一部改正については、本年四月下水道部の新設に伴い防災会議委員の定数に関し改正しようとするもので、別段異議はございませんでした。

次に、議案第百四号ないし議案第百八号の五議案は別段異議はなかったのでありますが、町の区域の設定につきまして行政区、自治会及び学区を一致させるための原則的な基準を早急に設定して行政指導に当たるよう要望いたしました。

次に、議案第百九号ないし議案第百十五号の工事請負契約の締結についての七議案は、公共下水道落合バイパス築造工事、小・中学校の新築及び増改築工事であります。北部清掃工場建設工事に関しましては、進入道路及び機械設備機能等活発な質疑があり、理事者から千二百メートルの進入道路は県道であり、県土木の計画では三・五メートルの幅員を近く六・五メートルに拡張されると聞いておりますので早急に土木事務所とも調整したい、またプラントの建設の場合の大型資材の運搬には垂坂のほうからの八メートル道路が進入道路にあつては百メートル程度で直結し開通することになっているので、ここを通ずるよう考えているとの説明がありました。

排出されるガスについては、七百五十度から九百五十度で燃焼すれば心配がなく粉じんに関してはA重油日量七〇リットルであるとの説明があり、当委員会としては、地元産業との関連もあり、可及的すみやかに電気集じん機等の設備をして万全の措置を講ぜられるよう強く要望いたしました。

以上、当委員会における審査の結果のご報告といたします。よろしくご審議のうえ、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） 次に、教育民生委員長にお願いいたします。

坪井君。

〔教育民生委員長（坪井妙子君）登壇〕

○教育民生委員長（坪井妙子君） 教育民生委員会に付託になりました四議案につきまして、当委員会の審査の経過と結果をご報告申し上げます。

まず、議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）についてであります。歳出第三款民生費につきましては、社会福祉協議会への簡易保育所運営事業の委託について、社会福祉協議会の自主的運営の尊重からして、これへの委託には問題があるとの意見がありました。これに対して理事者から無認可の簡易保育所の運営に市が直接に助成を行なうことには憲法上疑義なしとしないので、このような方法を講じているとの説明がありました。ほか、スポーツ少年団のあり方等について質疑があり、特定のスポーツ種目だけにとどまらず、地域の子供会に根をおろした各種のスポーツ少年団の育成に力を入れるべきであるとの強い意見がありました。

歳出第五款第二項労働諸費につきましては、労働福祉会館の冷暖房の設備に問題点があるので、よく点検し、早急に改善されたいとの要望がありました。

歳出第十款教育費につきましては、私立幼稚園の建設に対する補助率を従来の三分の一から二分の一に引き上げることに、その引き上げの理由が何であるかをたてましたところ、担当の助役から私立幼稚園児の父兄負担の軽減と公立との格差是正をはかることを目的としているのであって、決して私立幼稚園を優遇し、その増設をはかるものではないとの説明がありました。が、補助率のアップは新規の私立幼稚園建設の促進剤となるおそれがあるため、行政指導により調整をはかり、幼稚園の適正配置につとめられるよう要望いたしました。

また、交通安全教育センターの運営については、学校教育の延長という考え方に立ち、施設の開放も平日授業時間内で、対象も個人ではなく団体を考えており、また、利用の便をはかるため、市のマイクロスバスの提供を考えているとの説明があつたのでありますが、この施設を平等に利用させ、そしてより有意義に活用させるために専用の

スクールバスの配車について検討するよう要望いたしました。また、これに関連して、このセンターの施設規模からして、本市には、他にも交通安全教育センターをより充実した魅力ある施設として建設をする必要があるとの意見がありました。

次に、議案第九十三号昭和四十六年度四日市市国民健康保険特別会計補正予算第一号につきましては、過年度在庫支出金の精算により国への返還金を必要とすることになりましたので、これを追加しようとするための補正が最もものであり、別段異議はありませんでした。

次に、議案第九十八号四日市市老人医療費の助成に関する条例の制定についてであります。これは老人福祉の向上をはかることを目的として、老人医療の無料化を実施しようとするものでありまして、このことにつきましては、かねてから多くの市民が念願しているところであり、また、本市議会におきまして、議会ごと議員各位から強く要望されてまいったところでありまして、このたび理事者各位のご英断により、その実現がはかられようとしていることに對しまして、市民とともに喜びにたえないところであります。

さて、議案の審査であります。審査にあたりましては、条例案の各条項について逐一詳細な説明を求めますとともに、去る九月十三日の本会議において報告を受けた老人医療費の無料化に関する老人対策特別委員会の報告をもとにして、長時間にわたって慎重な審査を行なったのであります。その結果、条例の施行適用にあたっては、老齢福祉年金の受給権者及びそれに準ずる者と認められる者についてもその運用を勘案されるときに、今後対象年齢の引き下げ及び所得制限の緩和に努力されること、並びに国民健康保険加入の外国人についても本条例の適用が受けられる措置を講じられることを強く要望いたしましたのであります。次に、議案第九十九号四日市市国民健康保険条例の一部改正については、保険料の減額対象世帯の範囲を拡大することをおもな内容とするものでありまして、別段異議はありませんでした。

以上、申し上げました経過をもちまして、当委員会に付託されました四議案につきましては、いずれも全会一致で原案のとおり承認いたしました次第であります。

以上をもちまして、当委員会の審査結果のご報告といたします。どうかよろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） 次に、産業水道委員長にお願いいたします。

増山君。

〔産業水道委員長（増山英一君）登壇〕

○産業水道委員長（増山英一君） 産業水道委員会に付託になりました関係議案について、その審査の経過と結果についてご報告を申し上げます。

まず、議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）中、歳出第六款農林水産業費の補正は農地等利用関係紛争処理事業費、米の生産調整推進事業費の補正並びに保々神前地区における農山漁村同和对策事業費が追加計上されており、農地費は受託土地改良事業において和無田圃場整備事業等のほか北伊勢広域営団地農道整備事業の推進協議会負担金等の追加補正、また水産業費は富双地区遠洋漁業基地に建設予定の漁船員会館建設事業調査設計費負担金等が最もものであり、審査の過程において質疑のありましたのは、農山漁村同和对策事業におきましては、小牧西農業組合に共同作業所並びに農機具導入、寺方町農事組合に共同利用農機具の導入であります。これについては特に万遺漏なきよう十分なる行政指導を行なわれるよう強く要望をいたしました。

また、遠洋漁業基地に建設予定の漁船員会館につきましては、主体が県か市かをはっきりさせるとともに、建設場所についても十分配慮すべきであるとの強い意見がございました。

第七款 商工費につきましては、別段異議はございませんでした。

第十一款 災害復旧費については、去る七月発生の災害による補助及び単独復旧事業費でありまして、特に本委員会としましては仮工事の経費については、地元負担金を徴収することなく全公費負担で施行せられたく、また本工事の地元負担率は昨年本委員会でのこれについての軽減を要望いたし実施されたのであります。さらに一〇％まで引き下げるよう強く要望いたしまして本案を原案どおり承認をいたしました。

次に、議案第九十二号昭和四十六年度四日市市競輪事業特別会計補正予算（第一号）については別段異議はございませんでした。

議案第九十六号昭和四十六年度四日市市水道事業会計第一回補正予算について、特に本委員会といたしましては水利権確保に要する資本的支出及び消火せんの設置と、これが維持管理に要する費用は、全額一般会計で負担することを強く要望いたしまして、本案を原案どおり承認をいたしました。

よろしくご審議のうえ、ご賛同賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（日比義平君） 次に、建設委員長にお願いいたします。

小林喜夫君。

〔建設委員長（小林喜夫君）登壇〕

○建設委員長（小林喜夫君） 建設委員会に付託になりました議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）中、関係部分及び議案第九十四号昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（第一号）の二議案に対する当委員会の審査の経過と結果についてご報告を申し上げます。

まず、議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）中、関係部分につきまして申し上げます。と、歳出第五款労働費中第一項失業対策費、第八款土木費及び第十一款災害復旧費中、第二項土木施設災害復旧費であります。その中で特に意見、要望がありましたのは、道路橋梁費中、道路の維持費であります。市民に

直接関係のある通学路、生活道路等の必要性から、これが舗装の順位、個所等について、地域性等を十分に検討されたいとの意見があり、また、山積する市民の要望にこたえ得る予算の確保に最善の努力を払われるよう強く要望いたしました次第であります。

また、都市下水道路費につきましては、今回の災害による被害状況からして排水路の整備、改良が急務であり、都市づくりの基礎をなすものである。これが幹線水路計画等を樹立、工事促進をはかるべきであるとの意見があったのであります。

次に、議案第九十四号昭和四十六年度四日市市公共下水道特別会計補正予算（第一号）は、国庫補助増額決定による日永、川島処理区の下水、污水管、布設工事費及び中部処理区における終末処理場用地を国庫補助対象事業費並びに市開発公社の立てかえ施越し事業として先行取得するため一括購入しようとするものであり、別段異議なく以上で二議案いずれも妥当なものと認め、原案どおり承認いたしました次第であります。

なお、当委員会は、議案審査に先立ち、先般の十三号、二十三号台風の被害報告を求め、今後の河川修理のあり方、必要性はもちろんのこと、地域開発に伴う団地造成等の影響が見られるが、市民の生命、財産を守るうえから万全なる措置が講じられるよう要望いたしました次第であります。

以上、簡単ではございますが、建設委員会のご報告といたします。

どうかよろしくご審議のうえ、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） 以上で各委員長の報告は終了いたします。

暫時、休憩をいたします。

午前十時四十八分休憩

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩中に、教育民生委員長から先ほどの委員長報告の内容中、一部削除願いたいとの申し出がありましたので、後刻、速記録を調査のうえ、議長において取り消しをいたしたいと思えますから、ご了承を願います。

各委員長の報告に対しまして、ご質疑がありましたらご発言願います。

山本勝君。

〔山本勝君登壇〕

○山本勝君 総務衛生委員会に付託になりました議案第九号について、十八日の日に議案質疑をいたしまして、そのときに委員会での審議いかんによつては反対せざるを得ない、こういう態度表明いたしました立場から、委員長報告を了といたしまして、理事者のほうに重ねて強く要望いたしておきます。

委員長報告によりますと、現道が約三メートルであります。それを県の土木事業ということで六メートルに拡幅をするんだと、それらについて、今後十分調整をして進めていく、こういう意味合いの報告がされているわけであります。そのことについては了といたすわけですが、若干過去の経緯を申し上げて、今後の進め方についての参考にしていただきたいと思います。

県が、いわゆる坂部から垂坂に抜ける県道の拡幅問題を打ち出しまして、昨年度、地元との間に土地買収の話を進めてきたわけがありますが、いわゆる土地買収の単価の問題で行き詰まりを来いたしました。平均たんぼ及び畑、山林があるわけがありますが、平均いたしまして、確かに約坪五千円程度だったと思います。その単価について行き詰まりを生じまして、話がまあ何といたしますか、途中から中止になったというような経緯があるわけでありまして、県土木のほうの言い分としましては、これ以上どうしても出せない、こういうことでありますが、地元の地主の意

見といたしましては、あの道路を通る特に車両の種類を見ていくと、全体の四分の三くらいが市の清掃車を通る、したがって市が当然県が負担をしてくれない、にないきれない、単価については市が負担をしてもいいんじゃないかという要望が当時一部から出てまいったわけでありまして、そのことがありまして、さらには県土木の予算執行上の事情がありまして、一時中止になったわけでありまして、さらにはごく一部の方であります、どうしてもだめだ、応じ切れないという方もあります。しかし、全体の計画からいいますと、一部はやむを得ず取り残さざるを得ない状態になるかもわかりませんが、現在の車両の通行量等から判断した場合には、やむを得ず、その部分を残してでも事業の執行をはかっていかなきゃならないんじゃないかというふうに私は考えておるのであります。

せっかく問題提起をいたしまして、強く理事者のほうに要望いたした立場でありますから、今後とも私としても協力することにやぶさかではありませぬけれども、せっかく総務衛生委員会でも取り上げていただきますその趣旨に従って、理事者のほうでも今後とも十分な努力を県と市との調整の中で進めていただくように重ねて要望いたします、私の質疑を終わりたいと思います。以上です。

○議長（日比義平君） 他に

橋本君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 先日の議案質疑のときに、私は港湾費の問題について質疑いたしました。この問題についてどのような審議されましたかお尋ねしたいと思います。

○議長（日比義平君） 小林喜夫君。

〔建設委員長（小林喜夫君）登壇〕

○建設委員長（小林喜夫君） 港湾費の一億七千七百六十三万七千円の問題であります、これは港湾管理組合のほ

うから港管理組合の予算に基づきまして、市のほうに自動的に割り当てになったものでありまして、特にこれにつきましては審議をいたしませんでした。

○議長（日比義平君） 橋本君。

〔橋本建治君登壇〕

○橋本建治君 先日の議会で私が質疑いたしました趣旨は、昭和五十年まで港湾費として四十一億七千万円、四十六年度に五億四千万、四十七年度に六億七千万、四十八年度に八億四千万、四十九年度に九億四千万、五十年年度に一億八千万、計四十一億七千万という多額な市費が投入されることになっておりますが、今日の緊急施策として、市民の強い要望事項であります教育問題、民生関係、公害の問題を含めた衛生関係、及び今回の議会におきましても強い要望となつて出ました水害対策等、当面多額な費用が必要でありますので、このような数年間に四十一億七千万円も投入する港湾建設について、中止または延期、事業規模の縮小等も考慮して、この港湾費用の支出を検討していただきたいというのが私の質疑の趣旨でございました。

今後、この点を十分考慮していただき、特別の対策、また審議をしていただくことを強く要望して発言を終わりたいと思います。

○議長（日比義平君） 福田君。

〔福田香史君登壇〕

○福田香史君 議案第九十八号の關係について、教育民生委員長にお願いしたいと思います。

議案審議の中で、質疑の中で六点ほどお願いした問題点について、二点ほど審議の内容を教えていただきたい、このように思います。

まず、老齡福祉年金の受給権者の同法第九十七条の二の六項の準用の中の問題で、要するに寝たきり老人關係に

ついてどのように審議をされておりましたか、一べん詳しくご説明願いたい、こういうふうに思います。

それから、支払い方法の問題についてでございますが、国保の現物給付方式になっておりますが、社会保険の現物給付方式についての審議が行なわれておると思いますので、その点についてもお聞かせ願いたい。また、この問題につきましてはですね、理事者側にどのように説明をされておりましたか、その点についてもあわせて伺いたしたいと思います。

〔詳しい説明は、議事説明を……………。「と呼ぶ者あり」〕

○議長（日比義平君） 坪井君。

〔教育民生委員長（坪井妙子君）登壇〕

○教育民生委員長（坪井妙子君） ただいまご質問のありました点につきまして、お答えをさせていただきます。

議案第九十八号につきましては、たいへん熱心に討議されたわけでございまして、ごらんいただきますように、この条例がいわゆる国民年金法、あるいは国民健康保険法第何条というようなわかりにくいものでございましたので、理事者にこれをしかりにして市民がだれでもわかりやすい形にして渡す必要がないかと、それから私どもこの逐条審議するにあたりまして、一々理事者から詳しく説明を求めたわけでございますが、間違いますといけませんので、説明していただきました理事者のほうから重ねてご説明をしていただきたいと思ひます。

寝たきり老人につきましても同様でございますして、受給権者が法に定めるところで一応満七十歳、日本人で日本に在住する者並びに障害者の二級程度以上の障害者で六十五歳以上の者ということでございますが、これに對しても、先ほど委員長報告で申し述べさせていただきましたように、委員の中からこの運用にあたっては、それに準ずる者ということばの中で、いわゆる初診日から三年以上寝ている者を寝たきり老人というわけでございますが、それではいかにも冷たいではないかと、委員の中では両手がなければ内臓疾患でも何でもただだけれども、そうで

ない者は寝ていても全額支払わなければならない不合理があるというような例も出まして、こういう場合、三年と言わずに二年でもこれが病状が固着していた場合には寝たきり老人として扱ってもいいではないかというような意見もございました。詳しいことは厚生部長に補足をして説明していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（日比義平君） 厚生部長。

〔厚生部長（小西忠臣君）登壇〕

○厚生部長（小西忠臣君） 委員長からのご指名によりまして、説明を補足させていただきます。

ご質問の第一点は、寝たきり老人をどのように表現しているかということだろうと思います。いわゆる同法第七十九条の二以降です、この条文につきましては、非常に条項の保護を適用しておりますけれども、これは所得制限の分でございますので、寝たきりに触れておりますのは、受給権者という中に寝たきりが含まれておることでございます。さらに詳しく申し上げますと、受給権者とは普通の場合七十歳以上の老人であって、日本国籍を有する者で日本に居住している者と。また、今回の年金法の改正によって年金法の別表の二級以上の者については五歳を引き下げる、その五歳を引き下げるということは、六十五から六十九までの者がそういったことで拾われると、こういうことでございます。それでは寝たきり老人と別表との関係です、どういうふうに拾われていくのかということが疑問になろうかと思えます。通常寝たきり老人というのは六十五以上の者であって、身体上または精神上に著しい障害のために常時臥床しており、または常時臥床はしていなくても食事、排便、寝起き等の大半がですね、日常生活の大半が他の介助を要する者を寝たきりという概念があるわけでございます。それでは、先ほど申しました年金法の別表の一級、二級の障害でございますが、これを平たく申し上げますと、一級とは日常生活の用を自分ですることができない程度の障害云々ということを書いてあるわけでございます。以上に一

級は第何項までも書いてございますけれども、大別してそのように言われるわけです。あるいは二級でございますと、日常生活に著しい制限を受けるかあるいは著しい制限を加え得なければならない程度の障害、言いかえれば常時他人の介助を受けるほどではないけれども、日常生活が著しく制限されている程度の者ということですね、先ほど申し上げましたような二級に引き下げますと、この概念の程度よりもさらに緩和されているところまでが拾われていくと、こういうことでございますので、年金のほうに別表に定める身障の二級を拾っていきますと、該当者を拾っていきますと、いわゆる寝たきり老人が救われてまいりますんだと、こういうことで受給者の中に入ってくるんだと、こういうことでご理解をお願いしたいと思います。

それから社会保険の該当者に現物方式の云々が論議をされなかったかどうかということでございますが、これはきわめて時間長く論議をされました。

ご承知のように、現物方式はですね、この条例では国民年金法に該当する者を現物方式にしておりますし、ご指摘のように社会保険に該当する者については、現物方式じゃなくて償還方式をとっておるのですね、その根拠は、附加給付という組合健康保険法の六十九条の二項にうたっている附加給付ということに関連をするからであります。というのは、この条例では附加給付をされている場合は除くということで対象者をきめてございますので、その附加給付を除くということをやったっておりながら現物方式をとりますと、君のほうですでに医療機関のほうへ支払っておるじゃないかという根拠になるわけでございます。したがって、今度附加給付の停止の条項が組合健康保険にあるわけであり、他の法令または地方公共団体が負担する場合においては、附加給付をなさずという条例がございまして、そういったことに抵触してですね、いわゆる附加給付をなさないとしたって、おりながら現物給付をしているということですね、もうその行為自身が公で負担しておるじゃないかということに抵触するから、社会保険については附加給付の関連上、万やむを得ずして一時償還方式をとったと、こういうことでご

ございます。以上でございます。

○議長（日比義平君） 福田君。

〔福田香史君登壇〕

○福田香史君 ただいま委員長並びに理事者のほうからご報告をしていただきましたのでわかりましたけれど、まだ十分とはいえませんが、これからですね、十分理事者側でこの問題点について、内面的な問題をですね、十分検討されてですね、利用されたいと、こういうふうに望みます。

○議長（日比義平君） ほかにございませんか。

別段ご質疑もございませんので、これをもって委員長の報告に対する質疑を終結いたします。

おはかりいたします。これら二十六件につきましては討論の通告もございませんので、直ちに採決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。

これより、議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）、ないし議案第百十五号工事請負契約の締結についての二十六議案を一括して採決いたします。

本件に対する委員長の報告は可決であります。

これら二十六件は、各委員長の報告のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。よって、議案第九十号昭和四十六年度四日市市一般会計補正予算（第二号）、ないし議案第百十五号工事請負契約の締結については、原案どおり可決されました。

日程第二十九 議案第百十六号公平委員会委員の選任について

○議長（日比義平君） 次に、日程第二十九、議案第百十六号公平委員会委員の選任についてを議題といたします。提案理由の説明を求めます。

市長。

〔市長（九鬼喜久男君）登壇〕

○市長（九鬼喜久男君） ただいまご上程の議案第百十六号は、本市の公平委員会委員村木三雄氏の任期が来たる十月十日をもって満了いたしますので、引き続き同氏を後任の委員として選任したいと存じ、ご提案申し上げます。

なお、同氏のご経歴につきましては、お手元の経歴書のとおりであります。

よろしくご審議のうえご同意を賜われますようお願い申し上げます。

○議長（日比義平君） ご質疑がありましたら、ご発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 別段ご質疑もございませんので、質疑を終結いたします。

おはかりいたします。ただいま議題となっております議案第百十六号については、委員会の付託を省略し、直ちに採決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。

それでは、議案の採決を行います。

本件は、これに同意することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。よって、議案第百十六号公平委員会委員の選任については、これに同意することに決しました。
暫時、休憩をいたします。

午前十一時五十分休憩

午後一時十一分再開

○議長（日比義平君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程第三十　発議第七号無過失賠償責任法の早期制定に関する意見書提出について

○議長（日比義平君）　次に、日程第三十、発議第七号無過失賠償責任法の早期制定に関する意見書提出についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

山本君。

〔山本勝君登壇〕

○山本勝君　発議第七号につきまして、発議者を代表して簡単に提出の説明を申し上げます。

公害問題は、本市はもちろん全国の各都市におきましても非常に問題化されつつありますし、私たちも何とか一日も早く公害をなくし、そこに住んでいる人々の生命を守りたい、こういう気持ちを持っていますところがあります。そういう意味合いから、昨年の暮れあるいは今年の春ごろにいわゆる無過失賠償責任法案なるものが政府の中で話題になり、いろいろ論議をされているところがあります。

特に七月から環境庁が発足をいたしましたして、公害問題について、環境保全のあるいは国民の生命を守るという立場の中で、この無過失賠償責任法案についての立法化の作業が取り進められているところがあります。

ところが、その法案の原案の中にいろいろな規制がされているわけですが、ただし書きの中で硫黄酸化物などの複合汚染についてはこれを除外する、こういう内容がいますところ私たちの手元に入っているわけがあります。四日市における公害の現状から私たちが判断いたしますと、この硫黄酸化物などの複合汚染のこれをどうしても規制をしていかないことには、四日市の公害を防止をしあるいはなくしていくことにはならないだろうということを私たちは考えるわけであります。

さらにつけ加えるならば、議会の中で設けられております公害対策特別委員会の中でも、六月の定例議会の当時からこの問題について委員の方々から多くのご意見なりが出され、いろいろご意見を交換する中で、ぜひともこの九月議会の中で満場一致のご賛成を得て、ぜひともいま考えられております無過失賠償責任法の中にこの硫黄酸化物などの複合汚染などについてもぜひとも入れていただくように、本議会の意見として関係方面に訴えようではないか、こういうことに相なったわけであります。

非常に簡単な説明でありますけれども、ぜひとも皆さん方の満場一致のご賛同を得まして、この意見書が関係方面に提出されることが実現できますようにお願いをいたしまして、簡単ですが、提案の説明にかえる次第であります。よろしく願います。

○議長（日比義平君）　ご質疑がありましたら、ご発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております発議第七号については、委員会の付託を省略し、直ちに採決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。

これより発議第七号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。よって、発議第七号無過失賠償責任法の早期制定に関する意見書提出については、原案のとおり可決されました。

日程第三十一　発議第八号中小企業の救済措置に関する意見書提出について

○議長（日比義平君）　次に、日程第三十一、発議第八号中小企業の救済措置に関する意見書提出についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

後藤藤太郎君。

〔後藤藤太郎君登壇〕

○後藤藤太郎君　提出者を代表して、発議第八号中小企業の救済措置に関する意見書提出の提案理由の説明を申し上げます。

今般のニクソン声明に伴うドルショックと、その後の為替変動相場制移行が、わが国の輸出産業界に重大な影響を与えていることはすでにご承知のとおりであります。

わけでも、四日市市では特産の万古陶磁器業界をはじめ、繊維機械等地場産業を中心とする当市の産業界への打撃と、それから派生する従業員の生活不安、さらには市財政への波及が心配されるなど、市民の関心と不安が高まっていることは、この九月議会においてもすべての会派から一般質問がこの問題に集中したことによって明らかであります。

今後に予想されます不況は、戦後幾たびか経験してまいりましたそれとは全く異なり、アメリカのドル防衛策という、ほかからの原因と、ドルのかさのもとに甘えてきたわが国政府の経済政策の誤りが招いたものである以上、地方自治体も業界あるいは個人の努力だけではとうてい乗り切れるものではありません。特に、輸出不振のしわ寄せが、中小企業にきびしく来ることは、容易に想像されるところであります。政府でも輸出関連の中小企業対策が取りざたされている通価不安の解消が当分期待できないとすれば、一日も早く、中小企業向けの滞貨金やつなぎ融資、為替手形の買い取り、税の特別措置など適切な救済策を講ずることによって、その被害を最小限に食い止め、市民生活の不安を解消することが何よりも大切であると考えます。

政府の中小企業対策が、ややもすればかけ声倒れに終わる例が多いまままでの経験からしても、また三カ月後に年末を控えている今日、私どもは政府に対し可及的すみやかに実行を強く要請いたします。

どうかよろしくご審議のうえ、ご賛同賜わりますようお願いを申し上げます。

○議長（日比義平君）　ご質疑がありましたら、ご発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております発議第八号については、委員会の付託を省略し、直ちに採

決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。

これより発議第八号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。よって、発議第八号中小企業の救済措置に関する意見書提出については、原案のとおり可決されました。

日程第三十二　発議第九号日中友好と国交回復促進に関する決議について

○議長（日比義平君）　次に、日程第三十二、発議第九号日中友好と国交回復促進に関する決議についてを議題といたします。

提案者の説明を求めます。

荒木君。

〔荒木武治君登壇〕

○荒木武治君　ただいま上程されました発議第九号日中友好と国交回復促進に関する決議について、発議者を代表して趣旨の説明を行います。

最近、日中問題は、国の内外を問わず、論議の焦点となっておりますが、とりわけわが国は、昔から中国との交流が深く無関心とされないであります。

このようなときに、中国との経済交流を深め、友好親善をはかることは、日本の将来にとって重要なことであると考えますので、本決議を提出した次第であります。

よろしくご審議のうえ、ご賛同賜われますようお願いいたします。

○議長（日比義平君）　ご質疑がありましたら、ご発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております発議第九号については、委員会の付託を省略し、直ちに採決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。

これより発議第九号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君）　ご異議なしと認めます。よって、発議第九号日中友好と国交回復促進に関する決議については、原案のとおり可決されました。

日程第三十三　発議第十号暴力追放に関する決議について

○議長（日比義平君）　次に、日程第三十三、発議第十号暴力追放に関する決議についてを議題といたします。提案者の説明を求めます。

長谷川君。

〔長谷川鐸元君登壇〕

○長谷川鐸元君 発議第十号暴力追放に関する決議について、発議者を代表いたしまして、提案理由の説明を申し上げます。

すでにご承知のごとく、さきの成田空港における殺害事件、また今回の公明党竹入委員長殺傷事件という一連の暴行行為の横行を見るとき、まことに生命の尊厳、人間尊重を第一義とする民主主義を破壊せんとする狂人的行為であり、遺憾のきわみであると思う次第でございます。いかなる理由にせよ、人命を軽視し、人命の殺傷をもってその手段とせんとする暴力行為に対しては、人間として断じて許せないものであります。

かかる意味におきまして、真の民主主義実現を目ざして、当市議会におきましても、暴力追放に関する決議をせんとするものでございます。

以上、簡単でございますが、提案理由の説明をさしていただき、よろしくご審議のうえご賛同を賜りますよう、よろしくお願いを申し上げます。以上です。

○議長（日比義平君） ご質疑がありましたら、ご発言願います。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 質疑なしと認めます。

おはかりいたします。ただいま議題となっております発議第十号については、委員会の付託を省略し、直ちに採決を行ないたいと思います。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。

これより発議第十号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。よって、発議第十号暴力追放に関する決議については、原案のとおり可決されました。

日程第三十四 委員会報告第十二号、ないし

日程第三十七 委員会報告第十五号

○議長（日比義平君） 次に、日程第三十四、委員会報告第十二号、ないし日程第三十七、委員会報告第十五号の四件を一括議題といたします。ご質疑がありましたら、ご発言願います。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 別段ご質疑もありませんので、本件を各委員長の報告どおり決定いたしましてご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議なしと認めます。よって、委員会報告第十二号、ないし委員会報告第十五号は、各委員長長の報告どおり決定いたしました。

委員会報告第一二号

請願書等審査結果報告

総務衛生委員会に付託になりました請願及び陳情について、当委員会における審査の結果を別紙のとおり報告いたします。

昭和四十六年九月二十三日

総務衛生委員会

委員長 野崎貞芳

四日市市議会
議長 日比義平 殿

請願

第八号	四六九一三	件名	請願者の住所氏名	紹介議員の氏名	委員会の意見	結果審査	措置
		市役所旧庁舎活用について	四日市市北浜町八番一二号 四日市勤労者音楽協議会 代表委員 山下保 ほか六名連署	服部昌弘 喜多野等 小林哲 長谷川元 山本勝 訓覇也男 橋本建治	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	採択	市長宛 送付

陳情

第二六号	四六九一三	件名	陳情者の住所氏名	委員会の意見	結果審査	措置
		市役所旧庁舎の開放について	四日市市三栄町五番一九号 四日市美術協合理事長 坂井喜三	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	採択	市長宛 送付

委員会報告第一三号

請願書等審査結果報告

教育民生委員会に付託になりました請願及び陳情について、当委員会における審査の結果を別紙のとおり報告いたします。

昭和四十六年九月二十三日

教育民生委員会

委員長 坪井 妙子

四日市市議会

議長 日比義平 殿

請願

受理番号	受理年月日	件名	請願者の住所氏名	紹介議員の氏名	委員会の意見	結果	措置
第七号	四六九一三	保々地区小牧町西公立保育園設置について	四日市市小牧町西一〇三七番地小牧町西自治会長 森下 国夫 ほか 一名連署	山本 勝 小林 博次 福田 香史	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	採択	市長宛送付
第一〇号	〃	泊山小学校校舎建築第二期工事促進について	四日市市日永四丁目五番一六号日永地区連自治会副会長 稲垣 清 ほか八名連署	増山 英一	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	採択	市長及び教育委員長宛送付
第一一号	〃	市立桜幼稚園新設について	四日市市智横町七二三の六 多湖 英明 ほか八八八名連署	長谷川 元 吉垣 照男 松島 良一 大島 武雄 粉川 茂	関係住民の意向を十分勘案のうえ善処されるよう理事者に要望する。	採択	市長及び教育委員長宛送付

陳 情

受理番号	受理年月日	件 名	陳情者の住所氏名	委員会の意見	結 果	措 置
第一号	四六六一四	有害環境の防止についで	四日市市川島町 七四五番地 川島地区青少年問題 協議会会長 田 中 卯 吉 ほか一名連署	その主旨を了とし 善処されるよう理 事者に要望する。	採 択	市長宛 送 付
第二七号	四六九一三	騒音に対する納屋 小学校の施設整備 について	四日市市高砂町 四番三号 港地区連合自治会長 中 村 武 郎 ほか一八三五名連署	その主旨を了とし 善処されるよう理 事者に要望する。	採 択	市長及 び教育 委員長 宛送付
第二八号	〃	市立富田中学校管 理棟の改築についで	四日市市丸の内町一 区 富田地区連合自 治会長 矢 川 辰 一 ほか一名連署	その主旨を了とし 善処されるよう理 事者に要望する。	採 択	市長及 び教育 委員長 宛送付

第一四号	第一三号
〃	四六九一三
市立東橋北小 学校の給食室 改築及び体育 館の新設についで	市立大矢知興 譲小学校及び 市立大矢知幼 稚園（併設） 校舎並びに園 舎の増改築についで
四日市市東新町 三番一八号 市立東橋北小 校PTA会長 南 川 豊 ほか二八〇名連署	四日市市大矢知 町東陣屋一三五番 地 大矢知興譲小 学校建設後援会 長 大矢知地区 連合自治会長 松 永 久 治 ほか二名連署
伊 藤 金 一	高 橋 力 三
その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。
採 択	採 択
市長及 び教育 委員長 宛送付	市長及 び教育 委員長 宛送付

第三七号	第三五号	第三三号	第三一号
"	"	"	四六九一三
身体障害者の医療 費無料化について	市立山手中学校校 舎改築について	市立海蔵小学校の 改築について	市立富田小学校管 理棟及び危険校舎 の改築について
四日市市中部二番五 号 四日市市身体障 害者連合会会長 浅野 富数	四日市市本郷町 六五七番地 市立山手中学校 PTA会長 井垣 高雄 ほか二名連署	四日市市東阿倉川町 二六一番地 市立海蔵小学校建設 協力委員長 山本 貞三	四日市市丸の内町一 区 富田地区連合自 治会長 矢川 辰一 ほか一名連署
その主旨を了とし 善処されるよう理 事者に要望する。	その主旨を了とし 善処されるよう理 事者に要望する。	将来学区の再編を 勘案のうえ、善処 されるよう理事者 に要望する。	その主旨を了とし 善処されるよう理 事者に要望する。
採 択	採 択	採 択	採 択
市長宛 送付	市長及び教育 委員長 宛送付	市長及び教育 委員長 宛送付	市長及び教育 委員長 宛送付

委員会報告第一四号

陳情書審査結果報告

産業水道委員会に付託になりました陳情について、当委員会における審査の結果を別紙のとおり報告いたします。

昭和四十六年九月二十三日

産業水道委員会

委員長 増山 英一

四日市市議会

議長 日比 義平 殿

陳情

受理番号	受理年月日	件名	請願者の住所氏名	委員会の意見	結果査	措置
第三六号	四六、九、一三	通貨変動に伴う 輸出陶磁器工業 界の救済措置に ついて	四日市市京町二番 一三号 四日市陶磁器工業 組合長 森 忠明 ほか一名連署	金融措置につい てはその主旨を 了とするも、固 定資産税の減免 については願意 に沿い難い	一 部 採 択	市長宛 送 付

委員会報告第一五号

請願書等審査結果報告

建設委員会に付託になりました請願及び陳情について、当委員会における審査の結果を別紙のとおり報告いたします。

昭和四十六年九月二十三日

建設委員会
委員長 小林喜夫

四日市市議会

議長 日比義平 殿

請願

受理番号	受理年月日	件名	請願者の住所氏名	紹介議員の氏名	委員会の意見	結果審査	措置
第二二号	四六九一三	災害復旧に際し黒田橋の拡幅について	四日市市赤水町一〇三三 県地区連合自治会副会長 羽木 信治郎 ほか二名連署	安垣 勇	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	採 択	市長宛 送 付
第一五号	〃	近鉄名古屋線及び国鉄塩浜線横断の排水路暗渠拡張について	四日市市海山道町一丁目一五 海山道町自治会長 長村山 鎮包 ほか七名連署	服部 昌弘	その主旨を了とし、善処されるよう理事者に要望する。	採 択	市長宛 送 付

陳情

受理番号	受理年月日	件名	陳情者の住所氏名	委員会の意見	結果審査	措置
第一八号	四六六一四	市立泊山小学校新設に伴う通学路の安全確保について	四日市市日永四丁目五番一六号 日永地区連合自治会副会長 稲垣 清	その必要性を認め理事者に善処されるよう要望する。	採 択	市長宛 送 付
第二九号	四六九一三	市立大池中学校の通学路整備について	四日市市平尾町栄大池中学校PTA副会長 池田 忠馬	その主旨を了とし善処されるよう理事者に要望する。	採 択	市長宛 送 付
第三〇号	〃	十四川堤防改修工事継続方について	四日市市丸の内町一区 富田地区連合自治会長 矢川 辰一	願意妥当と認め、善処されるよう理事者に要望する。	採 択	市長宛 送 付

第三二号	四六九一三	小倉橋北詰の橋下に通学道路新設についで	四日市市磯津北町市立塩浜中学校PTA会長石田徳一ほか四名連署	その主旨を了し理事者は関係機関と十分協議の上その実現に努力されるよう要望する。	採択	市長宛送付
第三四号	〃	西阿倉川三区排水施設の整備について	四日市市西阿倉川一三〇三竹原京作ほか一三五名連署	その必要性を認め善処されるよう理事者に要望する。	採択	市長宛送付

○議長（日比義平君） なお建設常任委員長から、目下委員会において審査中の事件について、お手元に配布いたしました申し出書のとおり、閉会中の継続審査の申し出があります。

おはかりいたします。建設常任委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査に付することに異議はございませんか。

〔異議なし〕〔異議あり〕と呼ぶ者あり〕（笑声）

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君 いま、おはかりの問題について、まず建設委員長に伺いたいと思います。

陳情第二十四号霞コンビナート地先の埋め立てについてが、継続、閉会中も継続審査するということで採択にならなかったでございます。

この陳情二十四号は、六月十四日に富田地区連合自治会長矢川辰一さんから提出されたものでございまして、霞ヶ浦地先四十万坪の埋め立て計画がなされている。これに対して、将来、公害の発生源となるような工場用地の造成は絶対反対であると、こういう意味の陳情でございます。

これは、すでに六月の議会でも、議会に陳情なされ、そしてそこでも継続審査になったわけですが、再びここで継続審査となるということについて、いささか疑問を持つわけでございます。納得できないのでございます。

ご承知のとおり、公害問題は、たいへん深刻になりつつあります。ホットなニュースでございますが、塩浜のI社できより酸化チタン液が海に流れたという話が出てきております。本日付の毎日新聞を見ましても、非常に汚染地域が拡大をされておるといことが報道されております。

市長の六月議会での発言以降をとりましても、公害患者六人の方がなくなっております。六十人近い公害患者がこの三月の間にふえておるのでございます。そのほか、あれほど市長が、外国人の例も取り上げられて説明をさしたところの、四日市は公害はなくなっていると、よくなっているというお話でございますが、それに反する事実、一般の一般質問の中におけるわが党の橋本議員が具体的に指摘したとおり、たくさん公害による被害というものが出ておるのでございます。これ以上公害をふやすな、公害発生企業をふやしてもいいたくない、企業の責任で抜本的な公害防止対策をとれという声は、市民の皆さんがもう死活の問題として切実な問題と要求となっております。でございます。ところが霞ヶ浦埋め立て、そしてまたここに石油コンビナートの誘致が計画されておる、また川越地先でも石油会社、電力会社の誘致が計画され、これが近いうちに結論がつこうとしておる、こういう中で、市民の人たちがおこるのも当然のことだと私どもは考えるわけでございます。

こうして六月議会に霞ヶ浦、川越の影響を直接受けるところの富田地区の皆さんから陳情が出されたのでありまして、また今度の議会にも、九月の二十日には、富田一色の連合自治会から第二、第三の霞ヶ浦埋め立てに反対をするこの市議会が決議をしてほしいと、こういう申し入れがなされたのでございます。この申し入れは、すでに議長もそしてまたこの議会の各会派の責任者の方々にも渡っており、すべての議員の皆さんがご存じのことだろうと思っております。

また、本日は天力須賀の連合自治会長さん以下連署をもって松原の自治会長さん以下住民の総意をあげて代表して議長にその要請が、埋め立てと石油公害企業進出絶対反対の意思の表明とともに善処を求めるという申し入れがなされておるのでございます。共産党は、これらの陳情や申し入れに大賛成でございます。そして、今度の議会でも富田の連合自治会長さんから出されたところの陳情が採択されることを願うとともに、富田一色連合会をはじめとする市民の皆さん方の要望に沿って、この市議会が埋め立て反対、石油関連企業その他公害企業の誘致反対の決議

がなされるよう努力を払ってまいったところでございます。これまでの間に市民クラブの皆さんの間で石油関連企業、その他の公害企業誘致反対の決議案を提出される動きもあったと伺っておるわけでございますが、共産党のほうもその動きを歓迎し、その実現を期待しておったところでございます。しかし、もろもろの事情でいまのこの日の目を見ていないことを非常に残念に思うのでございます。せめてこの富田の陳情が採択されることを望むわけでございます。

そこでぜひ、伺いたい点を二点ほど申し上げたいと思います。

なぜ、継続審議になったのか。六月以降閉会中の審査を含めて、どのような審議がなされてきたのか。この点を建設委員長さんに伺いたい点が第一でございます。

第二番目は、この審議の中で、この陳情の内容から、内容とかかわって当然のことだと思っておりますが、市長から霞ヶ浦埋め立て計画その全体と進出企業についての詳細な内容説明があったのかどうか。この点であえて申し上げてみるならば、すでに市長は、地元の自治会の人たちに埋め立て計画と進出企業名、その配置なども含めた詳細な説明を行なっておられるのでございます。

ところが、市議会では一般質問の中で、答弁として簡単に述べられておるにすぎないのでございます。議会を軽視していると言われてもしかたがないのだと私は思います。市議会の中には、このような市議会に対する市長のこれまでの態度から、いわゆる十四万坪埋め立て問題、そこにどの企業を進出するか、さらには二十六万坪にかかる進出企業については、市議会としては正式に市長から何ら聞いていない。こういうふうな態度をとられる議員の方が多いのでございます。これをもって、たとえば最初に申し上げましたように今時議会で、富田一色の皆さん方から申し出があったように、市議会として埋め立て反対の決議をするということに対するそれを、心よしとしない皆さんの間で、このようなこれまでの市長の態度を理由とされる、したがってまだ何も聞いてないんだから、われわ

れとして論議のしようがない、時期尚早だと、こういう論議をなさる議員の方がお見えになるということでございます。非常に残念なことだと思います。ですから、建設委員会でこの陳情が正式に議題としてあがって論議されている過程で、正式に市長の側から先ほど申し上げた十四万坪埋め立て問題、これに伴う問題、二十六万坪にかかる進出企業についてのその配置図も含めた、これは自治会では説明なさっておるわけでございますから、その詳細な計画が正式に報告があったものかどうか、この点を明らかにしていただきたいと思ひますし、残念ながら私も共產党は二人の議員しか持っておりません。したがって、産業、建設委員会に参加することができません。ここで建設委員会での説明がないとするならば、ここで正式に市長からお話を伺いたいと思うわけでございます。さらに第三番目の問題は、議長に対してお尋ねをしたいと思ひます。

まず二点、お願いいたします。

○議長（日比義平君） 小林喜夫君。

〔建設委員長（小林喜夫君）登壇〕

○建設委員長（小林喜夫君） 陳情の第二十四号、これについてのご質問二点につきまして、お答えを申し上げます。なぜ継続審議になったかということでございますが、この埋め立ての問題につきましては、港管理組合よりまだ正式に諮問されておりません。したがって、当委員会としては、これをどうのこうの審議することもできませんので、継続審議といたしました。

それから、二番目の陳情の問題につきまして、市長から詳細な説明があったかどうかということでございます。詳細な説明はございません。

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君 建設委員長のご答弁は、四日市港管理組合から正式に話がないから審査できないと、こういうお話でございます。しかし、少なくともわれわれは、この六月、九月議会を通しても、議員の皆さんの間から一般質問という形ではあれ、市長の計画が具体的に説明をされたと、全面的な説明ではございませんけれども、市長の考え方が説明をされたと。そして、実際に進出企業等々の折衝も進められておると。この生きた事実に対して富田地区の皆さん方が、そして今日では富田一色、富田原、松原、天カ須賀の皆さんたちが申し入れをなさってきておるわけでございます。この点について、生きたやはり議会の審議というものがなされなければならないと思うのでございます。この点について、さらにお伺いをしたいと思うわけでございます。

市長から、詳細な説明はなかったということでございますが、どの程度の説明があったのか。やはりこの陳情を審議するというからには、市の側で、市当局の側で、あるいは県、港管理組合の側でどういう計画がなされ、実際に進められておるのかということ、やはり議会として明らかにする必要があると思うのでございます。その点、どの程度お話があったのか、正式にお話があったのかなかったのか、どの程度お話があったのか、その点を一度お尋ねしたいし、さらに建設委員長でのご答弁をされないとするならば、建設委員長から市長のほうにご答弁を促していただきたいと思います。次第でございます。

○議長（日比義平君） 小林喜夫君。

〔建設委員長（小林喜夫君）登壇〕

○建設委員長（小林喜夫君） 陳情の二十四号につきまして、どの程度に市長の説明があったかと、こういうご質問でございます。

お答えを申し上げます。

これは、先ほどお話し申し上げたとおり、全然諮問されておりません関係上、これは市長のほうからも説明ござ

しませんでした。

○議長（日比義平君） 小井君。

〔小井道夫君登壇〕

○小井道夫君 そうするとですね、この陳情については、建設委員会として何ら審議してないわけですか。

毎日毎日、起こっておる公害問題、そして現実に霞ヶ浦地先で火がついているこの問題について、富田の地区民の皆さん方が真剣になってこういう陳情をなさっておることに對して、建設委員会として、その審議を何らなされない。また、この陳情の趣旨からして、霞ヶ浦埋め立て問題について市長の側の正式な、正確な説明を求めると、四日市港管理組合の一般の責任をになつてゐる市長から、何らの説明も正式に求めることもしないということであつたのか。私は、これであればあるほどますます納得できないと思つたのでございます。

市長は、現に富田、富洲原、羽津の地元の自治会の皆さんのところでは、われわれが知らないどこにどの企業を配置することまで説明なさつておるのでございます。議会の權威にかけて、建設委員会の權威にかけても、現に陳情としてあがつてゐる問題について、少なくともその心を心としてくみ取つて審議をする、そして市長がこういうこの議會を輕視している姿に對しても嚴酷に問題を提起して、正式な答弁を、説明させるといふことがどうしてできなかったのか。いまからでも私はこの点について、明らかにしていただきたい。いずれにしてもこのまま継続審査とすることについては納得できないのでございます。ご答弁をお願いします。

〔議長、休憩と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） 暫時休憩をいたします。

午後一時四十七分休憩

午後二時七分再開

○議長（日比義平君） 休憩前に引き続き、會議を開きます。

小林喜夫君。

〔建設委員長（小林喜夫君）登壇〕

○建設委員長（小林喜夫君） お答えをいたします。

建設委員会の経過は、先ほど申し上げたとおりでございますが、その間、公室長より進出企業についての説明があつたのであります。

なお、細部にわたつては調査不十分でもあり、本問題は非常に重要な問題でありますので、慎重に審査すべきものと判断して、継続審査にいたしました次第であります。

○議長（日比義平君） おはかりいたします。

建設委員長の申し出のとおり、継続審査にすることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり〕

○議長（日比義平君） ご異議ありますので、起立により採決いたします。

建設委員長の申し出どおり、閉会中の継続審査に付することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（日比義平君） 起立多数であります。よつて、建設委員長の申し出どおり、閉会中の継続審査に付することに決しました。

閉会中継続審査申出書

本委員会は、審査中の事件について、左記により閉会中もお継続審査すべきものと決定したから、会議規則第十九条の規定により申し出ます。

記

一 事 件

請願第 六号

近鉄四日市駅タクシー乗り場の開放及び諏訪町周辺にタクシー共同乗り場設置について

陳情第二四号

霞コンピナート地先の埋立について

二 理 由

調査研究のため

昭和四十六年九月二十三日

建設委員会

委員長 小林 喜 夫

四日市市議会

議長 日 比 義 平 殿

○議長（日比義平君）

次に、監査委員より監査結果報告及び現金出納検査の結果報告について、報告第十七号ないし報告第二十六号の十件がお手元に配布いたしましたとおりまいっております。

これによってご了承を願います。

○議長（日比義平君）

以上をもちまして、本定例会の日程は全部終了いたしましたので、会議を閉じ、昭和四十六年九月四日市市議会定例会を閉会いたします。

連日ご熱心にご審査をいただきまして、まことにありがとうございました。

午後二時十一分開会

右、地方自治法第二百二十三条第二項の規定に基づき署名する。

四日市市議会議長

日

比

義

平

署 名 議 員

早

川

正

夫

署 名 議 員

大

島

武

雄